

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第71集

# 加茂ノ洞B遺跡

平成6年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第71集

# 加茂ノ洞B遺跡

平成6年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



加茂ノ洞跡より愛宕山麓を望む



旧石器時代土坑群

## 序

加茂ノ洞B遺跡の調査は、箱根西麓から愛鷹南麓を通過する東駿河湾環状道路建設工事に伴い実施された。本遺跡が立地する箱根西麓は、黒耀石の原産地を箱根・伊豆に控え、旧石器時代から縄文時代にかけての多くの遺跡が確認されており、全国的にも注目を集めている地域である。すでに当研究所が東駿河湾環状道路関係で調査を実施した焼場遺跡・下原遺跡でも多くの成果をあげていることから、本遺跡に対しても大いに期待が寄せられた。

検出された遺構・遺物の中でも、特筆されるのが、約27,000年前のものと考えられる17基の土坑である。これらは、形態や規模がよく類似しており、また、規則性をもたせながら二列並行して配置している点など、当時の集団が明らかにある意図を持って構築したと考えられる。山田川を挟んだ南側の尾根に立地する下原遺跡や初音ヶ原遺跡群からも、同時期の土坑が規則的に配置されていることが報告されている。今後、これらの検出例と関連させて、構築目的のみならず集団の行動形態にまで及んだ検討が深まることを期待している。また、礫群や石器ブロックを除くと、旧石器時代の遺構の検出例は全国的にも稀少な中で、遺構密度が高い本遺跡の報告資料は、貴重なものになると考える。

調査ならびに本書の作成にあたっては、建設省・三島市教育委員会をはじめとする関係機関各位に多大なる援助・協力を受けた。この場をお借りして深くお礼申し上げる。また、現地調査・資料整理に参加された多くの方々の労をねぎらいたい。

平成 8 年 3 月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠

## 例　　言

- 1 本書は静岡県三島市沢地字河洞に所在する加茂ノ洞B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、平成5年度に実施した第1次調査の結果を受け、平成6年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、建設省中部建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成6年4月から平成7年3月まで現地調査を実施した。
- 3 加茂ノ洞B遺跡の資料整理は、平成7年4月から平成8年3月まで実施した。
- 4 調査体制は、以下のとおりである。

平成5年度（第1次調査）

所長 紫藤 忠、常務理事 鈴木 黙、調査研究部長 植松章八、  
調査研究三課長 佐野五十三、調査研究員 伊林修一・横山秀昭・小野千賀子

平成6年度

所長 紫藤 忠、常務理事 鈴木 默、調査研究部長 小崎章男、  
調査研究四課長 橋本敬之、調査研究員 横山秀昭

平成7年度

所長 紫藤 忠、副所長 池谷和三、常務理事 三村田昌昭、調査研究部長 小崎章男、  
調査研究四課長 橋本敬之、調査研究員 横山秀昭

- 5 本書の執筆は、横山秀昭が行い、遺物写真撮影は、湊 嘉秀が行った。

- 6 黒耀石の原産地分析は、国立沼津工業高等専門学校の望月明彦氏の御指導のもと、横山秀昭が実施した。

- 7 調査では次の方々・団体に御指導、御助言を賜った。厚くお礼申し上げる。（敬称略）  
芦川忠利 池谷信之 長田 実 鈴木忠司 鈴木敏中 濑川裕市郎 辻本崇夫 向坂鋼二  
望月明彦 山下秀樹 三島市教育委員会

- 8 発掘調査資料は、すべて静岡県埋蔵文化財調査研究所が保管している。

- 9 本書の編集は静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

## 凡 例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 グリッドは、国家座標に則り設定した。
- 2 出土遺物は、10m方眼のグリッドごとに通し番号を付して取り上げた。
- 3 石器の実測は、原則として第三角投影図法に拠った。
- 4 出土遺物実測図の縮尺は、基本的に石器4/5、土器1/2、礫石器1/3で掲載した。
- 5 遺物の出土位置については、一覧表内に座標で明記した。座標はF 9 グリッド杭を (X, Y)=(0.0) とし、南北方向をX軸に、東西方向をY軸にとった。
- 6 土層の色調は、新版『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修1992)を使用した。
- 7 本文中・挿図中の表記は以下のとおりである。

層名		石材名		黒耀石原産地	
Y L U	休場層上層	B B II	第II黒色帶	O b.	黒耀石
Y L M	休場層中層	S C II	第IIスコリア	C h.	チャート
Y L L	休場層下層	B B III	第III黒色帶	A n d.	安山岩
B B O	休場層直下黒 色帶	S C III s1	第IIIスコリア	B. A n.	黒色緻密 安山岩
S C I	第Iスコリア 層	S C III b1	第IIIスコリア	G r.	凝灰岩
B B I	第I黒色帶	S C III s4	第IIIスコリア	S h.	頁岩
N L	ニセローム		帶スコリア4	S a d.	砂岩
				B a s.	玄武岩

# 目 次

巻頭写真

序

例言

凡例

## 第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経過 .....	1
第2節 調査の経過 .....	1
1 現地調査の方法 .....	1
2 資料整理の方法 .....	3
3 現地調査の経過 .....	3

## 第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と歴史的環境 .....	7
第2節 基本土層 .....	10
第3節 遺跡の土層堆積状況 .....	12
第4節 遺構・遺物の概要 .....	15

## 第Ⅲ章 繩文時代の遺構と遺物

第1節 富士黒土層の遺構と遺物 .....	16
第2節 休場層上層の遺構と遺物 .....	34

## 第Ⅳ章 旧石器時代の遺構と遺物

第1節 休場層中層内の遺構と遺物 .....	37
第2節 休場層直下黒色帶の遺構と遺物 .....	70
第3節 第Ⅰ黒色帶の遺構と遺物 .....	74
第4節 第Ⅱ黒色帶の遺構と遺物 .....	79
第5節 第Ⅲ黒色帶の遺構と遺物 .....	87

## 第Ⅴ章 調査の成果と課題 .....

117

出土石器・礫一覧表

## 挿図目次

第1図 調査区グリッド配置図及び試掘坑・ トレンチ設定図	2	第37図 YL層敲石・磨石・凹石実測図3	53
第2図 第11・12地点試掘坑及びトレンチ 設定図	4	第38図 YL層敲石・磨石・凹石実測図4	54
第3図 調査範囲及びテストピット設定図	6	第39図 YL層敲石・磨石・凹石実測図5	55
第4図 周辺の遺跡	8	第40図 YL層石器接合資料	56
第5図 周辺地形及び周辺遺跡立地図	9	第41図 遺跡内出土黒耀石の原産地判別	57
第6図 基本土層柱状図	11	第42図 箱根系原産地判別	57
第7図 土層堆積図	13	第43図 個体別資料分布図1 柏峠・上多賀・ 畠宿	61
第8図 FB層土坑図	16	第44図 個体別資料分布図2 莫科・霧ヶ峰・ 和田峠	63
第9図 FB層遺構・土器分布図	17	第45図 1区YL層遺物石材別平面・ 垂直分布図	65
第10図 FB層石礫実測図	18	第46図 3区YL層遺物石材別平面・ 垂直分布図	67
第11図 FB層石器実測図1	19	第47図 BB0層遺物出土状況図	71
第12図 FB層石器実測図2	20	第48図 BB0層Aブロック平面・ 垂直分布図	72
第13図 FB層石器実測図3	21	第49図 BB0層Aブロック石器種別 分布図	72
第14図 FB層石器実測図4	22	第50図 BB0層石器実測図	72
第15図 FB層石器実測図5	23	第51図 BB0層Bブロック平面・垂直 分布図	73
第16図 FB層石器実測図6	24	第52図 BB0層Bブロック石器種別 分布図	73
第17図 FB層石器実測図7	25	第53図 BB1層遺物出土状況図	75
第18図 繩文土器拓影図1	28	第54図 BB1層石器ブロック平面・垂直 分布図	77
第19図 繩文土器拓影図2	29	第55図 BB1層石器ブロック器種別 分布図	77
第20図 繩文土器拓影図3	30	第56図 BB1層礫群平面・垂直分布図	77
第21図 繩文土器拓影図4	31	第57図 BB1層石器実測図1	77
第22図 YLU層石器実測図1	34	第58図 BB1層石器実測図2	78
第23図 繩文時代草創期石器分布図	35	第59図 BBII層遺物出土状況図	80
第24図 YLU層石器実測図2	36	第60図 BBII層Aブロック平面・垂直 分布図	81
第25図 YL層遺物出土状況図	38	第61図 BBII層Aブロック器種別分布図	81
第26図 YL層石器種別分布図	39	第62図 BBII層礫群平面・垂直分布図	81
第27図 YL層礫群平面・垂直分布図	42		
第28図 YL層石器実測図1	43		
第29図 YL層石器実測図2	44		
第30図 YL層石核実測図1	46		
第31図 YL層石核実測図2	47		
第32図 YL層石核実測図3	48		
第33図 YL層石核実測図4	49		
第34図 YL層石核実測図5	50		
第35図 YL層敲石・磨石・凹石実測図1	51		
第36図 YL層敲石・磨石・凹石実測図2	52		

第63図 BB II層Bブロック平面・垂直 分布図	84	第76図 1号土坑図	91
第64図 BB II層Bブロック器種別分布図	84	第77図 BB III層土坑分布図	92
第65図 BB II層Cブロック平面・垂直 分布図	84	第78図 2号土坑図	94
第66図 BB II層Cブロック器種別分布図	84	第79図 3号土坑図	96
第67図 BB II層Dブロック平面・垂直 分布図	85	第80図 4号・5号土坑図	98
第68図 BB II層Dブロック器種別分布図	85	第81図 6号土坑図	100
第69図 BB II層石器実測図1	85	第82図 7号土坑図	101
第70図 BB II層石器実測図2	86	第83図 8号土坑図	103
第71図 BB III層遺物出土状況図	88	第84図 9号土坑図	104
第72図 BB III層石器ブロック平面・垂直 分布図	89	第85図 10号土坑図	106
第73図 BB III層石器ブロック器種別 分布図	89	第86図 11号土坑図	107
第74図 BB III層石器実測図1	89	第87図 12号土坑図	108
第75図 BB III層石器実測図2	90	第88図 13号土坑図	110
		第89図 14号土坑図	111
		第90図 15号土坑図	113
		第91図 16号土坑図	114
		第92図 17号土坑図	115

## 挿表目次

表1 作業工程表	5	表11 個体別資料別石器器種組成表	60
表2 遺構・遺物一覧表	15	表12 主要石材別石器器種組成表	69
表3 繩文層石器計測表	26	表13 BB 0層石器器種組成表	70
表4 土器観察表	32・33	表14 BB 0層石器計測表	70
表5 YLU層石器計測表	34	表15 BB I層石器器種組成表	74
表6 YL層石材別器種組成表	37	表16 BB I層石器計測表	76
表7 YL層ナイフ形石器・搔器・削器等 計測表	45	表17 BB II層石器器種組成表	79
表8 YL層核粒計測表	51	表18 BB II層石器計測表	83
表9 YL層敲石・磨石・凹石計測表	56	表19 BB III層石器器種組成表	87
表10 個体別資料分類表	58・59	表20 BB III層石器計測表	87
		表21 BB III層土坑計測表	116

## 図版目次

図版1 1 調査区発掘前近景		図版2 2 繩文土器（鶴ヶ島台式）出土状況
2 基本土層		図版3 1 BB I層石器ブロック検出状況
3 基本土層（分層後）		2 BB II層Aブロック検出状況
図版2 1 繩文層遺物出土状況		図版4 1 BB III層石器ブロック検出状況

図版4	2 BB III層2号土坑層断面	図版17	YL層出土石器
	3 BB III層3号土坑土層断面	図版18	YL層石核1
図版5	1 BB III層9号土坑検出状況	図版19	YL層石核2
	2 BB III層4号・5号土坑土層断面	図版20	YL層石核3
図版6	1 BB III層1号土坑完掘状況	図版21	YL層敲石・凹石
	2 BB III層土坑遠景	図版22	YL層敲石・凹石
図版7	縄文時代の石器	図版23	YL層磨石
図版8	FB層石核	図版24	YL層敲石・磨石
図版9	FB層敲石	図版25	1 YL層敲石・磨石 2 YL層黒色緻密安山岩原石
図版10	FB層敲石・磨石・凹石	図版26	BB0層・BBI層出土石器
図版11	FB層敲石・磨石	図版27	BBII層・BBIII層出土石器
図版12	FB層台石・石皿	図版28	1 YL層接合資料1 2 BBII層接合資料 3 YL層接合資料2 4 BBIII層石核 5 BBII層台石
図版13	縄文土器1		
図版14	縄文土器2		
図版15	1 縄文土器3		
	2 縄文土器復元資料		
図版16	縄文時代草創期の石器		

# 第Ⅰ章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経過

静岡県三島市は、県の東部、伊豆半島の付け根に位置し、古くから東海道に於ける東西交通の接点として重要な役割を担い、同時に、箱根・伊豆・富士という一大観光地への拠点として栄えてきた。近年の人口増加に伴い、住宅化が進み、振興住宅地が丘陵地や山間部にまで造成されている。人口増加は即ち車両増加に繋がり、加えて、市内に於ける主要幹線道路である国道1号線、136号線、主要地方道が市街地内で接続されているため、慢性的な交通渋滞が発生し、市民生活のみならず経済活動にも少なからず影響を及ぼしてきた。これを解消するためにバイパスの建設や国道の2車線化が行われてきたが、三島市内の渋滞はさほど解消されず、効果のほどは今一つであった。東駿河湾環状道路の建設は、この混雑の緩和と経済発展等を目的として計画された。路線は、沼津市岡宮から愛鷹南麓・箱根西麓を通過し、函南町平井に至る総延長15.0kmの片側2車線の道路である。

愛鷹南麓・箱根西麓は旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が集中する地域であり、愛鷹南麓では約40箇所、箱根西麓では約60箇所の遺跡調査が実施され成果をあげているが、当該地域の開発行為は増加の一途を辿っていることから、今後相当数の遺跡が確認されることが予想される。この東駿河湾環状道路の路線内の各台地上にも多くの遺跡が存在する可能性があるため、平成2年9月に三島市教育委員会により予定路線内の遺跡確認踏査が行われ、周知の遺跡を含んだ31箇所の遺跡が確認された。このうち周知の遺跡である加茂ノ洞B遺跡は11地点にあたる。

平成4年度に委託者である建設省中部建設局沼津工事事務所と静岡県教育委員会文化課による協議を経て、平成5年5月6日から6月24日まで第11地点（加茂ノ洞B遺跡）と第12地点の第1次調査を合わせて行い、このうち加茂ノ洞B遺跡については、平成5年5月26日から6月24日まで調査を実施した。

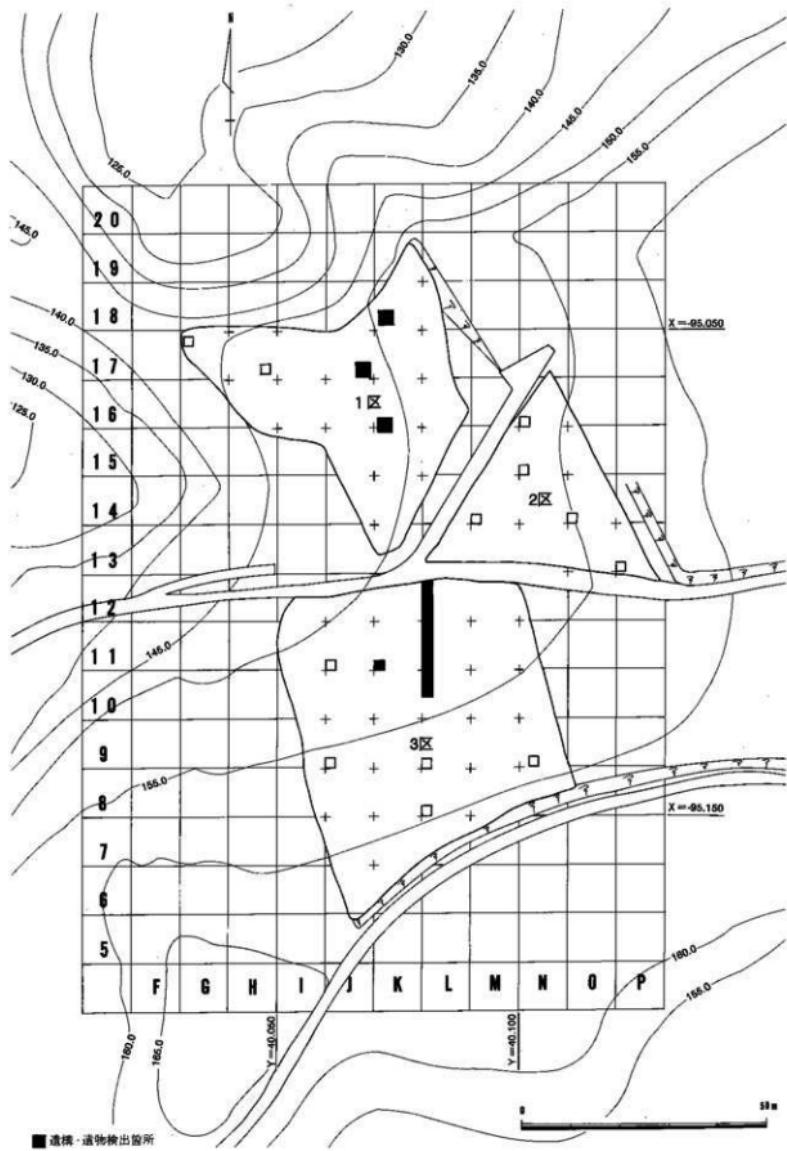
調査の結果、富士黒土層（FB層）から縄文時代早期の土器片が出土し、さらに第Ⅲスコリア帯黒色帶1（SC III b1）直下に於いて、旧石器時代の土坑が1基検出されたことから、本調査が必要な旨を静岡県教育委員会文化課に回答し、平成6年4月1日から本調査の準備を始め、4月21日から現地調査を実施した。

## 第2節 調査の経過

### 1 現地調査の方法

調査開始当初は、1区のみが調査対象であったが、調査を進めていく過程で、畑作による搅乱を受け、調査区に僅かに残存する程度であった縄文層が、南東部では比較的良好に堆積していることが確認され、土器片の出土も多かったことから、私道を挟んだ東側の用地買収が済んでいた地域を調査対象とし、2区と呼称した。加えて、1区の第Ⅲスコリア帯黒色帶1直下で検出された旧石器時代の土坑列が、調査区を南北に縱断する形で、規則性を持って列状に配置されていることが確認されたことから、市道を挟んだ南側も調査対象に加え、3区と呼称した。

グリッドは国土座標に基づき、1グリッドを10×10m方眼で設定した第1次調査時に設けたものをそのまま流用した。グリッド呼称は、東西方向をアルファベットで表し、西からF・G・H……とし、南北方向は算用数字で南から5・6・7……とし、南西優位とした。



第1図 調査区グリッド配置図及び試掘坑・トレンチ設定図 (1/1000)

1区の調査方法は、地形確認のため東西方向・南北方向それぞれに1本ずつの土層帯を設定し、耕作土を重機によって除去した後、縄文層から第Ⅰ黒色帶（BBⅠ層）上面までを全面精査した。BBⅠ層以下は、1グリッドに $3 \times 3$ mのテストピットを4箇所設定し、遺物や遺構が確認された時点で拡張する方法をとりながら、それぞれ第Ⅲスコリア帯まで掘削した。その結果、第Ⅲスコリア帯黒色帶1（SCⅢb1）直下に於いて、第1次調査時に確認されているものと同時期と考えられる土坑が多数検出されたため、全城を第Ⅲスコリア帯まで重機によって掘削した。2区は、年度後半の11月下旬から約1カ月間第1次調査を実施した。調査区内に $2 \times 2$ mのテストピットを5箇所設定し、それぞれ第Ⅲスコリア帯まで掘削した。遺構や遺物は確認されなかったが、本調査に於いて、1区同様に土坑の有無を確認するため、全域を第Ⅲスコリア帯まで重機によって掘削した。3区は、2区に並行して第1次調査を実施した。調査区内に $2 \times 2$ mのテストピットを6箇所、 $2 \times 25$ mのトレンチを1本設定し、テストピットは第Ⅲスコリア帯まで、トレンチは休場層直下黒色帶上面まで（2箇所第Ⅲスコリア帯まで深掘り）それぞれ掘削した。調査区北半は、縄文層以下第Ⅲスコリア帯まで良好な土層の堆積状況が確認され、縄文層と休場層上層（YLU層）に於いて遺物の出土を見たが、調査区南半は畑作による搅乱が第Ⅲ黒色帶（BBⅢ層）にまで及んでおり、遺物の出土も見られなかった。したがって、本調査では、手掘りによる調査は、時間的制約と遺物の出土状況から、調査区北半の縄文層とYLU層に限り実施し、休場層中層（YLM層）以下は重機によって第Ⅲスコリア帯まで掘削することとした。

写真撮影は、中型カメラ（ $6 \times 7$ 判）1台、小型カメラ（35mm）3台を使用して行った。遺物の取り上げにはトータルステーションを使用し、遺構・遺物の検出状況は、1/20の図面に記録し、必要に応じて1/10の図面を作成した。

## 2 資料整理の方法

平成7年4月から本書作成のための整理作業に入った。遺構については、図面の整理・検討を行った後、トレース作業を行い、1/20及び1/40の縮尺で掲載している。出土遺物については、土器・石器・礫の接合作業を行い、実測図の作成とトレース作業を行った。原則として土器は1/2、石器は4/5の縮尺で掲載したが、個体が大型の場合は紙面の都合上縮尺率を変えてある。なお、出土した土器は図化できるものは全て掲載したが、礫は全て、石器は器種により掲載されていないものがある。また、黒耀石約140点については、国立沼津工業高等専門学校の望月明彦氏の御指導のもと、調査員の責任において蛍光X線分析による産地同定を行い、この分析結果をもとに、個体別資料分類を行った。遺物写真は、本文のあとに写真団版として掲載している。

実測が終了した遺物については、遺物カードを作成し、所内に保管する予定である。また、調査記録写真は、フィルムの状態では退色、劣化が進行するため、フォトCDに置き換えて別途保存し、将来的には、コンピュータを利用した画像検索システムを確立していく予定である。

## 3 現地調査の経過

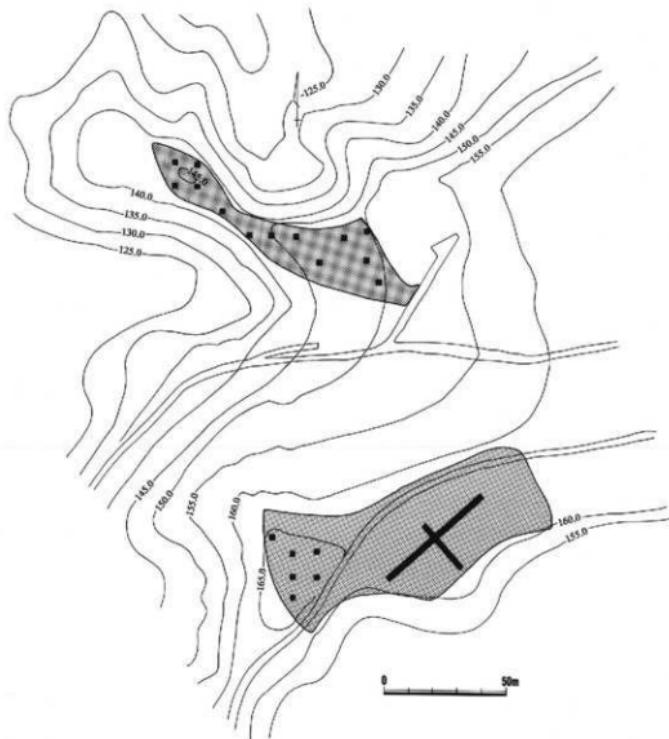
### ① 第1次調査

#### 第11地点（加茂ノ洞B遺跡）（1,820m<sup>2</sup>）

国土座標に基づき、調査区内に $10 \times 10$ mのグリッドを設定し、 $2 \times 2$ mのテストピットを11箇所設け、必要に応じて拡張する方法をとった。調査区西側は、斜面崩落が激しく、表土から50cm程掘削したところで中部ローム層中の三島バミスが認められたため、本調査の対象外とした。東側については、縄文層が畑作による搅乱を受け、残りは良好でなかったが、YL層以下は比較的安定した堆積状況であり、縄文土器片が10点、SCⅢ層で旧石器時代の土坑が1基確認されたため、本調査に至った。

第12地点 (4,470m<sup>2</sup>)

調査区は第11地点の南側に隣接している。調査の主体となる南側は大部分が削平されており、地表面には中部ローム層中のペアスコリアが露出している状況であった。地形確認のため2×51mのトレンチを北東から南西方向に1本、これに直交する2×21mのトレンチを北西から南東方向に1本設定し、前者は三島バミスが確認されるところまで掘削した。後者は、表土直下で箱根新期軽石流相当と考えられる礫層に当たった。また、農道を挟んだ西部は小丘陵で、削平も受けていなかったため、遺物の出土を期待して2×2mのテストピットを6箇所設定した。頂部付近は崩落が激しく、表土直下にSC III層が認められる状況であり、裾部はYL層から残存していたが、堆積状況は良好でなかった。頂部については三島バミスまで、裾部についてはSC III層までそれぞれ掘削したが、遺構・遺物は検出されなかった。以上の結果から、調査区内からは遺構・遺物は確認されないと判断し、本調査は実施しなかった。



第2図 第11・12地点試掘坑及びトレンチ設定図 (1/2000)

## (2) 本格的調査

### 1区 平成6年4月21日～平成7年3月31日 (1,805m<sup>2</sup>)

4月1日より安全フェンスの設置、プレハブ棟の設置場所の養生等の諸準備を行い、4月21日より表土除去を開始した。なお、表土を含む調査中の堆土は、12地点に仮置きすることとした。

5月12日より本格的な調査に入った。調査区の西側1/3は第1次調査の結果から、ニセローム以上は畑作による擾乱を受けていることが確認されているため、テストピット調査から入った。このうち、H-16グリッドに設定したテストピットのSC III b1直下において、土坑が1基検出されている東側2/3については、地形確認のため設定した東西・南北方向それぞれの土層帯を残し、一部残存していた縄文層からBB I層上面までを全面精査した。このうちBB 0層からは、散漫な分布ながら石器ブロックが2基検出されている。BB I層の上面において地形測量を行い、以下SC III層までは、1グリッドに3×3mのテストピットを4箇所設定し、9月からそれぞれ掘削を開始した。この結果、BB I層とBB III層でそれぞれ1基の石器ブロックと、調査区南半のBB II層で数箇所石器が集中する地点が確認された。したがって、11月からBB II層における石器の分布を確認するため、南半のBB II層以下SC III層まで全面精査を開始した。また、設定したテストピットのSC III b1直下において、土坑が7基検出されたため、2月に入り、全域を重機によってSC III層まで掘削したところ、新たに6基検出された。2月下旬に空中写真撮影を実施した後、3月に土坑覆土及び標準土層のサンプリングを行い、3月末に全調査を終了した。

### 2区 平成7年3月1日～平成7年3月31日 (1,034m<sup>2</sup>)

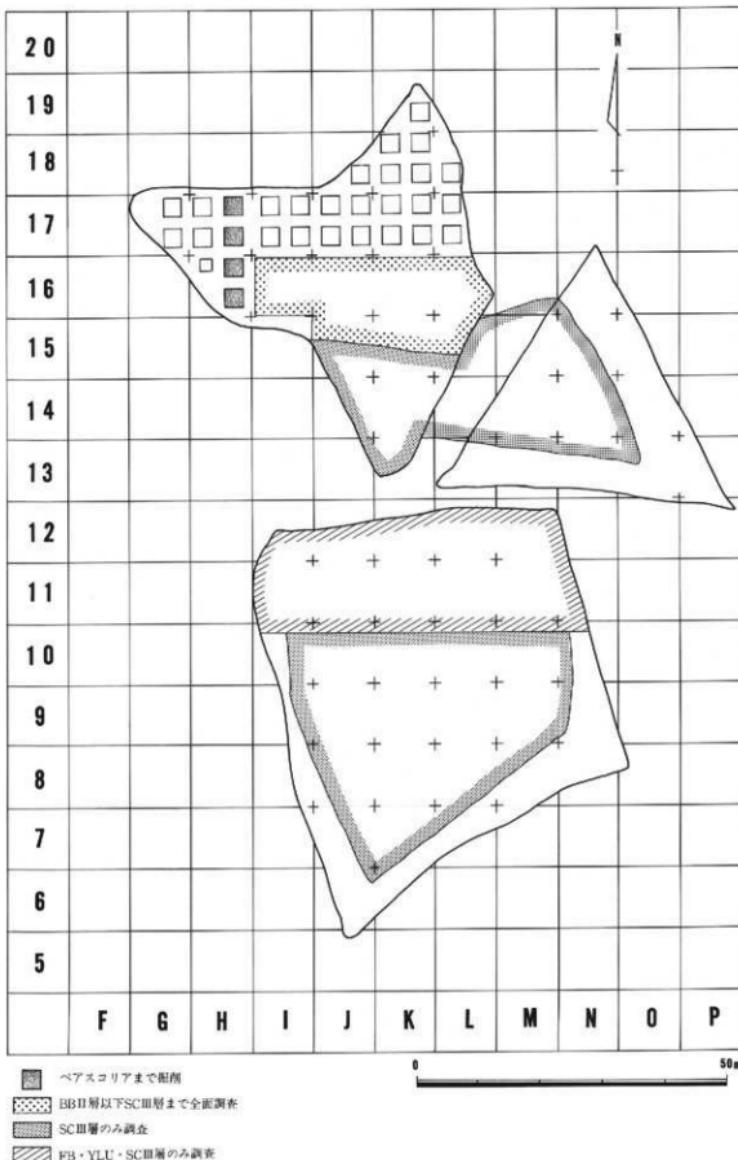
第1次調査の結果、縄文層以下上部ロームの各層は、斜面堆積ではあるが、安定的に堆積している状況が確認されているが、遺構・遺物の検出はなかった。したがって、本調査では、SC III層において土坑を検出することのみに主眼がおかれた。周囲の市道や畠地への安全を考慮しながら、重機による掘削を行ったが、土坑は検出されなかった。3月末にSC III層の地形実測を実施した後、埋め戻しを行い、調査を終了した。

### 3区 平成7年1月9日～平成7年3月31日 (2,590m<sup>2</sup>)

第1次調査の結果を受けて、1月上旬から調査区北半の表土除去を行った後、調査区の南北・東西方向にそれぞれ1本ずつ設定した土層帯を残し、縄文層からYLU層まで全面精査を行った。頁岩や黒色緻密安山岩製の石器は多数出土するが、黒耀石製の石器が1点も出土していないことが整理段階で判った。遺構は検出されなかった。2月中旬から、YLM層以下SC III層まで重機による掘削を実施したところ、SC III b1下面で土坑が2基検出された。3月下旬に地形実測を行い、調査を終了した。

表1 作業工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成5年度			↔		試掘調査							
平成6年度				↔	1区現地調査			↔	2区・3区第1次調査		↔	2区現地調査
平成7年度						資料整理				↔	3区現地調査	→



第3図 調査範囲及びテストピット設定図 (1/800)

## 第Ⅱ章 遺跡の概要

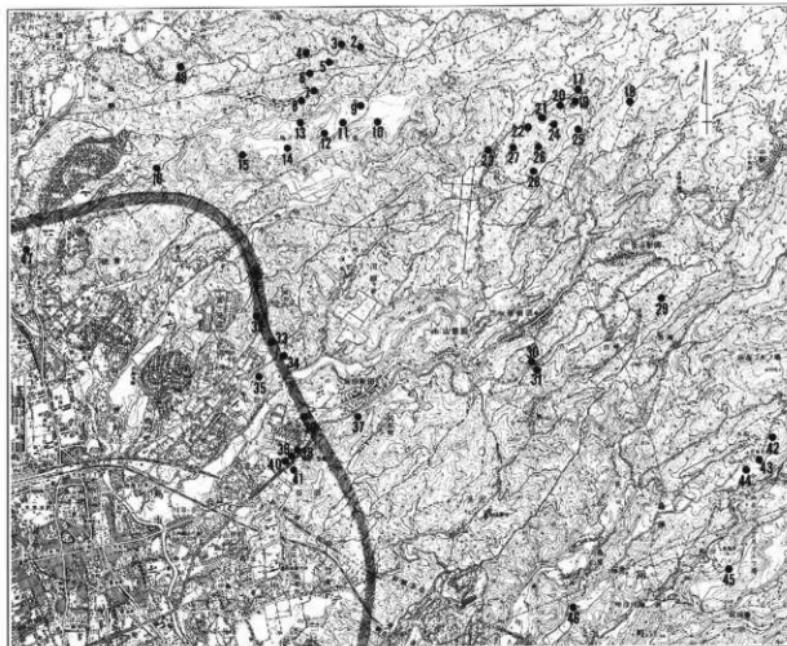
### 第1節 遺跡の位置と歴史的環境

箱根山は、約40万年ほど前に小御岳火山の噴火と前後して活動を開始したと考えられている。約6万年前に、新期軽石流期と呼ばれる活動期に入り、約5万年前には大噴火を起こし、大量の軽石（TP）と軽石流（TP-flow）を噴出させている。現在の箱根西麓の緩斜面地形は、この軽石流（新期軽石流）により形成されたものであり、その上層に、愛鷹上部ローム層に対比される、古富士火山後期の活動による火山灰が厚く堆積している。さらに、狩野川の支流である大場川、山田川、沢地川などに開析され梯の階状の尾根地形を作り出している。

この地域は、石器の石材である黒耀石の原産地を、伊豆の柏崎、箱根の烟宿・上多賀などに控えているため、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多数確認されており、愛鷹南麓や磐田原台地西縁と並び、当該期の遺跡の宝庫として全国的にも知られている。第4図に当遺跡周辺の遺跡を掲載したが、旧石器時代の主なものについて記述する。

本遺跡からは、旧石器時代の土坑が17基検出されているため、旧石器時代から縄文時代草創期の土坑が検出されている遺跡を最初にとりあげたい。当研究所が調査を実施した焼場遺跡A地点（34）では、休場層と第Ⅲ黒色帯から石器ブロックが1基ずつ、第Ⅲスコリア帯において、第Ⅲ黒色帯中から掘り込まれたと考えられる土坑が2基検出されている。同じく当研究所が調査した下原遺跡（36）からも同時期のものと考えられる土坑が、規則的に配置されたかたちで7基確認されている他、縄文時代草創期の土坑が11基検出され、そのうち、逆茂木痕を伴ったものが4基確認されている。これは東日本では最古の例になるものである。この下原遺跡と同一尾根上にある初音ヶ原遺跡群（38～41）からも、第Ⅲ黒色帯中から掘り込まれている土坑が13基検出されている。これらは、弧を描きながら丘陵を横断するよう配配置されている。初音ヶ原遺跡群からは、さらに多くの土坑が検出されているが、調査継続中であるため、詳細については本報告を待ちたい。また、第Ⅲスコリア帯中から、台形様石器や局部磨製石斧が出土しており、箱根西麓最古の文化層を持つ遺跡として注目される。

この他、観音洞G遺跡第1地点をはじめ、陰洞A遺跡、観音洞B遺跡などを含む10遺跡から構成される観音洞遺跡群（19～28）からは、総数3万点弱の遺物、黒耀石の埋納施設、石臼炉などが検出され、中村C遺跡（11）からは、細石刃（約350点）を主体とした石器ブロックが検出されている。また、柳沢C遺跡（43）では、休場層中から石臼炉が検出された。これは、ほぼ完成された形状をとどめており、箱根西麓では唯一の検出例になっている。



第4図 周辺の遺跡

\*網部は東駿河湾環状道予定路線

- |              |               |                |
|--------------|---------------|----------------|
| 1 加茂ノ洞B遺跡    | 17 五輪遺跡       | 33 焼場遺跡B地点     |
| 2 佐野片平山F遺跡   | 18 北原昔遺跡A地点   | 34 焼場遺跡A地点     |
| 3 佐野片平山G遺跡   | 19 觀音洞G遺跡第1地点 | 35 十石洞遺跡       |
| 4 陣笠山A遺跡     | 20 觀音洞G遺跡第2地点 | 36 下原遺跡        |
| 5 佐野片平山H遺跡   | 21 元山中C遺跡     | 37 塚原・南原遺跡     |
| 6 陣笠山H遺跡     | 22 陰洞B遺跡      | 38 初音ヶ原A遺跡第1地点 |
| 7 佐野片平山S遺跡   | 23 元山中遺跡      | 39 初音ヶ原A遺跡第2地点 |
| 8 佐野片平山T遺跡   | 24 陰洞A遺跡      | 40 初音ヶ原A遺跡第3地点 |
| 9 德倉片平山B遺跡   | 25 觀音洞B遺跡     | 41 初音ヶ原B遺跡第1地点 |
| 10 德倉片平山I遺跡  | 26 陰洞E遺跡      | 42 柳沢B遺跡       |
| 11 中村C遺跡     | 27 陰洞C遺跡      | 43 柳沢C遺跡       |
| 12 片平山遺跡     | 28 觀音洞H遺跡     | 44 柳沢D遺跡       |
| 13 ソノエンサレB遺跡 | 29 中村分遺跡      | 45 上黒岩遺跡       |
| 14 德倉片平山K遺跡  | 30 奥山遺跡       | 46 中原遺跡        |
| 15 德倉片平山L遺跡  | 31 笹原F遺跡      | 47 德倉片平山D遺跡    |
| 16 德倉片平山E遺跡  | 32 加茂・向山遺跡    | 48 乾草峠遺跡       |



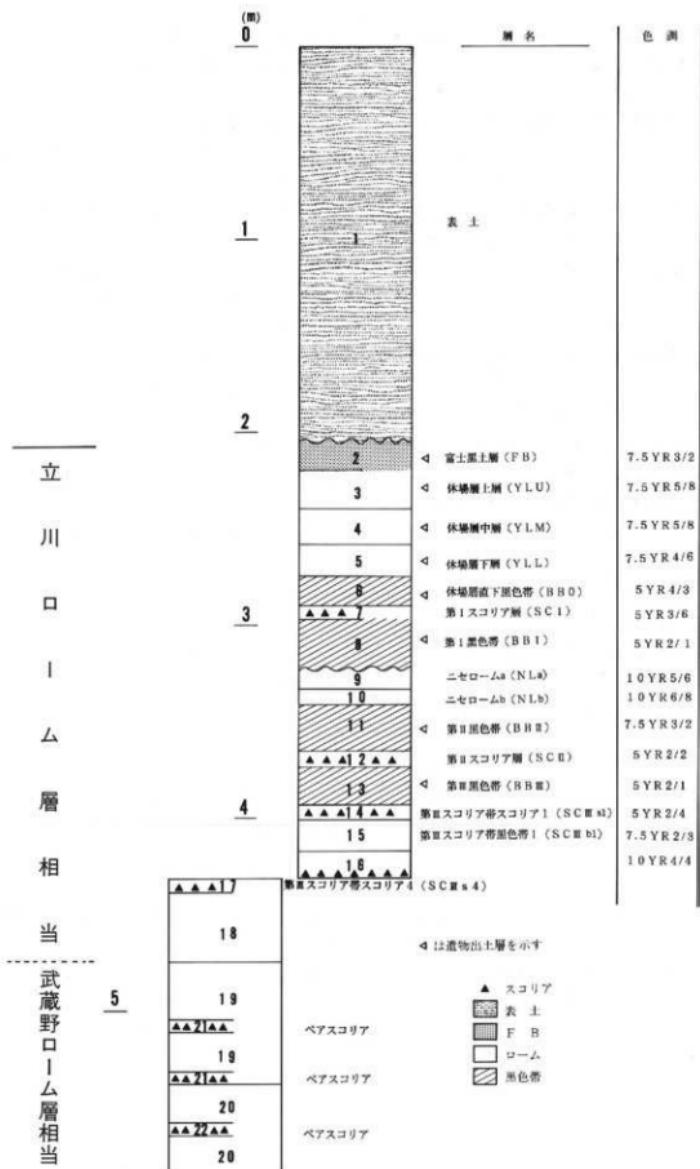
第5図 周辺地形及び周辺遺跡立地図 (1:10000)

## 第2節 基本土層

箱根西麓に堆積しているローム層は、『箱根西麓ローム層』と呼称され、上から上部ローム、中部ローム、下部ロームと大きく3層に区分される。この区分は、愛鷹ローム層に対比される。このうち上部ローム層は、関東ローム層の立川ロームに対比され、旧石器時代の遺構・遺物が確認されているのはこの層のみである。箱根西麓の上部ローム層は、愛鷹ローム層のそれとほぼ同様な層序を示すが、第Ⅲスコリア帯においては、黒色帯の発色が弱いため、愛鷹山麓では2層確認されている黒色帯が1層のみにとどまる。

第6図は、1区の調査区南部に設けた土層観察用の土層帯の断面図であるが、表土は2mの層厚がある上に、下部1m程が砂質土であったため、安全に万全を期す上から、SC III s 4以下の掘削を行わなかった。したがって、SC III s 4以下の土層断面図は、H16グリッドに設けたテストピットの土層断面図を代用した。また、重鉱物組成等の分析結果は、統いて発刊される『下原遺跡II』で、土坑の覆土の埋積状況や埋積過程等を科学分析資料を用いて論じる際に掲載することとする。

- 第1層 表土（耕作土） 上部は盛土で大小多数の礫を含む。下部は黒色の砂質土で締まりがなく脆い。
- 第2層 富士黒土層（FB） 暗褐色土で、0.1~0.2cmの橙色スコリアを若干含み、YLUに漸移的に変化する。本来周辺遺跡の土層堆積状況から、カワゴ平バミスを含んだより黒色の強いFBaが存在していたと考えられるが、擾乱の影響で消滅したと思われる。したがって、本遺跡では、FBを1層として扱う。
- 第3層 休場層上層（YLU） 明黄褐色ローム層で、パウダー状である。0.2~0.4cmのスコリアをごくわずか含む。
- 第4層 休場層中層（YLM） 黄褐色ローム層で、0.2~0.4cmの橙色スコリアを含み、0.3~0.5cmの黒色スコリアを若干含む。第3層との層界は明瞭でないが、スコリアの頻度により分層した。
- 第5層 休場層下層（YLL） 暗黄褐色ローム層で、0.2~0.5cmの橙色、黒色、赤色のスコリアを多量に含み、0.2~0.4cmの黄色スコリアを若干含む。休場層中最も硬質である。
- 第6層 休場層直下黒色帯（BB 0） 0.2~0.6cmの黒色、赤色スコリア、0.2~0.4cmの橙色、黄色スコリアを含む暗黄褐色ローム層である。硬質だが、一部締まりがない箇所がある。石器ブロックが2基検出されている。
- 第7層 第Iスコリア層（SC I） 赤褐色スコリア層で、0.1~0.4cmの黒色、赤色、橙色スコリアから成り、0.1~0.2cmの白色バミスを若干含む。硬質であるが、乾燥すると黄色に変色し、脆くなる。第6層中にブロック状に認められる。無遺物層。
- 第8層 第I黒色帯（BB I） 黑褐色スコリア層で、0.2~0.4cmの橙色、黒色スコリアを多く含み、0.2~0.3cmの黄色スコリアを少量含む。石器ブロックが1基検出されている。
- 第9層 ニセローム（NLa） 黄褐色スコリア層で、0.2~0.4cmの橙色、黒色スコリア、黄色スコリアから成る。スコリアの密度が高く、硬質であるが、乾燥すると脆く崩れやすい。始良・丹沢広域火山灰（AT）を多く含み、ブロック状に確認できる箇所もある。
- 第10層 ニセローム（NLb） 明黄褐色スコリア層で、第9層と同様なスコリアから成るが、スコリアやATの頻度は低下する。
- 第11層 第II黒色帯（BB II） 黑褐色スコリア質層で、0.2~0.5cmの橙色、黒色スコリアを含み、0.1~0.2cmの黄色スコリアを少量含む。石器ブロックが4基検出されている。

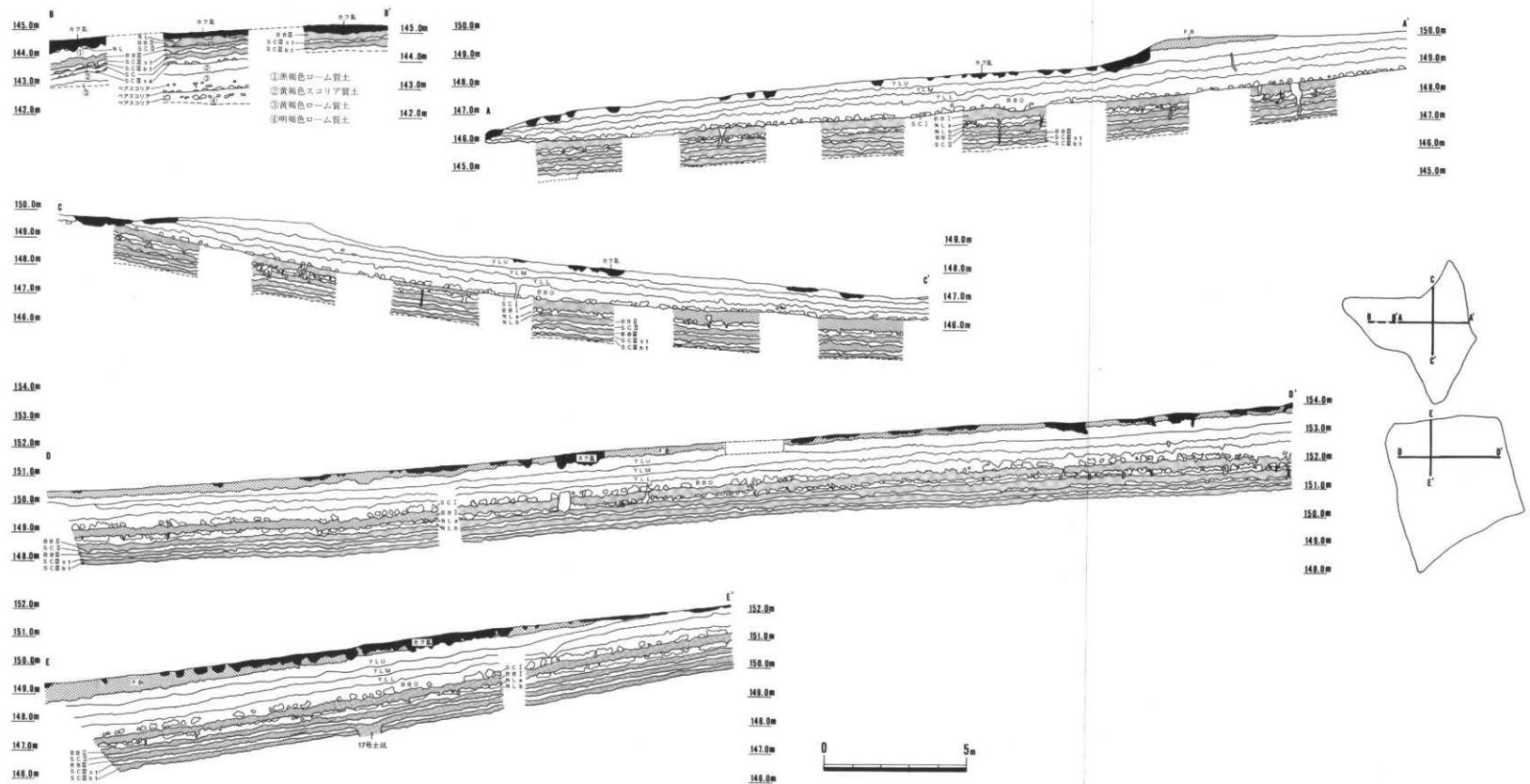


第6図 基本土層柱状図

- 第12層 第IIスコリア層（SC II） 暗赤褐色スコリア層で、0.2～0.6cmの橙色スコリアから成り、0.2～0.3cmの黒色、黄色スコリアを若干含む。第11層と第13層との層界は明瞭でないため、橙色スコリアの頻度によって分層した。無遺物層。
- 第13層 第III黒色帯（BB III） 黒褐色スコリア質土で、0.2～0.6cmの橙色スコリア、0.2～0.3cmの黄色スコリアを含み、0.2～0.6cmの黒色スコリアを少量含む。17基検出されている土坑の掘り込み面と考えられる層であり、石器ブロックが1基検出されている。
- 第14層 第IIIスコリア帯スコリア1（SC III s1） 暗赤褐色スコリア層で、0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを多く含む。
- 第15層 第IIIスコリア帯黒色帯1（SC III b1） 暗褐色スコリア質土で、0.2～0.4cmの橙色、赤色スコリアを多く含み、0.3～0.6cmの黒色スコリアも少量含む。黒色の発色が弱い箇所があり、第13層および第14層との分層を難しくしているところもある。
- 第16層 暗赤褐色スコリア層 0.2～1.2cmの黒色スコリアを中心とし、0.2～0.7cmの橙色、赤色スコリアから成る。硬質で、下位に向かうにしたがい、黄褐色へと変化する。17基の土坑の大部分がこの層の上面で検出されている。
- 第17層 第IIIスコリア帯スコリア4（SC III s4） 暗黄褐色スコリア層で、非常に硬質のスコリアの純層である。ブロック状に確認され、乾燥すると黄色に変色する。
- 第18層 黄褐色スコリア質ローム土 0.2～1.0cmの黒色スコリア、0.2～0.5cmの赤色スコリアから成り、下位に向かうにつれ、黒色スコリアの径が小さくなり、頻度も低下する。漸移的にローム質化していく。
- 第19層 黄褐色ローム質土 0.2～0.5cmの赤色スコリアをまんべんなく含み、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。第21層のブロックを部分的に含む。
- 第20層 明褐色ローム層 第19層に類似するが、黒色スコリアの頻度が低下する。
- 第21層 ベースコリア 赤褐色スコリアから成り、下位のものはほどスコリアの密度が高く硬質で、乾燥すると黄色に変化する。本遺跡では3層が確認されているが、調査された遺跡によっては増減がある。

### 第3節 遺跡の土層堆積状況

本遺跡は、沢地川とその支流の小河川により浸食されたと考えられる急峻な谷を、調査区の北側と西側にもつ、標高約150mの谷頭部に立地している。調査区は、ごく最近まで牧草地や畑地として利用されており、1区東側のFB層の大部分と西側のNL層以上、3区南半のBB III層以上が擾乱を受けていた。土壤は、2区と3区に斜面堆積の様相が認められたが、比較的安定した堆積状況を示し、1区は谷に向かい南西緩傾斜面を形成し、3区は西に緩やかに傾斜しながら谷に向かう北西急斜面を形成している。また、I-15～J-13、14、15グリッドの西部付近は、SC III層以下から土壤の崩落が始まっていることが確認された。



第7図 土層堆積図(1/125)

#### 第4節 遺構・遺物の概要

遺跡からは、旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が検出されている。FB層は、1区では搅乱による影響で大部分が消滅していたが、3区は比較的残存状態が良く、磨石・敲石・石皿などの出土が多い。遺構は、1区から栗色土層を覆土を持つ土坑が1基検出されたこととなる。

旧石器時代については、調査区によって調査方法が異り、記述に統一性を欠くため、各調査区ごとにその概要を記す。

1区 YL層の遺物は、YLU層中位からYLM層中位にかけて、削平されていた箇所及び未調査部を除く全城から出土したが、石器の分布は拡散的で、東側はとくに密集度が低い。したがって、石器についてはあえてブロック分けをせず、1区全城を1ユニットとして扱うこととした。礫についても散漫な分布状況が見られたが、小規模ながら赤化礫が集中している箇所及び接合関係が見られる3箇所を礫群として扱った。BB0層以下BBIII層までは、SCI層とSCII層のスコリア層を除く各層で遺物が出土し、拡散的な在り方を示すもの、比較的集中するものなど密集度に差はあるが、それぞれに石器ブロックを検出している。このうち、BBI層とBBII層のブロックは礫群を内包している。また、SCIII層において、BBIII層中に掘り込み面があると考えられる15基の土坑が検出された。土坑は東側に6基、西側に9基、南北方向に2列並行するように配置されており、東側はほぼ一直線に配置されている。これらは、焼場遺跡・下原遺跡・初音ヶ原遺跡群から検出されたものと形態や規模が類似しており、構築時期も同時期のものと考えられる。

3区 調査は YLU層と SC III層のみ実施した。遺物は、YLU層上位から中位にかけて西側に偏在するかたちで出土した。FB層同様に磨石や敲石などの加工具の出土が多いことと、黒耀石製の石器が皆無であることが特徴としてあげられる。また、調査区北端のSC III層から、1区の土坑列に連続するものと考えられる土坑が2基検出された。

両調査区をとおしての石材は、全体の37%を黒耀石、21%を頁岩が占め、以下黑色緻密安山岩、安山岩と続く。このうち黒耀石については、蛍光X線分析を行ったところ、伊豆・箱根・長野など7箇所の原産地から搬入されていることが判り、さらに個体別資料は、34種類が確認された。

表2 遺構・遺物一覧表

時代	遺構	遺物
縄文	土坑 1	石鎌 石七 石皿 磨石 敲石 四石 土器
縄文（草創期）		有舌尖頭器 石槍 石鎌
旧石器	石器ブロック 8 礫群 5 土坑 17	ナイフ形石器 搾器 削器・抉入削器 錐形石器 楔形石器 石刃 磨石 敲石 台石

## 第Ⅲ章 繩文時代の遺構と遺物

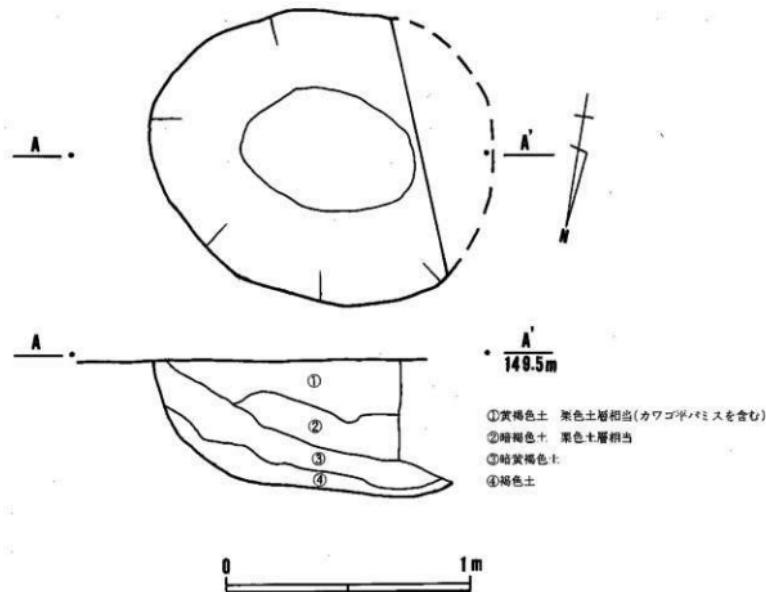
### 第1節 富士黒土層の遺構と遺物

#### 1 概要

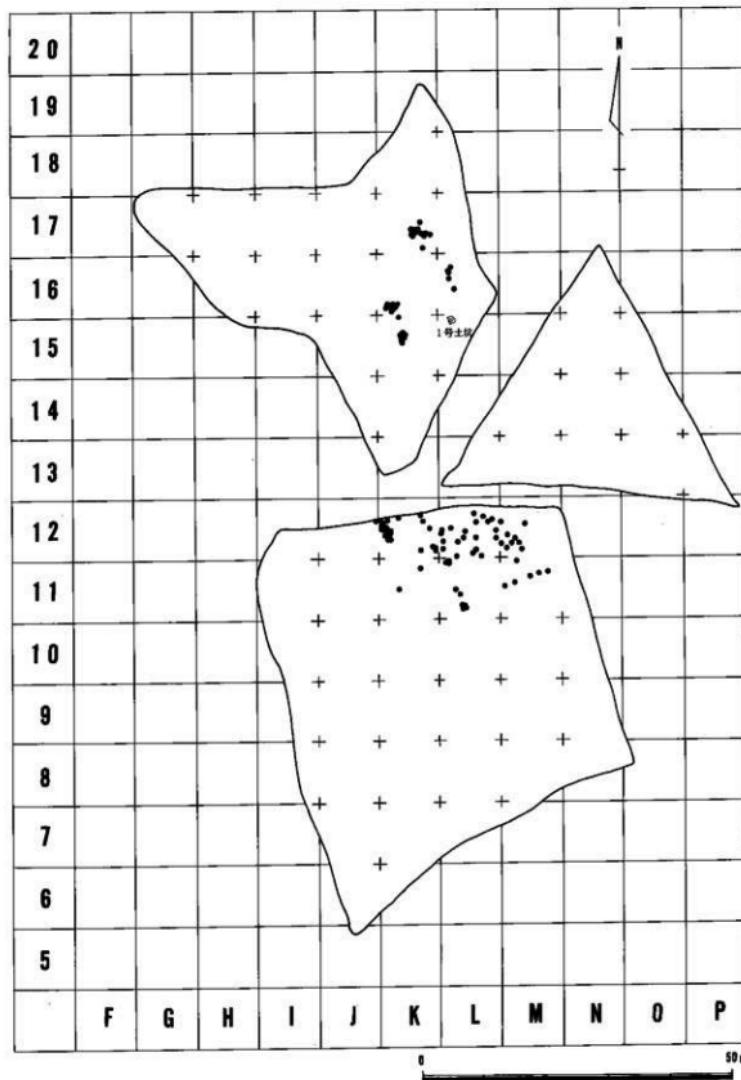
本来富士黒土層は、黒色の発色の強弱によって FBa 層と FBb 層に分層されるが、1 区では a・b 層の大部分が、3 区では a 層（一部 b 層にかかる）が焼作による搅乱を受け消滅していた。したがって本書では FB 層を 1 層として扱う。遺構は FB 層が僅かに残る 1 区の東側から、土坑が 1 基検出されたのみである。遺物は FB 層の残存状況が比較的良好な、3 区からの出土量が圧倒的に多い。両調査区を合わせて、土器 125 点、石器 96 点が出土しており、石器はその 60% 近くが L-12 から M-12 グリッドに集中する。

#### 2 遺構

土坑（第 8 図） L-15 グリッド北部から検出され、西側約 1/5 は搅乱のため破壊されていた。長径は推定 145cm、短径 117cm、深さ 55cm を測る。覆土上層に、カワゴ平バミスと思われる 0.1cm 程の白色バミスを若干含む栗色土層相当の褐色土が堆積する。遺物は伴わず、用途は不明である。



第 8 図 FB 層土坑図 (1/20)



第9図 FB層構造・土器分布図 (1/800)

### 3 石器

#### (1) 石鏃（第10図1～5）

3区から5点出土しており、いずれも黒耀石製である。1、2は凹基無茎石鏃で、1は柏崎産、2は神津島産である。4は神津島産の、基部に抉りのない平基無茎石鏃である。5は表裏に素材となった剥片の剥離面を残しており、石鏃の未製品と考えられる。

#### (2) 梗形石器（第11図6～8）

3区から3点が出土している。6は縦長の剥片の両端を折断し、剥片の縁辺部を利用したものである。7は和田崎産の黒耀石製で、縦長剥片の上下端を利用してしたものである。8は表裏両面に剥離面が認められるため、石核から転用した可能性がある。

#### (3) 削器（第11図9、第12図11）

9は黒色緻密安山岩製の抉入削器で、大型の剥片の縁辺部にノッチ加工を施してある。11は礫面を残す剥片の裏面末端部に、スクレイバーエッジを削出している。玄武岩製。

#### (4) 石匕（第11図10）

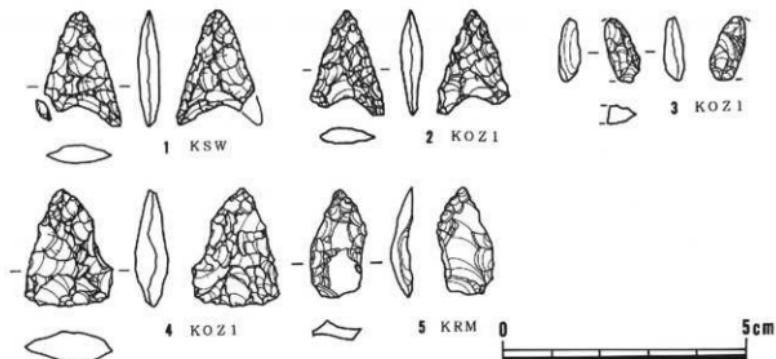
頁岩製で、基部に抉りを入れて突起部を削出し、剥片の末端部を刃部としている。

#### (5) 石核（第12図12・13、第13図）

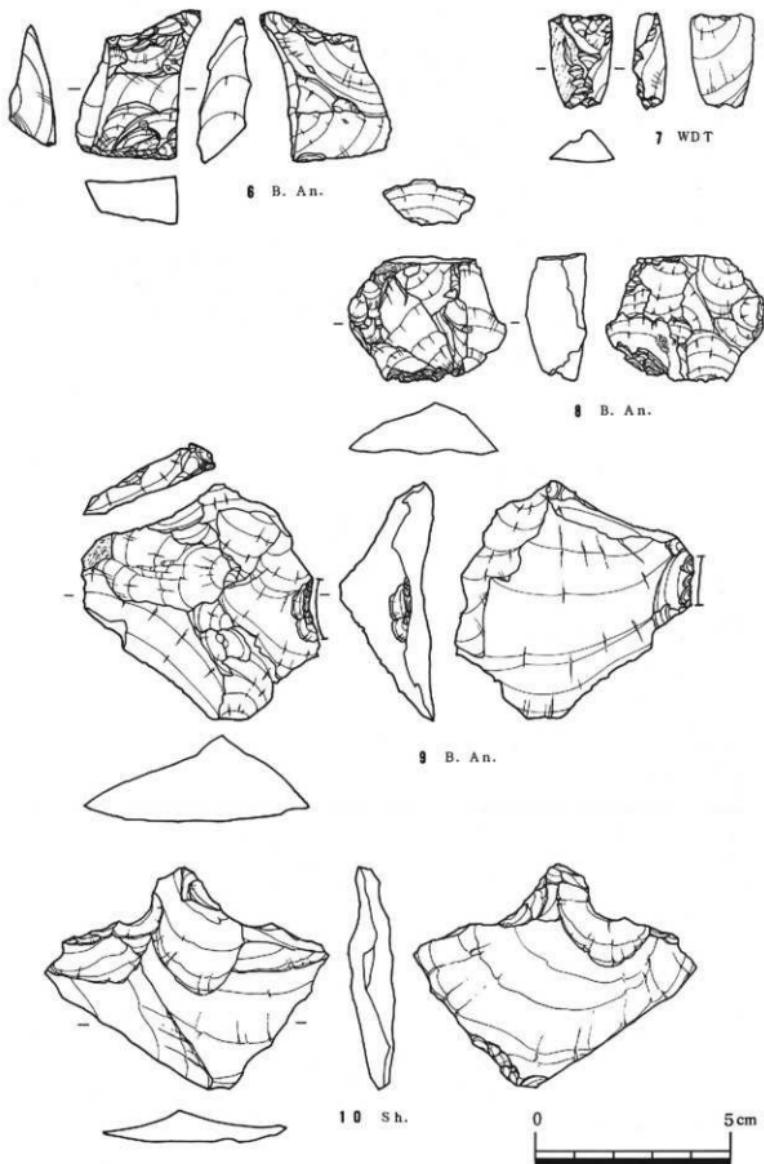
12は、上面の礫面を打面とした単設打面石核で、寸詰まりの縦長剥片を剥離したものである。13は、作業面を90度展開しながら剥片を剥離したものと思われるが、石の節理が強く、良好な石器素材となる剥片は得られなかつたものと考えられる。14は複設打面石核である。打面を90度ずつ展開することで最終的にサイコロ状の石核となるが、礫面が残っていることから、剥離した剥片数はそれほど多くないと考えられる。

#### (6) 敲石・磨石・凹石（第14～16図）

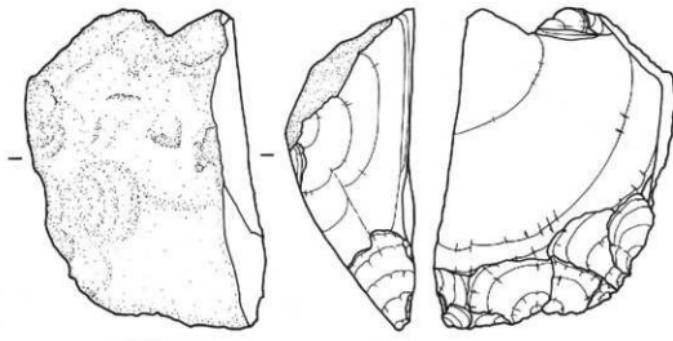
玄武岩と安山岩を石材の主体としている。内訳は敲石14点（15～28）、磨石5点（32～36）、敲石・凹石の複合石器3点（29～31）、敲石・磨石の複合石器6点（37～42）である。このうち敲石は、礫の先端に敲打痕が集中するもの（15～22）と、礫の縁辺部にも敲打痕が及ぶもの（23～28）と2種類に分類した。



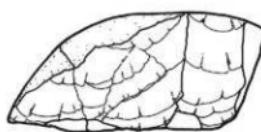
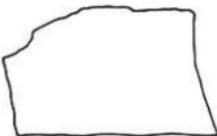
第10図 FB層石鏃実測図（1/1）



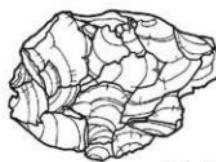
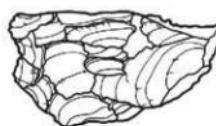
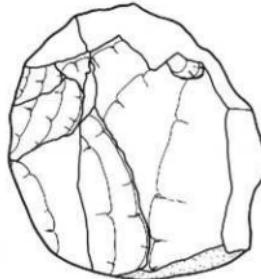
第11図 FB層石器実測図1 (4/5)



11 Bas.



12 Sh.

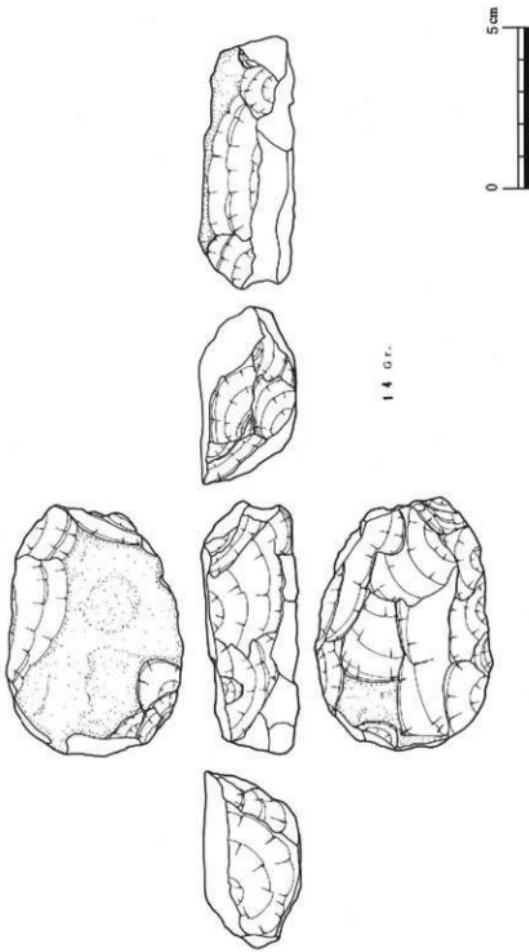


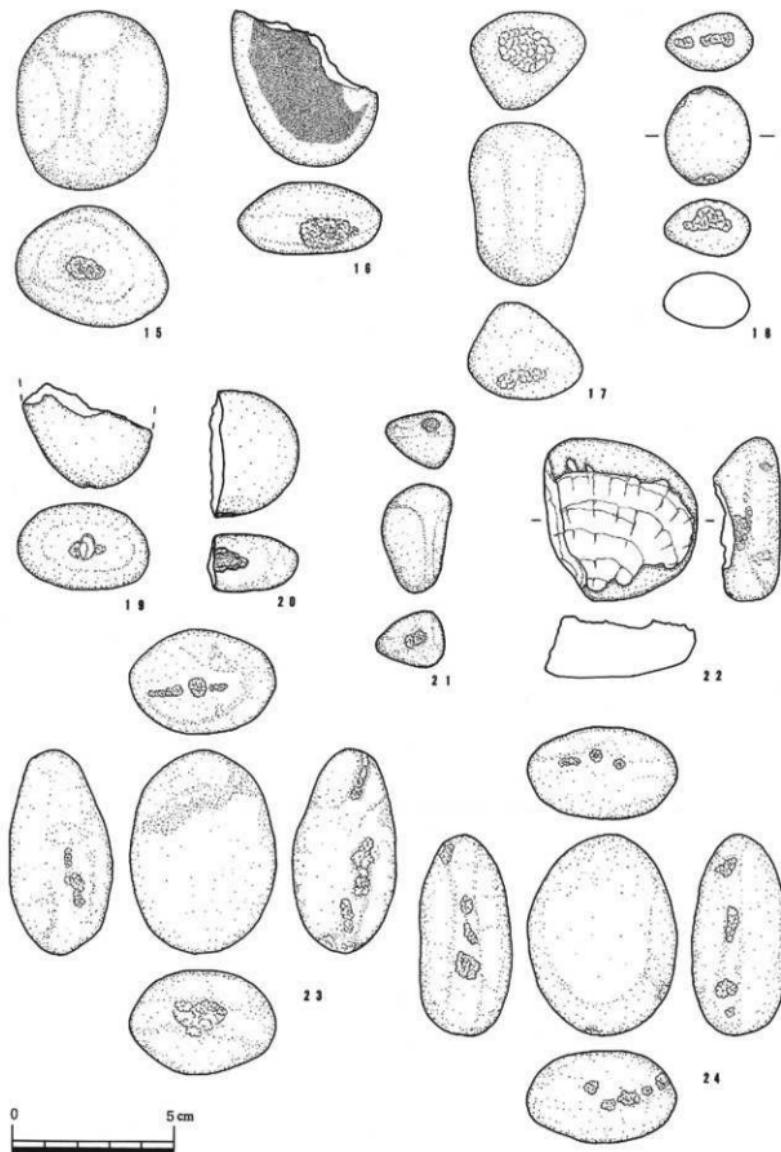
13 B. An.



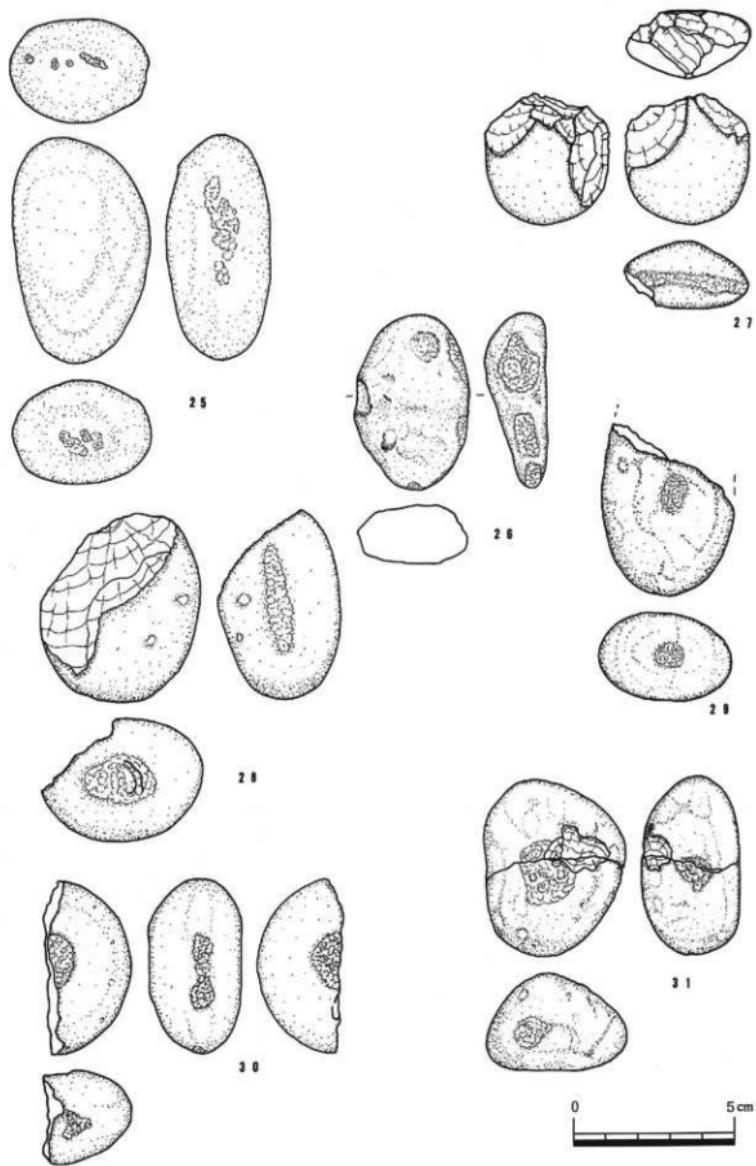
第12図 FB層石器実測図2 (4/5)

第13圖 FB層石器實測圖3 (1/3)

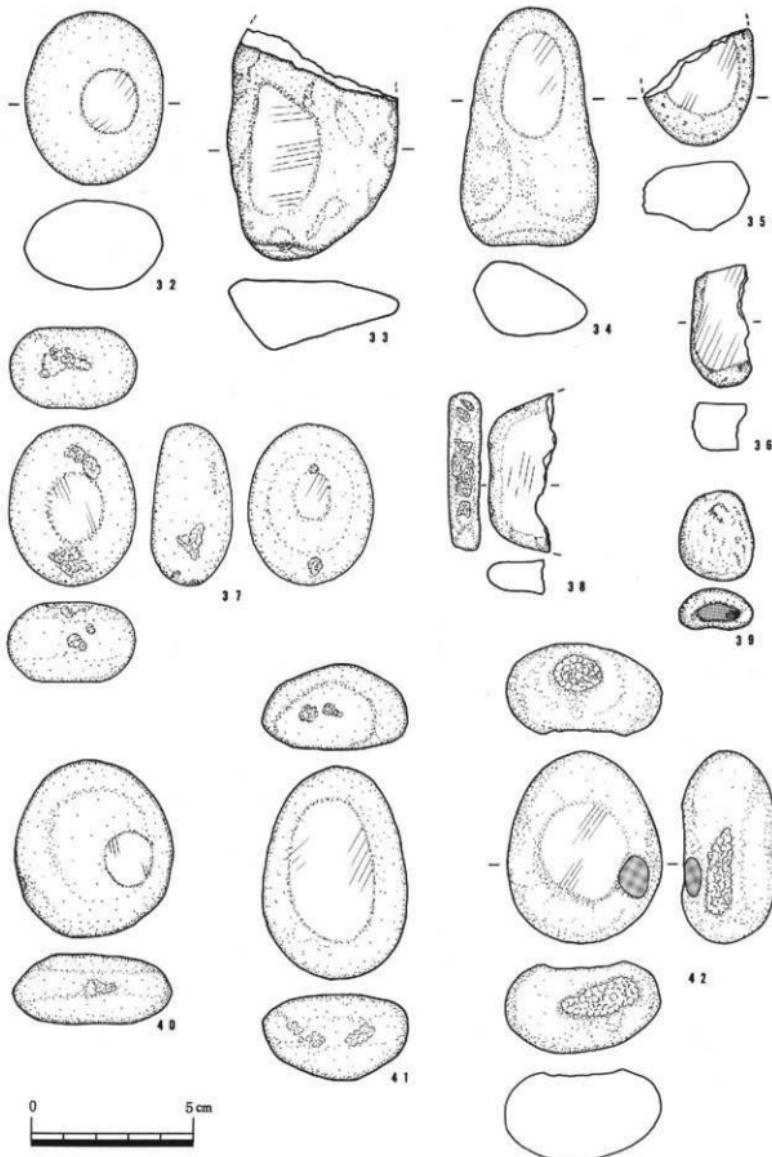




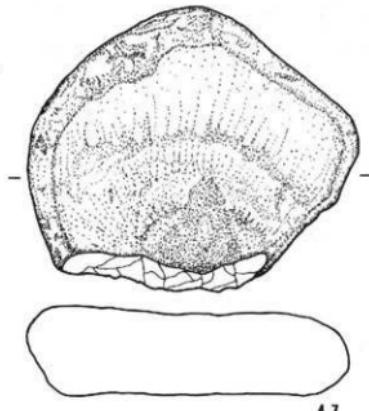
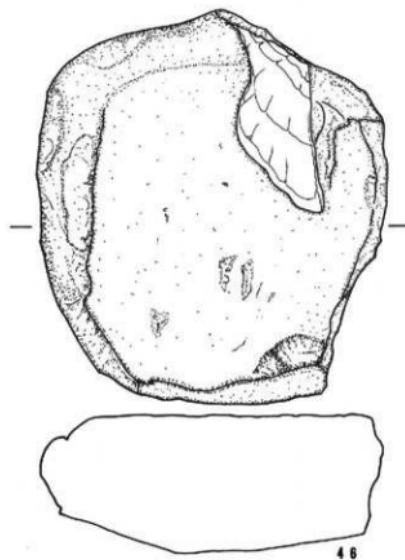
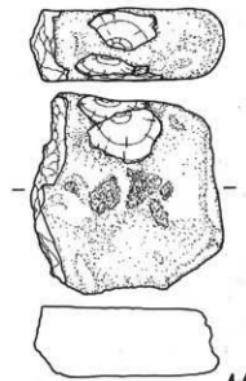
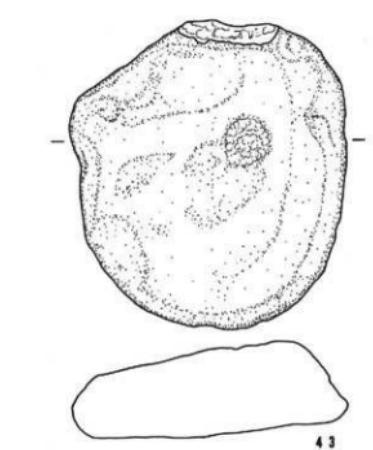
第14図 FB層石器実測図4 (1/3)



第15図 FB層石器実測図 5 (1/3)



第16図 FB層石器実測図 6 (1/3)



0 10cm

47

第17図 FB層石器実測図 7 (1/4)

## (7) 台石・石皿〈第17図〉

台石2点、石皿3点が出土している。石材はいずれも安山岩系のものが使用されている。43には1箇所、44には4箇所、敲打による凹みが見られる。47は、表面全体に使用による磨耗が見られるが、折損部付近の磨耗が顕著で、浅い凹みが見られる。

表3 織文層石器計測表

器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大幅長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
石鏡	1	M12	1	黒曜石	KSW-1	23.0	(15.0)	4.0	(0.0)
石鏡	2	M12	20	黒曜石	KOZ1-1	22.0	(15)	6.0	(0.7)
石鏡	3	M12	43	黒曜石	KOZ1-1	13.5	7.0	(4.5)	0.3
石鏡	4	表裏		黒曜石	KOZ1-5	23.5	18.0	7.0	2.0
石鏡?	5	M12	16	黒曜石	KRM-8	22.0	12.0	4.5	0.6
楕形石器	6	M12	23	黒色麻布安山岩		32.0	58.0	14.0	14.7
楕形石器	7	K12	3	黒曜石	WDT-3	24.0	18.0	9.0	3.0
楕形石器	8	M12	8	黒色麻布安山岩		32.0	40.5	16.0	19.2
抉入削器	9	L11	3	黒色麻布安山岩		80.0	61.5	24.5	55.9
石匕	10	K11	6	真岩		57.0	73.5	12.0	30.8
刮器	11	L12	13	玄武岩		82.5	82.0	35.0	193.9
石梳	12	K10	1	真岩		30.0	88.0	72.0	178.4
石梳	13	M12	9	黒色麻布安山岩		38.5	55.0	28.5	64.1
石梳	14	L16	11	滑結繊灰岩		58.0	158.5	101.0	1420.0
敲石	15	K11	4	玄武岩		111.0	93.0	74.5	1115.0
敲石	16	L11	5	輝石安山岩		99.0	89.5	45.0	475.1
敲石	17	J12	4	玄武岩		101.0	72.5	80.0	580.0
敲石	18	L16	8	輝石安山岩		80.5	53.5	35.5	143.6
敲石	19	L11	8	輝石安山岩		84.5	82.0	54.0	299.8
敲石	20	L16	9	輝石安山岩		79.5	58.5	36.0	203.2
敲石	21	L16	10	玄武岩		88.0	43.0	35.0	122.8
敲石	22	M12	3	輝石安山岩		101.0	98.0	42.0	590.0
敲石	23	M12	46	玄武岩		127.0	92.0	64.5	1086.0
敲石	24	L11	4	玄武岩		124.0	93.5	57.0	956.0
敲石	25	表裏		玄武岩		141.5	87.0	64.0	1075.0
敲石	26	K16	20	玄武岩		108.0	72.0	38.0	384.8
敲石	27	M12	21	砂岩		81.0	77.5	42.0	298.5
敲石	28	I17	1	石英安山岩		117.0	78.0	78.0	885.0
敲石・凹石	29	L11	8	輝石安山岩		106.5	83.0	55.0	820.0
敲石・凹石	30	K11	2	石英安山岩		108.5	54.5	58.0	413.4
敲石・凹石	31	I18	1	輝石安山岩		88.0	51.0	61.0	415.0
敲石・凹石	31	I18	2	輝石安山岩		85.0	60.0	60.0	425.0
磨石	32	K11	5	玄武岩		108.0	88.0	55.0	740.0
磨石	33	J12	5	輝石安山岩		107.0	133.0	44.0	890.0
磨石	34	M12	31	玄武岩		149.0	88.5	54.0	890.0
磨石	35	K17	7	多孔質玄武岩		73.0	67.5	43.0	217.7
磨石	36	K11	9	輝石安山岩		76.0	38.5	30.0	135.3
敲石・磨石	37	K11	6	輝石安山岩		100.0	79.0	50.0	597.1
敲石・磨石	38	I17	2	輝石安山岩		41.0	98.0	21.0	120.0
敲石・磨石	39	L12	4	輝石安山岩		56.5	48.0	25.0	85.0
敲石・磨石	40	M12	32	輝石安山岩		110.0	98.0	44.0	894.0
敲石・磨石	41	M12	47	輝石安山岩		132.0	91.0	53.0	890.0
磨石・敲石	42	K10	2	輝石安山岩		119.0	97.0	57.0	850.0
台石	43	K12	2	多孔質安山岩		253.5	228.0	85.0	8200.0
台石	44	M12	4	角閃輝石安山岩		184.5	157.0	58.5	2450.0
石皿	45	J12	3	過度晶質安山岩		120.0	124.0	48.5	960.0
石皿	46	J12	2	輝石安山岩		324.0	288.0	113.0	17500.0
石皿	47	L12	2	輝石安山岩		232.5	270.5	85.0	7500.0

#### 4 土器

本遺跡からは、縄文時代早期・前期・中期の土器が出土している。土器は以下の5群に分類し、そのうち1群～3群について記載した。

##### 1群 条痕文系

- 1類 野島式（第18図1～9）
- 2類 鶴ヶ島台式（第18図10～26、第19図27～30）
- 3類 条痕文系土器（第20図31～43）
- 2群 入海1式（第20図44、45）
- 3群 諸磯式
  - 1類 諸磯b式（第20図46～56）
  - 2類 諸磯c式（第21図57～70）
  - 3類 諸磯の型式内におさまる土器（第21図71～77）
- 4群 勝坂2式（第21図78～80）
- 5群 型式不明（第21図81～89）

##### 1群 野島式、鶴ヶ島台式、条痕文系の土器を本群とした。

a類 野島式を本類とした。1～4は、集合沈線と幅広で浅い沈線により文様が構成されるもので、焼成は普通である。5は、隆帶上に刻みを施し、集合沈線の上に指による幅広の沈線を施したものである。6は、棒状工具による押し引き状の刺突が施され、7は、竹管により平行の押し引き文が施されている。

b類 鶴ヶ島台式を本類とした。10～19は、隆線に竹管状工具による刺突を施し、裏面に貝殻腹縁による条痕を施したものである。焼成は概ね普通で、褐色・暗褐色を呈する。30は、推定口径28cm、推定器高30cm、器厚0.9cmを測る深鉢形土器である。口縁部は僅かに内彎し、口唇部は刻みが加えられ、内側に傾斜する。2段の段を有し、口縁部と1段目の間に、棒状の隆線を施し、隆線上や交差部には竹管状工具による刺突を施す。条痕文が施された部分を挟み、2段目の上部にも同様の文様を施す。胎土には、石英、長石、金雲母、黒色・橙色粒子、纖維を含み、焼成は良好である。底部を欠損しているが、平底であったと思われる。23は、表裏に貝殻条痕が見られるもので、30と同一個体の可能性がある。20～22は表面に貝殻による条痕を施し、裏面に擦痕状の横位のナデ痕が見られるものである。明褐色で、焼成は普通である。

c類 a、b類に属さない条痕文系土器を本類とした。表裏に条痕が施されているもの（31～36）と、表面に条痕が施されているもの（36～42）に大別できる。焼成は普通である。

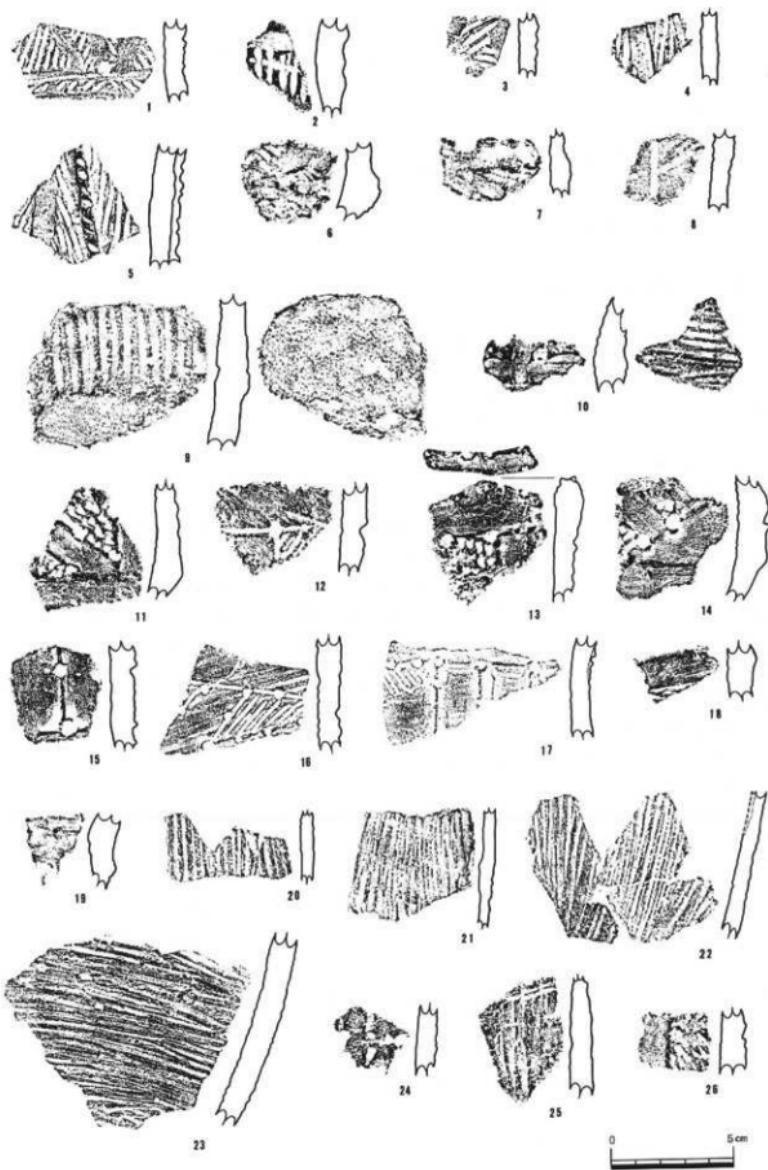
2群 入海1式を本群とした。2点出土している。いずれも焼成は普通で、隆帶上に斜めに刻みが施されている。44、45が相当する。

##### 3群 諸磯b式、c式、諸磯の型式内におさまるもの3種類を本群とした。

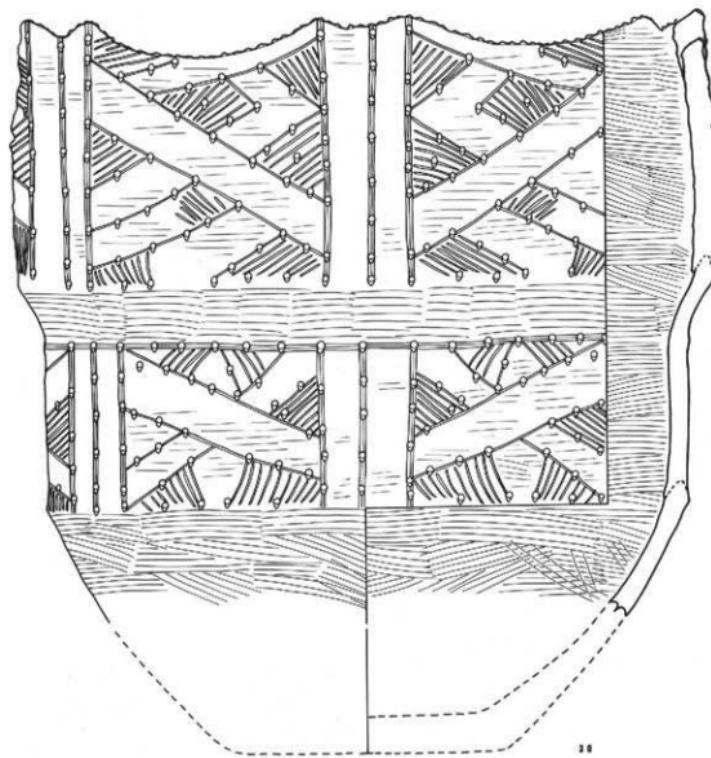
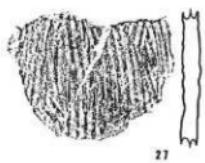
a類 b式を本類とした。46～50、52は、RLの縄文に、半截竹管による平行沈線を施したもので、47は、口唇部に半截竹管による連続刺突が施されている。焼成は概ね良好である。53～55は、半截竹管による平行沈線を施したものである。色調は、赤褐色を呈する。

b類 c式を本類とした。57～68は、半截竹管による平行沈線文と刺突文を施し、二対の円形浮文と半截竹管の押さえに拋る細粘土紐の貼り付けが見られる。

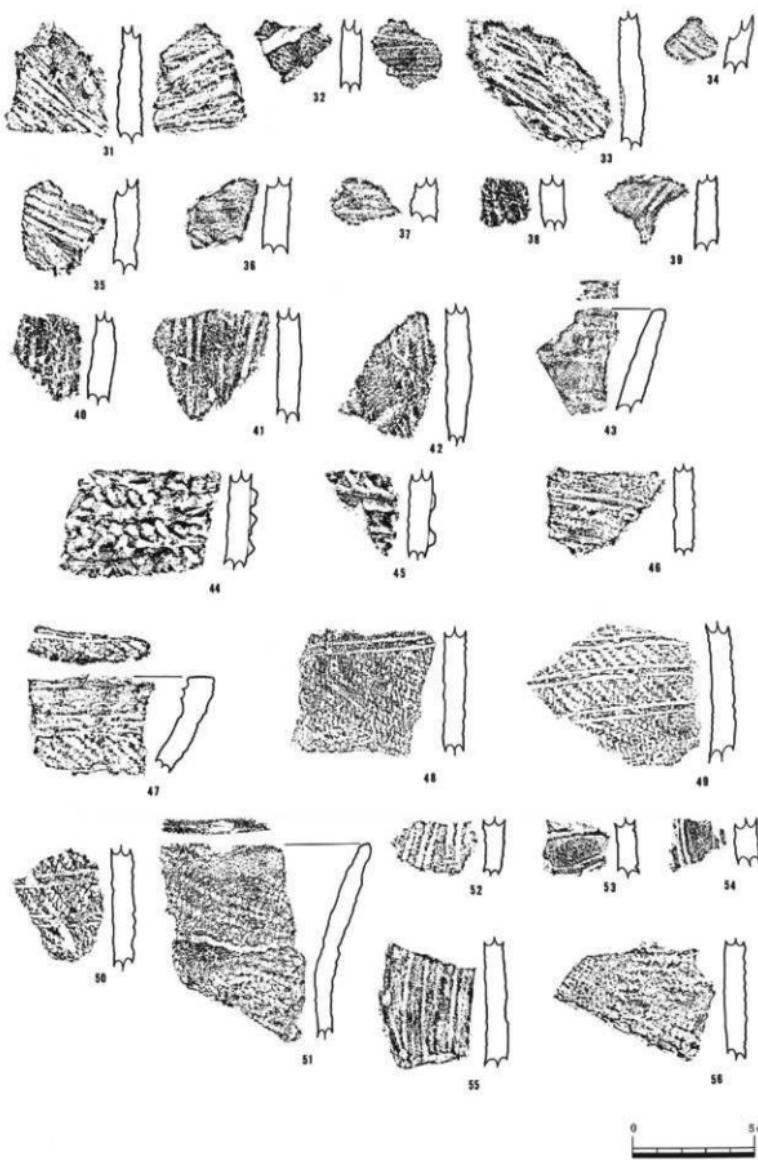
c類 諸磯の型式内におさまるもの本類とした。71～73は、LRの縄文を施したものである。76は、LRの横位の施文、77は、RLの縦位、横位の施文が見られる。



第18図 繩文土器拓影図1 (1/2)



第19図 繩文土器拓影図 2 (1/2)



第20図 繩文土器拓影図 3 (1/2)



第21図 繪文土器拓影図 4 (1/2)

表 4 土器観察表

No.	型式	分類	グリッド	遺物番号	器厚 (cm)	色調	胎土	文様等
1	野島	1 a	K17	4	0.9	純い褐色	石英、長石、褐色・黑色粒子含む。	集合沈継に、幅広の浅い凹線。
2	野島	1 a	M12	1	1.2	褐色	石英、褐色、黑色粒子含む。	集合沈継に、幅広の浅い凹線。
						織維含む。		
3	野島	1 a	搅乱		0.7	純い黄褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	集合沈継に、幅広の浅い凹線。
4	野島?	1 a	表探		0.7	明赤褐色	石英、黑色粒子含む。	集合沈継に、幅広の浅い凹線。
5	野島?	1 a	K17	7	0.8	純い褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	集合沈継に、幅広の浅い凹線。胎厚上に刻みを施す。
6	野島?	1 a	表探		1.0	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	棒状工具による押し引き状の刺突。
7	野島?	1 a	搅乱		0.8	純い黄褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	竹管による平行の押し引き。
8	野島	1 a	K16	8	0.7	暗褐色	石英、黑色粒子含む。	集合沈継に、比照。
9	野島	1 a	表探		1.2	褐色	石英、褐色・黑色粒子含む。	集合沈継に有段。
						織維含む。		
10	縄ヶ島台	1 b	L16	3	1.1	純い褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
11	縄ヶ島台	1 b	L12	8	0.9	褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
12	縄ヶ島台	1 b	L18	4	1.0	褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
13	縄ヶ島台	1 b	M12	4	0.9	褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
14	縄ヶ島台	1 b	M12	7	1.2	褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
15	縄ヶ島台	1 b	M12	8	1.0	褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
16	縄ヶ島台	1 b	K12	12	1.0	暗褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
17	縄ヶ島台	1 b	K12	20	0.8	暗褐色	石英、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
18	縄ヶ島台	1 b	L12	17	1.0	黑色褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
19	縄ヶ島台	1 b	K16	2	1.0	明褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
20	縄ヶ島台	1 b	K17	8, 9, 11	0.5	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	表面に条痕、裏面に擦痕状の横ナデ。
21	縄ヶ島台	1 b	表探		0.5	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	表面に条痕、裏面に擦痕状の横ナデ。
22	縄ヶ島台	1 b	K17	2, 3, 5	0.7	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	表面に条痕、裏面に擦痕状の横ナデ。
23	縄ヶ島台	1 b	K12	6	1.0	明褐色	石英、長石、褐色・黑色粒子含む。織維含む。	表面に条痕。(30と同一個体か)
24	縄ヶ島台	1 b	K17	13	0.8	褐色	石英、黑色粒子含む。織維含む。	竹管による円形の刺突。
25	縄ヶ島台?	1 b	L11	4	0.9	褐色	石英、褐色・黑色粒子含む。	細い竹管による平行の押し引き。
26	縄ヶ島台?	1 b	L12	19	1.0	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	縦継に推し・棒状工具による刺突。
27	縄ヶ島台	1 b	K17	8, 14	0.7	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	表面に条痕。
28	縄ヶ島台	1 b	表探		1.0	純い赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	表面に条痕。
29	縄ヶ島台?	1 b	K16	7	0.8	純い褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	刺突。
30	縄ヶ島台	1 b	K12	22他		褐色	石英、長石、褐色・黑色粒子含む。織維含む。	縦継に竹管状工具による刺突。裏に条痕。
31	条痕文系	1 c	表探		0.9	赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	表面に条痕。
32	条痕文系	1 c	K15	2	0.9	褐色	石英、黑色粒子含む。	表面に条痕。
33	条痕文系	1 c	表探		0.9	明赤褐色	石英、黑色・白色粒子含む。織維多量に含む。	表面に条痕。
34	条痕文系	1 c	K16	10	0.8	純い赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	表面に条痕。
35	条痕文系	1 c	搅乱		0.9	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	表面に条痕。
36	条痕文系	1 c	K16	9	1.0	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	表面に条痕。
37	条痕文系	1 c	表探		0.9	純い赤褐色	石英、黑色粒子含む。	表面に条痕。
38	条痕文系	1 c	L12	20	1.0	褐色	石英、褐色粒子含む。	表面に条痕。
39	条痕文系	1 c	K16	3	0.8	明赤褐色	石英、長石、黑色粒子含む。	表面に条痕。
40	条痕文系	1 c	L11	8	1.0	純い褐色	石英、褐色粒子含む。	表面に条痕。
41	条痕文系	1 c	L11	7	1.0	褐色	石英、褐色粒子含む。	表面に条痕。
42	条痕文系	1 c	L11	6	1.0	褐色	石英、長石、黑色粒子含む。織維含む。	表面に条痕。
43	条痕文系	1 c	K16	1	0.8	暗褐色	石英、長石、黑色粒子含む。植物の茎による連続刺突と比照。	
44	入海 1	2	表探		0.9	明褐色	石英、長石、褐色粒子含む。	縦滑上に削め跡。
45	入海 1	2	K15	4	0.8	純い褐色	石英、黑色粒子含む。	縦滑上に削め跡。

No.	型式	分割	グリッド	遺物番号	基厚(cm)	色調	胎土	文様等
46	踏破 b	3 a	複乱		0.8	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lの縦文に、半裁竹管による平行沈線。
47	踏破 b	3 a	複乱		0.9	褐色	石英、黒色粒子含む。	R.Lの縦文に、半裁竹管による平行沈線。 口唇部に半裁竹管による連続刺突。
48	踏破 b	3 a	複乱		0.9	鈍い褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lの縦文に、半裁竹管による平行沈線。
49	踏破 b	3 a	複乱		0.9	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lの縦文に、半裁竹管による平行沈線。
50	踏破 b	3 a	複乱		0.9	鈍い褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lの縦文に、半裁竹管による平行沈線。
51	踏破 b	3 a	L11,12	1,1	0.8	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lの縦文。
52	踏破 b	3 a	表採		0.7	鈍い褐色	石英、褐色含む。	R.Lの縦文に、半裁竹管による平行沈線。
53	踏破 b	3 a	表採		0.8	暗赤褐色	石英、金雲母、褐色、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線。
54	踏破 c	3 a	K12	2	1.0	鈍い赤褐色	石英、褐色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線。
55	踏破 b	3 a	表採		0.9	暗赤褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線。
56	踏破 b	3 a	複乱		0.9	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lを多方に施す。
57	踏破 c	3 b	複乱		0.8	黒褐色	石英、褐色、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
58	踏破 c	3 b	M11	1	0.7	褐色	石英、金雲母、褐色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
59	踏破 c	3 b	複乱		0.7	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
60	踏破 c	3 b	表採		0.8	鈍い赤褐色	石英、金雲母、褐色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
61	踏破 c	3 b	M12	10	1.2	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
62	踏破 c	3 b	L12	16	0.8	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
63	踏破 c	3 b	L12	18	0.7	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
64	踏破 c	3 b	M11	5	0.8	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
65	踏破 c	3 b	複乱		0.7	褐色	石英、黒色、褐色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
66	踏破 c	3 b	複乱		0.8	褐色	石英、黒色、褐色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
67	踏破 c	3 b	L12	5	1.0	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
68	踏破 c	3 b	M12	10	0.8	褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。二対の円形浮文と細粘土継の貼り付け。
69	踏破 c	3 b	L12	19	0.8	鈍い赤褐色	石英、褐色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。
70	踏破 c	3 b	表採		0.7	明褐色	石英、黒色粒子含む。	半裁竹管による平行沈線と刺突。
71	踏破 c	3 c	L12	11	0.7	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lの縦文。
72	踏破 c	3 c	K12	25	0.7	明褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	R.Lの縦文。
73	踏破 c	3 c	M11	6	0.8	鈍い褐色	石英、褐色粒子含む。	R.Lの縦文。
74	踏破 c	3 c	K12	3	0.7	鈍い赤褐色	石英、黒色粒子含む。	R.Lの縦文。
75	踏破 c	3 c	表採		1.0	暗褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	無文。
76	踏破 c	3 c	L11	2	0.7	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	L.Rの横位の施文。一部回転方向を表すているか。
77	踏破 c	3 c	L11	3	0.7	褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	R.Lを縦位、横位に施す。
78	墨板 2	4	K12	5	1.2	鈍い赤褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	キャラビラ文。
79	墨板 2	4	K11	1	1.1	明褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	キャラビラ文。
80	墨板 2	4	L11	9	1.1	鈍い赤褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	キャラビラ文。
81	型式不明	5	L12	12	0.9	鈍い褐色	石英、長石、褐色粒子含む。	縞文を施す。
82	型式不明	5	L16	2	0.8	褐色	石英、黒色粒子含む。	集合沈線を施す。
83	型式不明	5	表採		1.0	明褐色	石英、金雲母、黒色粒子含む。	縞帶を施す。
84	型式不明	5	M12	6	0.9	褐色	石英、黒色、褐色粒子含む。	L.Rの縦文。棒状施文具による押し引きの山形の沈線。
85	型式不明	5	M11	2	1.0	明褐色	石英、黒色粒子含む。	L.Rの縦文。棒状施文具による押し引きの山形の沈線。
86	型式不明	5	L12	6	0.9	鈍い褐色	石英、金雲母、褐色、黒色粒子含む。	縞文と刺突文。替割5式?
87	型式不明	5	M12	3	0.9	鈍い褐色	石英、黒色粒子含む。	二本の沈線による平行押し引き文。
88	型式不明	5	L12	3		褐色	石英、長石、黒色粒子含む。	無文。
89	型式不明	5	L16	5		明褐色	石英、黒色粒子含む。	無文。

## 第2節 休場層上層の遺構と遺物

### 1 概要

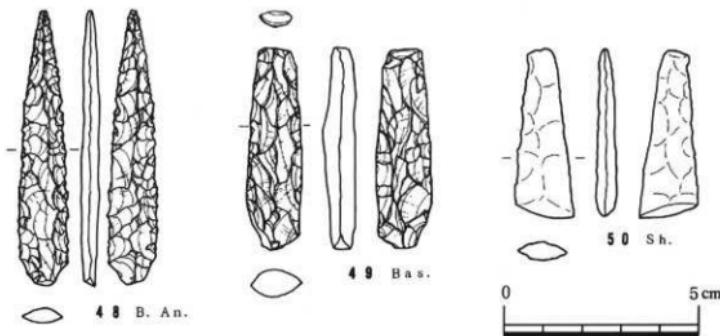
YL層上層からの遺構の検出はなかったが、有舌尖頭器6点、石鎌2点、石槍1点が出土している。

### 2 石器（第22、24図）

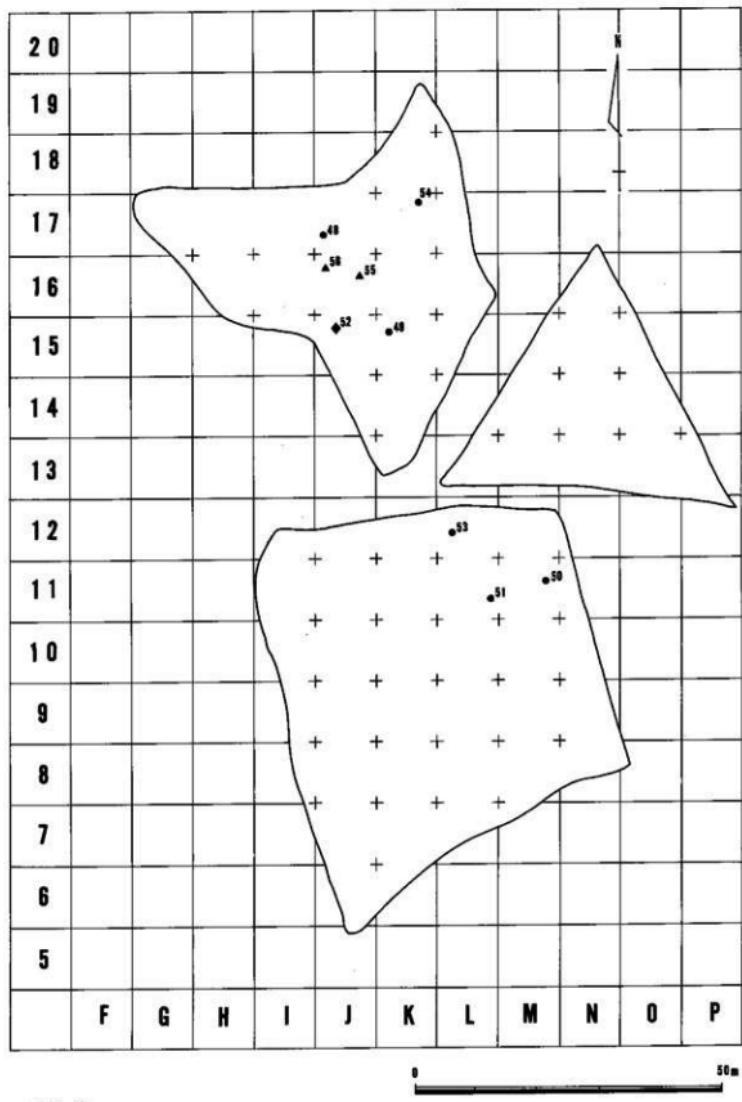
48は、小瀬ヶ沢タイプによく見られる黒色緻密安山岩製の有舌尖頭器である。長身で側縁に鋸歯状の調整が加えられている。49は、両端を切断しているが、これが人為的切断であれば植刃、自然的切断であれば有舌尖頭器もしくは錐の可能性がある。石材は玄武岩である。50、51は頁岩製の有舌尖頭器である。風化が著しいため、縦線やリングは不明瞭である。52は、長者久保・神子柴タイプに見られる柳葉形の石槍で、縁辺部に細かな調整が施されている。凝灰質頁岩製である。54は有舌尖頭器の未製品で胸部と考えられる。石材は黒色緻密安山岩である。55は和田岬産の黒耀石製で、凹基無茎石鎌、56は霧ヶ峰産の黒耀石製で、鋸型石鎌の脚部である。共に出土層位がYL層上層であったため、草創期の石器として掲載した。

表5 YLU層石器計測表

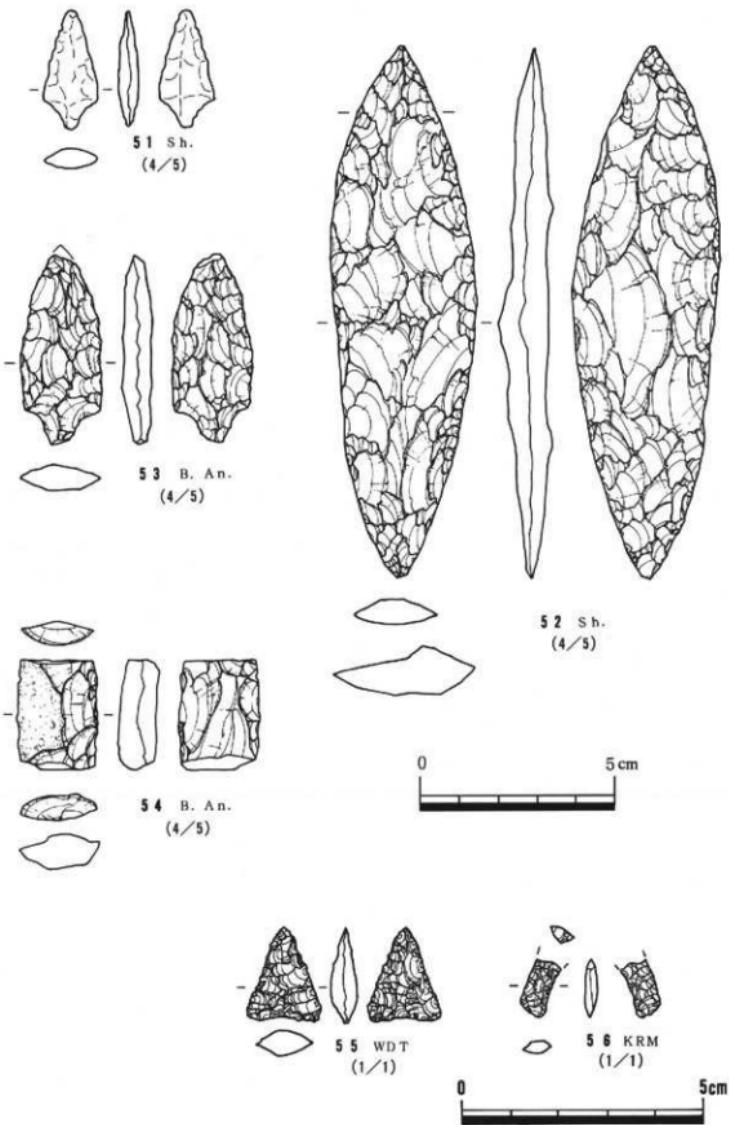
器種	N.O.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
有舌尖頭器	48	J 17	6	黒色緻密安山岩		70.5	13.0	4.5	3.7
有舌尖頭器	49	K 15	4	玄武岩		52.0	14.5	9.0	5.7
有舌尖頭器	50	M 11	1	頁岩		43.0	15.5	5.5	2.9
有舌尖頭器	51	L 11	9	頁岩		30.0	14.5	5.0	1.8
石槍	52	J 15	2	凝灰質頁岩		136.5	38.0	14.0	53.9
有舌尖頭器	53	L 12	9	黒色緻密安山岩		48.0	20.5	8.0	6.3
有舌尖頭器	54	K 17	3	黒色緻密安山岩		28.0	21.0	11.0	7.0
石鎌	55	J 16	1	黒耀石	WDT-4	20.0	16.0	5.5	1.0
石鎌	56	J 16	14	黒耀石	KRM-4	(12)	(9)	(2.5)	(0.1)



第22図 YLU層石器実測図1 (4/5)



第23図 繩文時代草創期石器分布図 (1/800)



第24図 YLU層石器実測図 2

# 第IV章 旧石器時代の遺構と遺物

## 第1節 休場層中層内の遺構と遺物

### 1 概要

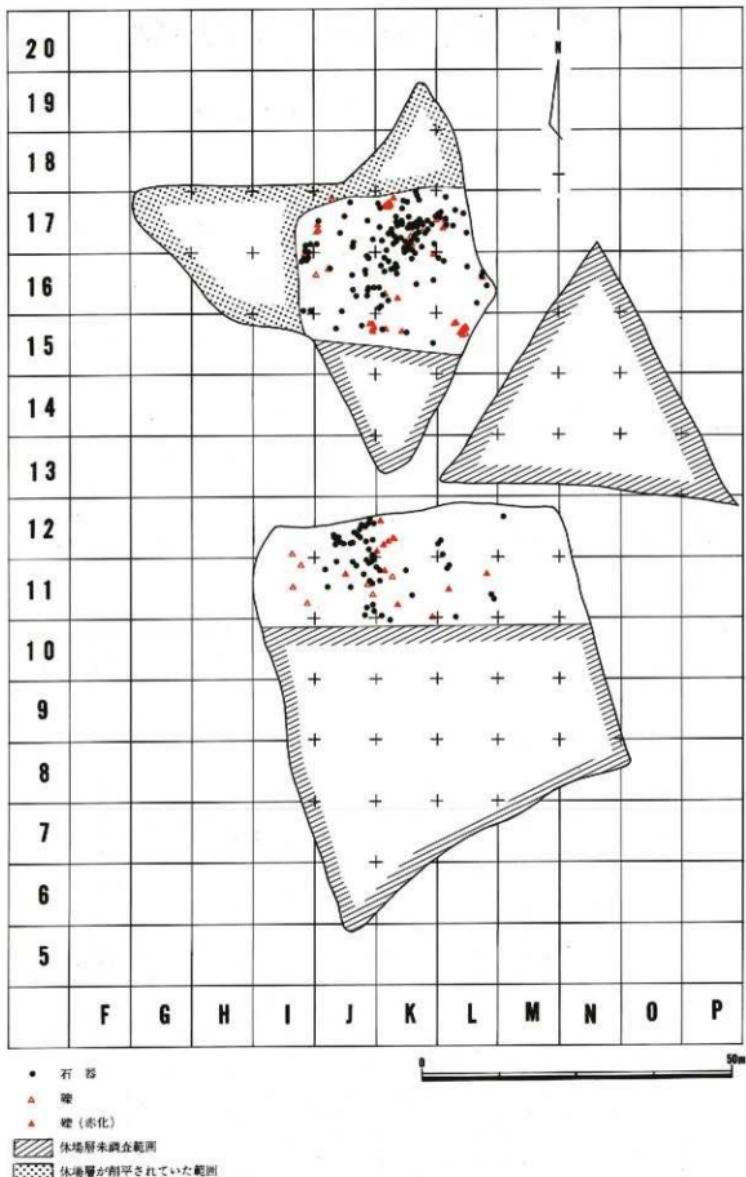
1区では、南東部の一角を除けば、ほぼ全域から遺物の出土があったが、調査区中央部からやや北寄りに密集した在り方を示し、YLU層中位からYLM層中位にかけて分布のピークが見られる。3基の礫ブロックも検出している。3区はYLU層のみの調査であるが、調査区西側に遺物は集中し、東側は極めて薄い状況であった。分布のピークは、YLU層上位からYLU層中位にかけてである。両調査区とも、石器に関してはブロック分けを行わなかったが、あえて言うならば、3区からは黒耀石製の石器が1点も出土していないことと、石核や敲石類が多いことなどから、1区と3区をそれぞれ1ブロックとして捉えることは可能だと思われる。

### 2 遺物の遺存状態

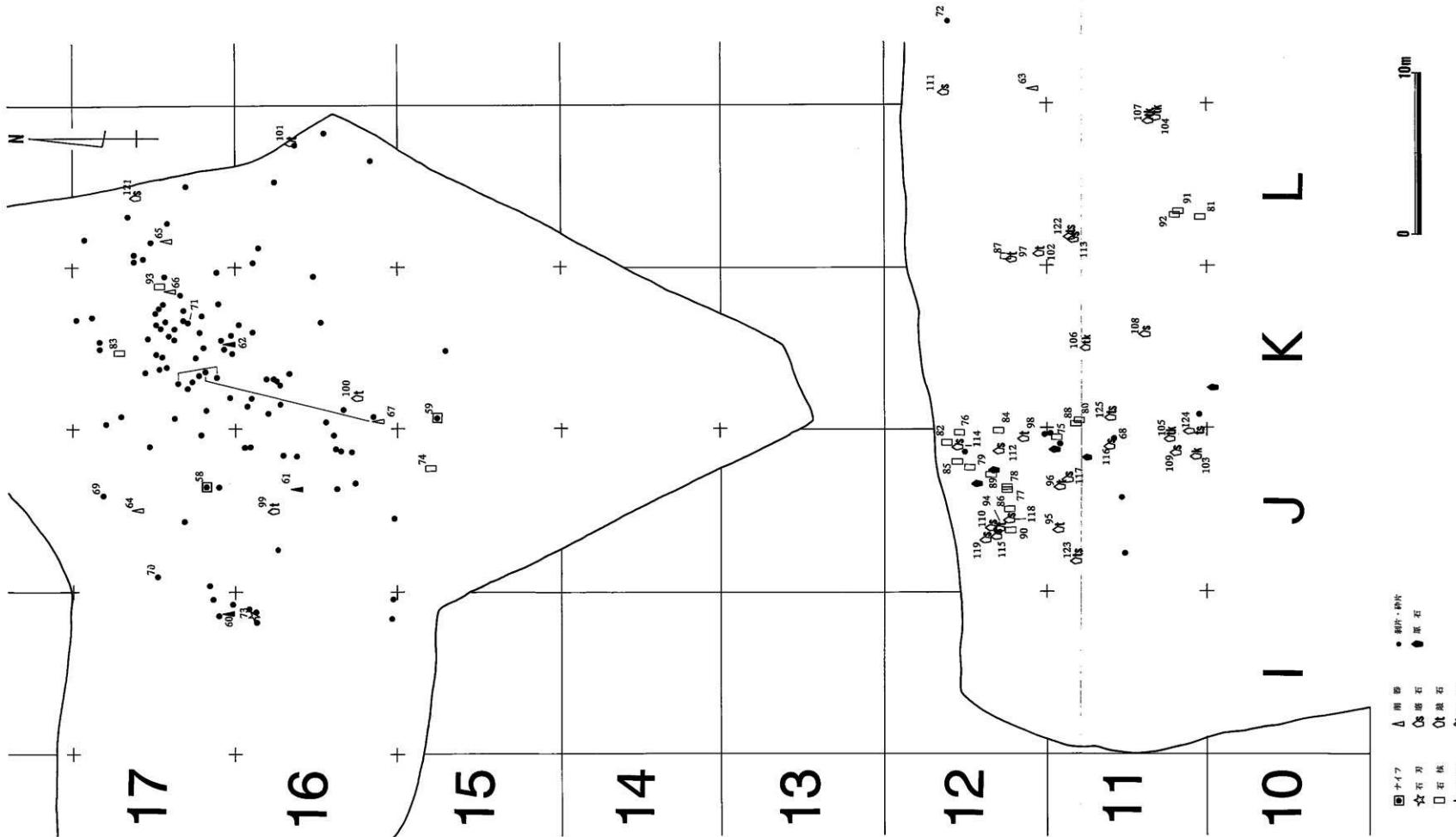
本層位から出土した石器は、総点数183点を数え、3基の礫ブロックを伴う。石材の比率は、黒耀石44%、頁岩23%、安山岩10%、黒色緻密安山岩9%という内訳であるが、黒耀石が1点も出土していない3区では、安山岩系のものと頁岩が主体となる。両調査区からの製品の出土は10%弱と少ないが大半を黒耀石が占める。接合関係は二例認められた。また、加工具の出土が多く、敲石や磨石などが全体の約18%を占める。3区では、石核の出土が17点と多く、1区の3点と比較して際立っており、このうち10点を頁岩が占めている。頁岩については、3区からの剥片の出土が4点と少ないため、推定の域を出ないが、石核を調査区外の作業空間に持ち出し剥片剥離作業を行った後、居住空間である調査区内に再び持ち帰ったと考えられる。この他、石器の素材となる黒色緻密安山岩の原石が5点出土しているが、いずれも剥片を剥離した痕跡は確認されない。

表6 YL層石材別器種組成表

	黒 艶 石								測定不能	頁 岩	黒 艶	安 山 岩	チ ャ ッ ツ ポ	そ の 他	合 計
	K S W	K M T	H T J	T T S	K R M	W D T	K O Z								
ナイフ			1	1		1									3
掻器			3												3
削器			2			1						1	1		5
U剥片				2	1				3						6
石刃									1						1
石核									10	2	1	1	6	20	
敲石											4		5	9	
凹石													1	1	
敲石・凹石													4	4	
磨石											10		4	14	
敲石・磨石											3		1	4	
剥片	1	43		2	4	1		26	9		1	2		89	
鈎片	1		14		1			1	2					19	
原石										5				5	
合計	1	1	63	1	5	7	1	1	42	16	19	3	23	183	



第25図 YL層遺物出土状況図



第26図 YL層石器等別分布図 (1/200)

- △ チップ
- ☆ コア
- ハンマー
- チップ石
- ◆ ハンマー石核
- ▲ ハンマー石

### 3 磚群

#### (1) 1号磚群（第27図）

K-17グリッドに位置し、0.9m×0.6mの規模で分布し、垂直分布は約8cmを測る。10個の磚によって構成され、最大磚は1,256g、最小磚は70g、総重量は3,705gである。このうち赤化磚は8個である。石材は輝石安山岩を主体にしている。接合関係は見られない。

#### (2) 2号磚群（第27図）

J-15グリッドに位置し、磚群と呼べるか疑問であるが、1.1m×0.7mの規模で、垂直分布は8cmを測る。5個の磚によって構成されるが、散漫な在り方を示す。最大磚770g、最小磚50g、総重量1,780gである。このうち赤化磚は4個である。接合関係は、赤化磚と非赤化磚との間に一例認められる。石材は玄武岩と輝石安山岩である。

#### (3) 3号磚群（第27図）

L-15グリッドに位置し、2.2m×2.0m規模で散漫な分布状況を示し、10個の磚から構成される。垂直分布は約50cmを測り、西に傾斜する。最大磚790g、最小磚130g、総重量2,260gで、このうち赤化磚は6個である。接合関係は非赤化磚の間に一例認められる。石材は玄武岩と輝石安山岩である。

### 4 石器

#### (1) ナイフ形石器（第28図57～59）

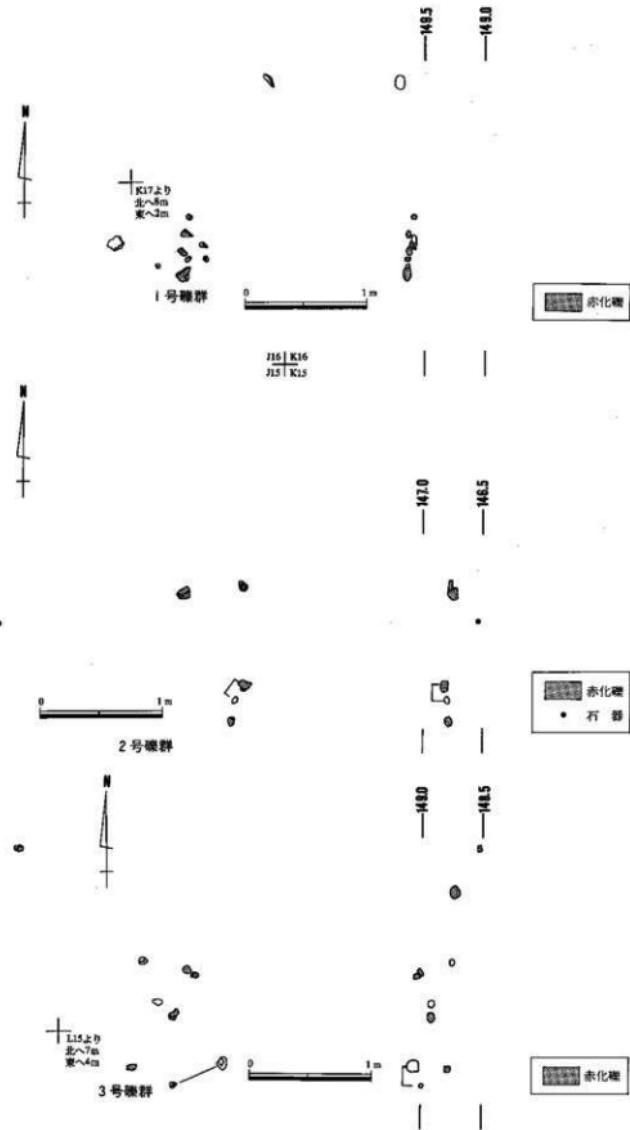
3点が出土している。石材はいずれも黒耀石製である。57は烟宿産で、縦長剥片素材の二側縁に調整を施し、剥片の打点を基部としている。先端部は欠損している。58は蓼科産の縦長剥片を素材として用い、二側縁に調整を施し、打面と打溜を取り去っている。59は剥片の一側縁にプランディングが施してあることから、刃部欠損のナイフ形石器であると考えられる。和田峠産である。

#### (2) 振器（第28図60～62）

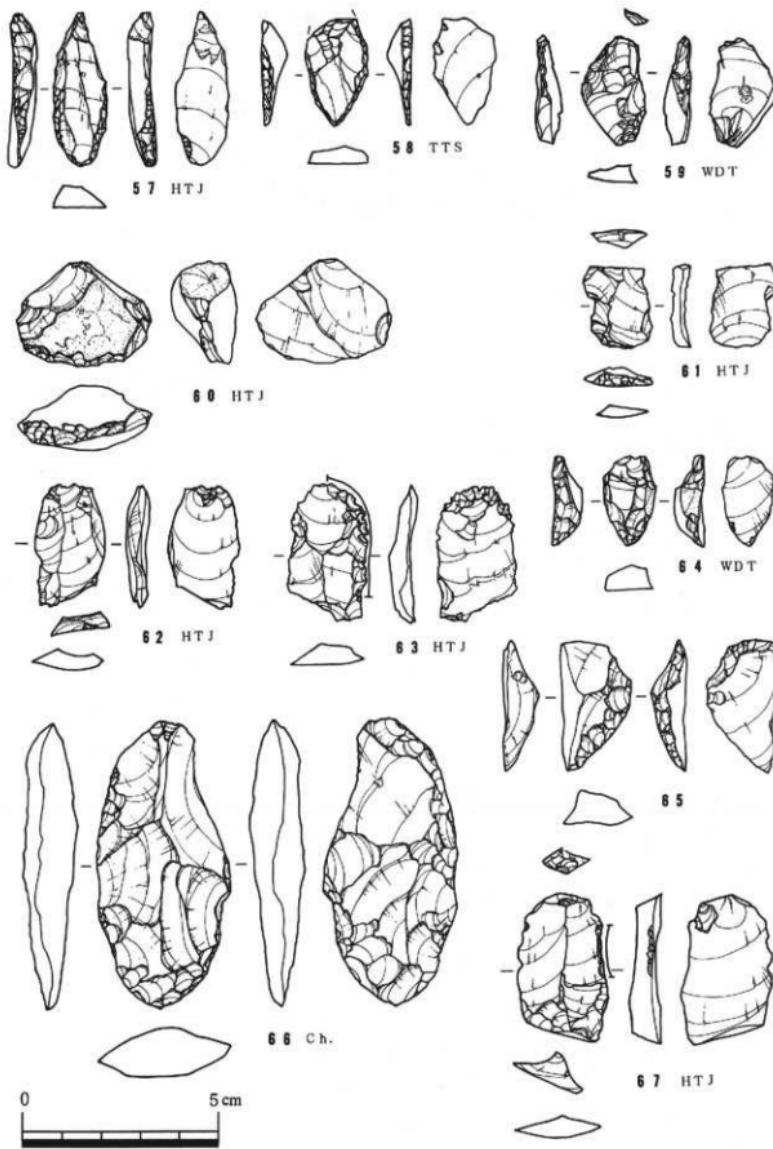
3点が出土している。いずれも烟宿産の黒耀石を石材としている。60は分厚い剥片を素材としたもので、磚面を残し、剥片の末端に調整を加える。61は剥片の打点部側に刃部を削出する。62はヒンジフランチャーをおこした剥片の末端にスクレイバー・エッジを削出している。

#### (3) 削器（第28図63～67）

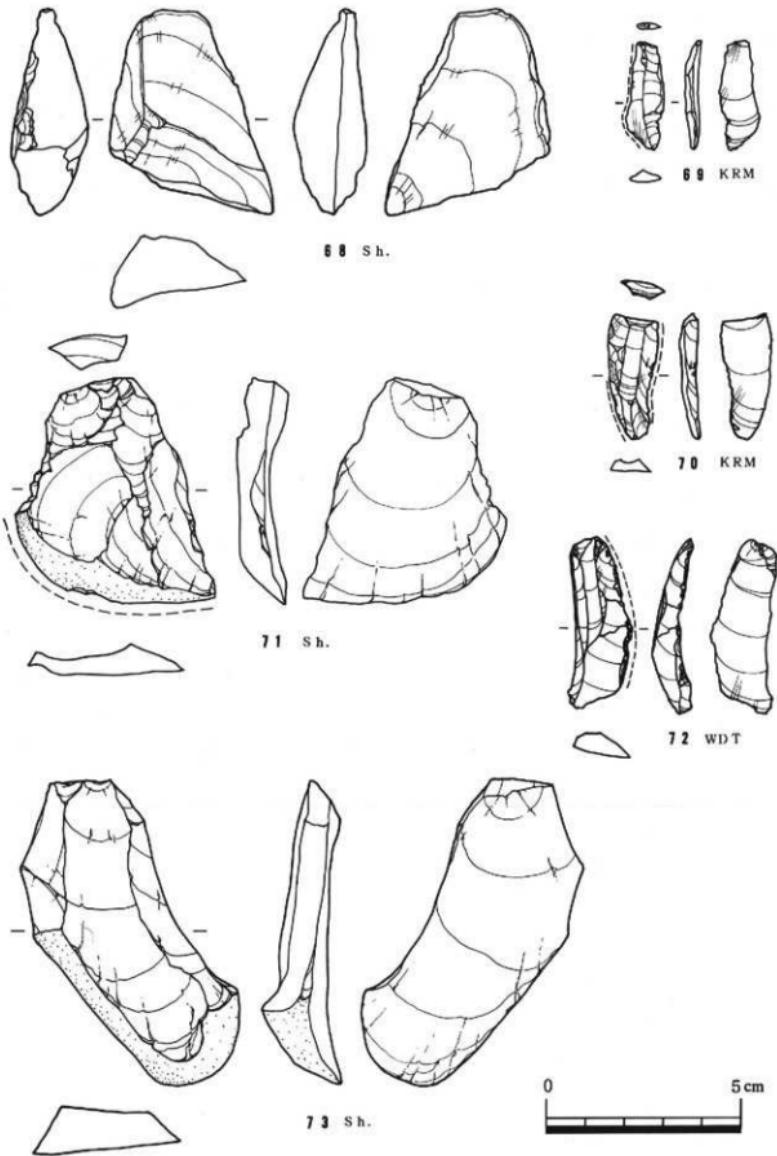
5点出土している。63は烟宿産の黒耀石製で、剥片の一側縁に刃部を設けている。刃部は鋸齒状を呈する。また、打点側の裏面にも鋸齒状加工が見られる。65は剥片の打点部側に表裏両面より加工を加えている。刃部の角度より振器の一種とも考えられる。66はヘラ状を呈する両面加工石器で、削器の一種と考えられる。67は烟宿産の黒耀石製で、一側縁にノッチ状の加工を施している。



第27図 YL層堆积群平面・垂直分布図



第28図 YL層石器実測図1 (4/5)



第29図 YL層石器実測図2 (4/5)

(4) 使用痕のある剥片 (U剥片) (第29図68~72)

5点が出土している。70は霧ヶ峰産の黒耀石で、両側縁に使用痕と考えられる細かい剥離が見られる。71は礫面を残す湾曲した剥片の末端部から左側縁下部にかけて細かい剥離が見られる。凝灰質頁岩製。

(5) 石刃 (第29図73)

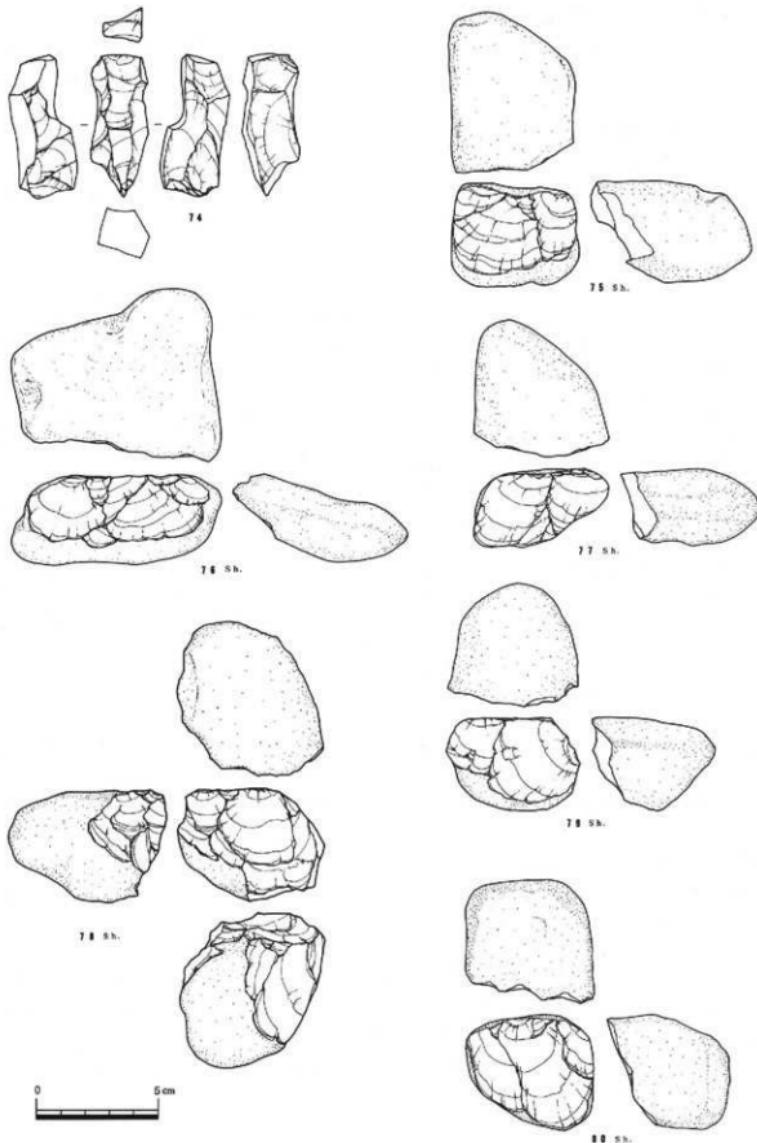
1点出土している。礫面を大きく残し、稜線が剥片縁辺と平行でないことから、石刃技法的な剥片剥離によって作出されているが、この剥片のもととなる石核からは、規格的な石刃は作出されていなかつたと考えられる。

表7 YL層ナイフ形石器・搔器・削器等計測表

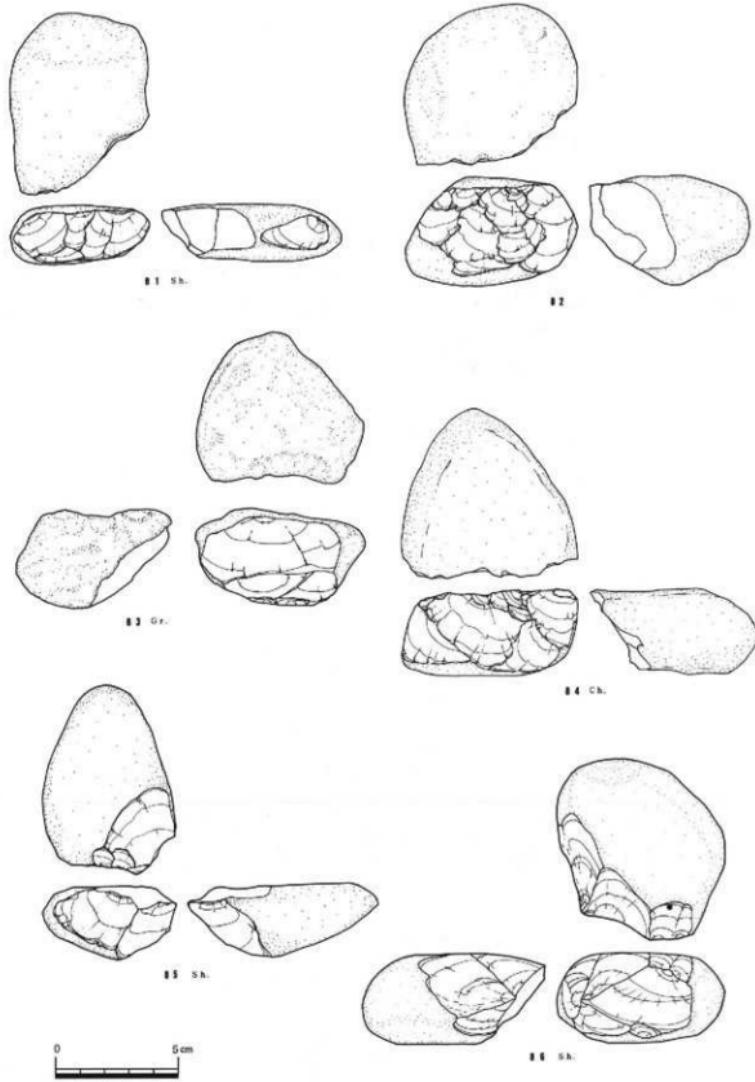
器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
ナイフ	57	表探		黒耀石	HTJ-3	39.0	14.0	7.0	2.6
ナイフ	58	J17	1	黒耀石	TTS-1	27.0	16.5	5.5	2.2
ナイフ?	59	K15	3	黒耀石	WDT-4	28.0	17.0	7.0	2.4
搔器	60	I17	6	黒耀石	HTJ-3	27.0	34.5	17.0	10.9
搔器	61	J16	13	黒耀石	HTJ-7	21.0	18.0	5.0	1.2
搔器	62	K17	39	黒耀石	HTJ-5	31.0	18.0	6.0	2.6
鋸歯縁削器	63	M12	24	黒耀石	HTJ-1	35.0	20.5	7.0	3.7
尖頭削器	64	J17	5	黒耀石	WDT-2	23.0	13.5	8.0	1.8
削器	65	L17	9	硬質軟岩安山岩		73.5	34.0	14.0	29.3
削器	66	K17	6	頁岩質チャート		33.0	18.0	9.0	4.9
削器	67	K16	12	黒耀石	HTJ-3	38.5	23.0	8.0	6.0
U剥片	68	J11	3	頁岩		52.0	42.0	19.5	30.9
U剥片	69	J17	4	黒耀石	KRM-3	28.0	10.0	4.0	0.6
U剥片	70	J17	7	黒耀石	KRM-3	32.0	13.0	5.0	1.1
U剥片	71	K17	41	凝灰質頁岩		57.5	52.0	13.0	27.1
U剥片	72	M12	7	黒耀石	WDT-3	44.0	16.0	10.0	3.1
石刃	73	I16	4	頁岩		78.5	56.5	20.5	63.2

(6) 石核 (第30~34図)

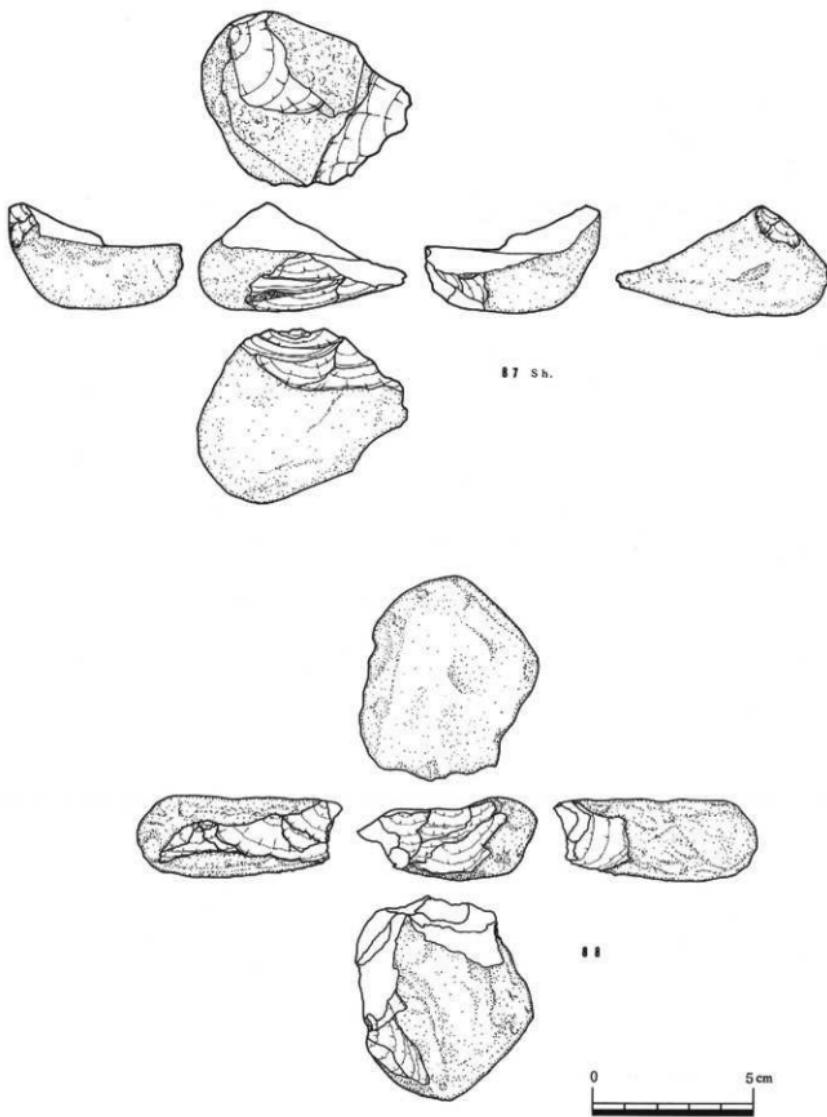
20点が出土している。これらの石核は、単股打面石核（第1形態）、両股打面石核（第2形態）、複股打面石核（第3形態）、素材となる礫の縁辺部より求心的に剥片剥離を行うもの（第4形態）に分類される。このうち第1形態は、礫面を打面とし、寸詰まりの剥片を連続して剥離し、作業面の角度が鋭角になったところで作業を中止しているもの（75~84）、数回の打面調整を行い打面を作り出しているもの（85~87）、礫面を打面としたもの（88）の3種類に分類できる。第2形態は、上下に打面を設定し、縦長の剥片を主として剥離したもの（74）である。第3形態は、打面を90度ずつ展開することで、最終的にサイコロ状の石核になるが、剥離した剥片数はそれほど多くないと考えられるもので、（89~92）が該当する。第4形態は、貝殻状の剥片を剥離したもの（93）である。



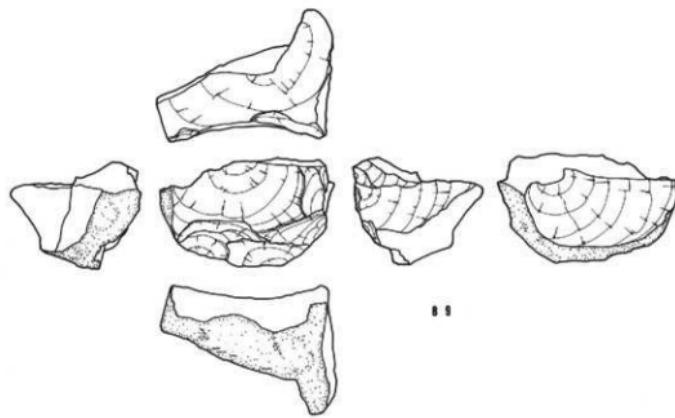
第30図 YL層石核実測図1 (1/2)



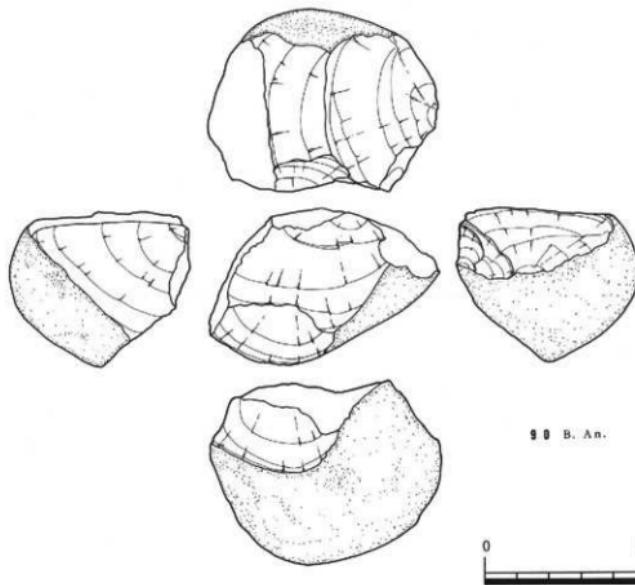
第31図 YL層石核実測図 2 (1/2)



第32圖 YL層石核實測圖 3 (1/3)



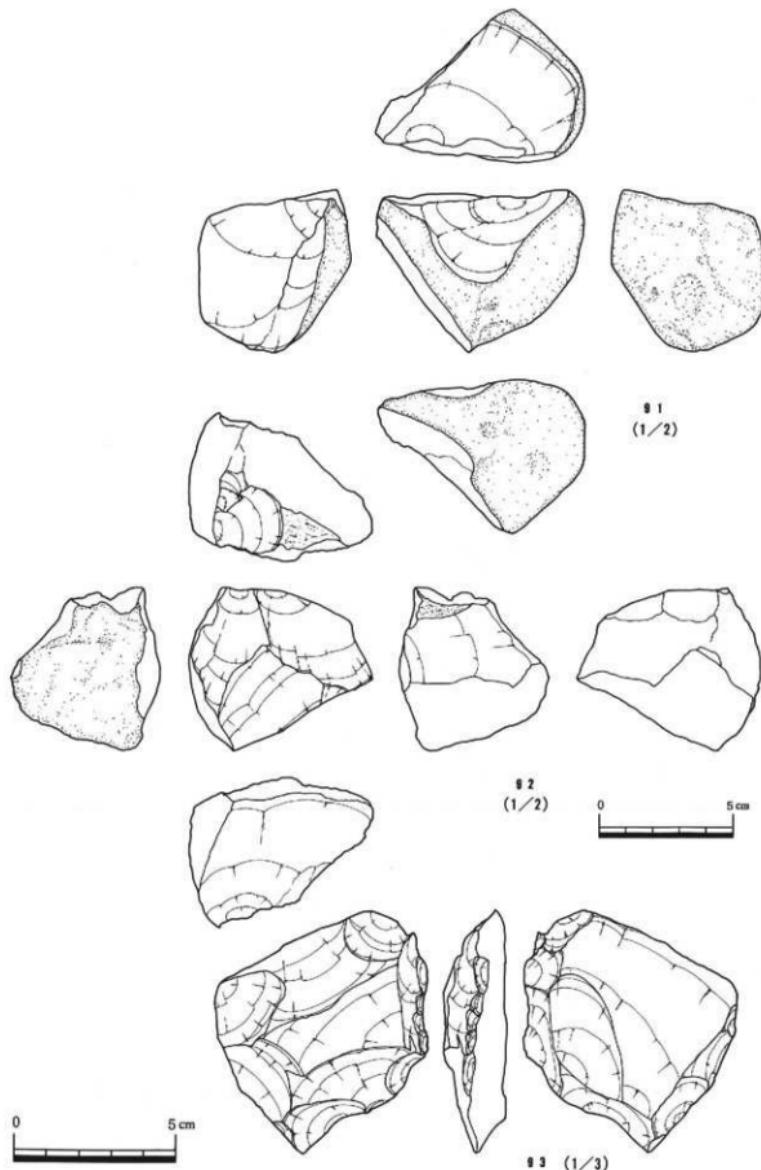
● ●



● ● B. A.



第33図 YL層石核実測図 4 (1/3)



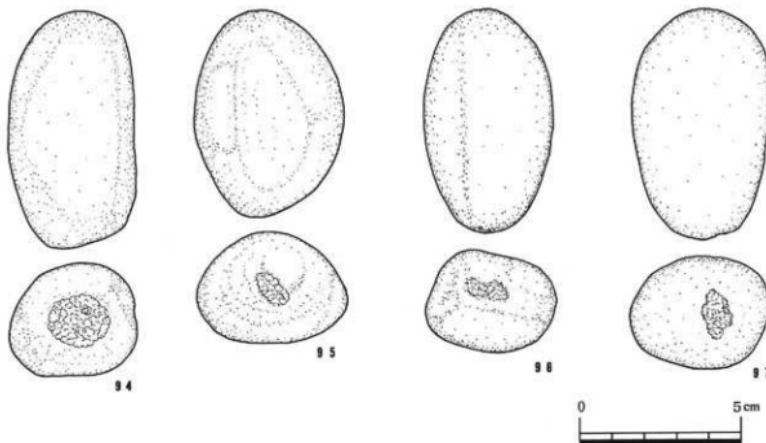
第34図 YL層石核実測図 5

表 8 YL層石核計測表

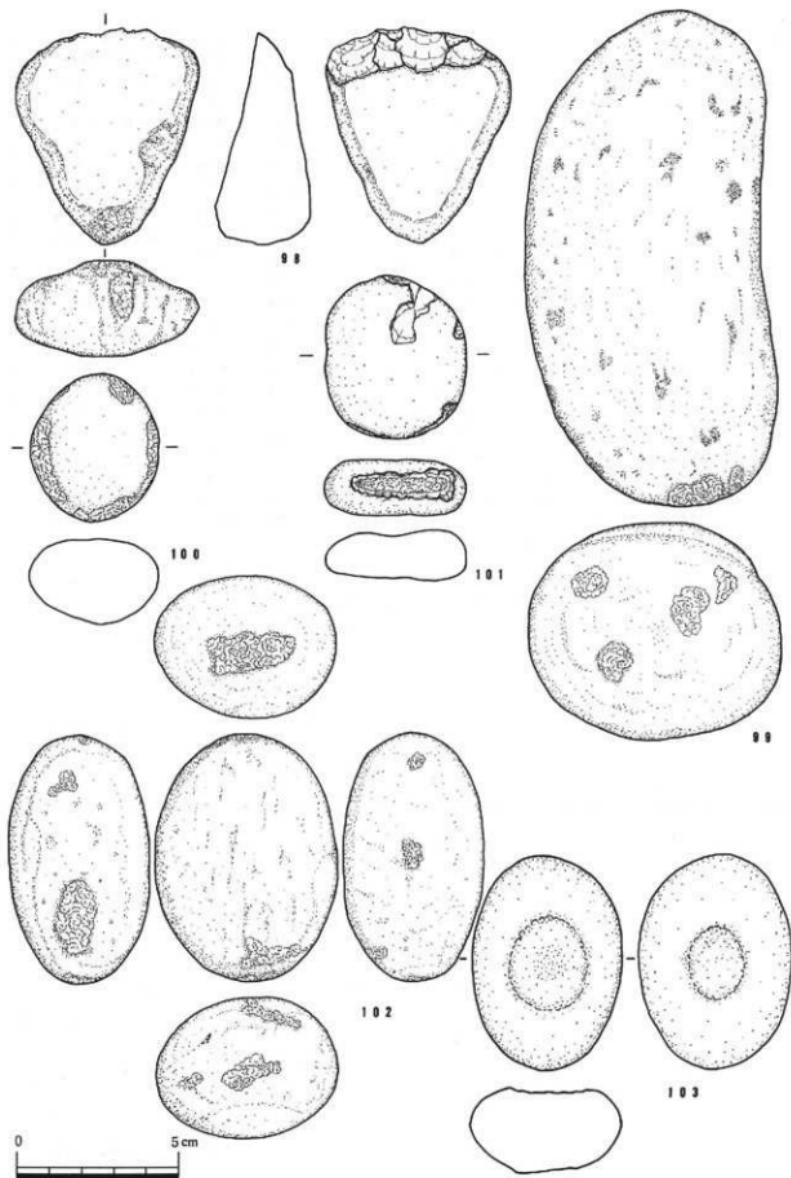
器種	N.O.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
石核	74	J 15	1	流紋岩		58.5	24.0	28.0	27.7
石核	75	J 11	1	頁岩		42.0	53.0	66.0	193.1
石核	76	J 12	23	頁岩		32.0	86.5	72.0	215.5
石核	77	J 12	6	頁岩		32.0	56.0	57.0	130.6
石核	78	J 12	2	頁岩		46.0	60.5	65.0	212.4
石核	79	J 12	1	頁岩		38.0	55.0	51.0	120.1
石核	80	K 11	8	頁岩		47.5	53.0	50.0	187.5
石核	81	L 11	3	頁岩		24.0	57.5	74.5	145.0
石核	82	J 12	4	頁岩質ホルンフェルス		45.0	72.0	66.0	275.1
石核	83	K 17	50	溶結凝灰岩		40.0	69.5	63.0	183.0
石核	84	J 12	22	角岩質チャート		35.0	73.0	56.9	225.7
石核	85	J 12	5	頁岩		30.0	55.0	78.0	145.8
石核	86	J 12	3	頁岩		32.0	69.0	75.0	257.5
石核	87	L 12	2	頁岩		68.0	131.0	70.0	752.4
石核	88	K 11	7	溶結火砕岩		51.0	112.0	128.0	828.0
石核	89	J 12	12	輝石安山岩		68.0	110.0	67.0	474.0
石核	90	J 12	15	黒色緻密安山岩		98.0	145.0	113.0	1952.0
石核	91	L 11	13	溶結火砕岩		58.0	78.0	61.0	263.9
石核	92	L 11	12	溶結火砕岩		55.5	69.5	56.0	182.6
石核	93	K 17	51	黑色緻密安山岩		39.0	151.0	135.0	865.0

## (7) 敲石・磨石・凹石 (第35~39図)

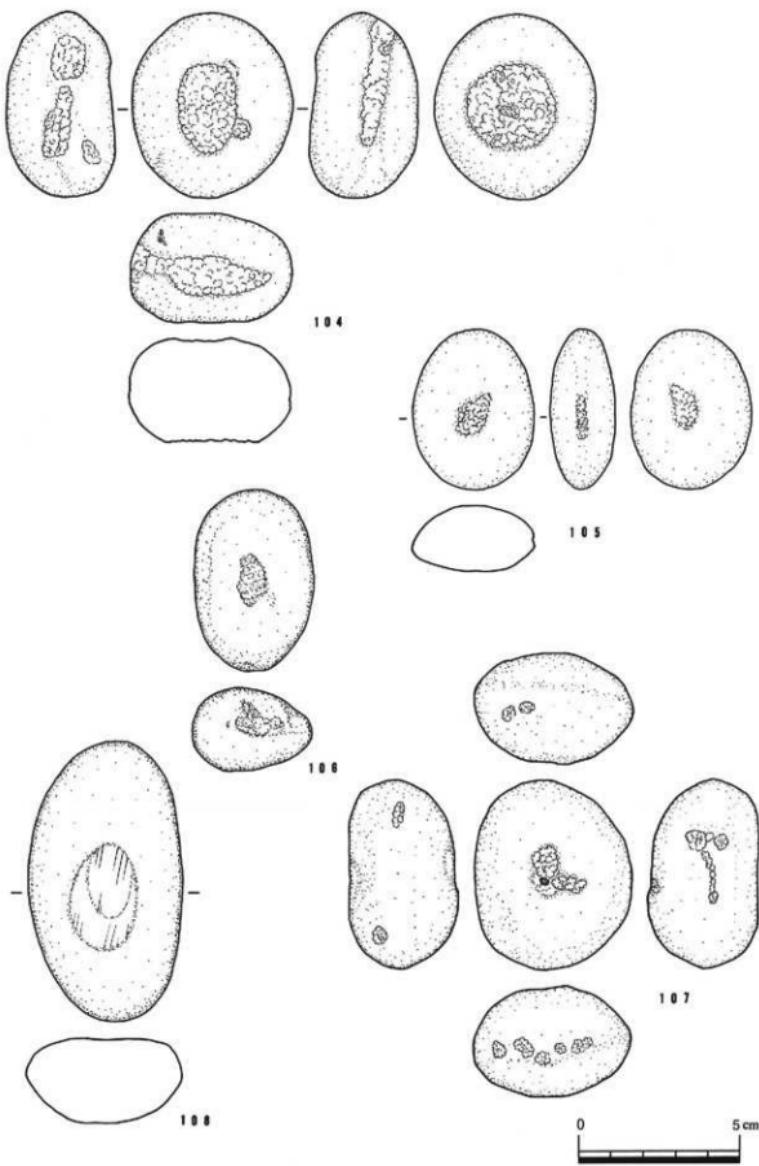
玄武岩と安山岩を石材として選択している。敲石9点 (94~102)、磨石14点 (108~121)、凹石1点 (103)、敲石・凹石の複合石器4点 (104~107)、敲石・磨石の複合石器4点 (122~125) である。このうち敲石は、礫の先端に敲打痕が観察されるもの (94~99) と、敲打痕が礫の縁辺部に及ぶもの (100~102) と2種類に分類できる。



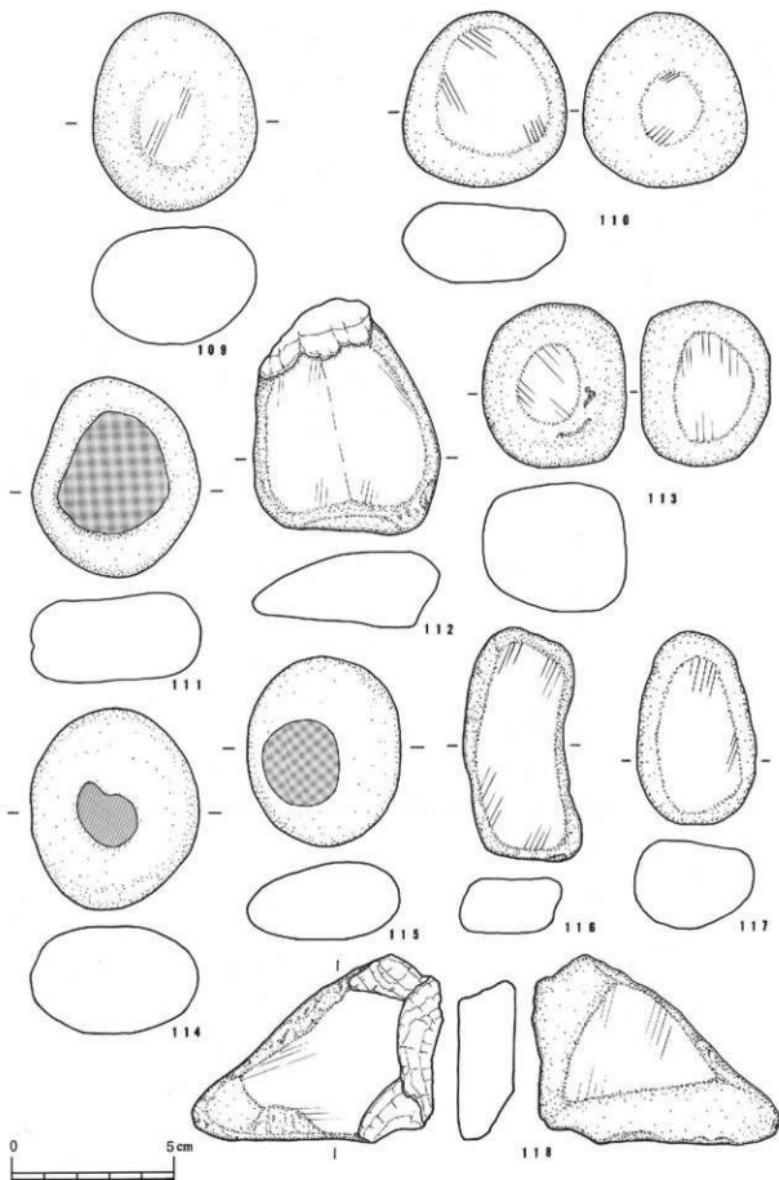
第35図 YL層敲石・磨石・凹石実測図1 (1/3)



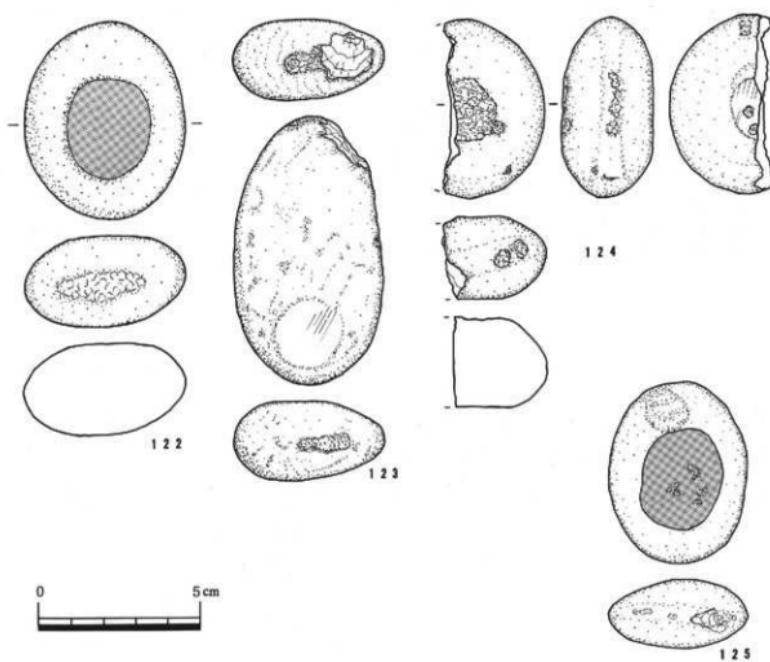
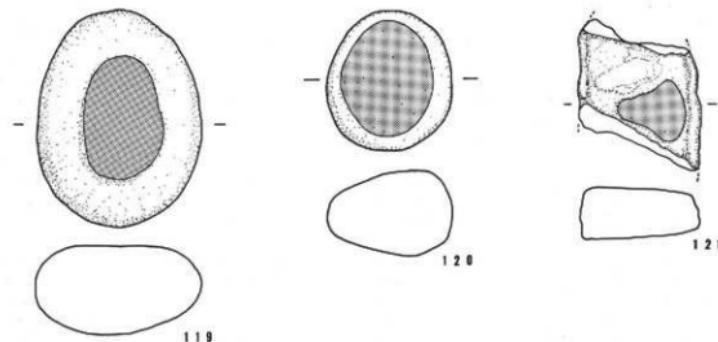
第36図 YL層敲石・磨石・凹石実測図2 (1/3)



第37図 YL層敲石・磨石・凹石実測図3 (1/3)



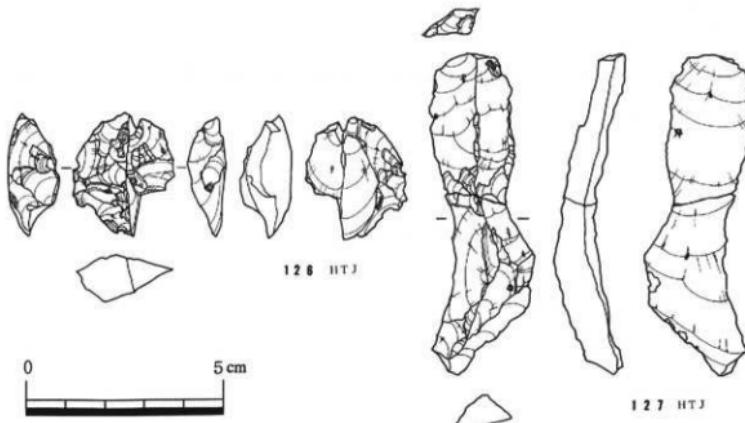
第38図 YL層敲石・磨石・凹石実測図4 (1/3)



第39図 YL層敲石・磨石・凹石実測図 5 (1/3)

表9 YL層敲石・磨石・凹石計測表

器種	N.O.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
敲石	94	J12	21	玄武岩		146.0	79.0	70.0	1373.0
敲石	95	J11	13	玄武岩		127.0	94.5	69.0	1240.0
敲石	96	J11	16	玄武岩		139.0	82.0	64.0	1066.0
敲石	97	L12	3	輝石安山岩		144.0	88.5	70.0	1320.0
敲石	98	J12	10	輝石安山岩		134.5	115.0	60.0	960.0
敲石	99	J16	16	玄武岩		310.0	157.0	135.0	9500.0
敲石	100	K16	2	輝石安山岩		91.5	79.5	53.0	530.0
敲石	101	L16	6	玄武岩質滑岩		101.5	98.5	35.0	265.5
敲石	102	L12	1	輝石安山岩		153.5	113.0	87.0	2200.0
凹石	103	J11	19	玄武岩		133.5	95.0	53.0	935.0
敲石・凹石	104	L11	10	玄武岩		111.0	101.0	78.0	1069.4
敲石・凹石	105	J11	5	花崗閃綠岩		99.0	76.0	41.0	399.5
敲石・凹石	106	K11	3	玄武岩		113.5	74.5	52.0	609.0
敲石・凹石	107	L11	11	玄武岩		118.5	109.0	69.0	1240.0
磨石	108	K11	5	玄武岩		174.0	96.0	54.0	1300.0
磨石	109	J11	11	玄武岩		123.0	102.0	73.0	1365.0
磨石	110	J12	20	輝石安山岩		109.0	102.5	50.0	817.8
磨石	111	M12	3	輝石安山岩		124.0	105.5	56.0	1005.0
磨石	112	J12	8	角閃輝石安山岩		116.5	97.5	49.0	1122.0
磨石	113	L11	1	輝石安山岩		102.0	90.0	80.0	1034.0
磨石	114	J12	18	玄武岩		125.0	106.5	67.0	1265.0
磨石	115	J12	17	石英安山岩		118.0	97.0	48.0	743.8
磨石	116	J11	7	輝石安山岩		146.0	75.0	34.0	620.0
磨石	117	J11	12	玄武岩		119.5	74.0	55.0	734.0
磨石	118	J12	9	輝石安山岩		117.0	157.0	42.0	850.0
磨石	119	J12	19	輝石安山岩		135.0	103.0	56.0	1100.0
磨石	120	I18	3	輝石安山岩		87.5	80.0	53.0	500.3
磨石	121	L17	2	輝石安山岩		93.5	87.5	32.0	300.0
敲石・磨石	122	L11	2	輝石安山岩		122.5	100.5	57.0	780.0
敲石・磨石	123	J11	15	輝石安山岩		167.0	84.0	50.0	1090.0
敲石・磨石	124	J11	17	輝石安山岩		111.0	65.0	58.0	535.5
敲石・磨石	125	K11	9	緑色砂岩		123.0	87.0	43.0	807.7

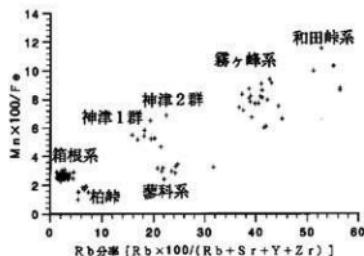


第40図 YL層石器接合資料 (4/5)

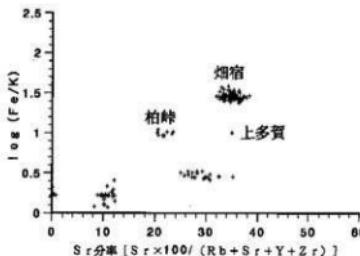
## 5 個体別資料分類

### (1) 蛍光X線分析

沼津工業高等専門学校の望月らにより、中部地方の遺跡に搬入されている可能性のある黒曜石を、各原産地から採集し、エネルギー分散蛍光X線分析装置により、原産地試料の測定・分析が行われている。測定の結果、試料から検出されたアルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の11元素の蛍光X線強度に基づいて、原産地の判別を行っている。各原産地の判別方法は、 $Rb\text{ 分率} = \frac{Rb\text{ 強度} \times 100}{Rb\text{ 強度} + Sr\text{ 強度} + Y\text{ 強度} + Zr\text{ 強度}}$  を X 軸に、 $Mn / Fe = Mn\text{ 強度} \times 100 / Fe\text{ 強度}$  を Y 軸にとり、各原産地の分析資料をドットでおとし、原産地群を確定していくというものである。この結果、各原産地は、和田鰐系、霧ヶ峰系、男女倉系、蓼科系、天城系、箱根系、神津島系の7つの系統に分類され、さらに男女倉系は3群に、神津島系は2群に分類できるというデータを得ている。また、箱根系については、 $Sr\text{ 分率} = \frac{Sr\text{ 強度} \times 100}{Sr\text{ 強度} + Rb\text{ 強度} + Y\text{ 強度} + Zr\text{ 強度}}$  を X 軸に、 $\log (Fe / K)$  を Y 軸にとる圓化作業を行い、畠宿、鍛冶屋、芦ノ湯、上多賀に細分類している。本遺跡出土の黒曜石についても、上記の分析方法に則り、各層位ごとの原産地推定を行った。この結果、男女倉系を除く6系統の原産地からの搬入があり、畠宿産の黒曜石が大半を占めることが判った。なお、直径 3 mm 以下の資料と非常に薄い資料については測定値が不安定なため、分析の対象からは除いてある。分析・判別方法等の詳細については『下原遺跡 II』で、望月の考察を掲載する予定である。



第41図 遺跡内出土黒曜石の原産地判別



第42図 箱根系原産地判別

### （参考文献）

望月明彦・池谷信之他「遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について」『静岡県考古学研究』

26 1994

### (2) 個体別資料分類

上記の蛍光X線分析による黒曜石の原産地分析結果をもとに、肉眼により、次の表に示す各項目について観察し、個体別資料分類を行った。なお、頁岩や黒色緻密安山岩については、資料分類が困難なため分類作業は行っていない。

表10 個体別資料分類表

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面
1	K SW 1	灰黒色不透明	灰黒色の流理が全体に見られる	ガラス光沢に富む	不明
2	K SW 2	灰黒色不透明	灰色の流理や微細な気泡が全体に見られる	ガラス光沢に富む	不明
3	K SW 3	黒色不透明～半透明	1 mm程度の球顆を全体に少々含む。灰色の微細な縞が僅かに見られる	ガラス光沢に富む	不明
4	K M T 1	黒色不透明	灰黒～黒色の流理が見られ、1 mm程度の球顆を僅かに含む	ガラス光沢は鈍い	不明
5	K M T 2	漆黒色不透明	微細な白斑が僅かに見られる	ガラス光沢は鈍い	不明
6	H T J 1	黒色不透明	灰色の微細な気泡状の縞が全体に見られ、1 mm程度の球顆を少々含む。細かい裂開が多く見られる	ガラス光沢に富む	不明
7	H T J 2	漆黒色不透明	黒色の微細な流理が見られ、1 mm程度の気泡や白斑を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
8	H T J 3	漆黒色不透明	黒色の微細な流理が見られ、1 mm程度の気泡や白斑を僅かに含む	ガラス光沢に富む	なめらか
9	H T J 4	漆黒色不透明	黒色の微細な流理が見られ、1 mm程度の球顆を全体に含む	ガラス光沢に富む	なめらか
10	H T J 5	漆黒色不透明	灰黒色の微細な流理が見られ、1 mm程度の球顆や気泡を全体に含む。細かい裂開が多く見られる	ガラス光沢に富む	なめらか
11	H T J 6	漆黒色不透明	1 mm程度の球顆や気泡を全体に含み、細かい裂開が多く見られる	ガラス光沢に富む	不明
12	H T J 7	黒色半透明	灰色～灰黒色の縞が一部に見られ、1 mm程度の球顆や細かい裂開が全体に見られる	ガラス光沢に富む	なめらか
13	H T J 8	黒色半透明～不透明	灰色～灰黒色の流理が全体に見られ、1 mm程度の白斑や細かい裂開が全体に見られる。	ガラス光沢に富む	なめらか
14	T T S 1	黒色半透明	黒色微粒子や0.5～1 mm程度の球顆が全体に多く散在する	ガラス光沢に富む	不明
15	T T S 2	赤褐色半透明	茶色の微粒子が全体に多く散在し、微細な縞も見られる	ガラス光沢に富む	不明
16	T T S 3	暗赤褐色不透明	暗茶色～黒色の流理が全体に見られ、0.5～1 mm程度の白斑が少し散在する	ガラス光沢に富む	なめらか
17	T T S 4	黒色透明	黒色の縞が全体に見られ、1 mm程度の球顆が少々散在する	ガラス光沢は鋭い	不明
18	T T S 5	薄煙色透明	薄茶色の縞が少々見られる。黒色微粒子を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面
19	TTS 6	黒色透明	黒色粒子や1mm程度の球顆が全体に散在する	ガラス光沢は鋭い	不明
20	KRM 1	薄煙色透明	黒色の微細な粒子状の結や、結に沿って黒色粒子が散在する。一部に微細な球顆を含む	ガラス光沢は鋭い	不明
21	KRM 2	薄煙色透明	黒色の微細な粒子状の結や微細な気泡が散在する	ガラス光沢に富む	不明
22	KRM 3	薄煙色透明	白色の微細な粒子状の結や、1mm程度の球顆が一部に見られる	ガラス光沢に富む	不明
23	KRM 4	黒色半透明	黒色微粒子が全体に多く散在する。1mm程度の白色粒子を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
24	KRM 5	黒色半透明	黒色微粒子の微細な結が無数に見られる	ガラス光沢に富む	不明
25	WDT 1	黒色不透明～半透明	黒～こげ茶の微粒子が全体に多く散在し、細やかな結を作る	ガラス光沢に富む	不明
26	WDT 2	薄黒色透明	黒色の微粒子や細やかな結が全体に見られる	ガラス光沢は鋭い	スリガラス状で、一部発泡する
27	WDT 3	煙色透明	灰色～灰黒色の細やかな結が全体に見られる	ガラス光沢は鋭い	スリガラス状
28	WDT 4	薄煙色透明	灰黒色の微粒子が全体に散在し、3mm程度の球顆を一部に含む	ガラス光沢に富む	不明
29	KOZ 1-1	黒色半透明	黒灰色微粒子の微細な結が無数に見られる	ガラス光沢に富む	不明
30	KOZ 1-2	黒色半透明	黒色粒子の微細な結が無数に見られる	ガラス光沢は鋭い	不明
31	KOZ 1-3	黒色半透明～不透明	黒色粒子の結が無数に見られる。1mm程度の白斑を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
32	KOZ 1-4	黒色半透明	黒色微粒子が全体に多く散在する	ガラス光沢は鋭い	不明
33	KOZ 1-5	黒色透明	黒色粒子の微細な結が無数に見られる。1mm程度の球顆を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明
34	KOZ 2-1	黒色透明	黒色粒子の微細な結が無数に見られる	ガラス光沢に富む	不明

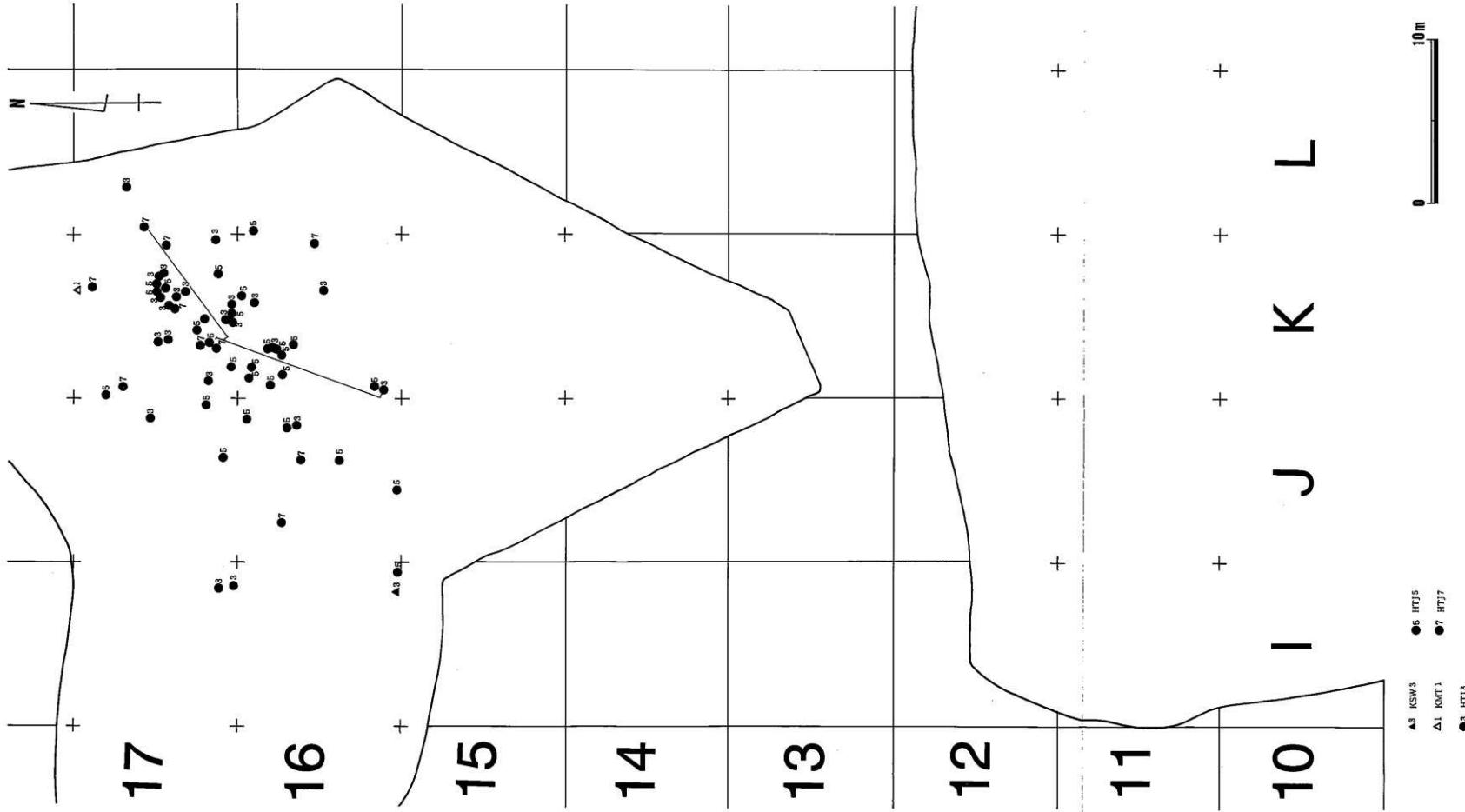
K SW - 柏崎 (天城系)      KMT - 上多賀 (箱根系)      HTJ - 烟宿 (箱根系)      TTS - 茅科系  
 KRM - 霧ヶ峰系      WDT - 和田岬系      KOZ 1 - 神津 1群 (恩馳島・浜尻湾・長浜)      KOZ 2 -  
 神津 2群 (砂糠崎・長浜)

## 6 個体別資料の分布（第43～45図）

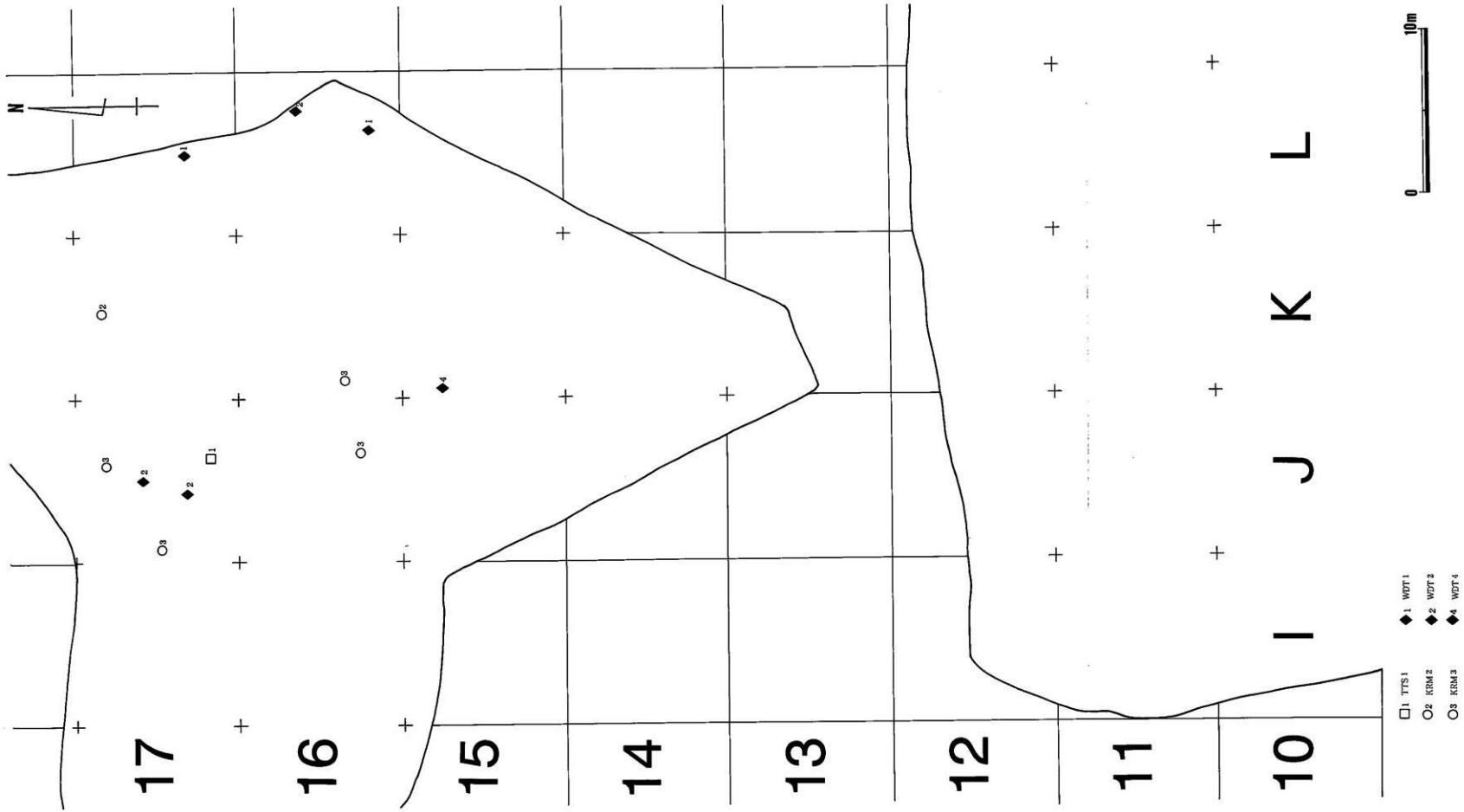
信州系、箱根系、天城系、神津島系の4系統の黒耀石が搬入されているが、主体となるのは箱根系の黒耀石で、畠宿産が全体の約80%を占めており、他に上多賀産が1点含まれる。なお、畠宿産の風化が進んだ黒耀石は、上多賀産のものと同様な測定値を示すことがある。遺跡内の出土資料は、新鮮面を出して測定を行っていないことから、上多賀産の1点については、畠宿産の可能性もある。信州系の黒耀石は、蓼科産1点、霧ヶ峰産5点、和田岬産7点と少なく、天城系の柏崎産と神津島系のものも1点ずつであることから、1つの原産地に依存しているという状況が窺える。畠宿産は、調査区中央や北寄りの、J-16グリッドからK-17グリッドにかけて約18m×12mの範囲で、梢円形に比較的集中したかたちで分布し、畠宿産のものだけ構成される。K-16グリッド北部からK-17グリッド中央部にかけて石器が最も集中し、この地点で剥片剥離が行われたと考えられる。接合関係も2例認められる。個体別の分布状況は、HTJ 3が集中箇所の北東部に中心を持ち、HTJ 5が集中箇所の南西部に中心を持つ。HTJ 7は集中箇所の周辺部に分布するという状況である。製品は、ナイフ形石器1点（表探）、搔器3点、削器2点が出土している。搔器3点のうちHTJ 5は、石器が最も集中する地点から出土している。なお、削器のHTJ 1とU剥片のWDT 3の出土層位はFB層であるが、形態からYL層の石器として扱った。M-12グリッドから出土している。K-16グリッドから出土したHTJ 3の削器は、K-17グリッドの剥片と接合する。畠宿産以外のものは、集中部周辺を環状に取り囲むようなかたちで、散漫に分布している状況である。これら信州系を中心とした畠宿産以外の石器は、調査区内で剥片剥離が行われた痕跡は認められず、製品・剥片として単独で調査区外から持ち込まれたと考えられる。TTS 1とWDT 4の各1点は、いずれもナイフ形石器で、それぞれ単独で出土している。霧ヶ峰産は、使用痕のある剥片が2点、J-17グリッドで出土している。また、全ての原産地をとおして黒耀石製の石核は1点も出土していない。

表11 個体別資料別石器器種組成表

	K S W 3	K M T 1	H T J 1	H T J 3	H T J 5	H T J 7	T T S 1	K R M 2	K R M 3	W D T 1	W D T 2	W D T 3	W D T 4	K O Z 1 — 4	測定不能品
ナイフ					1				1					1	
搔 器					1	1	1								
削 器				1	1							1			
U剥片										2			1		
石 刃															
石 核															
剥 片	1			13	20	9		1	1	2	2			1	1
碎 片	1			7	7				1						1
合 計	1	1	1	23	28	10	1	1	4	2	3	1	1	1	2

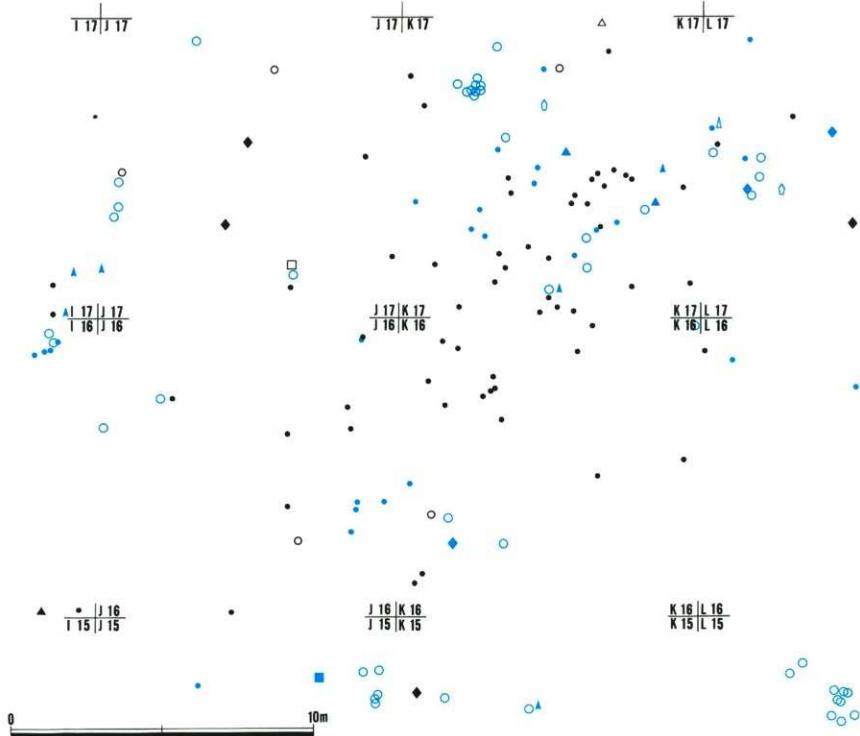


第43圖 編別資料分布図 1 柏崎・上多賀・畠宮 (1/200)

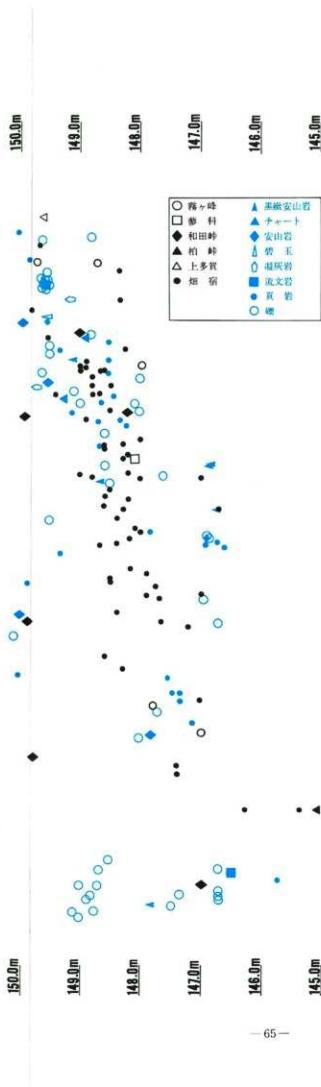


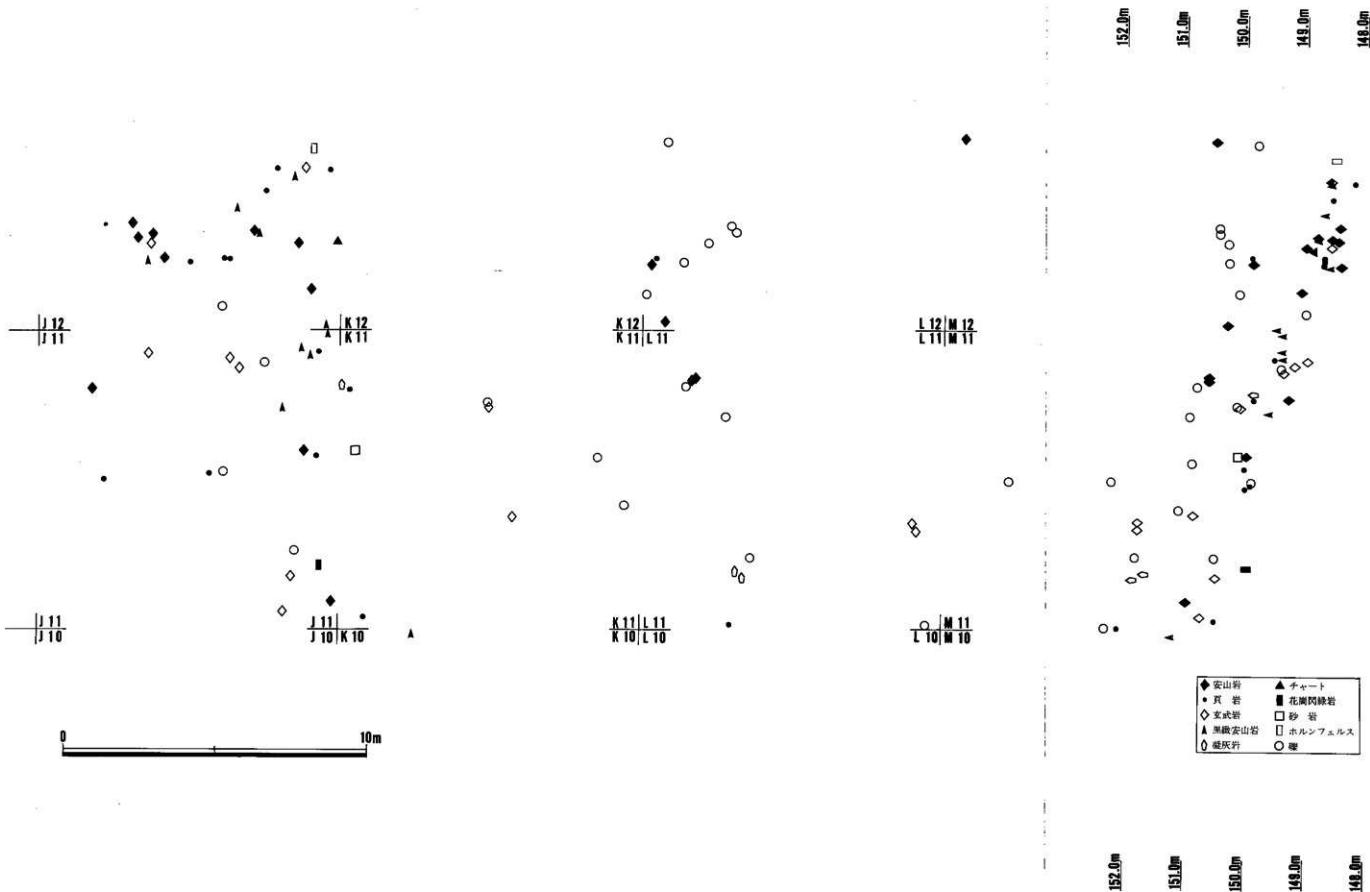
第44図 個体別資料分布図2 豊科・鶴ヶ峰・和田岸(1/200)

□1 TTS1  
◆1 WDT1  
○2 KRM2  
◆2 WDT2  
○3 KRM3  
◆3 WDT3  
◆4 WDT4



第45図 1区Y-L層遺物石材料平面・垂直分布図 (1/125)





第46図 3区Y-L層遺物石材別平面・垂直分布図 (1/125)

## 7 主要石材の分布 (第45、46図)

本遺跡で出土している黒耀石以外の石材は、頁岩が41%と半数近くを占め、以下安山岩18%、黒色緻密安山岩16%、玄武岩12%の割合で続く。頁岩の分布は、器種により大きな偏りが見られる。石器の素材となる石核は、全て3区から出土し、J-12グリッド付近に大半が集中する。剥片の点数は4点と少ない。一方、1区からの石核の出土はなく、剥片・碎片の他に石刃が1点出土している。分布状況は、一部烟宿産の黒耀石が集中する箇所に重複するものも見られるが、全体に散漫であり、剥片剥離が行われた痕跡は見られない。前述したように、石核は、いったん調査区外に持ち出し、剥片剥離作業を行った後、再び持ち込まれた可能性がある。黒色緻密安山岩は、石核が2点出土しているが、剥片数は9点と少なく、分布も散漫な状況である。頁岩同様、調査区内では剥片剥離が行われていないと考えられる。また、原石が5点持ち込まれており、J-11グリッドからJ-12グリッドにかけて単独で出土している。大きさは、拳大からそれより一回り大きい程度のものである。安山岩と玄武岩は、敲石や磨石の類の出土が多く、玄武岩は全て加工工具である。3区に拡散的に分布し、安山岩はJ-12グリッドに比較的集中して分布する。同グリッドから石核も1点出土している。この他、チャート、溶結火砕岩、ホルンフェルス、流紋岩を石材とする石核が、いずれも単独で出土し、凝灰岩の一種である溶結火砕岩は4点の出土を見た。それぞれ剥片の出土は見られない。

表12 主要石材別石器器種組成表

	頁岩	黒色緻密安山岩	安山岩	玄武岩	チャート	溶結火砕岩	ホルンフェルス	流紋岩	緑色砂岩	碧玉	その他
削器			1		1						
U剥片	3										
石刃	1										
石核	10	2	1			1	4	1	1		
敲石			4	5							2
凹石				1							
敲石・凹石											
磨石			10	5							
敲石・磨石			3	1					1		
剥片	26	9				1				1	1
碎片	2										
原石		5									
合計	42	16	19	12	3	4	1	1	1	1	3

## 第2節 休場層直下黒色帶の遺構と遺物

### 1 概要

石刃2点、使用痕のある剥片1点、剥片8点、碎片1点、計12点が出土している。2箇所の石器ブロックが検出されているが、いずれも密集した在り方を示していない。石材の内訳は、畠宿産の黒耀石4点、舞ヶ峰産の黒耀石1点、頁岩5点、黒色緻密安山岩2点である。

### 2 石器（第50図）

- 128は、単設打面の石核から剥離された頁岩製の石刃である。  
129は、単設打面の石核から剥離された石刃であるが、礫面を多く残していることから、剥片剥離の初期の段階のものと考えられる。頁岩製。  
130は、両端が切断（折断）されている。左側縁に細かい調整が施されていることから、スクレイバー的に使用されたものと考えられる。畠宿産の黒耀石製である。

### 3 石器ブロック

#### (1) Aブロック（第48、49図）

J-17グリッド西部に1m×0.8mの範囲で分布し、石刃1点、剥片3点で構成され、黒耀石は含まれない。垂直分布は約26cmを測る。接合関係は見られない。

#### (2) Bブロック（第51、52図）

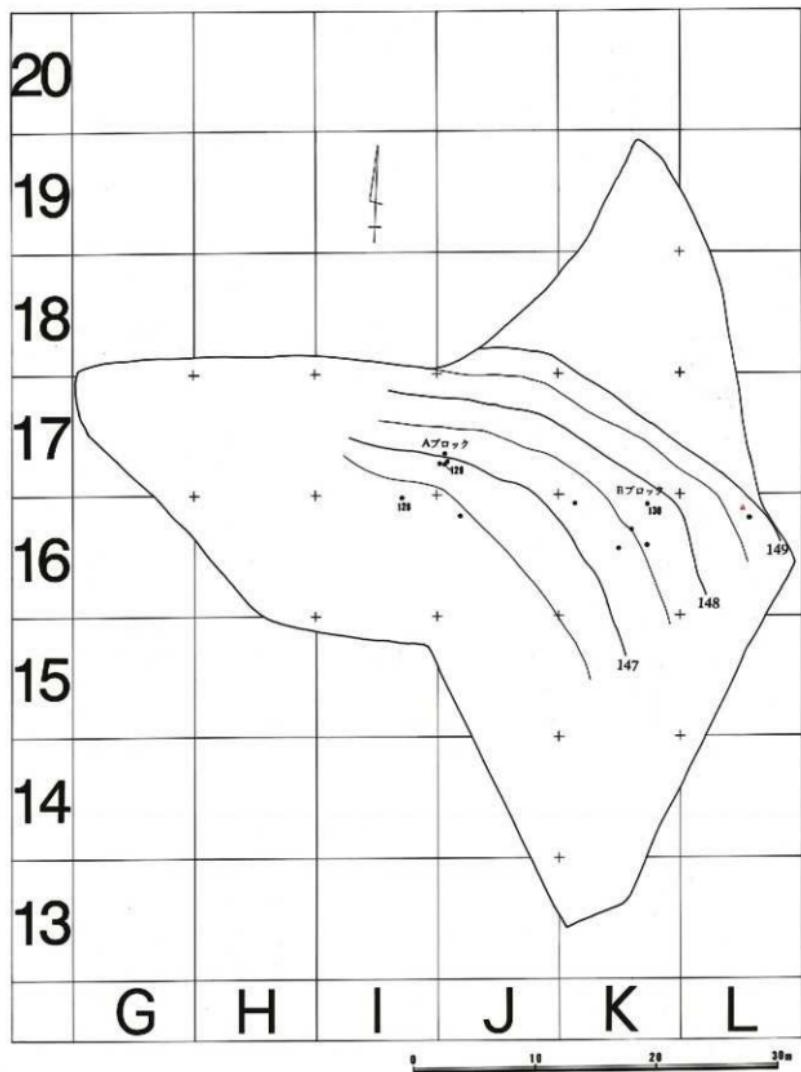
K-17グリッドの北部に位置し、黒耀石製の剥片4点で構成され、3.6m×2.4mの範囲に散漫に分布する。ブロックとして捉えることが妥当か判断しがたいが、4点中3点をHTJ 6が占めていることから、ブロックとして扱った。接合関係は認められない。

表13 BB0層石器種組成表

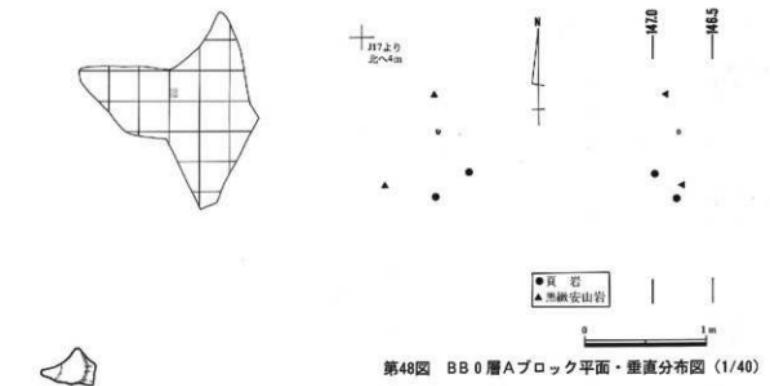
	HTJ 6	KRM 3	頁岩	黒緻安山岩
石刃			2	
U剥片	1			
剥片	2	1	3	2
碎片	1			
合計	4	1	5	2

表14 BB0層石器計測表

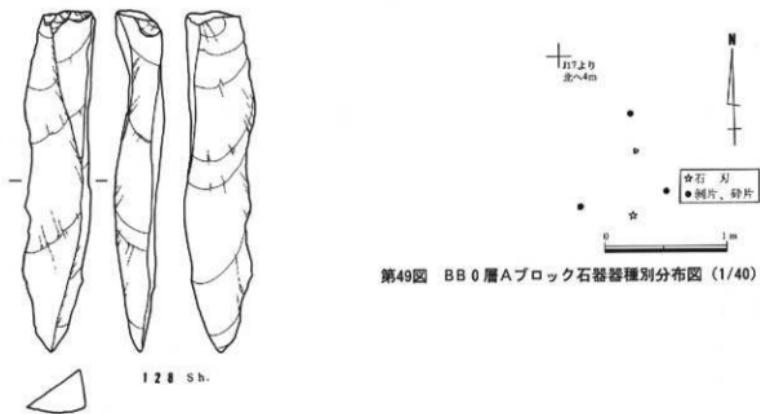
器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
石刃	128	I 16	1	頁岩		87.0	15.0	12.5	14.7
石刃	129	J 17	1	頁岩		63.0	27.0	13.5	20.6
U剥片	130	K 16	3	黒耀石	HTJ-6	27.0	13.5	4.5	1.3



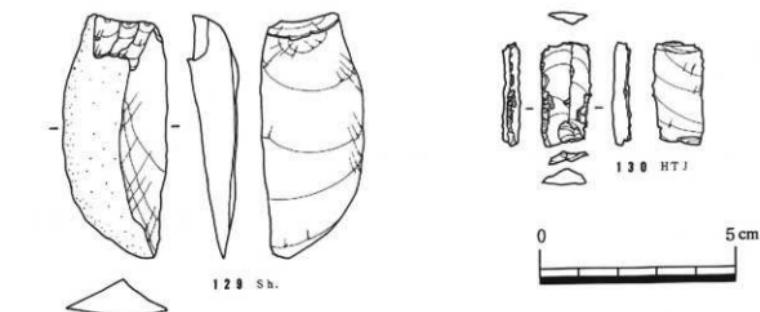
第47図 BB 0層遺物出土状況図 (1/400)



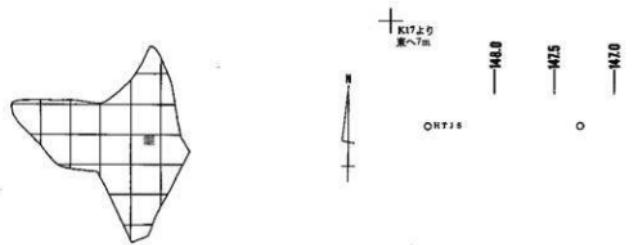
第48図 BB 0層Aブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第49図 BB 0層Aブロック石器種別分布図 (1/40)



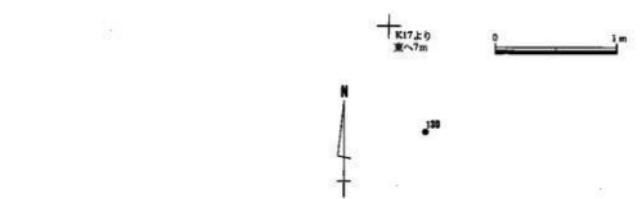
第50図 BB 0層石器実測図 (4/5)



第51図 BB0層Bブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第51図 BB0層Bブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第52図 BB0層Bブロック石器種別分布図 (1/40)

●剝片、鉋片



### 第3節 第Ⅰ黒色帶の遺構と遺物

#### 1 概要

総数21点が出土しており、器種構成はナイフ形石器1点、搔器4点、削器1点、使用痕のある剥片2点、剥片8点、碎片5点である。石器ブロックが調査区中央からやや南西寄りに1基検出されている。また、礫ブロックが石器ブロックに重複して1基検出された。なお、剥片には上多賀産のものが1点含まれるが、P.60の「個別資料の分布」の中で触れたように、畠宿産の可能性もある。

#### 2 石器（第57、58図）

131は、頁岩製の大型のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、全体を尖頭状に仕上げたものである。縁辺部に施された調整は、平斜な鋸歯状を呈する。

132は、畠宿産の黒耀石製で、礫面の残るサイコロ状の分厚い剥片を素材とした搔器である。剥片の末端部に調整を施してある。

133は、分厚い剥片を素材とした搔器である。剥片の末端部を折断し、円形に加工されている。畠宿産の黒耀石製である。

134は、霧ヶ峰産の黒耀石製で、石刃状の剥片を用いた母指状搔器である。

135は、畠宿産の黒耀石製の搔器で、剥片の末端部に調整を施してある。

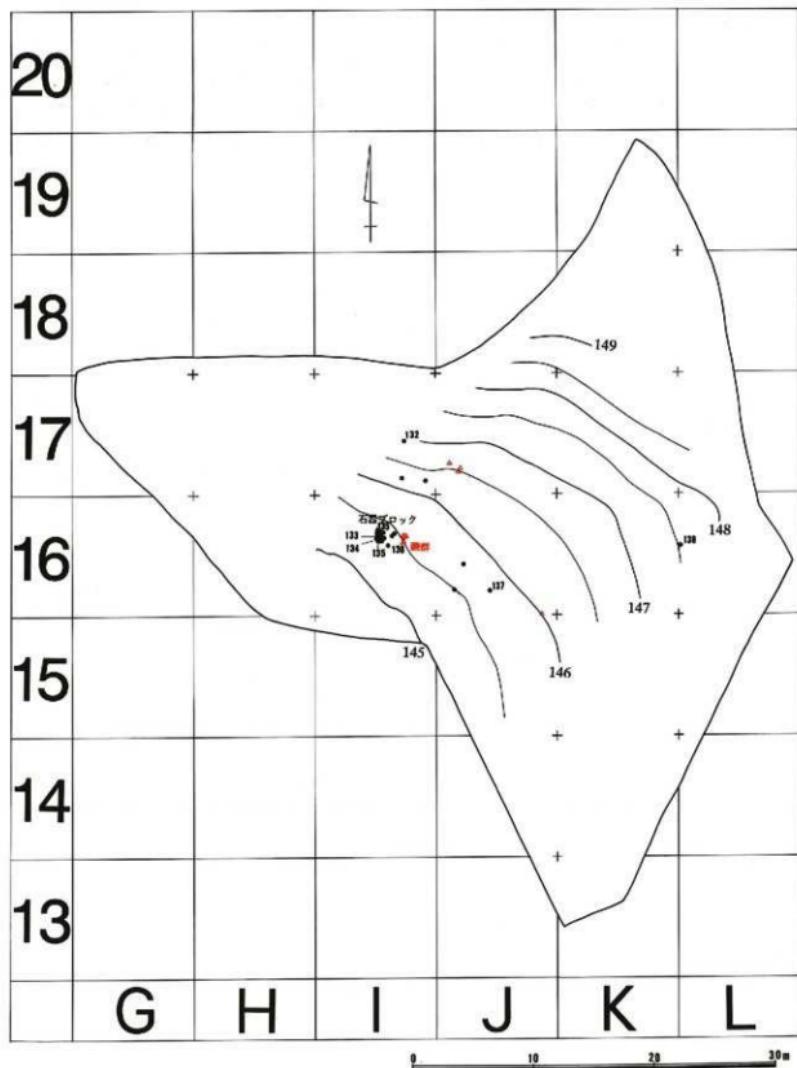
136は、分厚い縦長剥片素材の削器である。折断された末端部にも加工が施されているのが観察される。搔器の可能性もある。畠宿産の黒耀石製。

137は、端部が折断された石刃の可能性もある石器で、右側縁部に使用痕が認められる。畠宿産の黒耀石製である。

138は、裏面から折れた剥片の左側縁部に、スクレイバーエッジ状の粗い加工が施されたもので、右側縁部に使用痕が認められる。畠宿産の黒耀石製である。

表15 BB I層石器種組成表

	KMT 2	H T J 4	H T J 8	T T S 2	K R M 3	測定不能	頁岩	黒色緻密 安山岩
ナイフ							1	
搔器		3			1			
削器			1					
U剥片			2					
剥片	1	3		1			1	2
碎片		1			2	2		
合計	1	7	3	1	3	2	2	2



- 石器
- ▲ 砂
- △ 砂（赤化）

第53図 BB I層遺物出土状況図 (1/400)

### 3 石器ブロック 〈第54、55図〉

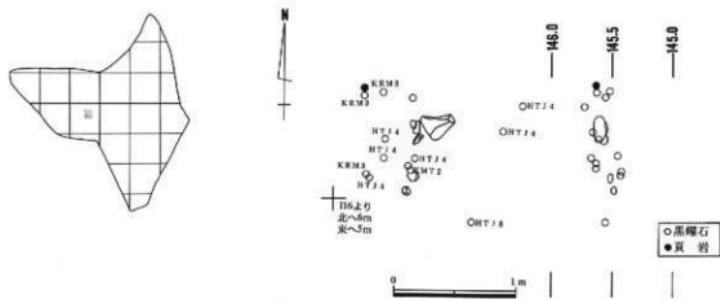
調査区南西部のI-16グリッド中央部付近の、標高約145.5mから検出された。ブロックは14点の石器で構成され、1.5m×1.1mの規模で分布し、ブロック内からは、6点の礫で構成される種群が1基検出されている。石器14点の内訳は、ナイフ形石器1点、搔器3点、削器1点、剥片4点、碎片1点で、そのうち13点が黒耀石、1点が頁岩である。黒耀石は4個体が確認できるが、箱根系の割合が高く、HTJ 4・HTJ 8・KMT 2で73%を占める。信州系はKRM 3のみが認められる。接合関係は認められず、剥片剥離を行った痕跡も確認されない。

### 4 磨 群 〈第56図〉

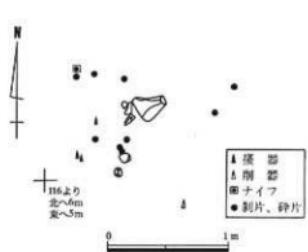
I-16グリッドの石器ブロックに重複して検出された。0.7m×0.4mの規模で分布し、垂直分布は約10cmを測り、南にやや傾斜する。6個の礫によって構成されるが、密集した在り方は示していない。最大礫4,100g、最小礫100g、総重量6,040gで、2個の赤化礫を含む。石材は、安山岩と玄武岩を主体としている。接合関係は見られない。

表16 BB I層石器計測表

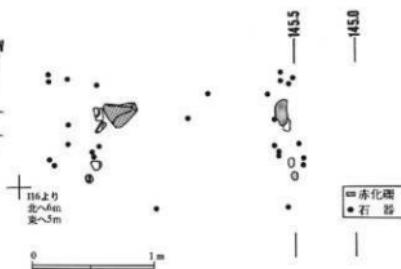
器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
ナイフ	131	I 16	14	頁岩		66	33	15	32.7
搔器	132	I 17	1	黒耀石	HTJ-4	24	28.5	18	12.6
搔器	133	I 16	6	黒耀石	HTJ-4	34	40.5	19	19.1
搔器	134	I 16	1	黒耀石	KRM-3	26	19	7	3.2
搔器	135	I 16	5	黒耀石	HTJ-4	26	27	7.5	3.9
削器	136	I 16	15	黒耀石	HTJ-8	57	36.5	13.5	27.1
U剥片	137	J 16	2	黒耀石	HTJ-8	34	29.5	6	5.1
U剥片	138	L 16	1	黒耀石	HTJ-8	49	39	11	21.2



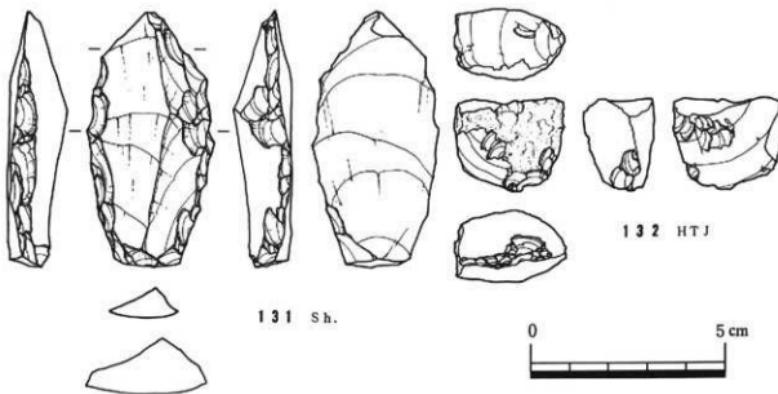
第54図 BB I層石器ブロック平面・垂直分布図 (1/40)



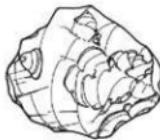
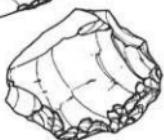
第55図 BB I層石器ブロック器種別分布図 (1/40)



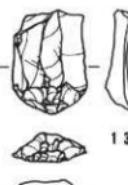
第56図 BB I層石器群平面・垂直分布図 (1/40)



第57図 BB I層石器実測図 1 (4/5)



134 KRM



133 HTJ



135 HTJ



136 HTJ



138 HTJ



137 HTJ



0

5 cm

第58図 BB I層石器実測図2 (4/5)

## 第4節 第II黒色帶の遺構と遺物

### 1 概要

本遺跡で確認できる黒色帶の中では最も遺物の出土量が多かった。石器は、削器2点、錐形石器1点、石刃1点、二次加工のある剥片1点、残核1点、磨石1点、台石2点、剥片27点、碎片1点の計36点が出土している。石器ブロックは、調査区南西部から3基、東部から1基検出され、このうちAブロックは礫群を1基内包する。

### 2 石器（第69、70図）

139は、黒耀石製の削器で、右側縁に細かい調整を施し、スクレイバーエッジとしている。蓼科産。

140は、左側縁にノッチ状の加工を施した蓼科産の黒耀石製の削器である。一部に刃器としての使用痕を残している。

141は、両設打面石核から剥離された珪質頁岩製の石刃で、礫面を残していることから、剥片剥離の初期の段階のものであると考えられる。

142は、貝殻状の剥片の側縁部にドリル状の加工を施した錐形石器である。蓼科産の黒耀石製。

143は、黒色緻密安山岩製の二次加工のある剥片（R剥片）で、端部に加工痕が観察される。サイドスクレイバーとして使用されていた可能性がある。

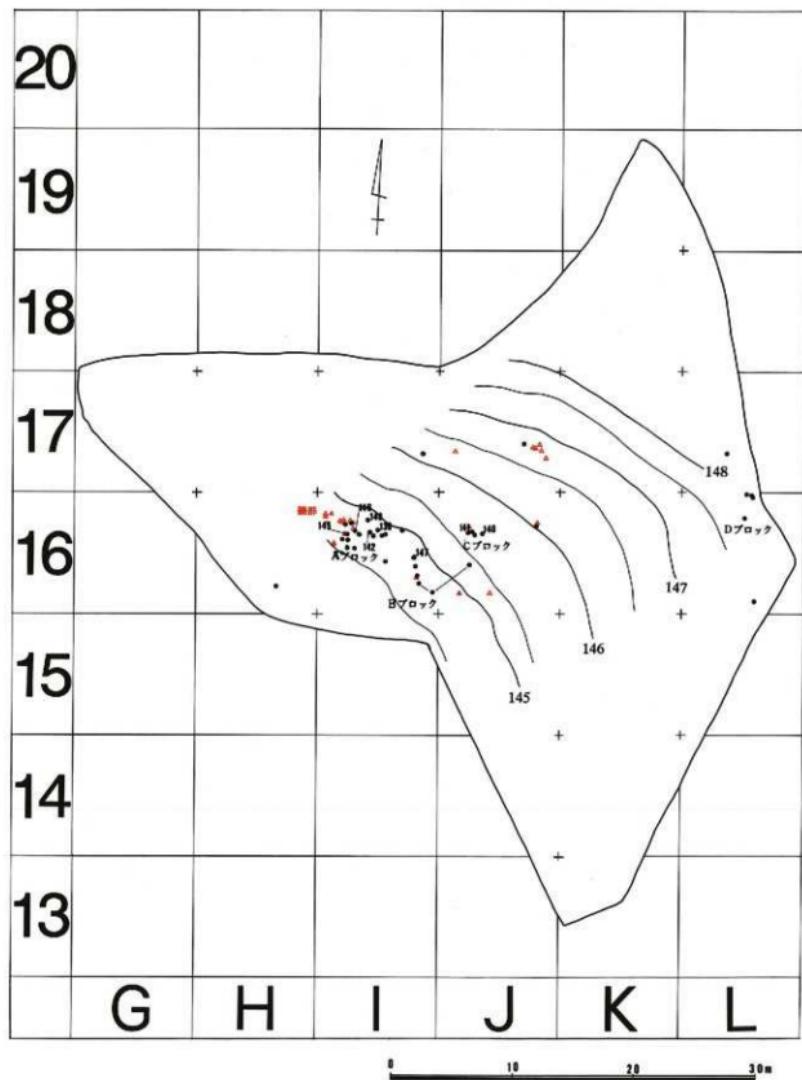
145は、打面を転移させながら剥片を剥離した複設打面石核の残核である。柏崎産の黒耀石製。

146は、礫の上面に擦痕が認められることから、石皿的に使用されたものと考えられる。玄武岩製で、重量1,660gを測る。

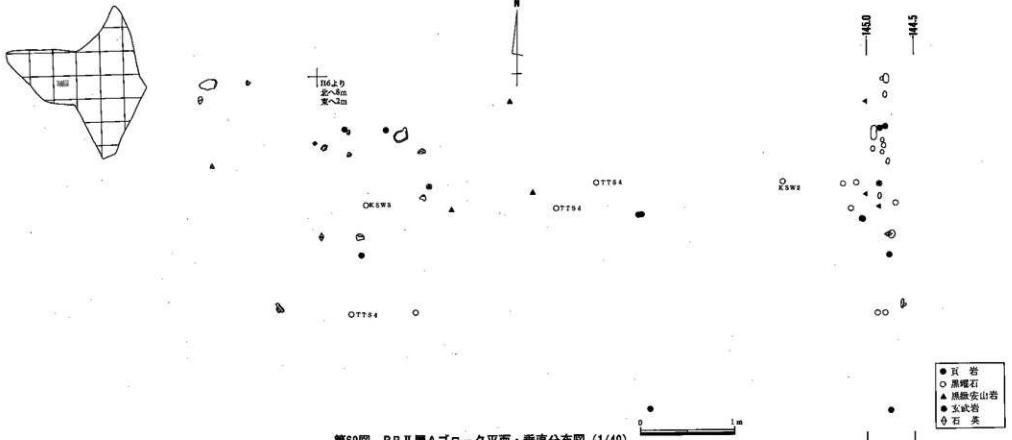
147は、礫の上面に擦痕と複数の敲打痕が認められる。輝石安山岩製で、重量2,245gを測る。

表17 BB II層石器種組成表

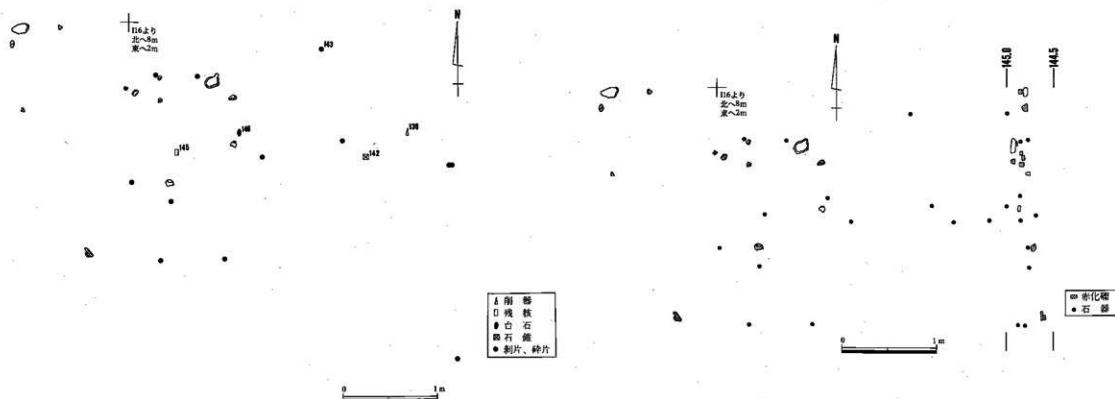
	KSW2	KSW3	TT S 3	TT S 4	頁岩	黒色緻密 安山岩	安山岩	玄武岩	その他
削器			1	1					
錐形石器				1					
石刃					1				
磨石							1		
台石							1	1	
残核		1							
R剥片						1			
剥片	1	3		1	14	6			2
碎片		1							
合計	1	5	1	3	15	7	2	1	2



第59図 BB II層遺物出土状況図 (1/400)



第60図 BB II層Aブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第61図 BB II層Aブロック器種別分布図 (1/40)

第62図 BB II層塊群平面・垂直分布図 (1/40)

### 3 石器ブロック

#### (1) Aブロック 〈第60、61図〉

I-16グリッドの標高約145.5mに分布する。ブロックは17点の石器で構成され、内訳は削器1点、錐形石器1点、残核1点、台石2点、剥片・碎片12点である。石器は、5.0m×3.2mの規模で散漫に分布し、礫群が重複して分布する。比較的石器がまとまるのはブロック西側で、台石や残核を伴う。垂直分布は約60cmを測る。石材は、蓼科産と柏崎産の黒耀石と頁岩が主体である。

#### (2) Bブロック 〈第63、64図〉

I-16グリッド東部の標高約145.0mに、5点の石器が分布し、台石1点と剥片4点から構成される。垂直分布は約8cmを測る。石材は3点の黒耀石と、輝石安山岩・黒色緻密安山岩が使用されている。黒耀石はいずれもKSW 3で、その内の2点と、Cブロックに含まれる1点が接合する。

#### (3) Cブロック 〈第65、66図〉

J-16グリッド中央部やや西寄りの標高約145.5mに位置し、散漫な分布状況を呈する。削器・石刃・磨石各1点と、剥片2点で構成される。KSW 3の1点は、ブロック南西に位置するBブロックの2点と接合する。垂直分布は約5cmを測る。

#### (4) Dブロック 〈第67、68図〉

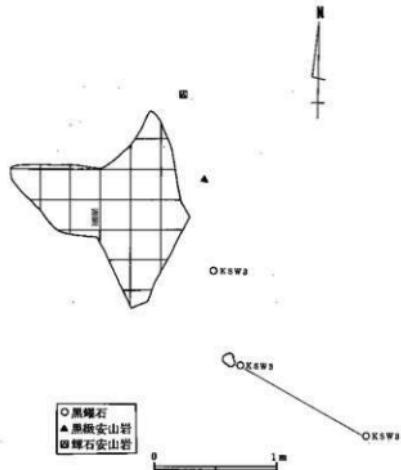
L-16グリッド北部の標高147.9mに分布し、頁岩・珪質頁岩の剥片から構成される。散漫な分布状況を呈し、垂直分布は約15cmを測る。

### 4 磨群 〈第62図〉

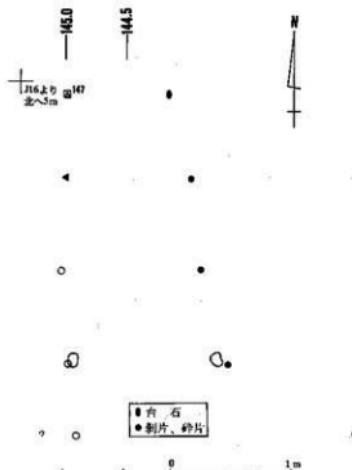
I-16グリッドから検出された石器群のAブロックに重複して検出された。2.4m×2.4mの規模で、14個の磨群によって構成され、垂直分布は約32cmを測る。拳大の磨群が大半で、幼児頭大の磨群が2点含まれる。このうち赤化磨群は8点である。最大磨群2,370g、最小磨群70g、総重量7,650gを測る。接合関係は見られない。

表18 B8 II層石器計測表

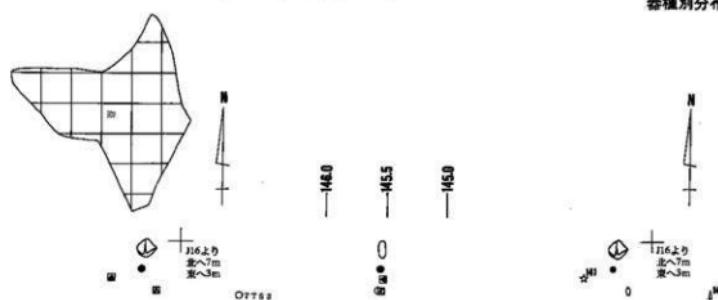
器種	NO.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
削器	139	I 16	16	黒耀石	TTS-4	27.5	31.0	12.0	9.0
削器	140	J 16	1	黒耀石	TTS-3	62.0	22.0	11.0	13.1
石刃	141	J 16	3	珪質頁岩		76.0	32.0	18.0	29.9
錐形石器	142	I 16	12	黒耀石	TTS-4	36.5	20.5	9.0	10.9
R剥片	143	I 16	19	黒色緻密安山岩		45.0	39.5	13.5	23.6
残核	145	I 16	6	黒耀石	KSW-3	35.0	24.0	16.5	8.8
台石	146	I 16	4	玄武岩		152.5	124.0	75.0	1660.0
台石	147	I 16	25	輝石安山岩		179.0	173.5	55.0	2245.0



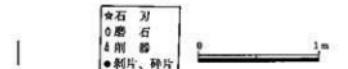
第63図 BB II層Bブロック平面・垂直分布図 (1/40)



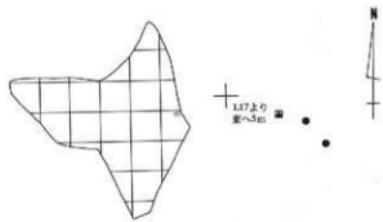
第64図 BB II層Bブロック  
器種別分布図 (1/40)



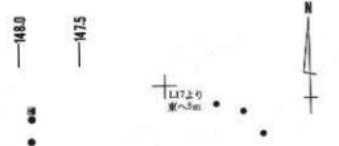
第65図 BB II層Cブロック平面・垂直分布図 (1/40)



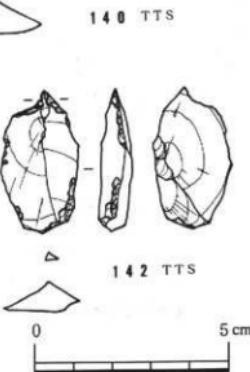
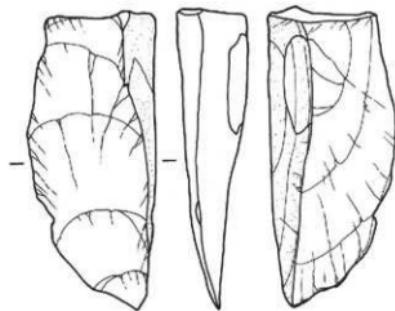
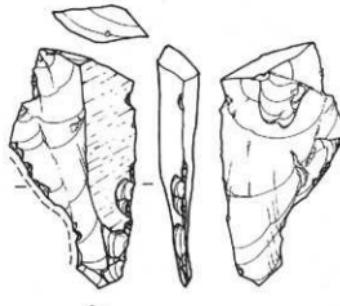
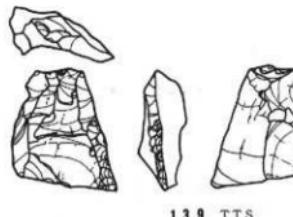
第66図 BB II層Cブロック器種別分布図 (1/40)



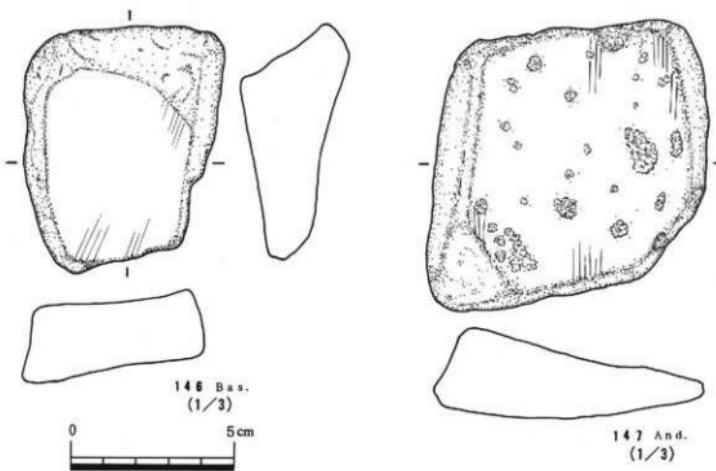
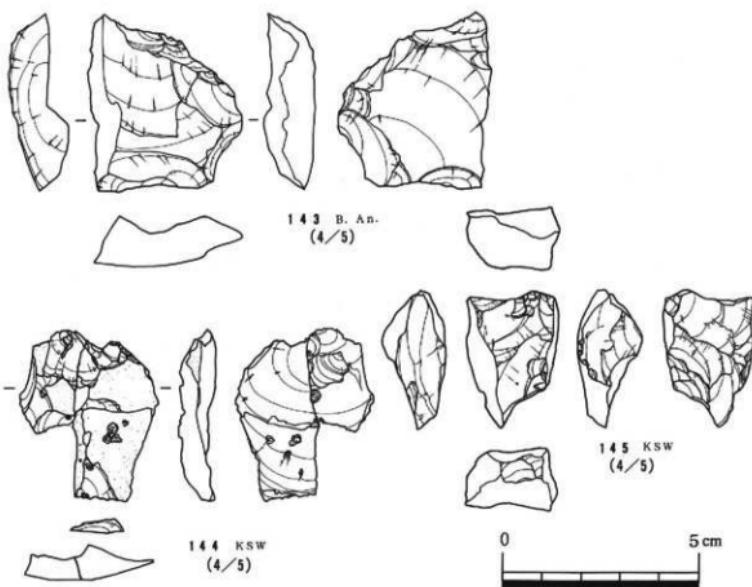
第67図 BB II層Dブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第68図 BB II層Dブロック  
器種別分布図 (1/40)



第69図 BB II層石器実測図1 (4/5)



第70図 BB II層石器実測図 2

## 第5節 第III黒色帶の遺構と遺物

### 1 概要

出土した石器の総点数は18点で、器種構成はナイフ形石器1点、削器2点、石刃1点、石核1点、打面再生剥片1点、剥片12点である。石材は、頁岩が8点と最も多く、黒耀石は、信州系の蓼科産と霧ヶ峰産が4点出土している。遺構は、石器ブロックが調査区西部から1基検出されたほか、本層位に掘り込み面を持つと考えられる土坑が17基検出されている。

### 2 石器（第74、75図）

148は、蓼科産の黒耀石製で、切り出し状のナイフ形石器である。剥片の基部を切断（折断）技法により除去している。149は、縦長剥片の縁辺部にスクレイバーエッジを削出した削器である。蓼科産の黒耀石製。150は、縦長剥片の縁辺部に細かい調整を施したサイドスクレイバーで、末端部を折り取った後にエンドスクレイバーに加工されている。霧ヶ峰産の黒耀石製。151は、頁岩製の幅広の石刃で、打面は複剥離打面である。風化が著しく、使用痕は観察されないが、刃器として使用されたものと考える。152は、頁岩質チャート製の打面再生剥片で、左側線に頭部調整痕が認められる。右側縁部に使用痕が認められ、刃器として使用されていたと考えられる。153は、上面の剥離面を打面とした単設打面石核で、寸詰まりの幅広の剥片を剥離したものである。黒色緻密安山岩製。

### 3 石器ブロック（第72、73図）

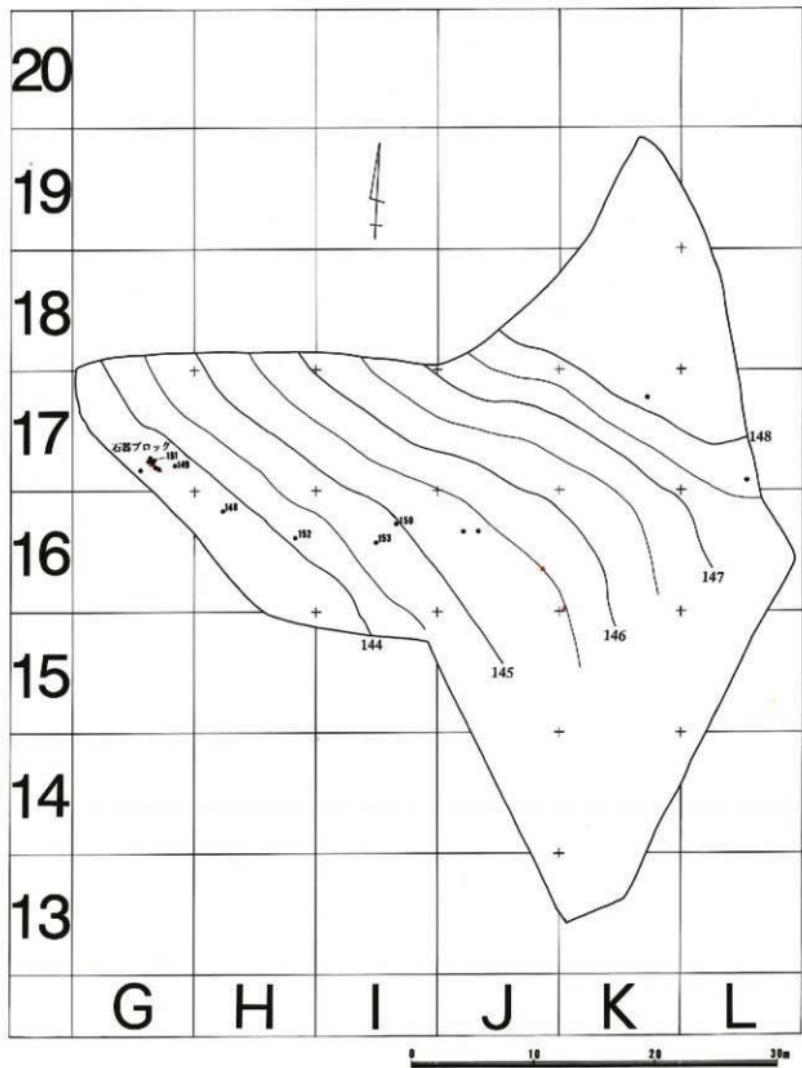
G-17グリッド南東部の、西傾斜面が谷に向かって傾斜を強めはじめる変換点に位置し、標高約143.6m辺りに比較的まとまって分布している。石器は、2.9m×0.9mの範囲から削器1点、石刃1点、打面再生剥片1点、剥片5点の計8点が出土している。このうち頁岩が5点をしめる。接合関係は見られない。

表19 BB III層石器器種組成表

	TTS 6	KRM 4	頁岩	頁岩質チャート	黒色緻密安山岩	輝石安山岩	珪質砂岩	その他
ナイフ	1							
削器	1	1						
石刃			1					
石核		1						
打面再生剥片				1				
剥片			7	1	1	1	1	1
合計	2	2	8	2	1	1	1	1

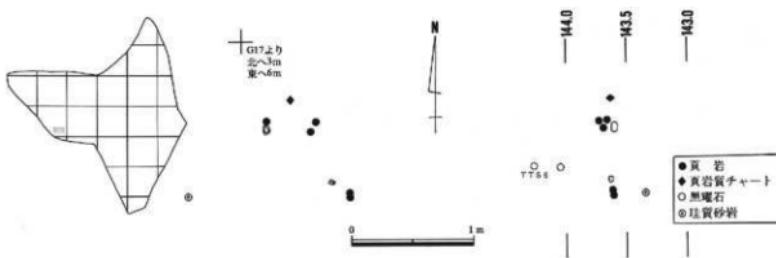
表20 BB III層石器計測表

器種	N.O.	グリッド	遺物番号	石材	個体別	最大縦長mm	最大横長mm	最大厚mm	重量g
ナイフ	148	H16	2	黒耀石	TTS-6	24.5	11.5	6.0	1.0
削器	149	G17	1	黒耀石	TTS-6	37.0	28.5	15.0	11.0
削器	150	I16	2	黒耀石	KRM-4	42.5	28.5	11.0	10.5
石刃	151	G17	4	頁岩		82.0	46.5	16.0	52.4
打面再生剥片	152	H16	4	頁岩質チャート		51.0	30.0	17.0	22.0
石核	153	I16	17	黒色緻密安山岩		50.0	78.5	34.0	99.4

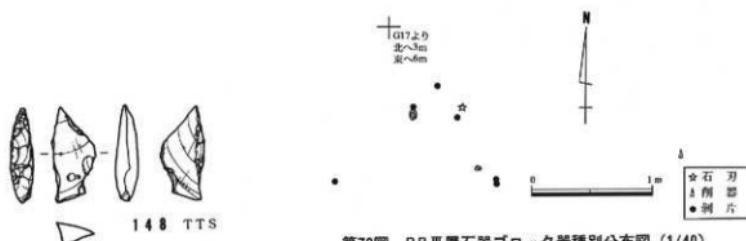


- 石器
- ▲ 骨
- 燃(赤化)

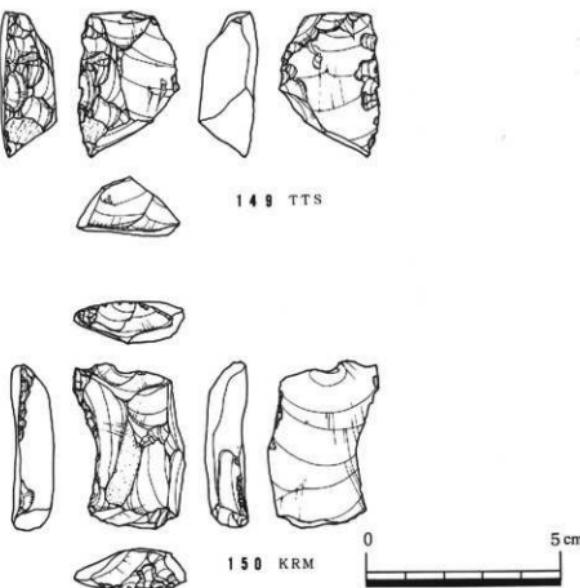
第71図 BB III層遺物出土状況図 (1/400)



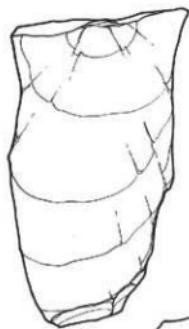
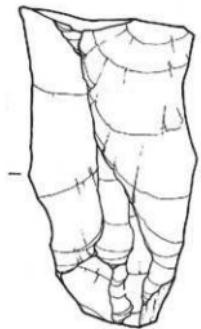
第72図 BB III層石器ブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第73図 BB III層石器ブロック器種別分布図 (1/40)



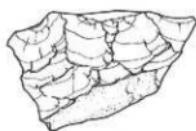
第74図 BB III層石器実測図 1 (4/5)



151 S.h.  
(4/5)



152 C.h.  
(4/5)



153 R. A.R.  
(1/2)

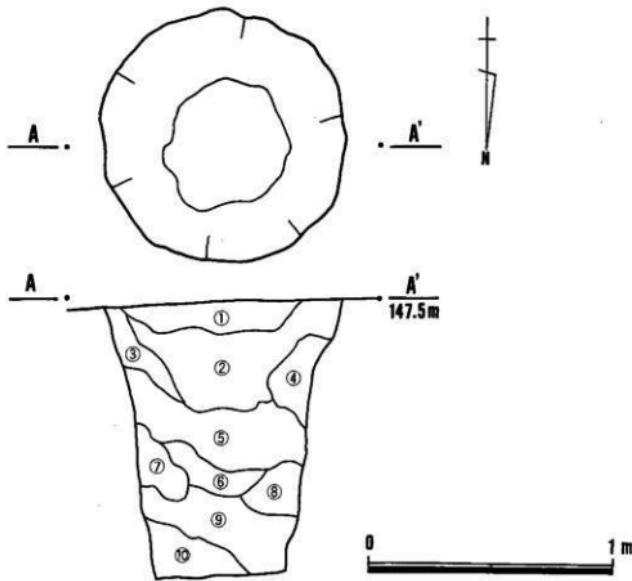


第75図 BBⅢ層石器実測図2

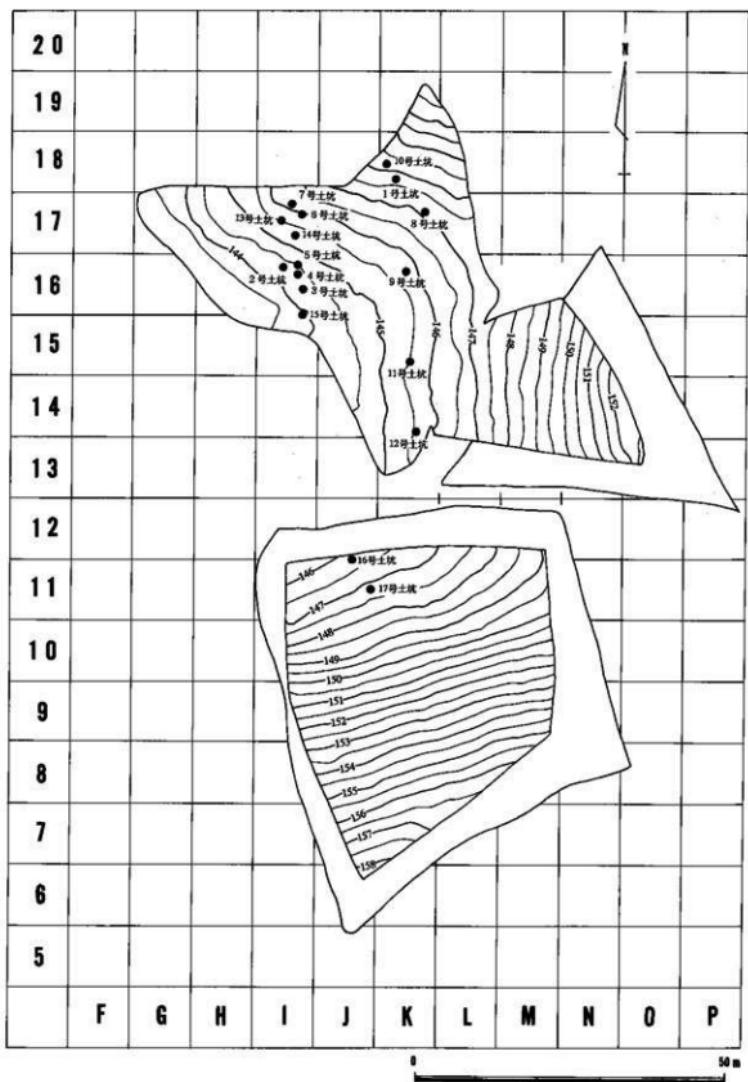
#### 4 土 坑

SC III b 1直下からSC III s 4上面にかけて17基の土坑を検出している。1区で検出された土坑は、南北方向に2列並行するかたちで配置されており、谷が迫る西側の列は、I-15グリッドからI-17グリッドにかけて9基密に構築され、それぞれ最大3.5m、最小0.5mの間隔で配置されていた。東側は、K-14グリッドからK-18グリッドにかけて、8号土坑を除くとほぼ一直線に、最大14.2m、最小2.0mの間隔で配置されていることが確認された。また、3区から検出された2基は、J-11グリッドからK-11グリッドにかけて4.5mの間隔で配置されており、1区の土坑列に連続するものと思われるが、東西どちらの列に属するかは判然としない。平面形は、開口部・底部ともに正円に近い形状を呈している。断面形は、開口部が朝顔状に開くものが大半であるが、一部ほぼ垂直に立ち上がるものもある。また、テストピットの土層壁やセクションベルトにかかった土坑が8基あったため、土層観察を行った結果、各土坑の覆土は全てSC II層により被覆されていることが確認でき、覆土上層にBB III層に相当すると考えられる黒褐色スコリア質土が認められた。このことから、土坑の掘り込み面はBB III層中にあると考えられるが、BB III層と覆土上層のBB III層相当の土壤とが明確に分離できないため、掘り込み面は確定できていない。なお、土坑の覆土は全て水洗を行い、炭化物やチップの検出に努めたが、分析に耐えない極微量の炭化物を除けば、遺物は検出されなかった。

以下、各土坑について記すが、節の最後に掲載した表21の推定深度は、BB III層中位を掘り込み面と仮定し、検出面からの層厚を加えたものである。また、土層壁等にかからなかった土坑については、SC III b 1直下で検出されたものには30cm、SC III s 4上面で検出されたものは40cmを標準土層をもとに、それぞれ加えている。



第76図 1号土坑図 (1/20)



第77図 BBⅢ層土坑分布図 (1/800)

## 1号土坑（第76図）

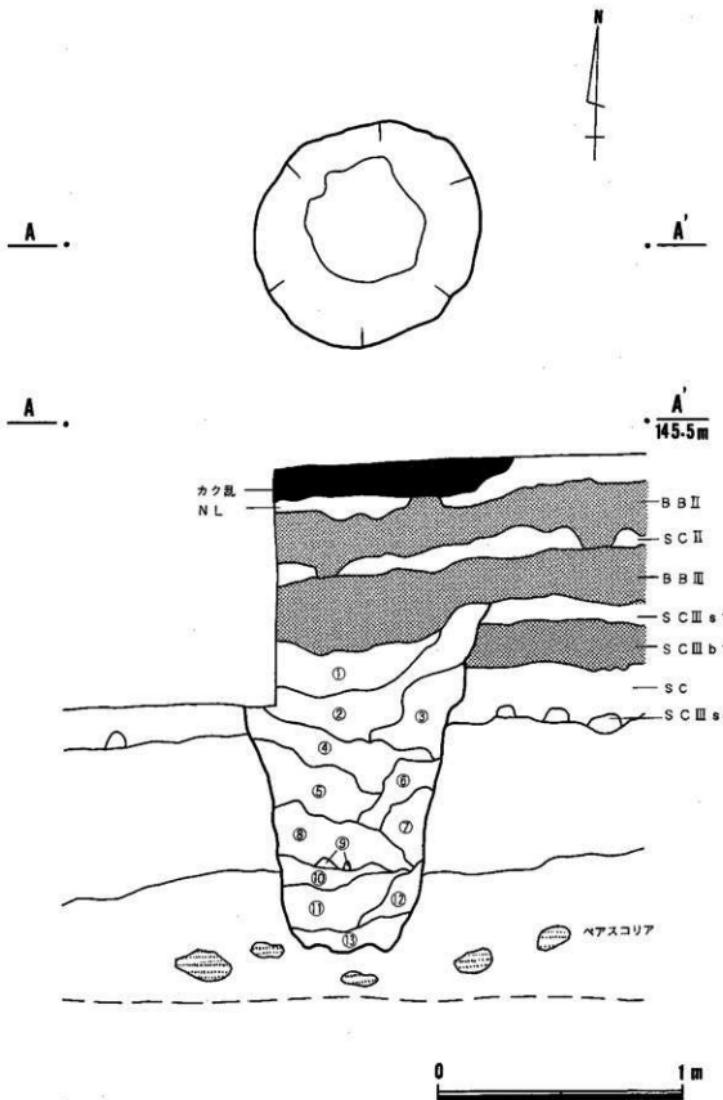
遺跡の北側K-18グリッド南西部から、平成5年度の第1次調査時に検出されたものである。検出面はSC III s 4上面で、長径105cm、短径99cm、深さ113cmを測る。平面形はほぼ正円で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- （覆土）① 暗黒褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの橙・赤色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。BB III層相当。
- ② 黒褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの橙・赤色スコリア、0.3~0.5cmの黒色スコリアを含み、0.1~0.2cmの灰色スコリアを若干含む。①に類似する。
- ③ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの橙・赤色スコリアを含み、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。硬質である。
- ④ 暗褐色スコリア質土 ③に類似するが、黒色スコリアの径がやや大きくなり、硬さもやや軟性を帯びてくる。
- ⑤ 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色スコリア、0.3~0.7cmの黒色スコリアを含む。赤色スコリアの割合が若干高い。
- ⑥ 暗褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色・黒色スコリアを含む。ややもろい。
- ⑦ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの黒色スコリアを含み、0.2~0.4cmの赤色スコリアを少量含む。SC III s 4下の黄褐色スコリア質土（第18層）に相当すると考えられる。
- ⑧ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの黒色スコリアを含み、0.1~0.3cmの赤色スコリアを少量含む。硬質でSC III s 4かその上層のスコリア層（第16層）に相当すると考えられる。
- ⑨ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色・橙色スコリアを少量含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。やや脆弱である。
- ⑩ 褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色・黒色スコリアを含む。⑥に似るが色調がやや明るく、スコリアの含有量が多くなる。

## 2号土坑（第78図）

遺跡の南西I-16グリッド北部から検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径97cm、短径89cm、深さ102cmを測る。平面形はほぼ正円である。断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- （覆土）① 黒褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色・黒色スコリアを含み、0.2~0.8cmの橙色スコリアを少量含む。白色バミスが広範にわたって散在する。
- ② 黑褐色スコリア質土 ①に類似するが、白色バミスの頻度は低くなり、締まりが悪くなる。黒色の発色が増す。
- ③ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの赤色・黒色スコリアを多く含む。炭化物を若干量含む。
- ④ 黑褐色ローム質土 0.2~0.5cmの赤色・黒色スコリアを含む。
- ⑤ 暗褐色ローム質土 0.2~0.3cmの黒色スコリア、0.2~0.5cmの赤色スコリアを含み、発泡の悪い0.2~0.5cmの茶色スコリアを若干含む。
- ⑥ ⑤と⑦の混土。⑦をベースに⑤がブロック状に入る。
- ⑦ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの発泡の悪い黒色スコリア、0.2~0.3cmの赤色スコリアを多く含む。
- ⑧ 茶褐色スコリア質土 0.2~0.7cmの黒色スコリア、0.2~0.4cmの赤色スコリアを含み、0.2~0.3cmの黄色スコリアを若干含む。



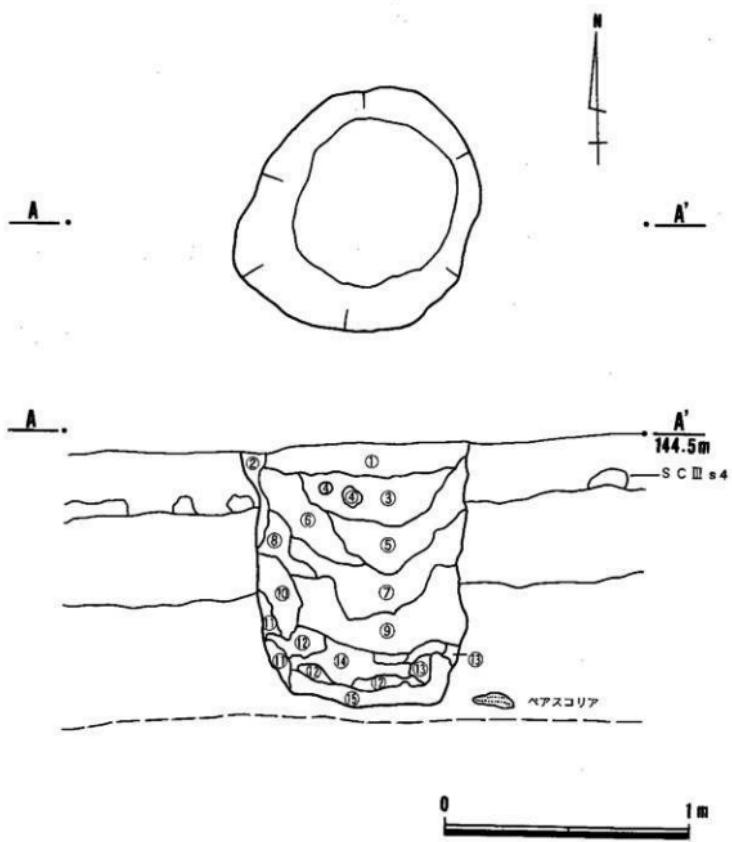
第78図 2号土坑図 (1/20)

- ⑨ 黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの黒色スコリア、0.2~0.3cmの赤色スコリアを少量含む。  
SC III s 4直下のスコリア層（第18層）に類似する。
- ⑩ ⑥に類似する。
- ⑪ 暗褐色ローム質土 ⑤に類似するが、締まりは良く、色調も若干明るい。
- ⑫ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色・黒色スコリアを含む。
- ⑬ 茶褐色ローム質土 0.2~0.5cmの赤色スコリアを含み、0.1~0.2cmの黒色スコリアを若干含む。

### 3号土坑（第79図）

遺跡の南西I-16グリッド東部で検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径107cm、短径90cm、深さ109cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近がほぼ垂直に立ち上がる。

- （覆土）
- ① 暗黒褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの橙色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを少量含む。BB III層に類似するが橙色スコリアの密度が高く、黒色の発色が若干劣る。
  - ② 茶褐色ローム質土 0.2~0.4cmの橙色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを少量含む。脆弱である。
  - ③ 黒褐色スコリア質土 ①に類似するが、黒色の発色が弱い。0.2~0.4cmの橙色スコリアを含み、0.1~0.5cmの黒色スコリアを少量含む。
  - ④ 黄褐色スコリア質土 第18層に相当すると思われるスコリア塊である。硬質で0.2~0.5cmの黒色スコリア、0.1~0.2cmの赤色スコリアを含む。
  - ⑤ 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの橙色スコリア、黒色スコリアを含む。0.2cmの青灰色スコリアを若干含む。
  - ⑥ 茶褐色スコリア質土 ⑤に類似するが、やや橙色スコリアの頻度が増す。色調も若干明るくなる。
  - ⑦ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの橙色スコリア、0.2~0.7cmの黒色スコリアを含む。0.2~0.4cmの赤色スコリアを少量含む。
  - ⑧ 橙色スコリア質土 0.2~0.4cmの橙色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。0.2cmの黄色スコリアを少量含む。
  - ⑨ 黄茶褐色スコリア質土 ⑦に類似するが若干色調が明るくなり、黒色スコリアの頻度がやや増す。
  - ⑩ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの黒色スコリアを多く含み、0.2~0.4cmの橙色、赤色スコリアを含む。SC III s 4直下のスコリア層（第18層）に類似する。
  - ⑪ 明褐色ローム質土 中部ローム層中に特徴的に見られる0.1~0.3cmの赤色スコリア（ペアスコリア）を多く含み、0.1~0.2cmの黒色スコリアを若干含む。
  - ⑫ 暗褐色ローム質土 0.2~0.4cmの橙色、黒色スコリアを含む。黒色の粘性土がラミナ状に入れる。
  - ⑬ 暗黄褐色ローム質土 ⑫に似るがスコリアの割合が低下し、軟らかい。黒色粘性土もほとんど見られなくなる。
  - ⑭ 暗茶褐色ローム質土 土質は⑫に似るが粘性土は見られない。
  - ⑮ 暗褐色ローム質土 0.2~0.4cmの黒色スコリアを含み、橙色スコリアを少量含む。



第79図 3号土坑図 (1/20)

4号土坑 (第80図)

遺跡の南西I-16グリッド北部で検出された。検出面はSC III b1直下で、長径101cm、短径86cm、深さ97cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。5号土坑の直近、約50cmのところに構築されている。

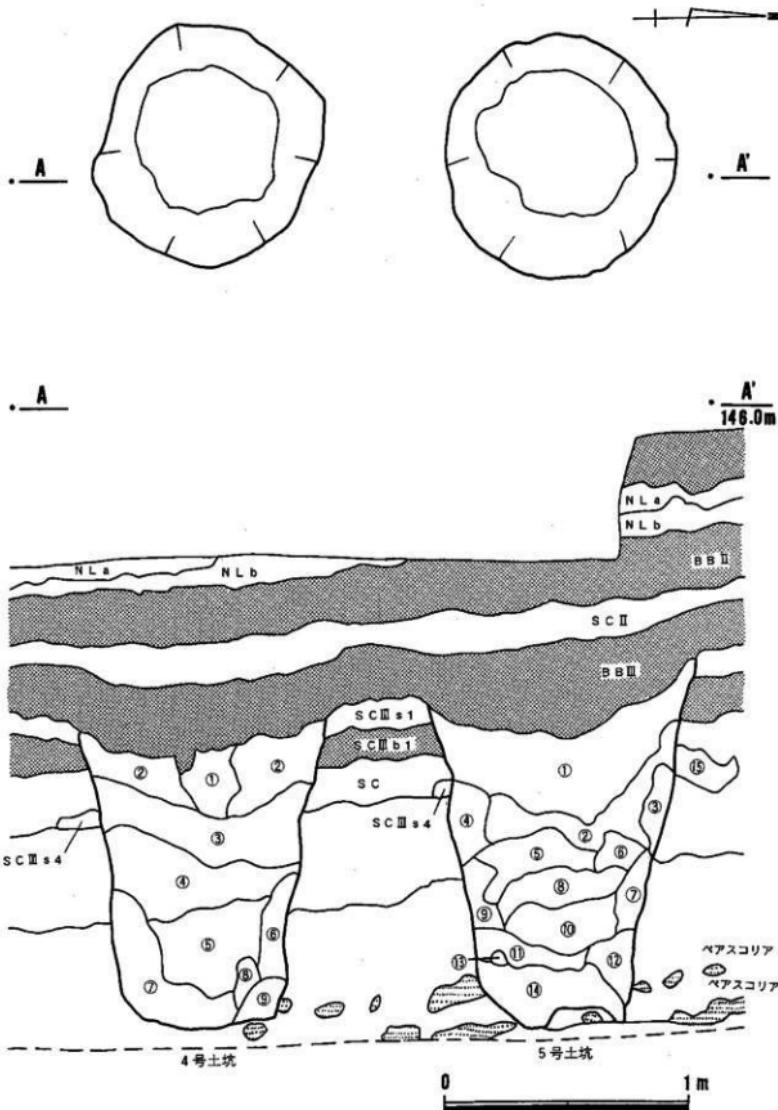
〈覆土〉① 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2~0.8cmの黒色スコリアを含む。

- ② 黒褐色ローム質土 0.2~0.4cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを若干含む。締まりが悪く崩壊し易い。BB III層に相当。
- ③ 黒褐色スコリア質土 ①に類似するが橙色、赤色スコリアが多くなり、黒色スコリアの径が小さくなる。黒色も強くなり、BB III層に相当すると考えられる。
- ④ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの橙色、赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。
- ⑤ 褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.3~0.8cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当すると考えられるスコリア層が混在する。
- ⑥ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。⑦に類似するが締まりは良くない。
- ⑦ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの橙色、赤色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。第18層の黄褐色スコリア質土に相当するとと思われる。
- ⑧ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、黒色、橙色スコリアを含む。SC III s 4に相当。
- ⑨ 暗黄褐色スコリア質土 ⑦に類似するが色調は若干暗く、硬度が落ちる。

#### 5号土坑(第80図)

I-16グリッド北部に位置し、4号土坑の直近で検出された。検出面はSC III s 4上面で、長径102cm、短径94cm、深さ101cmを測る。平面形は正円に近く、断面形は、開口部付近が朝顔状に開く。

- (覆土) ① 黒褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.3~1.0cmの黒色スコリアを含む。BB III層相当。
- ② 暗褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.3~0.6cmの黒色スコリアを含む。黒色の発色は弱いが、BB III層に相当すると考えられる。
- ③ 褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ④ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。硬質でSC III層に相当するとと思われる。
- ⑤ 黒褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ⑥ ②と③の混土。やや締まりに欠ける。
- ⑦ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層のスコリア質土に類似する。
- ⑧ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。
- ⑨ 褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。
- ⑩ 暗褐色スコリア質土 0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層相当の土が混在する。
- ⑪ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.1~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層相当の土がベースになる。
- ⑫ 褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。
- ⑬ 黄褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色、黒色スコリアを含む。
- ⑭ 褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。
- ⑮ 暗褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリアを含む。SC III層相当の土だが脆い。スコリアの小塊が混在する。



第60図 4号・5号土坑図 (1/20)

#### 6号土坑（第81図）

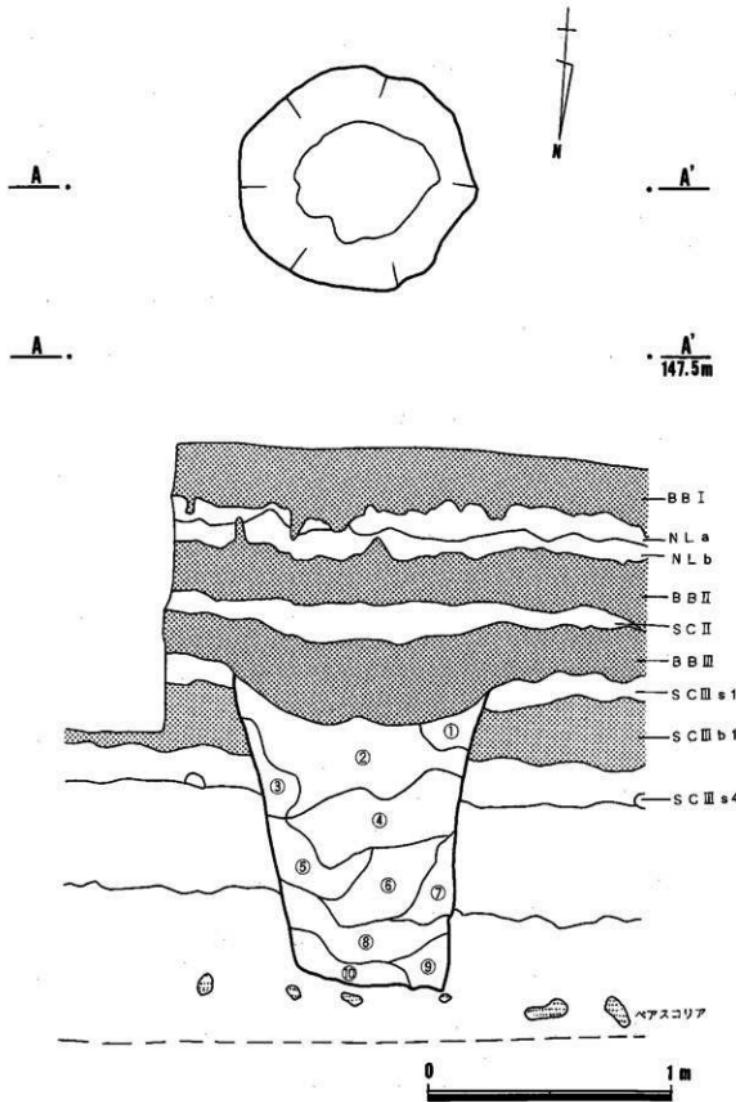
遺跡の北西I-17グリッド東部から検出された。検出面はSC III b1直下で、長径97cm、短径91cm、深さ100cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が緩やかに外に開く。

- （覆土）① 暗褐色ローム質土 0.1~0.3cmの赤色、橙色スコリアと0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。
- ② 黒褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.3~0.7cmの黒色スコリアを含む。黒色の発色が弱く、縮まりもあり良くないがBB III層に相当すると思われる。
- ③ 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色、黒色スコリアを含む。
- ④ 黒褐色スコリア質土 ②に類似するが縮まりがあり、色調は若干明るい。
- ⑤ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの赤色、黒色スコリアを含む。SC III層相当の土がベースとなる。
- ⑥ 黑褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。硬質でSC III層に相当するスコリアのブロックが混在する。
- ⑦ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当。
- ⑧ 黄褐色スコリア質土 ⑦に類似するが、色調はやや明るく、黒色スコリアの径がやや小さくなる。
- ⑨ 黄褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。第18層のスコリア質土上位の土に相当すると思われる。
- ⑩ 褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。

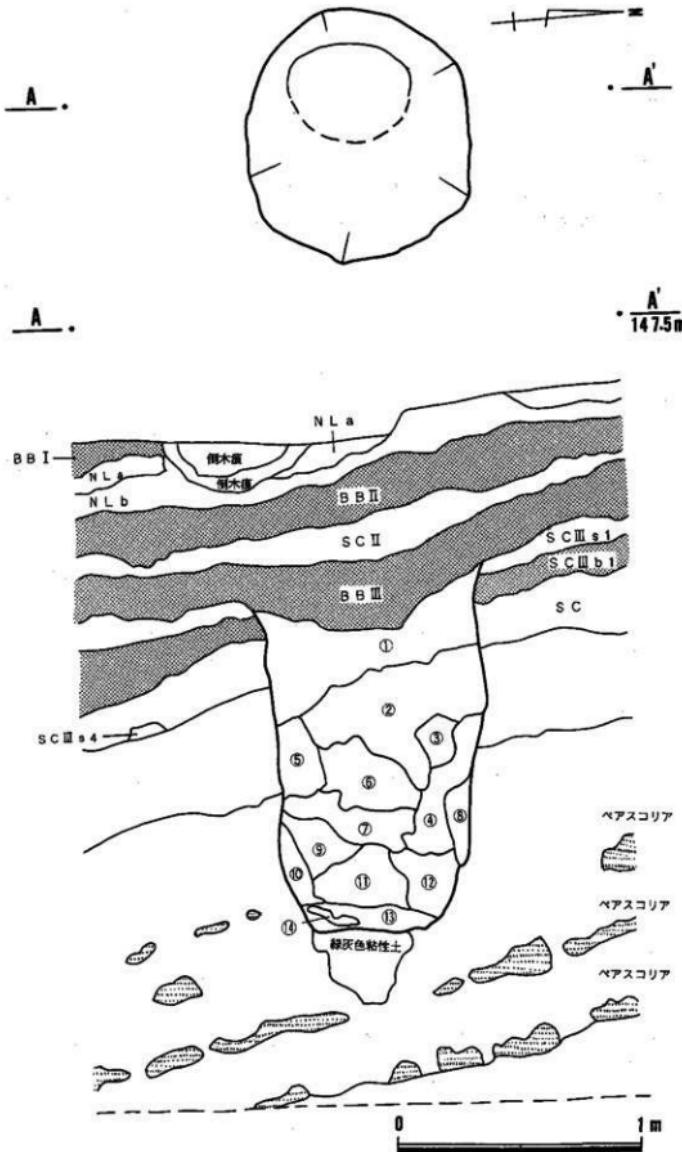
#### 7号土坑（第82図）

調査区北西I-17グリッドの北部で検出された。検出面はSC III b1直下で、長径105cm、短径92cm、深さ127cmを測る。平面形は円形に近く、断面形は開口部付近が若干外に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。半裁の段階で、土坑底部以下にある緑灰色粘性土の下部を底面と考えたが、断面観察の結果、底面は⑬層下部であることが判った。したがって、底面東側は正確に実測できていない。

- （覆土）① 黒褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.6cmの黒色スコリアを含む。やや黒色の発色が悪いが、BB III層に相当すると考えられる。
- ② 暗褐色スコリア質土 0.2~0.7cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。BB III層に相当すると思われるが、やや硬質である。
- ③ ②をベースに④が混在する。
- ④ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色、黒色スコリアを含む。第18層に相当するスコリア質土であると考えられる。
- ⑤ 暗褐色スコリア質土 ②に類似するが、黒色が強く、脆弱である。
- ⑥ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。硬質である。
- ⑦ 暗黄褐色スコリア質土 一部に⑥を含むが、SC III層相当のスコリア質土がベースである。0.2~0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。
- ⑧ 茶褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層の下位に相当すると思われる。
- ⑨ 暗黄褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。
- ⑩ 茶褐色ローム質土 ⑧に類似するが、黒色スコリアの径が小さくなる。



第81図 6号土坑図 (1/20)



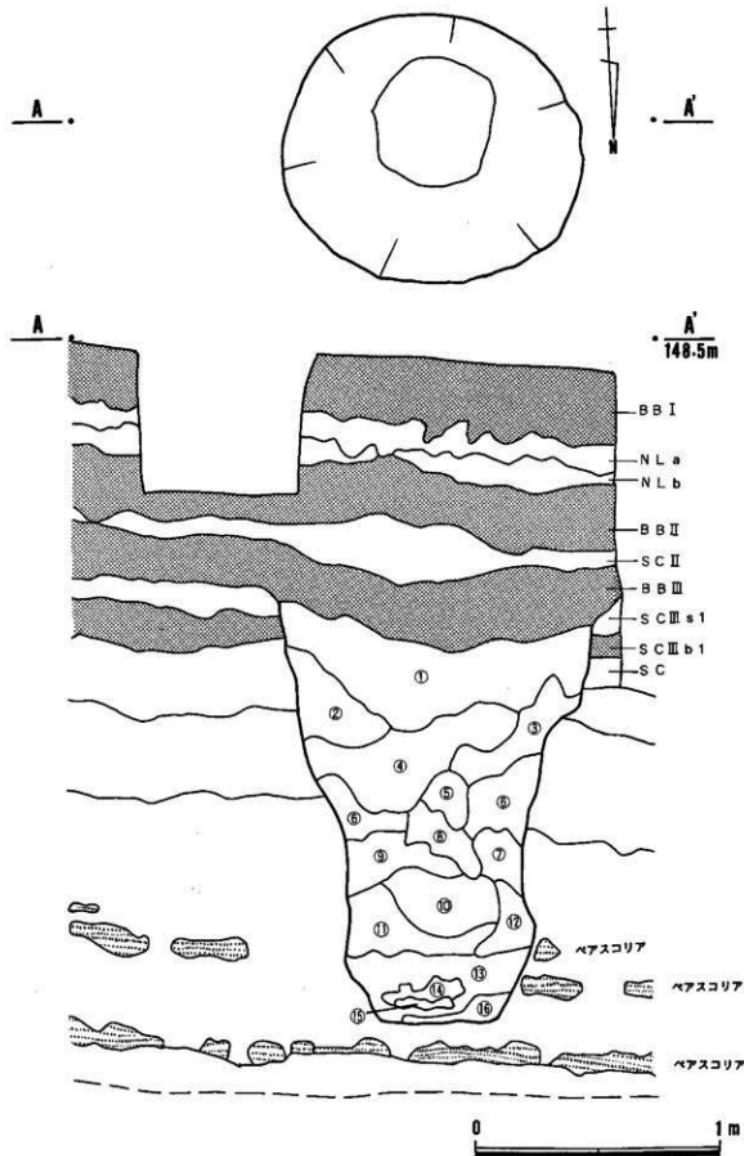
第82図 7号土坑図 (1/20)

- ⑪ 暗褐色ローム質土 0.1~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。下部は脆い。
- ⑫ 褐色ローム質土 0.1~0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。土質は⑪に似る。
- ⑬ 暗褐色ローム質土 ⑪に類似したローム質土をベースに、灰白色粘性土を中心含む。
- ⑭ 黒色粘性土 0.2~0.3cmの赤色スコリアを少量含む。

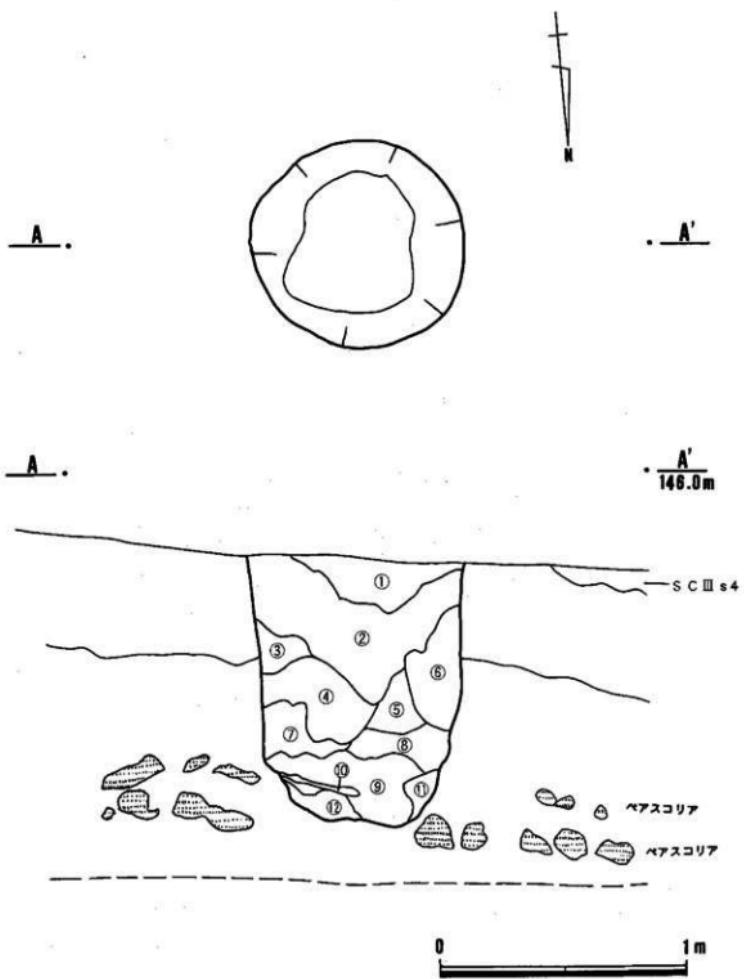
#### 8号土坑（第83図）

調査区東側K-17グリッド北東部で検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径124cm、短径111cm、深さ136cmを測り、検出された土坑の中では最大規模である。平面形はやや橢円状を呈し、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- （覆土）① 暗黒褐色スコリア質土 0.1~0.4cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。0.1~0.2cmの白色バミスを少量含む。黒色の発色が強くBB III層に相当する。
- ② 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当するとと思われる。
- ③ 暗褐色スコリア質土 ②に類似するが、赤色、橙色スコリアの含有量が多い。
- ④ 黑褐色スコリア質土 0.2~0.8cmの橙色スコリア、0.1~0.3cmの赤色スコリアを含み、0.3~0.7cmの黒色スコリアを含む。BB III層に相当するとと思われるが、黒色がやや弱い。
- ⑤ 暗褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを若干含む。
- ⑥ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.8cmの黒色スコリア、0.2~0.3cmの赤色、橙色スコリアを含む。SC III層相当の土が混在する。
- ⑦ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの黒色スコリア、0.2~0.4cmの赤色スコリアを含む。壁際は壁の崩落土と思われる第19層のローム質土が見られる。
- ⑧ ⑤と⑥の混土。⑥がベース。
- ⑨ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~1.0cmの黒色スコリア、0.2~0.3cmの赤色スコリアを含む。黄白色のバミスの小塊が、板状に若干量含まれる。
- ⑩ 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.7cmの黒色スコリア、0.1~0.3cmの赤色スコリアを含む。黄白色のバミスの小塊が、板状に若干量含まれる。
- ⑪ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.7cmの黒色スコリア、0.1~0.3cmの赤色スコリアを含む。SC III層に相当すると考えられる。
- ⑫ 茶褐色ローム質土 0.2~0.3cmの黒色スコリア、0.2~0.4cmの赤色スコリアを含む。第19層に相当すると考えられる。
- ⑬ 褐色粘性土 0.2~0.4cmの黒色スコリア、0.2~0.4cmの赤色スコリアを含む。土坑の埋積過程において一時溜水状態にあったことを示す鉄錆色の酸化鉄のラインが、土坑壁から底部にかけて走る。
- ⑭ 青灰色粘性土 粘性が強く、0.2cmほどの赤色、黒色スコリアを少量含む。一部茶色に変色している箇所もある。
- ⑮ 黒色粘性土 0.2cmの黒色、赤色スコリアを若干含む。
- ⑯ 黄褐色ローム質土 0.2~0.3cmの黒色スコリアを含み、0.2cmの赤色スコリアを若干含む。第18層下位の土に相当するとと思われる。



第83図 8号土坑図 (1/20)



第84図 9号土坑図 (1/20)

## 9号土坑（第84図）

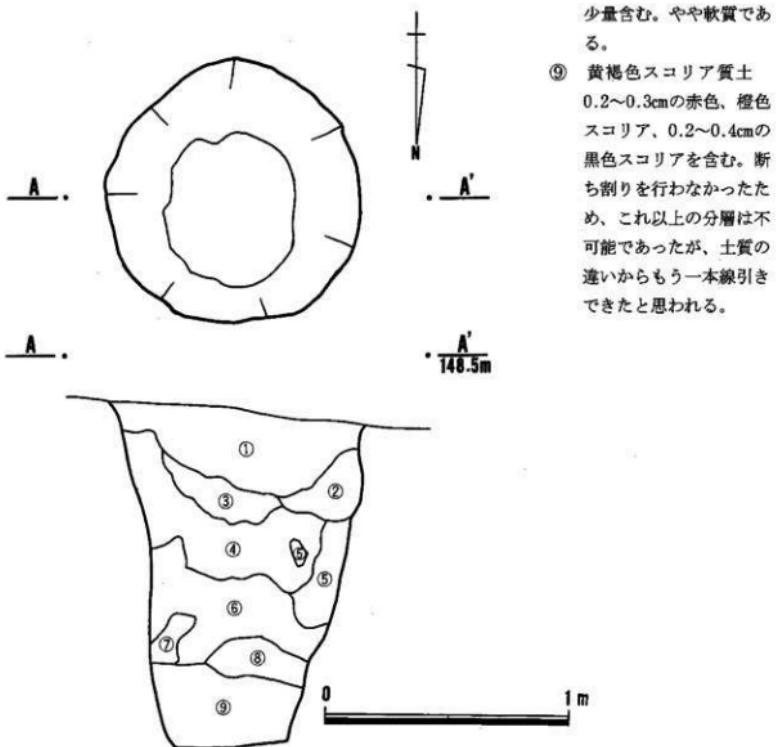
調査区東側K-16グリッドで検出された。検出面はSC III s 4上面で、長径91cm、短径84cm、深さ107cmを測る。平面形はほぼ正円で、断面形はほとんど垂直に近く立ち上がる。

- （覆土）① 暗黒褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、橙色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含むが、黒色スコリアの割合が他の土坑に比較して低い。BB III層に相当する。
- ② 黒褐色スコリア質土 ①に類似するが、赤色、橙色スコリアの量が減少し、黒色スコリアの量が増す。BB III層相当。
- ③ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。⑥に比べやや硬質である。SC III層相当。
- ④ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含むが、赤色スコリアの頻度は高くなない。
- ⑤ 褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。
- ⑥ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。③に類似する。
- ⑦ 暗黄褐色ローム質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。第18層下位に相当すると思われる。
- ⑧ 暗黄褐色ローム質土 ⑦に類似するが色調が若干暗い。
- ⑨ 暗褐色粘性土 0.1~0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。青灰色や鉄錆色に変色している箇所が上層に見られる。
- ⑩ 黒色粘性土 0.2cmの黒色、赤色スコリアを若干含む。
- ⑪ 黄褐色ローム質土 0.2~0.6cmの黒色スコリアを含み、0.1~0.2cmの赤色スコリアを若干含む。SC III層相当。
- ⑫ 黄褐色ローム質土 0.2cmの黒色スコリア、0.1~0.3cmの赤色スコリアを含む。第19層のローム質土に相当すると考えられる。

## 10号土坑（第85図）

調査区の北端K-18グリッド西部から検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径108cm、短径103cm、深さ139cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が緩やかに外へ開く。

- （覆土）① 暗黒褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.3~0.8cmの黒色スコリアを含む。0.1~0.2cmの白色バミスを少量含む。BB II層に相当する。
- ② 暗茶褐色ローム質土 0.2~0.4cmの赤色、黒色、橙色スコリアを含む。
- ③ 黑褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを少量含む。
- ④ 暗茶褐色スコリア質土 ②と③の混土と思われる。②より若干軟質で、スコリアの含有量がやや減る。
- ⑤ 暗黄褐色ローム質土 第18層下位の土に相当すると思われる。0.2~0.4cmの赤色、黒色スコリアを含む。やや粘性有り。
- ⑥ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.3~0.5cmの黒色スコリアを含む。⑤に類似する黄褐色のローム塊が混在する。
- ⑦ 黄褐色ローム質土 ⑤に類似するが、スコリアの含有量が少ない。土色も若干明るい。
- ⑧ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.6cmの黒色スコリアを含み、0.2~0.3cmの赤色スコリアを



第85図 10号土坑図 (1/20)

#### 11号土坑 (第86図)

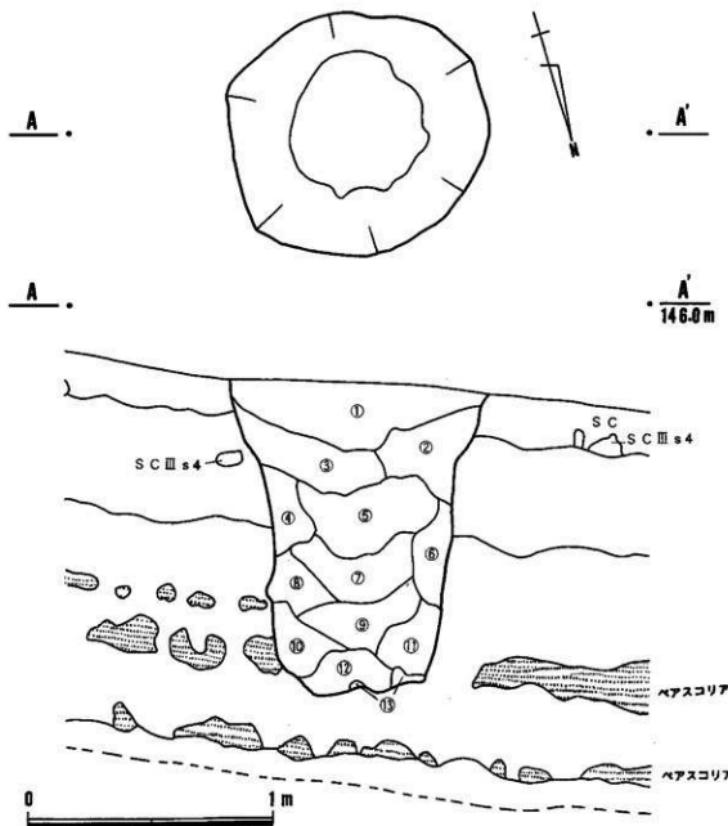
調査区南側K-15グリッド南部から検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径111cm、短径98cm、深さ128cmを測る。平面形は円形に近く、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- （覆土）① 黒褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを多く含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。BB III層相当。
- ② 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.6cmの黒色スコリアを含む。
- ③ 暗褐色スコリア質土 ②に類似するが、やや硬質で色調は若干暗い。
- ④ 暗黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当するとと思われる。硬質である。
- ⑤ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。②に類似するが、赤色スコリアの量は減少する。

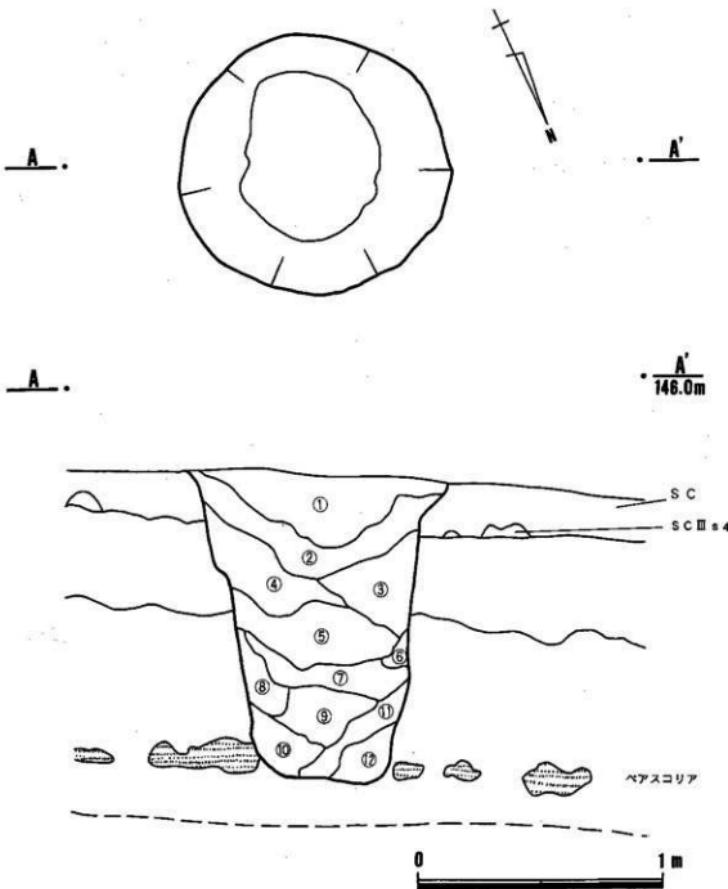
少量含む。やや軟質である。

- ⑥ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色、橙色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。断ち割りを行わなかったため、これ以上の分層は不可能であったが、土質の違いからもう一本線引きできたと思われる。

- ⑥ 暗黄褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。第18層下位の土に相当。
- ⑦ 褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ⑧ 褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。一部⑦の土が入る硬質な部分もある。
- ⑨ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。下部には⑩が混在する。
- ⑩ 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位の土に相当。
- ⑪ 黄褐色ローム質土 ⑩に類似するが、土色は若干明るい。
- ⑫ 褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ⑬ 黒色粘性土 0.1~0.2cmの赤色スコリアを若干含む。



第86図 11号土坑図 (1/20)



第87図 12号土坑図 (1/20)

#### 12号土坑(第87図)

調査区南端K-14グリッド南部から検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径112cm、短径106cm、深さ125cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- (覆土) ① 黒褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。BB III層に相当する。
- ② 暗褐色ローム質土 0.2~0.4cmの赤色スコリアを少量含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。

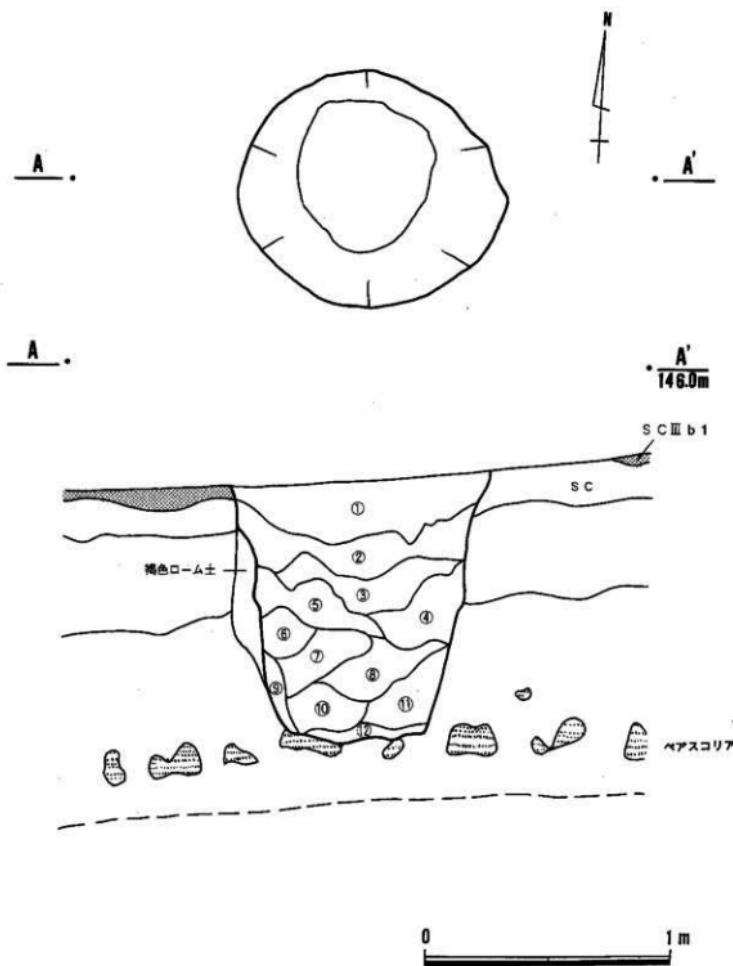
- ③ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ④ 暗褐色ローム質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.3cmの黒色スコリアを少量含む。
- ⑤ 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。
- ⑥ 黄褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリアを少量含み、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当。
- ⑦ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ⑧ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当する黄褐色のスコリア塊が混じる。
- ⑨ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層をベースに⑦が混じる。
- ⑩ 黄褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位の土に相当すると思われる。
- ⑪ 銀い黄褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。やや縮まりに欠ける。
- ⑫ 暗黄褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。底部に黑色粘性土を若干含む。

#### 13号土坑（第88図）

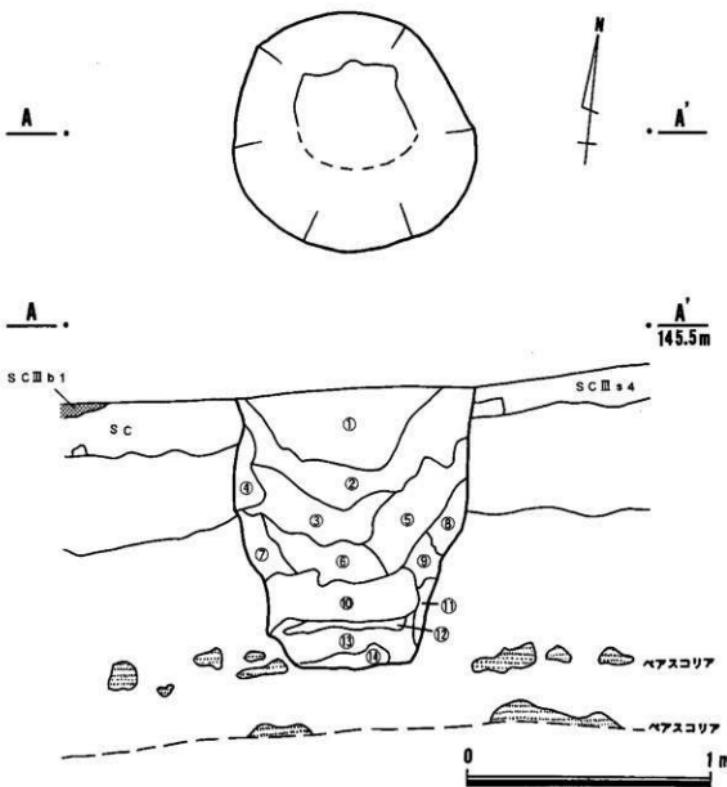
調査区北西I-17グリッドの中央付近から検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径111cm、短径96cm、深さ106cmを測る。平面形はやや楕円状で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- （覆土）① 暗黒褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの橙色、赤色スコリアを多く含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。BB III層に相当する。
- ② 黑褐色スコリア質土 ①に類似するが、赤色、橙色スコリアの量が減少し、黒色の発色が弱くなる。
- ③ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリアを含む。
- ④ 茶褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当する土が混在する。
- ⑤ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。
- ⑥ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。
- ⑦ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。④に類似する。
- ⑧ 黑褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。やや縮まりがない箇所もある。
- ⑨ 暗褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリアを含み、0.1~0.2cmの黒色スコリアを少量含む。
- ⑩ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。下部に黑色土を少量含む。
- ⑪ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。

⑫ 茶褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、黒色スコリアを含む。



第88図 13号土坑図 (1/20)



第89図 14号土坑図 (1/20)

#### 14号土坑（第89図）

I-17グリッド南よりから検出された。検出面はSC III b 1直下で、長径106cm、短径94cm、深さ116cmを測る。平面形は円形に近く、断面形は開口部付近が緩やかに外に開く。底部付近の覆土が第19層に相当するローム土であり、地山と分離することが困難であったため、半段階で掘り過ぎている。したがって、底面の南側は正確に実測できていない。

- （覆土）① 黒褐色スコリア質土 0.2~0.5cmの赤色、橙色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含み、0.1cmの白色バミスを若干含む。BB III層に相当する。
- ② 暗茶褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。やや軟質で、脆い箇所もある。
- ③ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの赤色、橙色スコリア、0.3~0.8cmの黒色スコリアを含む。硬質である。

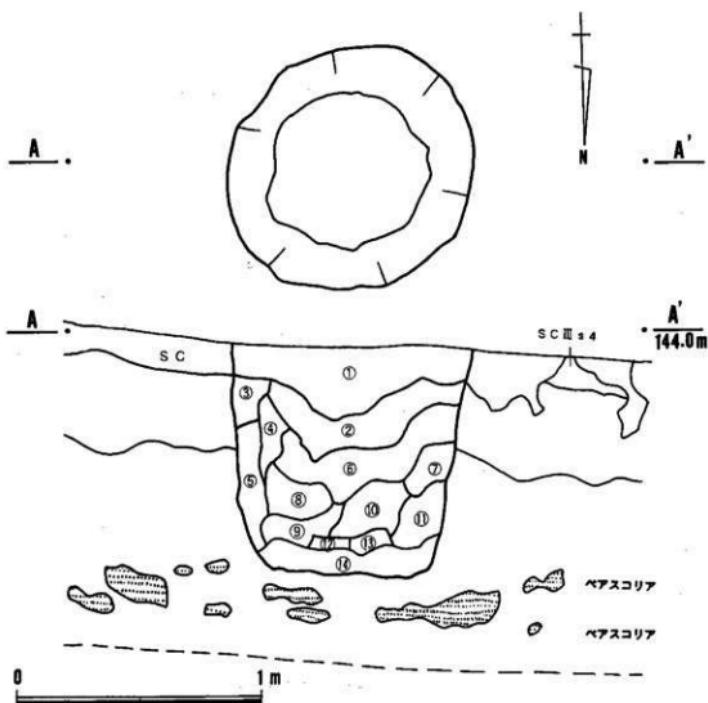
- ④ 暗黄褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。第18層下位のローム土に相当すると思われる。
- ⑤ 暗茶褐色スコリア質土 ②に類似するが、赤色、橙色スコリアの量が少なく、土色が若干明るい。
- ⑥ 暗黄茶褐色スコリア質土 ⑤をベースに暗黄褐色スコリア質土が混じる。
- ⑦ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位のロームに相当する。
- ⑧ 暗茶褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。
- ⑨ 暗褐色ローム質土 0.2~0.4cmの黒色スコリアを含み、0.1cmの赤色スコリアを少量含む。
- ⑩ 暗褐色スコリア質土 ③に類似するが、色調がやや明るい。
- ⑪ 暗褐色ローム質土 0.1~0.2cmの黒色スコリア、0.1~0.3cmの赤色スコリアを少量含む。
- ⑫ 青灰色ローム質土 0.1~0.2cmの黒色、赤色スコリアを含む。一時期溜水状態にあったことを示す鉄錆色に変色した箇所が上部に見られる。土質は⑬に類似。
- ⑬ 明褐色ローム質土 0.1~0.2cmの黒色、赤色スコリアを含む。第19層のロームに相当すると考えられる。
- ⑭ 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.1~0.3cmの黒色スコリアを含む。

#### 15号土坑（第90図）

調査区南西端I-15~16グリッドにかけて検出された。検出面はSC III b1直下で、長径107cm、短径95cm、深さ95cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形はコップ状である。

- 〈覆土〉 ① 暗褐色ローム質土 0.2~0.4cmの赤色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを少量含む。締まりがなく崩壊しやすい。BB III層相当。
- ② 黒褐色ローム質土 ①に類似するが、土色は若干明るい。多少締まりは出てくる。
  - ③ ④をベースに①が混じる。
  - ④ 暗茶褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層相当。
  - ⑤ 暗黄褐色ローム質土 0.2~0.3cmの赤色、黒色スコリアを含む。締まりがなく崩壊しやすい。第19層に相当すると思われるローム土が下部に入る。
  - ⑥ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.3~0.4cmの黒色スコリアを含む。0.2~0.3cmの黄色スコリアを極少量含む。
  - ⑦ 暗黄褐色ローム質土 ⑤に類似するが、締まりはある。第18層に相当すると考えられる。
  - ⑧ 暗黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.4cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当すると思われる。
  - ⑨ 暗褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。
  - ⑩ 褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの赤色スコリア、0.2~0.6cmの黒色スコリアを含む。SC III層相当。
  - ⑪ 黄褐色ローム質土 0.1~0.3cmの赤色スコリア、0.1~0.4cmの黒色スコリアを含む。第19層に相当する。
  - ⑫ 黒色粘性土 0.2~0.3cmの黒色、赤色スコリアを含む。粘性は強くない。
  - ⑬ 暗褐色ローム質土 ⑨に類似する。
  - ⑭ 暗褐色粘性土 0.2~0.5cmの黒色スコリア、0.1~0.3cmの赤色スコリアを含む。青灰色粘

性土を含み、上層に鉄錆色の変色箇所が見られる。

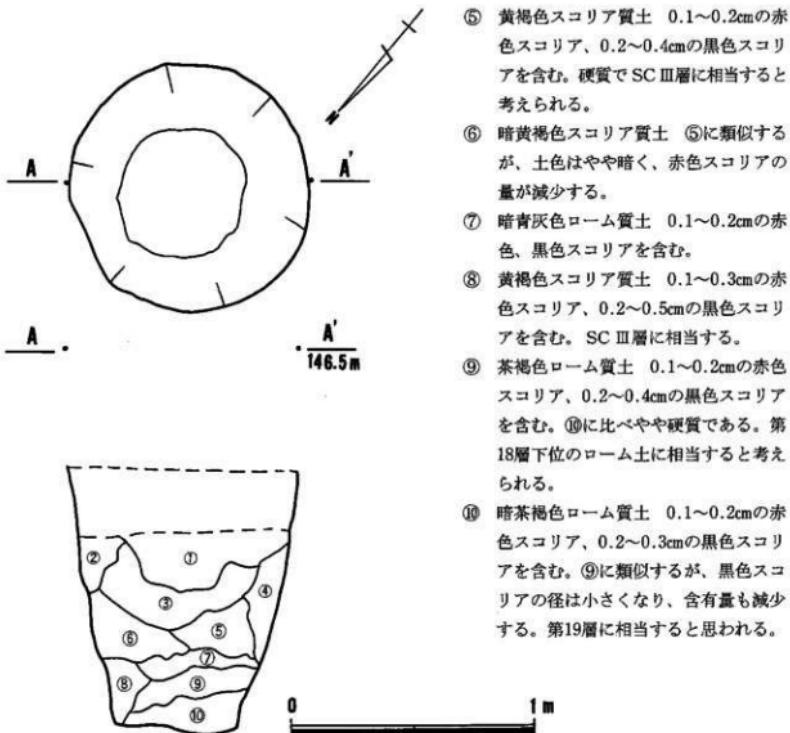


第90図 15号土坑図 (1/20)

#### 16号土坑（第91図）

3区の北西J-11グリッド北部から検出された。検出面はSC III s 4上面で、長径104cm、短径94cm、深さ109cmを測る。平面形はほぼ円形で、断面形はコップ状である。覆土上層約30cmは、調査上の時間的制約から、断面の観察を断念せざるをえなかったため実測はできていないが、掘削時の土質観察によりBB III層に相当する土が堆積していたことを確認している。

- （覆土）① 暗茶褐色スコリア質土 0.1~0.3cmの赤色、橙色スコリアを含み、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。BB III層相当。
- ② 暗褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.5cmの黒色スコリアを含む。BB III層相当。
- ③ 暗褐色スコリア質土 ①と②の混土。①をベースとする。
- ④ 褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層下位のローム土に相当すると考えられる。

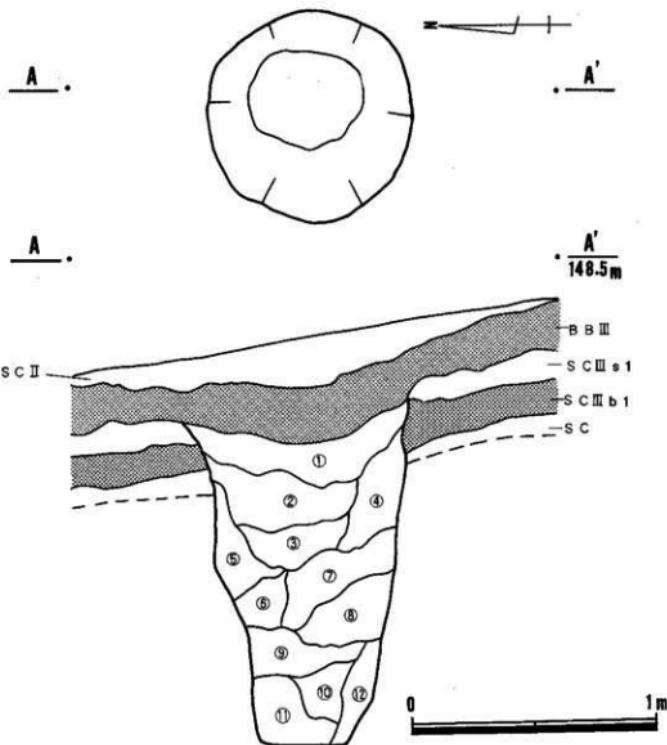


第91図 16号土坑図 (1/20)

#### 17号土坑 (第92図)

3区北西のJ-11～K-11グリッドにかけて、セクションベルトにかかるかたちで検出された。検出面はSC III s4上面で、平面形はほぼ円形で、断面形は開口部付近が朝顔状に開く。

- (覆土) ① 暗黒褐色ローム質土 0.2～0.3cmの黒色スコリアを含み、0.2～0.3cmの赤色、橙色スコリアを多く含む。BB III層に相当すると考えられる。
- ② 暗黒褐色スコリア質土 0.2～0.5cmの黒色スコリアを含み、0.2～0.4cmの赤色、橙色スコリアを含む。BB III層相当。
- ③ 暗黒褐色スコリア質土 ②に類似するが、黒色スコリアの頻度は低下する。
- ④ 暗茶褐色ローム質土 0.1～0.2cmの赤色、橙色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。
- ⑤ 茶褐色ローム質土 ④に類似するが、色調はやや明るく、黒色スコリアの頻度は低下する。
- ⑥ 暗黄褐色スコリア質土 0.1～0.3cmの黒色スコリア、0.1～0.2cmの赤色スコリアを含む。
- ⑦ 黄褐色スコリア質土 0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。硬質でSC III層に相当すると考えられる。
- ⑧ 暗黄褐色スコリア質土 ⑦に類似するが、土色はやや暗く、赤色スコリアの量が減少する。
- ⑨ 暗青灰色ローム質土 0.1～0.2cmの赤色、黒色スコリアを含む。
- ⑩ 黄褐色スコリア質土 0.1～0.3cmの赤色スコリア、0.2～0.5cmの黒色スコリアを含む。SC III層に相当する。
- ⑪ 茶褐色ローム質土 0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.4cmの黒色スコリアを含む。⑩に比べやや硬質である。第18層下位のローム土に相当すると考えられる。
- ⑫ 暗茶褐色ローム質土 0.1～0.2cmの赤色スコリア、0.2～0.3cmの黒色スコリアを含む。⑪に類似するが、黒色スコリアの径は小さくなり、含有量も減少する。第19層に相当するとと思われる。



第92図 17号土坑図 (1/20)

第18層に相当すると思われる。

- ⑦ 棕褐色スコリア質土 0.1~0.5cmの黒色スコリア、0.1~0.2cmの赤色スコリアを含む。SC III層相当の土が混在する。
- ⑧ 黄褐色スコリア質土 0.2~0.4cmの黒色スコリアを多く含み、0.1~0.2cmの赤色スコリアを含む。第18層上部のスコリア質土に相当すると思われる。硬質である。
- ⑨ 暗黄褐色スコリア質土 ⑧に類似するが、色調はやや暗くなる。
- ⑩ 暗褐色スコリア質土 0.2~0.3cmの黒色スコリア、0.1~0.2cmの赤色スコリアを含む。SC III層相当の土が若干混じる。
- ⑪ 黄褐色スコリア質土 0.1~0.2cmの赤色スコリア、0.2~0.3cmの黒色スコリアを含む。第18層に相当すると考えられる。
- ⑫ 棕褐色ローム質土 0.1~0.2cmの赤色、黒色スコリアを少量含む。第19層上部のローム土に類似する。

表21 BBⅢ層土坑計測表

土坑番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	推定(cm)
1	105	99	113	(153)
2	97	89	102	(145)
3	107	90	109	(130)
4	101	86	97	(128)
5	102	94	101	(140)
6	97	91	100	(126)
7	105	92	127	(137)
8	124	111	136	(168)
9	91	84	107	(147)
10	108	103	139	(169)
11	111	98	128	(158)
12	112	106	125	(155)
13	111	96	106	(136)
14	106	94	116	(146)
15	107	95	95	(125)
16	104	94	109	(149)
17	88	84	106	(138)

以上17基の土坑の覆土を中心に述べてきたが、覆土は、上層はBBⅢ層に相当する黒褐色スコリア質土、中層はSCⅢ層相当の黄褐色・褐色スコリア質土、もしくはSCⅢ層と第18層に相当するスコリア質ローム層との混土、下層は第18層、もしくはSCⅢ層と第18層との混土の3層に大別でき、この覆土上部をSCⅡ層が被覆しているという状況である。このことから、埋積過程における人為的な痕跡は認められず、土坑は壁の自然崩落によって埋没したと考えられる。詳細については、後に発刊される『下原遺跡Ⅱ』に掲載する予定である。

また、前述した初音ヶ原遺跡群では、土坑の掘り込み面であると考えられるBBⅢ層からの石器の出土は皆無に等しかったのに対し、本遺跡並びに下原遺跡からは石器ブロックがそれぞれ1基検出されている。土坑の用途については、生活域から土坑の構築場所が離れている例と、直近にある例と二つの異なる調査報告があるため、今後慎重に検討していく必要がある。

## 第V章 調査の成果と課題

### 1 繩文時代

FB層は、1区は大半が、3区はFBa層が、それぞれ擾乱の影響を受け、消滅していた。遺物は、FBb層が良好に残存していた3区を中心出土している。土器は、型式分類が可能なものの中では、鶴ヶ島台式と諸磽式が多くを占める。復元できたのは、鶴ヶ島台式の1点にとどまる。石器は、磨石・敲石・石皿・台石が全体の36%を占める。このことから、住居跡が検出されていないことと合わせ、遺跡が植物加工の場であった可能性も指摘できる。

### 2 旧石器時代

休場層以下BB0層からBBII層までの各黒色帯において遺構・遺物が検出されている。休場層の石器は、一部に集中する箇所はあるものの、散在的に遺存することからブロック単位の把握はしなかった。石器の石材のうち44%を占める黒耀石については、箱根系の烟宿産のものが最も多く、全体の80%を占め、剥片剥離作業が行われたと考えられる地点が1箇所確認されている。石核の出土は見られないため、遺跡外に持ち出されたと考えられる。烟宿産以外の黒耀石については、剥片剥離が行われた痕跡は認められないため、製品・剥片として搬入されたと考えられる。黒耀石に次ぐ石材として選択されている頁岩は、石核の点数が10点と多く、3区の北西部に集中して出土している。遺跡内では剥片剥離は行われていないため、石核を遺跡外に持ち出し、剥片剥離を行った後、再度遺跡内に持ち込まれたと考えるのが妥当だと思われる。各黒色帯から出土した石器については、黒色帯ごと出土点数は異なるが、器種には大きな差異は認められない。剥片剥離が行われた痕跡は認められず、石器は製品・剥片として遺跡内に持ち込まれている。石材は、黒耀石と頁岩が主体である。黒耀石は、BB0層、BBI層、BBII層では、箱根系と信州系が搬入されているが、BBIII層では箱根系の搬入ではなく、信州系の霧ヶ峰産と蓼科産に限られるのが特徴である。

遺構は、BBII層中に掘り込み面を持つと考えられる17基の土坑が注目される。土坑は、形状や深度が類似する他、規則性をもって配列されていることなどから、同時期に構築されたものと考えられる。これらの土坑は、検出当初陥し穴、貯蔵穴、上墳墓などの機能が考えられたが、覆土を検討した結果、自然堆積により埋没している状況が窺えたため、上墳墓としての機能は否定された。陥し穴と貯蔵穴の機能を考えた場合、土坑底部には、縄文時代の陥し穴に見られる逆茂木痕は検出されないが、規模と直線状の規則性を持った配列から、陥し穴としての機能をもっていた可能性が高い。しかし、陥し穴とする根拠にはやや乏しく、また、土坑の直近からは石器ブロックが検出されていることから、積極的な所見にはしにくいことも事実である。『下原遺跡II』では、縄文時代草創期の陥し穴と、旧石器時代の土坑の全国・県下集成の中で、構造や配置形態等を探りつつ、愛鷹・箱根のBBIII層の石器群の集成も絡めながら、土坑の性格付けを行っていく予定である。

なお、1区と3区に挟まる農道部分は、東駿河湾環状道の取り付け道路になる予定である。したがって、工事に着手する際には、土坑の連続性から考えて、新たな土坑が検出される可能性があるため、追加調査を実施する必要がある。



# 出土石器一覽表



グリッド	遺物番号	層位	石材	側体別	器種	最大長cm	最大横長cm	最大厚cm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m	
I17	1	便孔	石英安山岩	砾石	石器	117.0	76.0	78.0	885.0	80.62	37.78	147.258	
I17	2	便孔	輝石安山岩	砾石	石器	41.0	95.0	21.0	126.0	89.88	35.93	147.986	
I18	1	便孔	輝石安山岩	砾石・削石	石器	101.0	88.0	61.0	846.0	90.39	36.79	148.043	
I18	2	便孔	輝石安山岩	砾石	石器					90.36	36.67	148.052	
J12	2	FB	輝石安山岩	石器	石器	324.0	286.0	113.0	17580.0	34.43	41.46	148.238	
J12	3	FB	通過層質安山岩	石器	石器	120.0	124.0	46.5	960.0	34.73	41.29	148.56	
J12	4	FB	玄武岩	砾石	石器	101.0	72.5	60.0	580.0	35.28	47.77	148.986	
J12	5	FB	輝石安山岩	砾石	石器	107.0	135.0	44.0	890.0	49.79	148.821		
J15	2	YLU	輝灰安山岩	尖端器	石器	136.5	38.0	14.0	53.9	87.62	43.62	145.889	
J16	14	YLU	黒曜石	KRM-4	石器	(12)	(9)	(2.5)	(0.1)	77.08	41.51	146.932	
J16	1	YLU	直上	黒曜石	WDT-4	石器	20.0	16.0	5.5	1.0	76.06	47.72	147.72
J17	6	YLU	黒色緻密安山岩	有舌尖器	石器	70.5	13.0	4.5	3.7	82.82	41.56	147.875	
K10	1	FB	頁岩	石核	石核	30.0	66.0	72.0	178.4	19.03	59.98	152.021	
K10	2	FB	輝石安山岩	磨石	石器	119.0	97.0	57.0	850.0	17.30	58.16	152.398	
K11	2	FB	石英安山岩	砾石・凹面	石器	108.5	54.5	58.0	413.4	20.93	50.87	151.03	
K11	3	FB	黒曜石	KOZI-3	刮削	20.0	16.5	9.5	3.5	20.82	52.85	151.597	
K11	4	FB	玄武岩	砾石	石器	111.0	93.0	74.5	1115.0	20.28	53.44	152.122	
K11	5	FB	玄武岩	砾石	石器	108.0	86.0	58.0	740.0	29.69	53.70	150.18	
K11	6	FB	輝石安山岩	砾石・磨石	石器	100.0	79.0	50.0	597.1	28.82	58.54	152.411	
K11	8	FB	頁岩	石芯	石器	57.0	73.5	12.0	90.8	25.73	58.19	151.193	
K11	9	FB	輝石安山岩	磨石	石器	76.0	38.5	30.0	135.3	28.27	53.99	150.417	
K12	2	FB	多孔質安山岩	台石	刮削	253.5	226.0	85.0	8200.0	33.30	55.44	149.855	
K12	3	FB	黒曜石	WDT-3	側刃器	24.0	18.0	9.0	3.0	35.12	50.55	149.208	
K12	5	FB	黒色緻密安山岩	刮削	42.0	34.0	16.0	12.3	38.89	67.91	149.781		
K15	4	YLU	直上	玄武岩	有舌尖器	52.0	14.5	9.0	5.7	88.84	50.73	147.165	
K16	20	便孔	玄武岩	砾石	石器	108.0	72.0	38.0	364.8	76.32	63.84	148.287	
K17	1	FB	黒曜石	細定不能	砂片	10.0	3.5	1.0	0.0	86.42	56.42	149.798	
K17	2	FB	黒曜石	KOZI-1	砂片	11.0	9.0	3.0	0.2	84.03	58.48	149.828	
K17	3	FB	黒色緻密安山岩	砂片	32.0	15.0	7.0	2.5	84.46	58.82	149.84		
K17	4	FB	頁岩	砂片	46.0	26.0	10.0	11.5	83.09	58.34	149.896		
K17	5	FB	黒色緻密安山岩	砂片	17.0	16.5	8.0	1.5	84.35	58.23	149.755		
K17	6	FB	黒曜石	HTJ-3	砂片	11.0	8.0	2.5	0.1	81.79	57.19	149.444	
K17	7	FB	多孔質玄武岩	磨石	石器	73.0	67.5	43.0	217.7	83.20	58.34	149.753	
K17	3	YLM	黒色緻密安山岩	有舌尖器	砂片	28.0	21.0	11.0	7.0	88.25	56.98	149.749	
L11	1	FB	頁岩	刮削	砂片	30.5	20.0	7.0	4.8	20.68	60.29	152.179	
L11	3	FB	黒色緻密安山岩	挿入器	砂片	60.0	81.5	24.5	55.9	21.18	63.26	152.331	
L11	4	FB	玄武岩	砾石	刮削	124.0	93.5	57.0	958.0	28.58	62.93	151.397	
L11	5	FB	輝石安山岩	砾石	刮削	99.0	89.5	45.0	479.1	21.18	69.58	152.541	
L11	6	FB	輝石安山岩	砾石	刮削	84.5	82.0	54.0	299.8	25.38	62.15	151.393	
L11	7	FB	頁岩	刮削	砂片	42.0	27.0	9.0	9.7	26.85	62.08	151.097	
L11	8	FB	輝石安山岩	砾石・凹面	砂片	106.5	83.0	55.0	820.0	26.89	62.57	151.095	
L11	9	YLU	頁岩	有舌尖器	砂片	30.0	14.5	8.0	1.8	23.56	69.33	151.194	
L12	2	FB	輝石安山岩	石器	刮削	232.5	276.5	85.0	7500.0	32.55	66.12	150.474	
L12	3	FB	黒曜石	KRM-4	刮削	26.0	15.0	6.0	1.2	37.10	61.24	149.93	
L12	4	FB	輝石安山岩	砾石・磨石	砂片	56.5	46.0	25.0	85.0	36.59	60.51	149.994	
L12	6	FB	黒曜石	KOZI-1-2	刮削	21.0	13.5	6.0	0.8	36.88	66.38	150.817	
L12	7	FB	黒曜石	KRM-1	刮削	20.0	15.0	3.0	0.7	32.49	69.09	151.412	
L12	8	FB	黒色緻密安山岩	砂片	57.0	39.0	7.0	10.7	34.06	67.31	150.75		
L12	9	FB	黒色緻密安山岩	有舌尖器	砂片	48.0	20.5	8.0	8.3	33.74	62.69	150.401	
L12	10	FB	黒色緻密安山岩	砂片	38.0	20.0	8.0	4.8	37.17	67.44	150.818		
L12	11	FB	黒色緻密安山岩	砂片	38.5	11.0	7.5	1.6	36.37	69.76	150.744		
L12	12	FB	頁岩	砂片	54.0	49.5	25.0	32.7	36.23	65.50	150.545		
L12	13	FB	玄武岩	U刮削	砂片	62.5	62.0	33.0	193.9	37.42	65.06	150.141	
L16	1	FB	黒曜石	KRM-3	砂片	23.5	15.5	5.5	1.2	73.39	61.55	149.554	
L16	2	FB	黒曜石	KRM-3	砂片	15.0	11.5	2.0	0.2	74.22	61.47	149.554	
L16	5	FB	黒曜石	HTJ-2	砂片	17.5	13.0	8.0	1.0	71.04	63.60	149.447	
L16	6	FB	頁岩	刮削	35.0	17.0	7.0	3.0	77.77	62.20	149.738		
L16	7	FB	輝石安山岩	磨石	砂片	57.0	60.0	33.0	74.2	70.83	61.60	149.427	
L16	8	FB	輝石安山岩	砾石	砂片	60.5	53.5	35.5	143.8	75.28	60.62	149.472	
L16	9	FB	輝石安山岩	砾石	砂片	79.5	56.5	36.0	203.2	71.59	61.32	149.333	
L16	10	FB	玄武岩	砾石	砂片	68.0	43.0	35.0	122.8	71.05	61.84	149.616	
L16	11	FB	赤鐵礦	石核	砂片	58.0	158.5	101.0	1420.0	77.58	62.28	149.651	
M11	1	YLU	頁岩	有舌尖器	砂片	43.0	16.5	5.5	2.9	26.05	78.01	152.516	
M12	1	FB	黒曜石	KSW-1	石核	23.0	(15.0)	4.0	(0.9)	35.90	72.05	151.459	
M12	3	FB	輝石安山岩	砾石	砂片	101.0	90.0	42.0	590.0	35.78	71.12	151.058	
M12	4	FB	角閃石質安山岩	合石	砂片	164.5	157.0	58.5	2450.0	33.18	70.12	151.058	
M12	5	FB	黒色緻密安山岩	砾石	砂片	34.0	50.0	17.5	14.5	34.72	77.16	151.928	
M12	6	FB	黒曜石	KRM-1	刮削	23.5	19.0	9.0	2.0	33.78	77.81	152.131	
M12	8	FB	黒色緻密安山岩	側刃器	砂片	32.0	40.5	18.0	19.2	36.82	74.02	151.46	
M12	9	FB	黒色緻密安山岩	石核	38.5	55.0	28.5	64.1	33.40	76.99	152.002		
M12	10	FB	黒色緻密安山岩	刮削	46.0	39.0	10.5	13.8	36.67	71.85	151.277		
M12	11	FB	黒色緻密安山岩	砂片	40.0	39.0	10.0	5.7	34.45	77.36	151.937		
M12	12	FB	黒曜石	細定不能	砂片	10.0	4.0	1.0	0.0	35.14	72.81	151.494	
M12	13	FB	黒色緻密安山岩	刮削	44.0	27.0	11.0	7.8	35.10	76.00	151.834		
M12	14	FB	黒色緻密安山岩	刮削	23.0	19.0	5.0	1.7	35.12	76.99	151.913		
M12	15	FB	黒色緻密安山岩	刮削	39.5	27.0	14.0	8.4	34.49	77.13	151.893		
M12	16	FB	黒曜石	石核?	22.0	12.0	4.5	0.8	33.22	73.55	151.81		
M12	17	FB	黒曜石	KOZI-3	刮削	24.5	22.0	7.0	2.2	34.38	75.15	151.796	

グリッド 通物番号	層位	石材	個別別	基準	最大幅長mm	最大横径mm	最大厚mm	重量 g	X座標m	Y座標m	標高m
M12 18	F B	黒色麻安山岩		剥片	35.0	30.0	14.0	13.3	33.58	75.54	151.631
M12 19	F B	黒色麻安山岩		剥片	19.0	25.0	8.0	3.8	35.48	75.24	151.573
M12 20	F B	黒曜石	KOZI-1	石礫	22.0	(16)	5.0	(0.7)	31.08	72.85	151.566
M12 21	F B	砂岩		巖石	81.0	77.5	42.0	296.5	31.45	73.82	151.809
M12 22	F B	黒曜石	KRM-3	剥片	14.0	11.0	4.0	0.4	31.49	75.72	151.912
M12 23	F B	黒色麻安山岩		楔形石器	32.0	38.0	14.0	14.7	34.86	75.01	151.532
M12 25	F B	黒色麻安山岩		剥片	35.0	19.5	11.0	3.7	34.72	73.71	151.416
M12 26	F B	黒色麻安山岩		剥片	44.0	39.0	19.0	24.3	34.42	77.51	151.371
M12 27	F B	黒色麻安山岩		剥片	40.5	25.0	18.5	8.2	34.49	77.58	151.856
M12 28	F B	黒色麻安山岩		剥片	38.0	22.0	15.0	8.6	34.22	77.59	151.926
M12 29	F B	黒色麻安山岩		剥片	40.5	18.0	7.0	2.7	34.34	77.48	151.802
M12 30	F B	黒色麻安山岩		剥片	42.5	19.0	9.5	8.1	34.21	77.19	151.771
M12 31	F B	玄武岩		巖石	149.0	86.5	54.0	890.0	33.28	75.92	151.789
M12 32	F B	輝石安山岩		巖石・巖石	110.0	98.0	44.0	694.0	33.49	78.03	151.848
M12 33	F B	黒色麻安山岩		剥片	49.0	23.0	13.0	12.7	34.39	77.78	151.745
M12 34	F B	黒色麻安山岩		剥片	25.0	21.0	5.0	2.3	33.84	77.71	151.744
M12 35	F B	黒色麻安山岩		剥片	58.0	34.0	16.0	23.8	34.29	77.89	151.726
M12 36	F B	輝石安山岩		剥片	74.0	47.0	24.5	86.5	32.91	78.58	151.799
M12 37	F B	真岩		剥片	41.0	37.0	10.0	14.5	33.89	73.51	151.432
M12 38	F B	石灰安山岩		剥片	83.0	30.0	18.0	25.5	34.33	77.58	151.746
M12 39	F B	真岩		剥片	24.0	20.0	5.0	2.1	34.41	75.05	151.474
M12 40	F B	黒色麻安山岩		剥片	57.0	35.5	17.5	26.4	34.31	77.82	151.7
M12 41	F B	黒色麻安山岩		剥片	25.0	15.5	3.5	1.1	34.35	77.48	151.856
M12 42	F B	黒色麻安山岩		剥片	43.0	17.5	11.0	6.2	36.38	71.98	150.997
M12 43	F B	黒曜石	KOZI-1	石礫	13.5	7.0	(4.5)	0.3	38.99	71.75	150.99
M12 44	F B	黒色麻安山岩		剥片	22.0	19.0	8.0	2.1	35.11	71.68	151.932
M12 45	F B	玄武岩		巖石	127.0	92.0	64.5	1085.0	35.48	73.80	151.116
M12 46	F B	輝石安山岩		巖石・巖石	132.0	91.0	53.0	890.0	36.84	73.84	151.115
M12 47	F B	真岩		石刃	32.0	18.0	7.5	3.7	30.88	75.82	151.691
M12 48	F B	真岩	KRM-5	石礫	16.0	14.5	3.0	0.4			
	表探	黒曜石	KOZI-5	石礫	23.5	18.0	7.0	2.0			
	表探	黒曜石		巖石	141.5	87.0	64.0	1075.0			
	表探	玄武岩		巖石							

グリッド	遺物番号	位置	石材	個体別	基準	最大幅mm	最大奥行きmm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
J10	1	YLU	瓦片		断片	46.0	12.0	13.5	5.5	17.71	38.99	150.874
J10	1	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	25.0	18.0	4.0	1.0	70.27	39.49	145.407
J10	2	YLU	瓦片		断片	42.0	29.0	12.0	14.5	79.06	38.88	146.933
J10	4	YLU	瓦片		石刀	79.5	56.5	20.5	63.2	78.74	38.51	146.892
J10	5	YLU	瓦片		断片	48.0	23.0	16.5	17.0	78.78	38.81	146.889
J10	6	YLU	黒曜石	KSW-3	断片	9.0	6.0	2.0	0.1	70.18	38.33	145.127
J10	3	YLU	輝石安山岩		断片	87.5	80.0	53.0	509.3	90.18	36.17	147.316
J11	1	YLU	瓦片		石板	42.0	53.0	66.0	193.1	29.26	49.16	149.512
J11	2	YLU	瓦片		断片	48.5	33.5	15.5	22.1	25.14	45.57	149.917
J11	3	YLU	瓦片		U断片	52.0	42.0	19.5	38.8	25.72	49.11	150.061
J11	4	YLU	瓦片		断片	51.0	25.5	7.5	10.2	24.83	42.22	149.975
J11	5	YLU	瓦片		断片	99.0	76.0	41.0	399.5	21.94	49.26	150.779
J11	7	YLU	輝石安山岩		断片	146.0	75.0	34.0	626.0	25.86	48.76	149.970
J11	8	YLU	黒色密密安山岩		断片	93.0	81.0	64.0	439.8	29.58	48.62	149.407
J11	9	YLU直上	黒色密密安山岩		断片	105.0	51.5	30.0	191.1	27.35	48.03	149.656
J11	10	YLU直上	黒色密密安山岩		断片	55.5	31.0	17.5	17.0	29.14	48.91	149.451
J11	11	YLU直上	玄武岩		断片	123.0	102.0	73.0	1385.5	21.63	48.39	150.597
J11	12	YLU	玄武岩		断片	119.5	74.0	55.0	734.0	28.73	48.58	149.374
J11	13	YLU	玄武岩		断片	127.0	94.5	69.0	1240.0	29.21	43.59	149.094
J11	15	YLU	輝石安山岩		断片	167.0	84.0	50.0	1090.0	28.02	41.70	149.289
J11	16	YLU	玄武岩		断片	139.0	82.0	84.0	1068.0	29.05	48.24	149.245
J11	17	YLU	輝石安山岩		断片	111.0	65.0	58.0	535.5	26.80	48.74	150.984
J11	18	YLU	黒色密密安山岩		断片	45.0	36.0	17.5	13.0	29.98	49.95	149.422
J11	19	YLU直上	玄武岩		断片	133.5	95.0	53.0	936.0	30.42	48.10	150.811
J12	1	YLU	瓦片		石板	38.0	55.0	51.0	120.1	34.67	47.40	148.068
J12	2	YLU	瓦片		石板	46.0	60.0	65.0	212.4	32.38	46.21	148.771
J12	3	YLU	瓦片		石板	32.0	69.0	75.0	257.5	32.28	44.95	148.750
J12	4	YLU	夏威質カルシフュルス		石板	48.0	72.0	66.0	275.1	31.18	49.00	148.575
J12	5	YLU	瓦片		石板	30.0	55.0	78.0	145.8	35.52	47.84	148.618
J12	6	YLU	瓦片		石板	32.0	56.0	57.0	136.8	32.49	46.18	148.776
J12	8	YLU	角閃石安山岩		断片	116.5	97.5	49.0	1122.0	32.88	48.50	148.974
J12	9	YLU	輝石安山岩		断片	117.0	117.0	42.0	850.0	32.48	44.14	148.491
J12	10	YLU	輝石安山岩		断片	134.5	119.0	60.0	860.0	31.38	48.92	149.167
J12	11	YLU直上	黒色密密安山岩		断片	58.0	41.5	14.0	22.5	20.13	48.46	149.557
J12	12	YLU	輝石安山岩		石板	68.0	118.0	67.0	474.0	33.31	47.07	148.897
J12	13	YLU	黒色密密安山岩		断片	67.0	126.0	85.0	493.0	34.09	46.48	148.795
J12	14	YLU	黒色密密安山岩		断片	122.0	68.0	45.0	369.2	32.28	47.16	148.817
J12	15	YLU	黒色密密安山岩		石板	98.0	145.0	113.0	1952.0	32.31	43.54	148.647
J12	16	YLU	黒色密密安山岩		断片	58.0	34.0	14.0	26.9	36.17	46.43	148.646
J12	17	YLU	石英安山岩		断片	118.0	97.0	48.0	745.0	32.07	43.23	148.532
J12	18	YLU	玄武岩		断片	125.0	106.5	67.0	1285.0	35.49	48.76	148.644
J12	19	YLU	輝石安山岩		断片	135.0	103.0	58.0	1100.0	33.60	43.07	148.434
J12	20	YLU	輝石安山岩		断片	109.0	102.5	50.0	817.8	33.22	43.73	148.591
J12	21	YLU	玄武岩		断片	145.0	79.0	70.0	1373.0	32.98	43.68	148.625
J12	22	YLU	角岩質チャート		石板	35.0	73.0	56.0	225.7	32.96	49.97	148.912
J12	23	YLU	瓦片		石板	32.0	85.0	72.0	216.5	35.44	49.60	148.201
J15	1	YLU	流紋岩		石板	58.5	24.0	28.0	27.7	67.81	47.65	146.546
J16	2	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	25.0	18.0	6.0	1.6	79.30	48.92	148.106
J16	3	YLU	黒曜石	HTJ-7	断片	23.0	14.0	4.0	1.2	77.26	41.01	147.041
J16	4	YLU	黒曜石	HTJ-3	断片	12.0	10.0	4.0	0.3	76.26	48.47	147.744
J16	5	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	11.0	6.0	3.0	0.1	76.99	48.38	147.784
J16	6	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	25.0	19.0	8.0	2.3	70.18	44.54	146.366
J16	7	YLU	黒曜石	KRM-3	断片	6.5	6.5	1.5	0.0	72.55	46.82	146.949
J16	8	YLU	瓦片		断片	22.0	12.5	12.0	1.8	73.74	48.90	147.386
J16	9	YLU	瓦片		断片	45.5	37.0	12.5	22.9	73.54	48.84	147.290
J16	10	YLU	瓦片		断片	24.5	19.0	13.0	4.6	72.75	48.67	147.171
J16	11	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	23.5	13.0	5.0	0.9	73.68	46.34	147.038
J16	12	YLU	瓦片		断片	38.5	20.0	9.0	5.8	79.12	48.97	147.811
J16	13	YLU	黒曜石	HTJ-7	断片	21.0	18.0	5.0	1.2	76.07	46.35	147.275
J16	15	YLU	瓦片		断片	54.0	34.0	17.0	29.5	73.73	49.77	147.433
J16	16	YLU	玄武岩		断片	310.0	157.0	135.0	9500.0	78.22	49.40	149.341
J17	1	YLU	黒曜石	TTTS-1	ナイフ	27.0	16.5	5.5	2.2	81.66	46.45	148.127
J17	2	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	19.0	12.0	3.0	0.6	80.91	46.43	148.023
J17	3	YLU	黒曜石	WDT-2	断片	28.0	12.5	5.5	1.2	83.08	44.21	148.247
J17	4	YLU	黒曜石	KRM-3	U断片	28.0	10.0	4.0	0.6	85.88	44.98	148.733
J17	5	YLU	黒曜石	WDT-2	尖頭劍器	23.0	13.5	8.0	1.8	86.16	45.83	149.013
J17	7	YLU	黒曜石	KRM-3	U断片	32.0	13.0	5.0	1.1	84.89	46.76	147.917
K10	1	YLU直上	黒色密密安山岩		断片	114.0	92.0	66.0	500.1	19.67	52.04	151.265
K11	3	YLU	玄武岩		断片	113.5	74.5	52.0	509.0	27.52	54.99	150.182
K11	5	YLU	玄武岩		断片	174.0	96.0	54.0	1300.0	23.74	55.84	150.897
K11	7	YLU	輝石安山岩		石板	51.0	112.0	128.0	828.0	28.07	50.00	149.988
K11	8	YLU	瓦片		断片	47.5	53.0	50.0	187.5	28.00	50.33	149.810
K11	9	YLU	輝石砂岩		断片	123.0	87.0	43.0	607.7	25.98	56.88	150.109
K15	1	YLU	黒色密密安山岩		断片	31.0	36.0	8.0	5.0	66.90	54.80	147.832
K15	3	YLU	黒曜石	WDT-4	ナイフ?	28.0	17.0	7.0	2.4	67.38	50.66	147.082
K16	1	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	38.0	14.5	7.0	3.7	76.54	53.42	148.391
K16	2	YLU	輝石安山岩		断片	91.5	79.5	53.0	538.0	72.32	51.94	147.794
K16	9	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	17.5	14.0	3.0	0.7	78.97	51.92	148.243
K16	10	YLU	黒曜石	KRM-3	断片	16.5	9.0	6.5	0.7	73.33	51.17	147.797

グリッド番号	位置	石材	樹体別	基理	最大長径mm	最大厚径mm	最大厚径mm	直角g	X座標m	Y座標m	標高m		
K16	11	YLU	黒曜石	HTJ-5	断片	17.5	12.5	4.0	1.0	71.35	50.82	147.448	
K16	12	YLU	黒曜石	HTJ-3	断器	38.5	23.0	8.0	6.0	71.05	50.62	147.462	
K16	17	YLU	黒曜石	KOZI-4	断片	21.0	15.0	8.0	1.2	75.09	50.82	147.813	
K17	1	YLU	黒曜石	KRM-2	断片	16.5	12.5	4.5	0.7	88.12	55.09	149.729	
K17	5	YLU	真岩		断片	46.5	38.0	14.0	26.6	83.41	52.72	148.817	
K17	7	YLU	真岩		断片	33.5	33.0	15.5	16.9	83.08	54.63	148.797	
K17	8	YLU	黒曜石	HTJ-1-7	断片	17.5	17.0	4.5	1.4	81.84	56.64	148.327	
K17	9	YLU	黒曜石	HTJ-1-5	断片	37.5	18.0	8.0	4.9	82.79	50.12	148.312	
K17	11	YLU	黒曜石	測定不能	断片	7.0	6.0	2.5	0.1	81.99	56.93	149.059	
K17	20	YLU	黒曜石	HTJ-1-3	断片	19.0	16.5	5.0	1.4	81.08	59.67	149.093	
K17	21	YLU	黒曜石	HTJ-1-5	断片	28.0	22.0	9.0	5.0	84.79	56.49	148.974	
K17	22	YLU	真岩		断片	27.0	10.5	8.5	2.1	83.07	57.28	149.123	
L11	1	YLU	輝石安山岩		断石	102.0	90.0	80.0	1034.0	28.34	61.62	150.686	
L11	2	YLU	輝石安山岩		断石	122.5	100.5	57.5	780.0	28.40	61.74	150.680	
L11	3	YLU	真岩		石板	24.0	57.5	74.5	145.0	20.10	62.93	152.148	
L11	10	YLU	玄武岩		断石	111.0	101.0	78.0	1089.4	23.29	69.19	151.855	
L11	11	YLU	玄武岩		断石	118.5	109.0	69.5	1240.0	23.49	68.97	151.791	
L11	12	YLU	辉长火成岩		石板	55.5	69.5	56.5	182.6	21.80	83.07	151.710	
L11	13	YLU	辉长火成岩		石板	58.0	78.0	61.5	263.9	21.66	83.11	151.882	
L12	1	YLU	輝石安山岩		断石	153.5	113.0	87.5	2200.0	30.30	60.75	150.317	
L12	2	YLU	真岩		石板	68.0	131.0	70.5	752.4	32.24	60.47	149.912	
L12	3	YLU	輝石安山岩		断石	144.0	88.5	70.5	1320.0	32.14	66.44	149.932	
L16	1	YLU	真岩		断片	20.0	21.0	4.0	1.7	78.45	61.15	149.313	
L16	3	YLU	真岩		断片	22.0	9.0	8.0	1.0	77.54	65.25	149.934	
L16	4	YLU	黒曜石	WDT-1	断片	24.0	19.0	4.0	1.2	71.73	66.49	149.860	
L16	6	YLU	玄武岩質熔岩		断石	191.5	88.5	35.0	265.5	76.45	67.98	150.918	
L17	1	YLU	黒曜石	WDT-1	断片	42.0	25.0	10.0	7.3	83.94	65.08	149.918	
L17	9	YLU	黒曜石質熔岩		断器	73.5	34.0	14.0	29.3	84.11	61.54	149.497	
L17	10	YLU	輝石斑岩		断片	50.0	24.0	13.5	7.3	84.97	62.88	149.702	
M12	3	YLU	輝石安山岩		断石	124.0	105.5	56.0	1005.0	38.34	70.80	150.521	
M12	7	FB		WDT-3	U断片	44.0	16.0	10.0	3.1	36.10	74.90	151.71	
M12	24	FB		黒曜石	HTJ-1	断片断削	35.0	20.5	7.0	3.7	31.97	71.07	151.41
I16	3	YLM	真岩		U断片	49.0	31.0	13.5	23.1	78.50	38.08	146.662	
I17	3	YLM	黒曜石	HTJ-1-3	断片	151.5	14.0	6.5	9.8	81.96	38.54	147.032	
J17	16	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	20.0	21.0	7.0	2.1	81.99	39.78	148.261	
K11	1	YLM	真岩		断片	53.0	24.0	16.5	18.5	20.12	50.87	150.526	
K16	3	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	12.0	11.0	3.0	0.3	74.59	56.62	148.382	
K16	4	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	8.0	6.5	2.0	0.0	77.82	53.14	148.557	
K16	5	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	16.5	14.0	3.0	0.7	77.54	53.03	148.538	
K16	6	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片	37.0	15.5	12.0	4.5	75.07	59.51	148.616	
K16	7	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	25.5	12.0	5.5	1.5	78.00	53.08	148.208	
K16	8	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	10.0	9.0	2.0	0.1	78.83	55.92	148.430	
K16	13	YLM	真岩		断片	45.0	35.0	14.0	20.0	74.23	50.49	147.473	
K16	14	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	19.0	15.0	5.5	1.1	77.09	51.51	147.913	
K16	15	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	19.5	17.0	4.0	1.8	79.15	51.41	147.983	
K16	16	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	19.5	10.0	4.0	0.7	77.88	50.99	147.917	
K16	18	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	24.0	18.0	8.0	1.9	77.36	52.78	147.849	
K16	19	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	28.0	21.5	10.5	5.5	79.67	56.39	148.396	
K17	2	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片	24.5	22.0	9.0	2.8	88.71	58.71	149.887	
K17	6	YLM	瓦状質チャート		断器	33.0	18.0	9.0	4.9	83.72	58.50	149.304	
K17	10	YLM	真岩		断片	19.5	12.0	3.0	3.1	85.34	53.17	148.497	
K17	12	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	31.0	17.0	5.0	2.1	84.54	53.58	148.820	
K17	13	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	15.0	7.0	4.0	0.4	80.29	51.97	148.211	
K17	14	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	17.0	14.0	4.5	0.9	81.69	51.12	148.241	
K17	15	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	48.0	36.0	13.0	10.9	81.58	53.50	148.306	
K17	16	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片	34.0	33.5	9.0	8.7	82.07	53.28	148.598	
K17	17	YLM	真岩		断片	18.0	18.0	9.5	3.0	83.68	50.60	148.356	
K17	18	YLM	チャート		断片	37.0	30.0	13.0	12.7	85.32	55.43	148.875	
K17	19	YLM	瓦状		断片	17.0	16.0	2.5	0.7	85.38	59.88	149.274	
K17	25	YLM	瓦状		断片	28.5	19.0	6.0	3.1	82.57	52.89	148.207	
K17	24	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片					81.12	53.18	148.216	
K17	25	YLM	真岩		断片	19.5	11.0	10.0	1.6	82.81	52.44	148.341	
K17	26	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	14.0	12.0	3.0	0.3	81.92	54.92	148.805	
K17	27	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	22.0	15.5	7.0	2.6	82.88	55.63	148.894	
K17	28	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片	43.0	26.5	10.0	8.4	84.27	59.40	149.264	
K17	29	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	29.0	17.0	3.5	1.5	83.73	56.15	148.820	
K17	30	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	20.5	10.0	4.0	0.8	84.05	56.37	148.768	
K17	31	YLM	黒曜石質安山岩		断片	23.5	20.5	7.0	2.4	82.82	55.36	148.585	
K17	32	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	19.5	17.0	3.0	0.6	80.57	54.85	148.505	
K17	33	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	17.0	14.0	4.0	0.5	80.11	56.77	148.808	
K17	34	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片	24.0	14.0	8.0	2.0	83.70	55.61	148.719	
K17	35	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	18.0	14.5	5.0	1.0	84.97	57.05	148.895	
K17	36	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	19.5	10.0	7.5	1.2	84.55	57.64	148.951	
K17	37	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	14.0	12.0	3.0	0.5	84.68	57.46	148.807	
K17	38	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	19.0	18.0	8.0	1.8	84.33	56.75	148.803	
K17	39	YLM	黒曜石	HTJ-5	断器	31.0	18.0	6.0	2.6	80.34	55.20	148.861	
K17	40	YLM	黒曜石	HTJ-5	断片	21.0	13.5	3.5	0.9	80.96	57.68	148.797	
K17	41	YLM	瓦状質真岩		U断片	57.5	52.0	13.0	27.1	82.81	56.99	148.717	
K17	42	YLM	真岩		断片	58.0	40.0	11.0	30.1	81.94	55.90	148.586	

グリッド	測量番号	位置	石材	個体別	部材	最大幅mm	最大長さmm	最大厚さmm	重量g	X座標m	Y座標m	傾斜m
K17	45	YLM	夏岩		断片	41.5	30.0	13.0	14.9	84.35	54.46	149.446
K17	46	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	14.5	13.0	3.5	0.7	84.59	56.33	146.836
K17	47	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	12.0	9.0	2.0	0.1	84.02	55.74	146.169
K17	51	YLM	黒色黒密安山岩		石板	39.0	151.0	135.0	865.0	84.90	58.80	149.169
L16	2	YLM	黒曜石	WDT-2	断片	25.0	11.0	4.0	0.8	76.27	67.87	149.832
L16	5	YLM	夏岩		断片	23.0	14.0	7.0	2.4	74.41	68.16	149.994
L17	2	YLM	輝石安山岩		断片	93.5	87.5	32.0	305.0	86.06	64.32	149.981
L17	4	YLM	夏岩		断片	43.0	25.0	9.0	7.6	86.19	69.35	149.499
L17	5	YLM	黒曜石	HTJ-7	断片	31.0	26.5	13.0	6.5	85.74	69.53	149.533
L17	6	YLM	夏岩		断片	45.0	21.0	8.0	5.8	86.28	60.62	149.528
L17	7	YLM	黒曜石	HTJ-3	断片	19.0	11.0	7.0	0.9	86.02	62.98	149.780
L17	8	YLM	夏岩		断片	48.0	41.5	14.0	25.0	85.16	61.51	149.288
I17	4	YLL	黒色黒密安山岩		断片	20.0	19.0	4.0	1.2	81.39	39.41	146.805
I17	5	YLL	黒色黒密安山岩		断片	17.0	7.0	3.0	0.4	80.01	39.16	146.712
I17	6	YLL	黒曜石	HTJ-3	断片	27.0	34.5	17.0	16.9	80.05	38.56	146.725
I17	9	YLL	黒曜石	HTJ-3	断片	26.0	16.0	5.0	1.4	81.56	40.07	146.784
K17	4	YLL	黒曜石	KMT-1	断片	24.0	17.0	11.5	3.4	85.23	48.85	148.239
K17	43	YLL	夏岩		断片	25.5	13.5	7.0	2.4	89.67	58.50	149.635
K17	44	YLL	黒曜石	HTJ-3	断片	11.0	7.0	2.0	0.1	80.09	54.68	148.324
K17	48	YLL	黒曜石	HTJ-5	断片	13.5	10.0	4.0	0.3	82.23	54.26	148.890
K17	49	YLL	黒曜石	HTJ	断片	28.5	11.0	4.0	1.1	83.20	58.28	148.553
K17	50	YLL	地獄原生岩		石板	49.0	69.5	63.0	183.0	86.89	54.57	149.135
L16	7	YLL	黒曜石	HTJ-5	断片	22.0	24.0	8.0	2.4	78.75	60.13	148.878
L17	3	YLL	夏岩		断片	62.0	37.0	18.0	44.5	89.11	61.84	150.817
K16	1	BBD	黒曜石	HTJ-6	断片	30.0	10.5	9.0	2.7	77.11	56.04	147.364
K16	2	BBD	黒曜石	HTJ-6	断片	16.0	8.0	3.0	0.1	75.69	54.91	147.267
K16	3	BBD	黒曜石	HTJ-6	断片	27.0	13.5	4.5	1.3	79.14	57.31	148.269
K16	4	BBD	黒曜石	HTJ-6	断片	17.5	13.0	5.0	0.7	79.38	51.38	147.585
K16	5	BBD	黒曜石	KRM-3	断片	23.0	21.5	5.5	1.4	75.88	57.30	148.111
L16	1	BBD	夏岩		断片	27.0	15.0	7.5	2.7	78.06	65.63	148.750
I16	1	BBD	夏岩		石刃	87.0	15.0	12.5	14.7	79.86	37.06	146.808
J16	1	BBD	夏岩		断片	39.0	16.0	9.0	5.2	78.30	41.92	145.400
J17	1	BBD	夏岩		石刃	63.0	27.0	13.5	20.6	82.66	46.59	146.790
J17	2	BBD	黒色黒密安山岩		断片	29.0	12.5	6.5	1.5	82.74	49.18	148.747
J17	3	BBD	夏岩		断片	28.0	19.5	5.5	2.3	82.86	48.88	146.985
J17	4	BBD	黒色黒密安山岩		断片	29.0	25.5	14.0	7.5	83.51	49.58	146.895
I16	1	BBI	黒曜石	KRM-3	断片	26.0	19.0	7.0	3.2	76.21	35.26	145.423
I16	2	BBI	黒曜石	KMT-2	断片	21.0	8.0	4.0	0.6	78.25	35.63	145.831
I16	3	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	38.0	38.0	9.0	8.7	78.65	36.41	145.670
I16	4	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	35.0	25.0	8.0	5.7	76.34	35.87	145.873
I16	5	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	26.0	27.0	7.5	3.8	76.18	35.29	145.426
I16	6	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	34.0	40.5	19.0	19.1	76.50	35.42	145.811
I16	7	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	33.0	22.5	10.0	4.0	78.34	35.41	145.445
I16	8	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	12.0	9.0	4.0	0.3	76.75	36.57	145.724
I16	9	BBI	黒曜石	KRM-3	断片	16.5	6.5	3.0	0.0	78.86	35.25	145.613
I16	10	BBI	黒曜石	固定不能	断片	5.0	4.0	1.0	0.0	78.84	35.66	145.543
I16	11	BBI	黒曜石	KRM-3	断片	11.5	5.0	2.0	0.1	76.88	35.41	145.514
I16	12	BBI	黒曜石	固定不能	断片	6.0	3.0	2.0	0.0	76.28	35.81	145.831
I16	14	BBI	夏岩		ナイフ	66.0	33.0	15.0	32.7	76.84	35.27	145.605
I16	15	BBI	黒曜石	HTJ-8	断片	57.0	36.5	13.5	27.1	75.81	36.12	145.558
I17	1	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	24.0	28.5	18.0	12.6	84.41	37.46	146.794
I17	2	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	41.0	18.5	4.0	2.8	81.48	39.26	146.490
I17	3	BBI	黒色黒密安山岩		断片	19.0	18.0	4.0	0.8	81.38	37.19	146.242
J16	1	BBI	夏岩		断片	43.5	23.0	10.0	6.6	72.36	41.45	145.581
J16	2	BBI	黒曜石	HTJ-8	断片	34.0	29.5	8.0	5.1	72.29	44.49	145.891
J16	3	BBI	黒曜石	TTS-2	断片	35.0	20.0	10.0	3.5	74.18	42.24	145.427
L16	1	BBI	黒曜石	HTJ-8	断片	49.0	39.0	11.0	21.2	75.88	60.20	147.894
H16	1	NL		TTS-5	断片	12.0	8.0	3.0	0.5	80.98	33.81	145.328
H16	1	BBI	黒色黒密安山岩		断片	40.0	32.0	11.0	11.9	77.44	26.56	144.556
H16	2	BBI	黒曜石	HTJ-4	断片	29.0	26.0	6.0	3.7	77.41	32.72	144.861
H16	4	BBI	玄武岩		台石	152.5	124.0	75.0	1660.0	76.84	33.18	144.863
H16	5	BBI	黒色黒密安山岩		断片	44.0	53.0	21.5	46.6	76.58	33.40	144.888
H16	6	BBI	黒曜石	KSM-3	西板	35.0	24.0	18.5	8.8	76.64	32.50	144.895
H16	7	BBI	夏岩		断片	21.0	14.5	9.0	2.3	78.29	32.03	144.785
H16	8	BBI	夏岩		断片	41.5	25.0	10.5	9.1	76.09	32.45	144.750
H16	9	BBI	黒曜石		断片	62.0	48.5	16.0	33.3	75.48	33.01	144.799
H16	10	BBI	黒曜石	TTS-4	断片	24.0	22.0	14.0	6.7	75.48	32.51	144.875
H16	11	BBI	夏岩		断片	44.0	42.0	21.5	45.9	77.45	32.29	144.790
H16	12	BBI	黒曜石	TTS-4	断片	36.5	20.5	9.0	10.9	76.57	34.51	145.152
H16	13	BBI	黒色黒密安山岩		断片	25.0	21.5	5.0	1.9	76.72	34.26	145.927
H16	14	BBI	夏岩		断片	62.0	48.5	16.0	33.3	76.55	35.45	145.205
H16	15	BBI	夏岩		断片	16.0	10.0	4.5	0.6	76.54	35.46	145.037
H16	16	BBI	黒曜石	TTS-4	断片	27.5	31.0	12.0	9.0	76.89	34.99	145.103
H16	18	BBI	夏岩		断片	59.0	35.0	18.0	25.9	74.43	35.05	144.740
H16	19	BBI	黒色黒密安山岩		断片	45.0	39.5	13.5	23.6	77.70	34.04	145.024
H16	20	BBI	黒曜石	KSM-8	断片	14.0	11.0	4.5	0.4	73.45	38.13	145.110
H16	21	BBI	黒曜石	KSM-3	断片	29.0	22.0	8.0	2.9	72.08	39.44	144.892

グリッド	地物番号	層位	石材	個体別	断面	最大幅mm	最大長mm	最大厚mm	重量g	X座標m	Y座標m	標高m
J16	22	BⅢ	黒耀石	KSW-3	断片	26.0	19.0	8.0	3.0	72.67	38.36	144.955
J16	23	BⅢ	黒色黒安山岩		断片	18.0	19.0	3.0	0.8	74.21	38.05	144.974
J16	24	BⅢ	黒耀石	KSW-2	断片	20.0	12.5	5.0	0.5	76.93	36.97	145.241
J16	25	BⅢ	輝石安山岩		合石	179.0	173.5	55.0	2245.0	74.90	37.88	144.934
J17	1	BⅢ	黒色黒安山岩		断片	25.0	22.0	7.0	2.7	83.32	38.73	145.983
J16	1	BⅢ	黒耀石	TTS-3	断面	62.0	22.0	11.0	13.1	76.58	43.49	145.561
J16	2	BⅢ	瓦岩		断片	38.0	22.0	11.5	8.0	76.77	42.88	145.541
J16	3	BⅢ	地質チャート		石刃	76.0	32.0	18.0	29.0	76.70	42.44	145.512
J16	4	BⅢ	輝石安山岩		断片	72.0	46.0	16.0	62.8	76.58	42.81	145.525
J16	5	BⅢ	黒色黒安山岩		断片	32.5	19.0	7.0	3.0	78.05	47.28	145.904
J16	6	BⅢ	黒耀石	KSW-3	断片	26.0	16.0	9.0	3.4	74.20	42.41	145.327
J17	1	BⅢ	真岩		断片	87.0	39.0	21.5	45.0	84.16	46.89	146.710
L16	1	BⅢ	地質チャート		断片	89.5	47.0	24.0	82.9	79.84	65.41	147.898
L16	2	BⅢ	瓦岩		断片	60.0	38.5	20.0	39.4	79.77	65.85	147.897
L16	3	BⅢ	瓦岩		断片	50.0	23.0	14.0	12.4	79.58	65.81	147.896
L16	4	BⅢ	瓦岩		断片	45.0	31.0	13.5	16.3	71.02	66.01	147.892
L16	5	BⅢ	瓦岩		断片	38.0	36.0	11.0	15.1	77.81	66.16	147.742
L17	1	BⅢ	真岩		断片	64.0	48.0	19.0	53.1	83.09	63.67	147.912
G17	1	BⅢ	黒耀石	TTS-6	断面	37.0	26.5	15.0	11.0	81.96	16.41	144.052
G17	2	BⅢ	瓦岩チャート		断片	42.0	22.5	8.0	7.5	82.53	16.39	143.818
G17	3	BⅢ	真岩(側)		断片	81.0	35.0	12.0	19.7	82.35	16.21	143.473
G17	4	BⅢ	真岩		石刃	82.0	48.5	16.0	52.4	82.55	16.65	143.792
G17	5	BⅢ	瓦岩		断片	38.0	19.0	9.5	5.7	82.27	16.58	143.717
G17	6	BⅢ	真岩		断片	54.0	32.0	8.0	12.4	81.74	16.87	143.631
G17	7	BⅢ	真岩		断片	55.0	39.0	9.0	26.7	81.72	16.87	143.630
G17	8	BⅢ	地質砂岩		断片	89.5	51.5	24.0	101.7	81.73	15.87	143.351
H16	2	BⅢ	黒耀石	TTS-6	ナイフ	24.5	11.5	6.0	1.0	78.28	22.28	143.877
H16	4	BⅢ	瓦岩チャート		打痕再生成断片	51.0	30.0	17.0	22.0	78.14	28.15	144.355
H16	5	撒乱	瓦岩		断片	63.0	53.5	18.0	65.2	74.48	27.80	143.954
H16	6	撒乱	瓦岩		断片	53.0	25.5	12.5	11.0	74.48	27.89	143.622
J16	2	BⅢ	黒耀石	KRM-4	断面	42.5	28.5	11.0	10.5	77.12	36.44	145.030
J16	17	BⅢ	黒色黒安山岩		石板	50.0	78.5	34.0	99.4	75.69	34.81	144.559
J16	1	BⅢ	輝石安山岩		断片	28.5	22.5	8.0	2.5	76.48	42.00	145.170
J16	2	BⅢ	真岩		断片	35.5	24.0	10.5	8.6	76.55	43.21	145.351
K17	1	BⅢ	黒耀石		断片					87.50	57.70	147.659
L17	1	BⅢ	黒色黒安山岩		断片	42.0	27.0	12.0	16.4	76.81	65.38	147.705

# 出土礪一覽表



グリッド	連物番号	石材	層位	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	分化	X座標m	Y座標m	標高m
J16	1	輝石安山岩	YLU	62.5	44	34	140	*	79.1	38.65	146.946
J16	2	輝石安山岩	YLU	42	60	50	135	*	79.43	38.28	146.972
J11	1	過渡晶質安山岩	YLU	84	59	53	310	*	28.925	47.49	149.434
J11	2	輝石安山岩	YLU	138	73	30	390	*	22.501	48.6	150.503
J11	3	輝石安山岩	YLU	109	93	82	940	*	25.3	46.23	149.887
J12	4	輝石安山岩	YLU	95	60	34	395	*	20.83	46.09	148.979
J15	3	輝石安山岩	YLU	95	75	53	470	*	87.95	49.67	146.778
J16	1	輝石安山岩	YLU	53	43	35	50	*	76.3	40.35	146.683
J18	2	多孔質玄武岩	YLU	80	65.5	39	250.5	*	77.25	42.28	146.974
J17	1	輝石安山岩	YLU	82	71	15	110	*	80.3	48.48	148.024
J17	2	石質凝灰岩	YLU	84	71	31	180	*	80.05	44.14	147.992
J17	3	角閃安山岩	YLU	66	48	23	55	*	83.594	40.723	148.122
J17	4	玄武岩	YLU	53	48	31	100	*	89.068	43.245	148.883
K11	3	石英安山岩	YLU	143	102	41	690	*	25.8	58.7	150.926
K11	4	玄武岩	YLU	135	105	74	1540	*	27.57	54.9	150.127
K11	5	多孔質玄武岩	YLU	76	87	54	830	*	24.2	59.958	151.138
K15	1	輝石安山岩	YLU	80	57	52	320	*	87.28	51.71	147.3
K15	2	輝石安山岩	YLU	73	49	49	235	*	68.82	54.57	147.492
K16	1	玄武岩	YLU	65	80	36	115	*	72.34	53.63	148.025
K16	3	玄武岩	YLU	126	87	38	525	*	73.24	51.92	147.787
K18	4	玄武岩	YLU	107	79	58	780	*	79.915	58.843	149.518
K17	12	玄武岩	YLU	108	110	40	570	*	88.84	53.15	149.689
K17	20	輝石安山岩	YLU	71.5	51	31	145	*	87.362	52.478	149.898
K17	21	輝石安山岩	YLU	87	47	50	275	*	87.57	52.46	149.801
K17	22	多孔質玄武岩	YLU	77	72	41	220	*	87.305	52.227	149.819
K17	23	輝石安山岩	YLU	140	103	80	1285	*	82.24	52.44	149.819
K17	24	多孔質玄武岩	YLU	56	36	31	70	*	87.367	52.516	149.516
K17	25	輝石安山岩	YLU	80	46	48	185	*	87.393	52.465	149.699
K17	26	輝石安山岩	YLU	61	48	41	155	*	87.709	52.489	149.56
K17	27	玄武岩	YLU	64	55	46	140	*	82.48	52.59	149.591
K17	28	輝石安山岩	YLU	154	124	35.5	680	*	87.5	51.88	149.568
K17	32	輝石安山岩	YLU	40	33	26	25	*	85.748	53.371	148.851
L11	1	輝石安山岩	YLU	88.5	73	57	505	*	28.28	81.505	150.887
L11	13	輝石安山岩	YLU	65	45	35	115	*	22.473	63.657	151.749
L11	15	輝石安山岩	YLU	69	58	48	490	*	27.21	62.79	150.951
L11	17	角閃安山岩	YLU	147	76	47	690	*	20.175	69.514	152.394
L12	9	多孔質玄武岩	YLU	80	51	42	199	*	32.298	61.453	150.314
L12	13	輝石安山岩	YLU	104	83	33	205	*	31.09	60.05	150.086
L12	19	輝石安山岩	YLU	80	71.5	63.5	415	*	36.279	60.802	149.817
L12	42	石英安山岩	YLU	31	24	21	20	*	33.423	62.952	150.452
L12	43	玄武岩	YLU	59	48	44	150	*	33.203	63.09	150.475
L12	58	多孔質玄武岩	YLU	68.5	44	30	90	*	32.885	62.812	150.298
L16	21	玄武岩	YLU	56	46	41	130	*	75.98	68.5	150.181
L17	1	玄武岩	YLU	111	84	67	820	*	85.48	60.37	149.498
L17	2	石英安山岩	YLU	66	47	28	60	*	84.572	61.889	149.65
M11	13	輝石安山岩	YLU	78	155	148	5000	*	25.03	72.22	151.865
M11	14	輝石安山岩	YLU	103	85	51	810	*	27.56	78.8	152.283
J15	1	玄武岩	YLM	71	69	28	255	*	68.27	49.67	146.752
J15	2	玄武岩	YLM	87	87	73	770	*	68.12	49.18	146.709
J15	4	輝石安山岩	YLM	66.5	63.5	46	235	*	67.05	49.57	146.748
J15	5	輝石安山岩	YLM	42	42	23	50	*	67.24	49.8	146.772
J17	5	輝石安山岩	YLM	116.5	83	53	420	*	81.34	46.53	147.818
K17	34	煌結凝灰岩	YLM	91	69	46	320	*	83.49	58.22	146.965
K17	36	輝石安山岩	YLM	49	22	12	15	*	81.59	58.25	146.842
K17	37	煌結凝灰岩	YLM	63	54	23	80	*	82.62	56.19	146.823
K17	39	煌結火成岩	YLM	74	50	20	50	*	80.85	54.97	146.557
L15	3	玄武岩	YLM	79	67	53	250	*	67.13	64.98	148.888
L15	4	玄武岩	YLM	54	50	41	130	*	67.45	65.07	149.013
L15	6	輝石安山岩	YLM	68	49	42	130	*	66.55	64.04	148.984
L15	7	輝石安山岩	YLM	72.5	81	36	150	*	66.74	65.34	149.096
L15	8	過渡晶質安山岩	YLM	60	50	42	145	*	87.5	65.06	148.984
L17	3	煌結凝灰岩	YLM	57	37	14	20	*	85.26	61.57	149.518
L17	4	輝石安山岩	YLM	93	66	57	510	*	84.02	61.82	149.158
L15	9	多孔質玄武岩	YLL	71	52	36	150	*	67.22	64.81	148.79
L15	10	玄武岩	YLL	70	52	31	145	*	66.7	64.61	148.75
L15	11	多孔質玄武岩	YLL	65	55	50	210	*	67.564	64.691	148.716
L15	12	輝石安山岩	YLL	68	50	33	160	*	68.498	63.698	148.498
L15	5	玄武岩	YLL	115	82	69.5	790	*	68.16	63.22	148.884
L16	34	輝石安山岩	B80	26.5	22	9	20	*	78.64	65.143	148.886
I16	1	玄武岩	B81	90	65	58	325	*	76.67	35.68	145.556
I16	2	玄武岩	B81	50	37	40	100	*	78.63	35.65	145.556
I16	3	輝石安山岩	B81	74	68.5	35	185	*	76.07	35.59	145.47
I16	4	玄武岩	B81	123	77	61	860	*	78.5	35.7	145.543

グリッド	連番号	石材	層位	最大高mm	最大幅mm	最大厚mm	重量g	赤化	X座標m	Y座標m	標高m
I16	5	輝石安山岩	BB I	198	176	103	4100	*	76.6	35.84	145.563
I16	6	シルト質砂岩	BB I	83	78	42	470		76.18	35.85	145.501
J16	3	角閃石安山岩	BB I	108	150	53	73		71.47	47.41	145.89
J17	6	輝石安山岩	BB I	48.5	38	40	55		82.58	41.3	146.774
J17	7	輝石安山岩	BB I	40	35	37	40		83.21	40.81	146.779
J17	8	輝石安山岩	BB I	104	73	62	895		82.85	41.53	146.718
I16	1	輝石安山岩	BB II	46	43	38	95	*	77.95	31.26	144.826
I16	2	玄武岩	BB II	67	54	44	175	*	76.88	30.78	144.782
I16	3	多孔質玄武岩	BB II	44	45	32.5	70		77.08	30.88	144.749
I16	4	多孔質玄武岩	BB II	47	36	35	70		77.8	31.98	144.819
I16	5	輝石安山岩	BB II	59	46	33	110	*	77.25	32.08	144.799
I16	6	玄武岩	BB II	55	48	38	130		77.42	32.33	144.892
I16	7	多孔質玄武岩	BB II	52	52	44	130	*	77.18	32.34	144.814
I16	8	多孔質玄武岩	BB II	78	72.5	50	245	*	77.2	33.1	144.903
I16	9	多孔質玄武岩	BB II	70	52	23	90		78.71	33.11	144.848
I16	10	多孔質玄武岩	BB II	142	72	55	375	*	71.3	32.23	144.694
I16	11	輝石安山岩	BB II	199	43	26	150		75.56	31.58	144.608
I16	12	玄武岩	BB II	47.5	49	35.5	95	*	75.55	31.58	144.583
I16	13	玄武岩	BB II	148	123	99	2370	*	72.6	38.28	144.879
I16	14	輝石安山岩	BB II	185	127.5	51	1480		77.94	30.85	144.775
I16	15	輝石安山岩	BB II	175	140	52	2085		73.37	33.18	144.895
J16	5	玄武岩	BB II	148	143	54	1063	*	76.95	42.7	145.502
J16	6	石英安山岩	BB II	125	103	90	1325	*	77.15	49.37	145.786
J16	7	輝石安山岩	BB II	45	37	31	65		76.338	44.339	145.658
J16	8	輝石安山岩	BB II	40	35	33	50	*	76.399	41.769	145.458
J17	9	角閃石安山岩	BB II	198	180	59	2980		83.15	41.45	146.19
J17	11	玄武岩	BB II	84.5	84.5	27	144.4		83.79	48.47	146.732
J17	12	玄武岩	BB II	97	40	23	83		83.24	48.8	146.869
J17	13	玄武岩	BB II	57	33.5	29	57.4		82.82	49.06	146.816
J17	14	輝石安山岩	BB II	168	146.5	58	1830		83.54	47.9	146.845
J17	15	輝石安山岩	BB II	250	143	50	1320		83.48	48.13	146.86
G17	1	石英安山岩	BB II	79	63	32	150		82.29	16.2	143.588
G17	2	多孔質玄武岩	BB II	52	46	31	99		81.85	16.75	143.623
H16	2	玄武岩	BB III	138	130	45	1170		78.29	22.28	143.981
J16	4	石英安山岩	BB III	118.5	60	49.5	340	*	73.73	48.45	145.586
K16	5	石英安山岩	BB III	100	76	52	385	*	70.55	50.13	145.623
J17	10	多孔質玄武岩	S Cmb 1	62	62	57	260		84.047	46.54	146.156

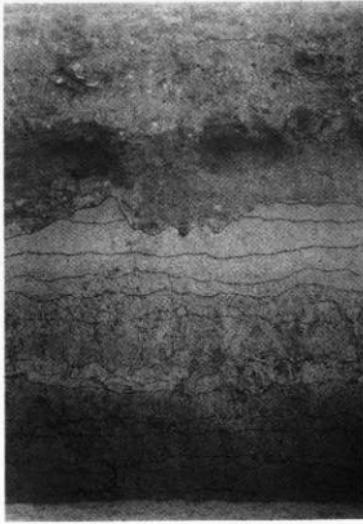
# 写真図版



1 調査区発掘前近景（南より）



2 基本土層



3 基本土層（分層後）

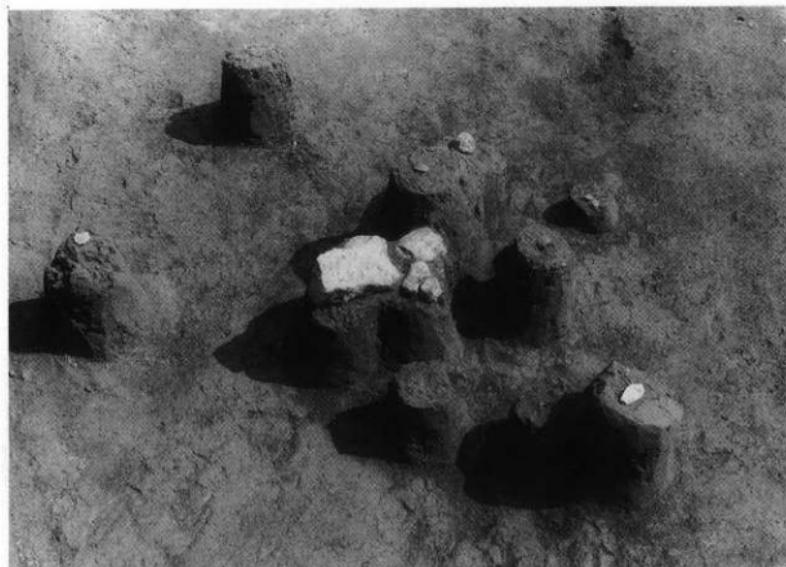
図版 2



1 縄文層遺物出土状況（東より）



2 縄文土器（鶴ヶ島台式）出土状況（東より）



1 BB I磨石器ブロック検出状況（北より）



2 BB II層Aブロック検出状況（北より）

図版 4



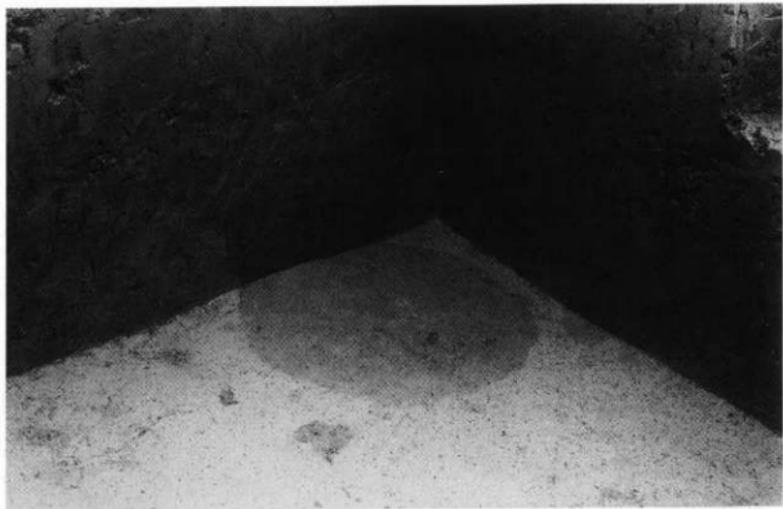
1 BB III層石器ブロック検出状況（西より）



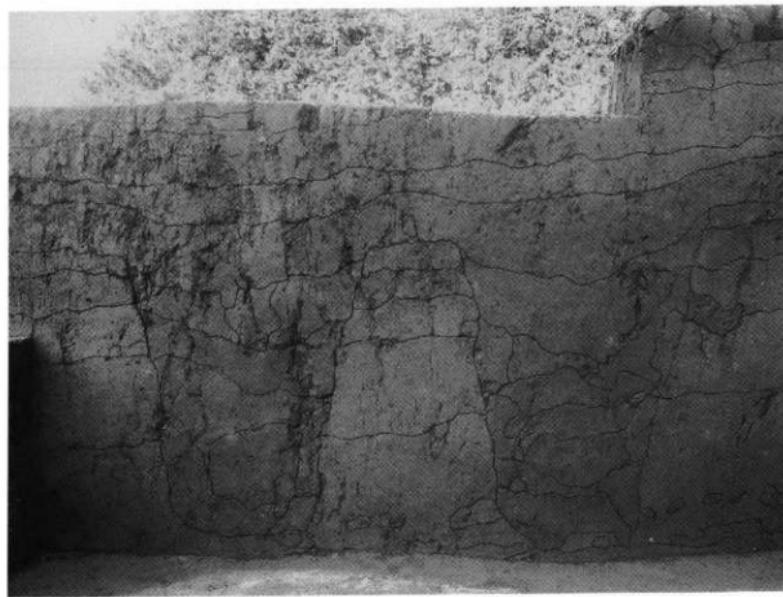
2 BB III層 2号土坑層断面（南より）



3 BB III層 3号土坑層断面（南より）



1 BB III層 9号土坑検出状況（北西より）



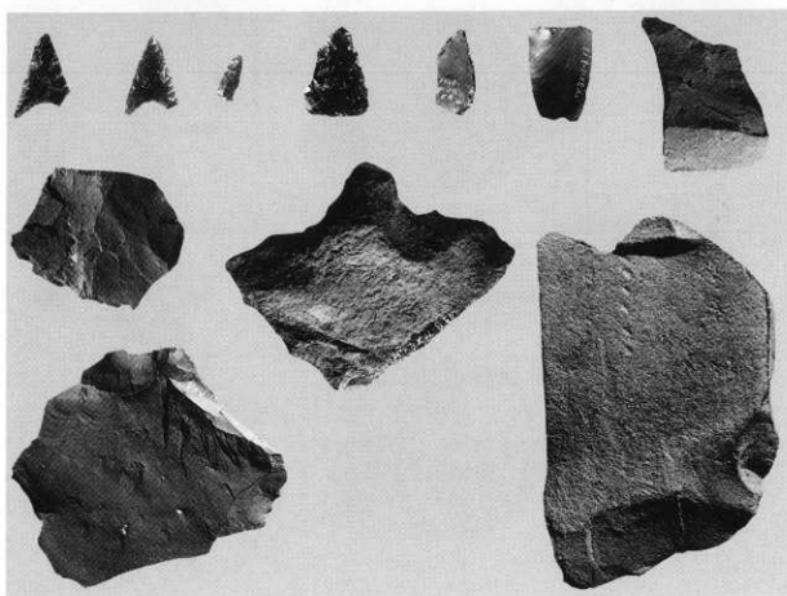
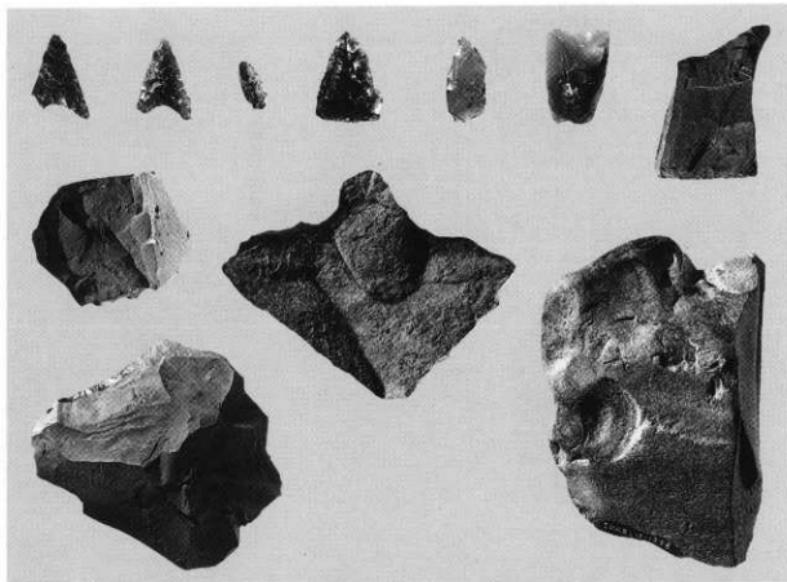
2 BB III層 4号（左）・5号（右）土坑土層断面（東より）



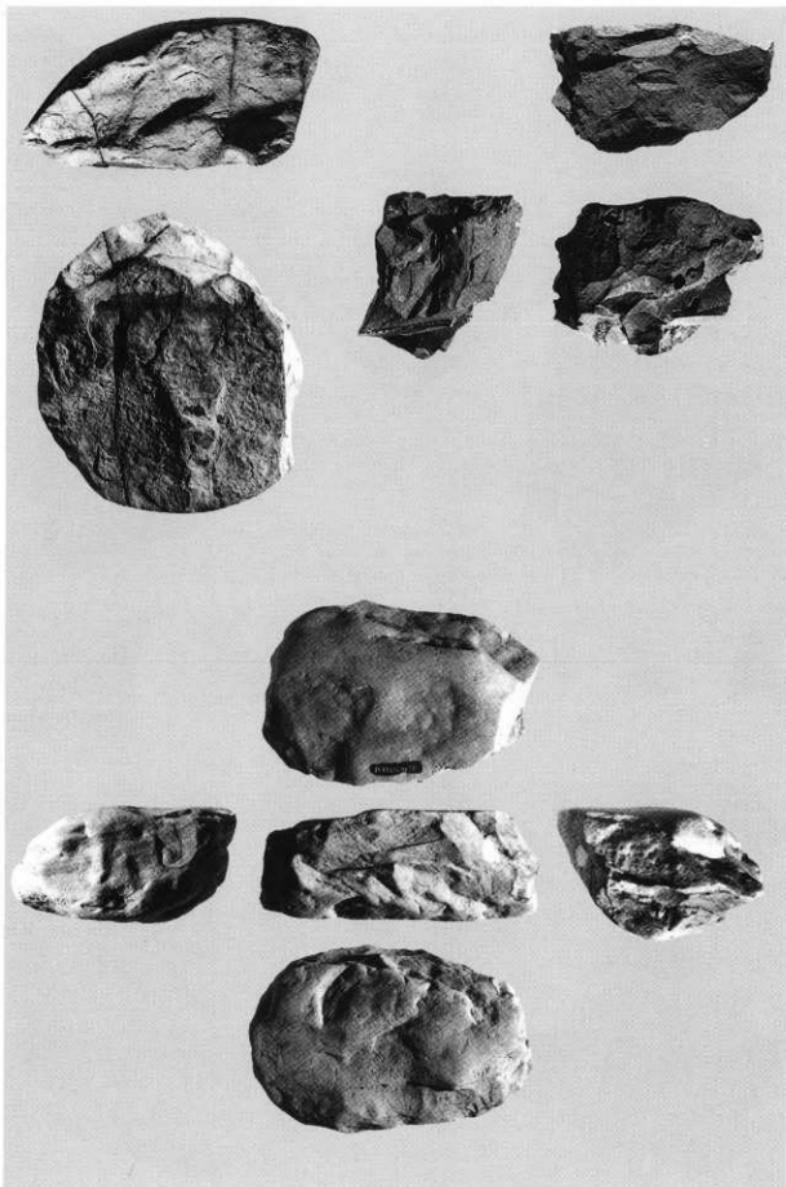
1 BBⅢ層1号土坑完掘状況（北より）



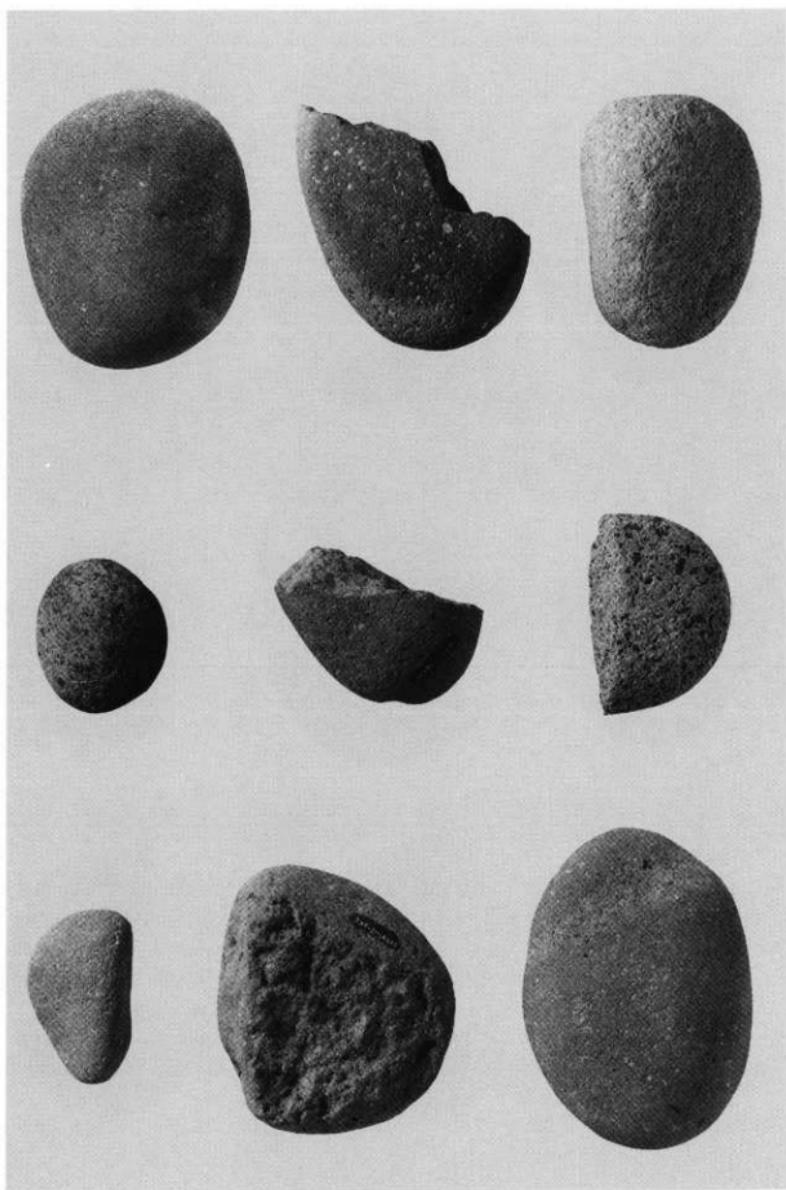
2 BBⅢ層土坑遠景（南より）



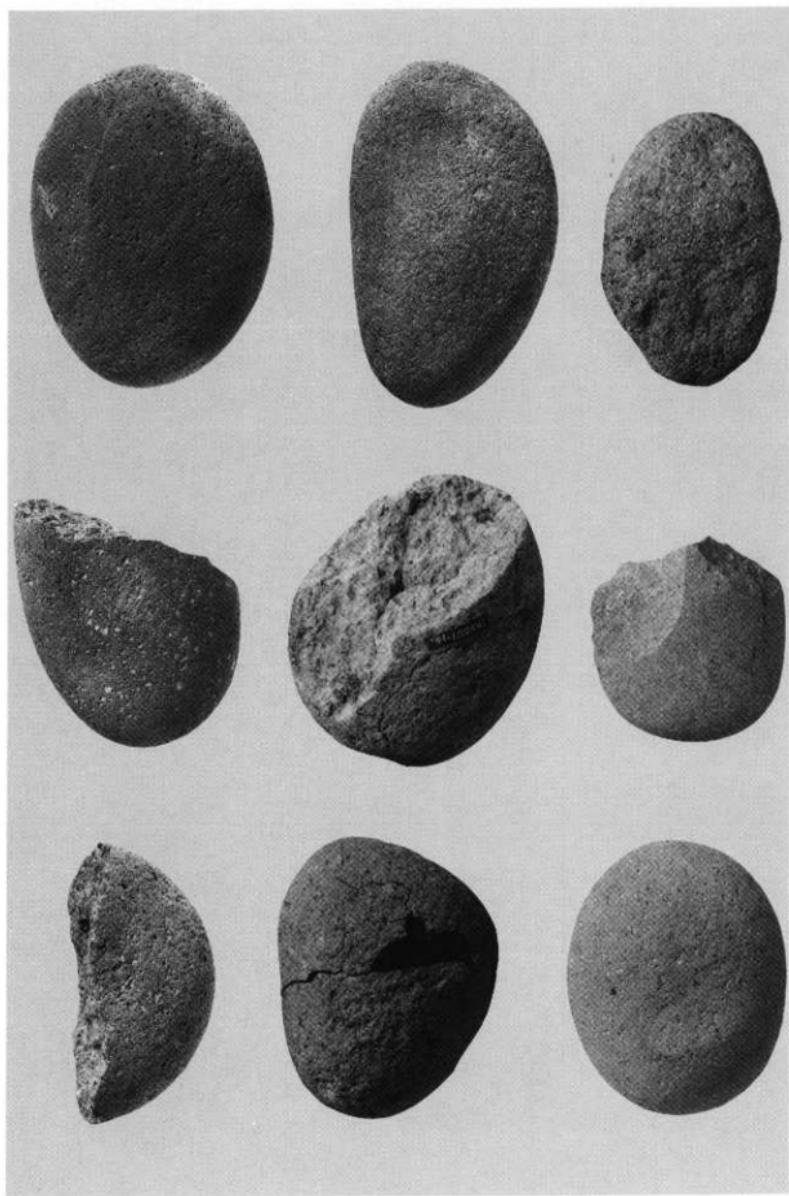
縄文時代の石器



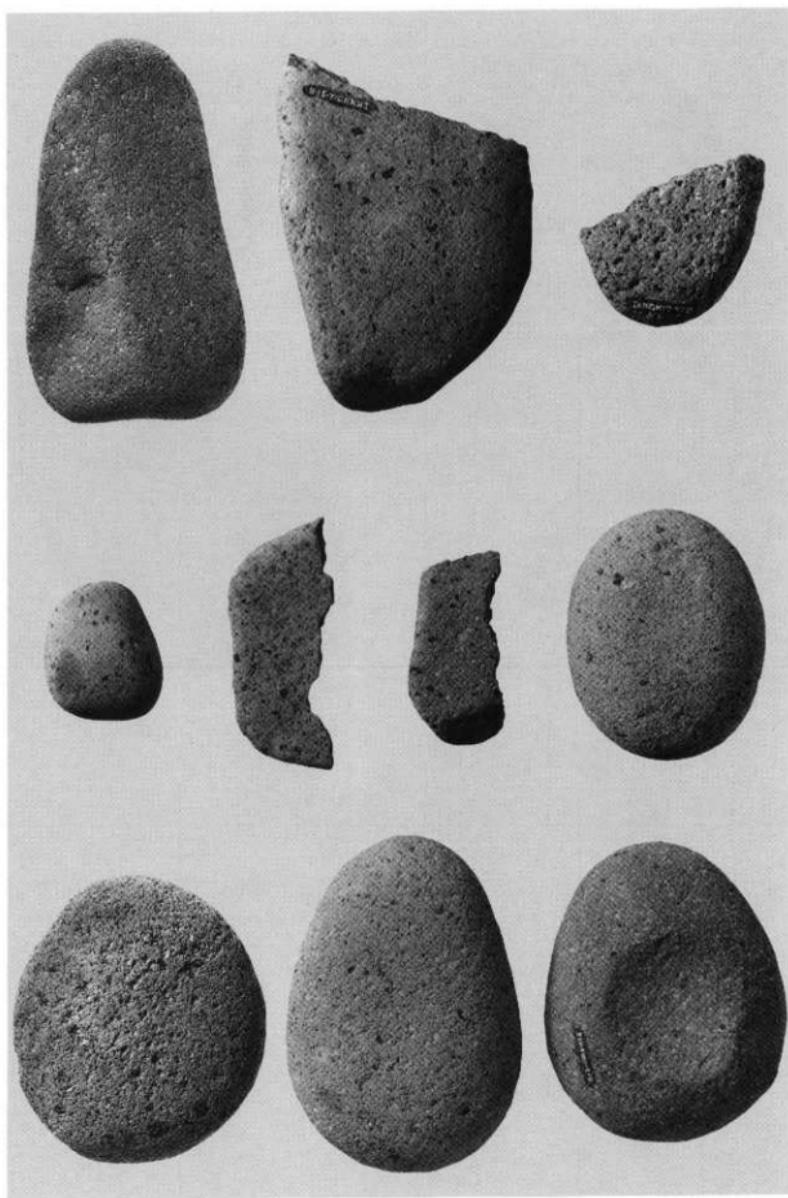
FB層石核



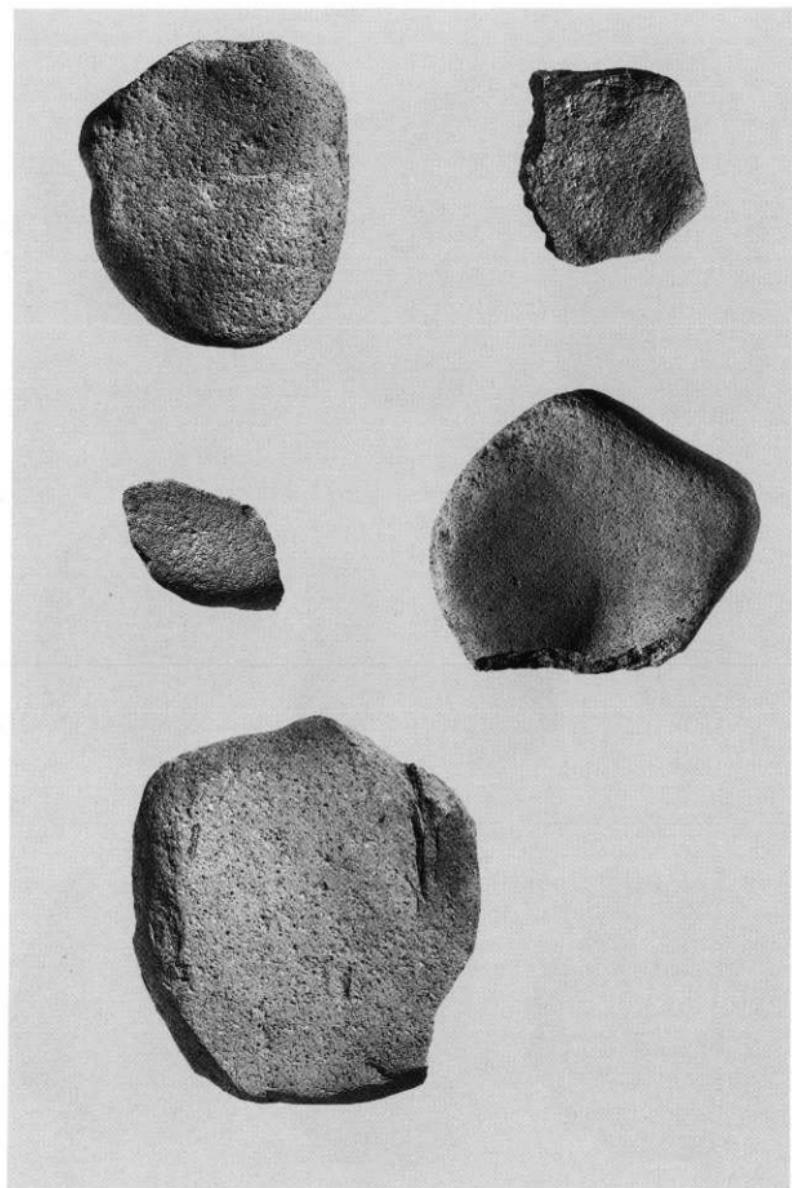
FB層敲石



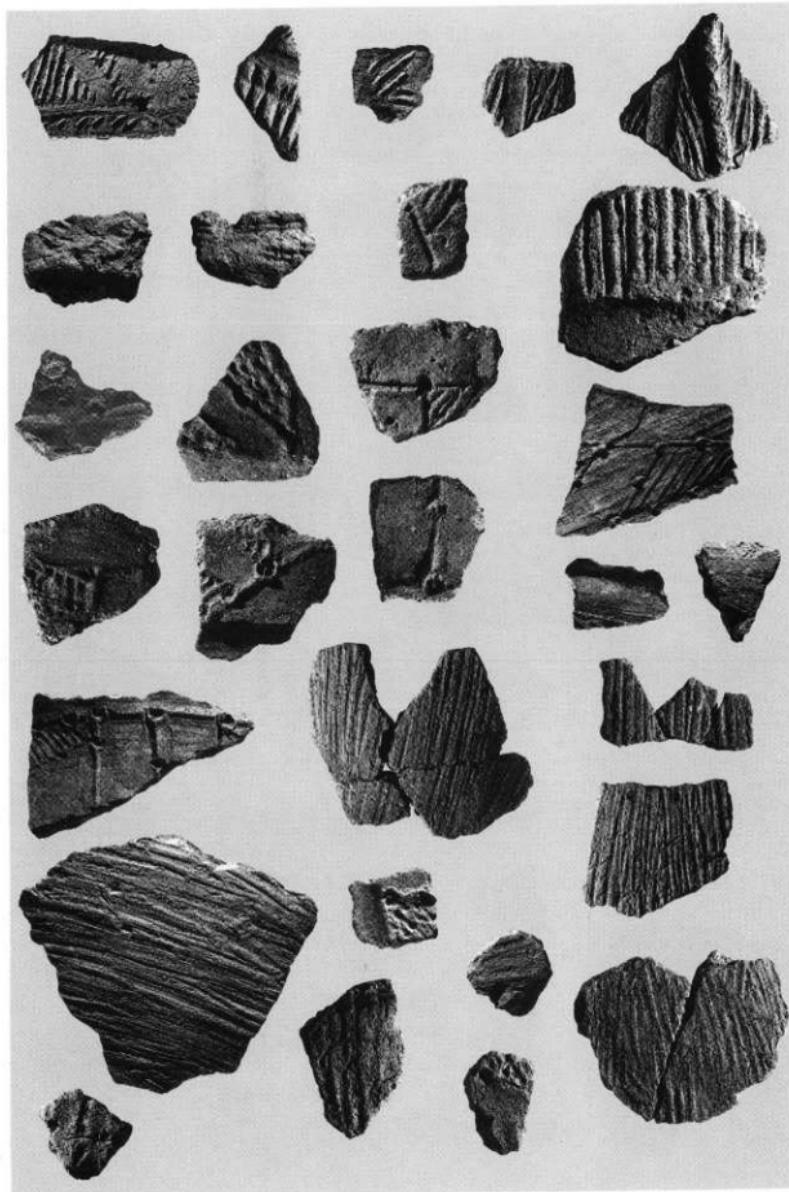
F B層敲石・磨石・凹石



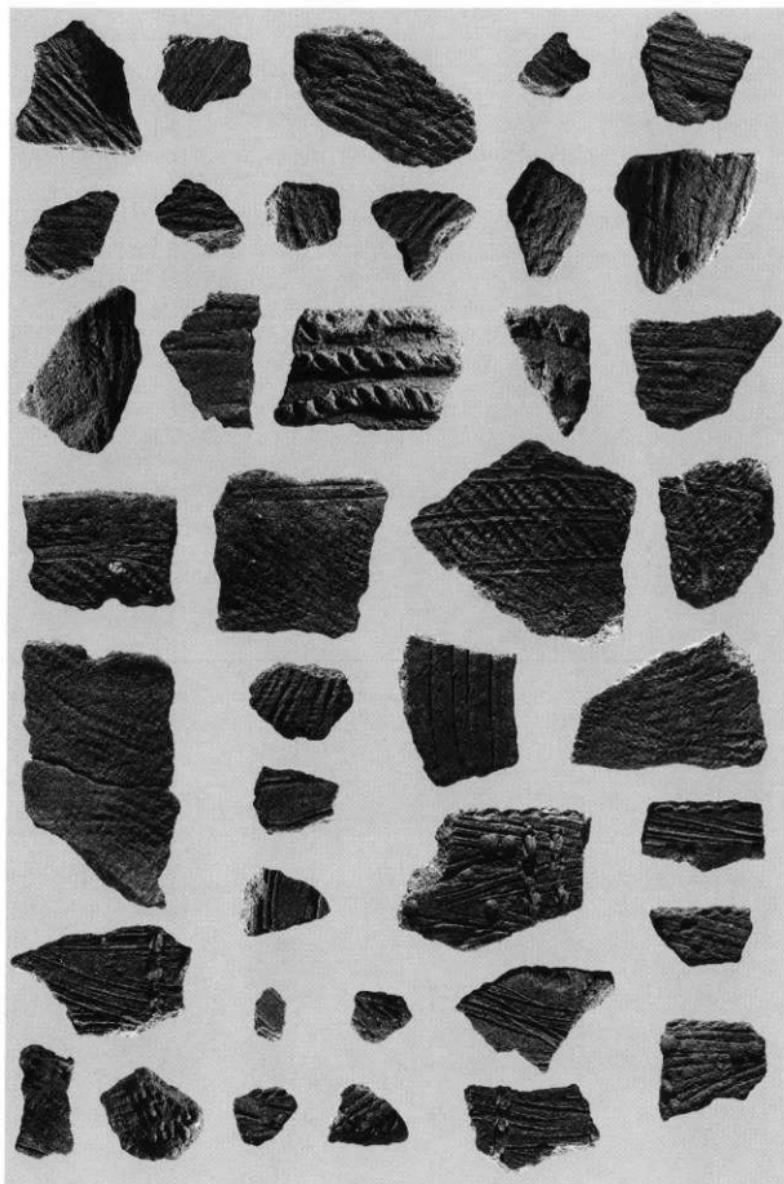
FB層敲石・磨石



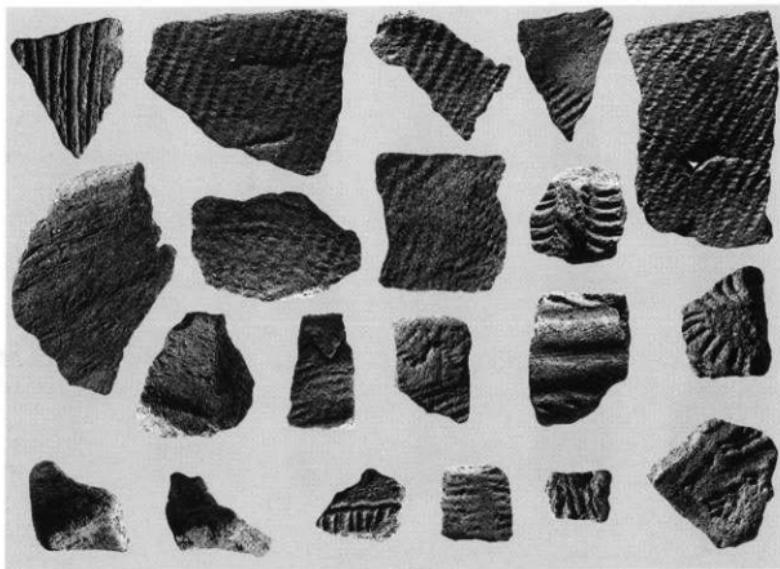
F8層台石・石皿



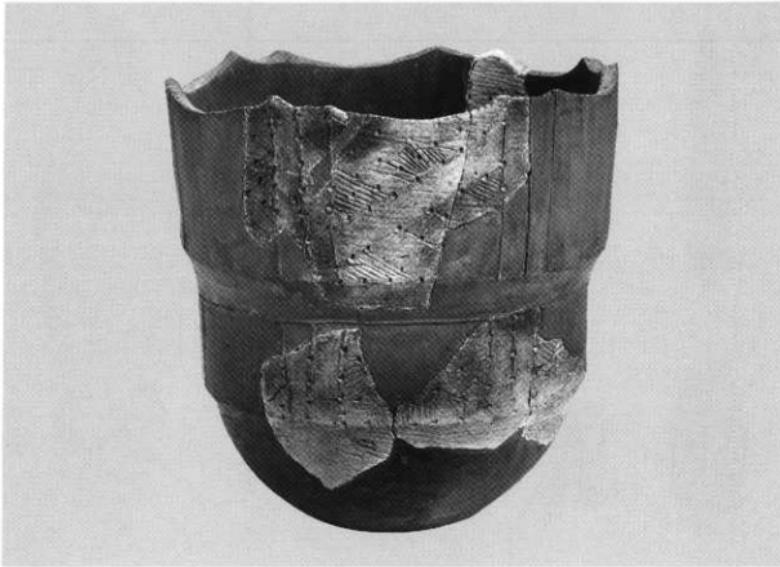
縄文土器 1



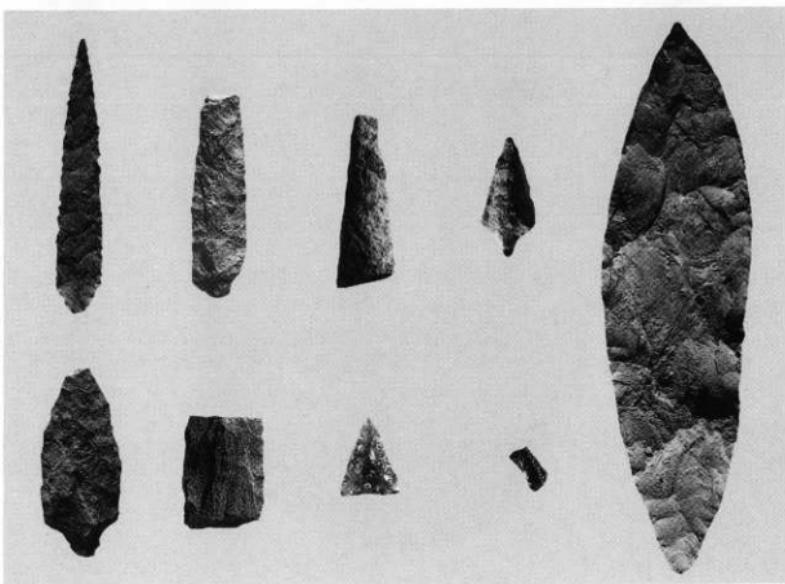
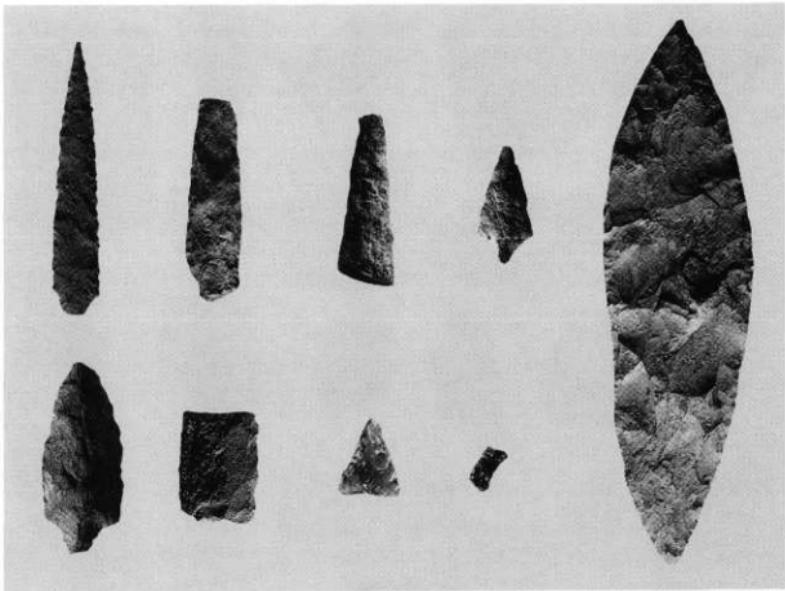
縄文土器 2



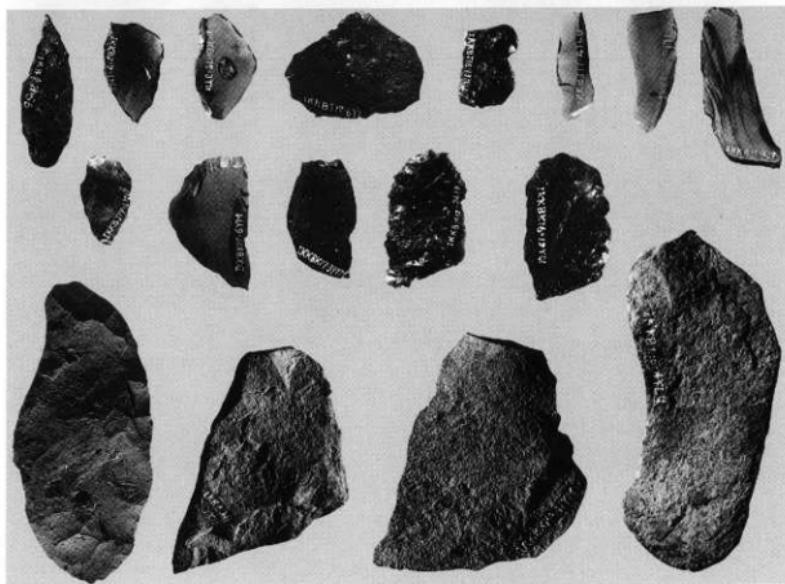
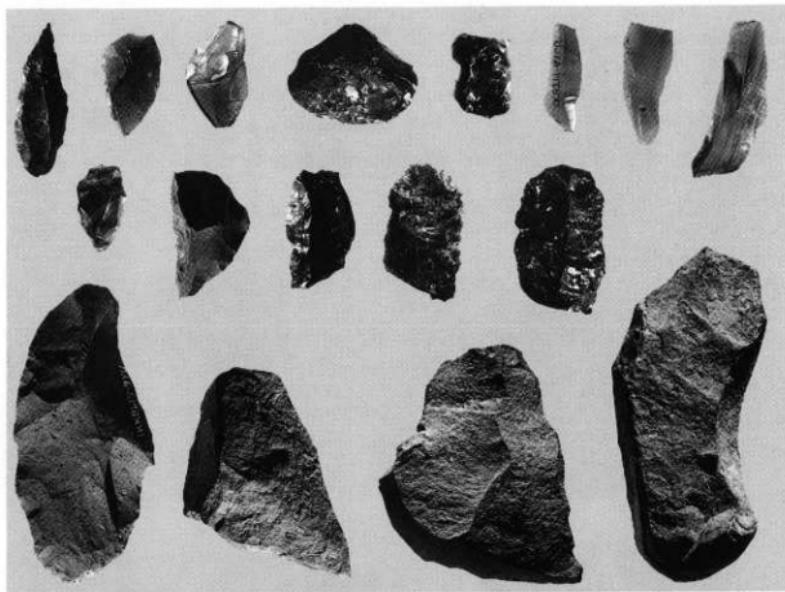
1 縄文土器 3



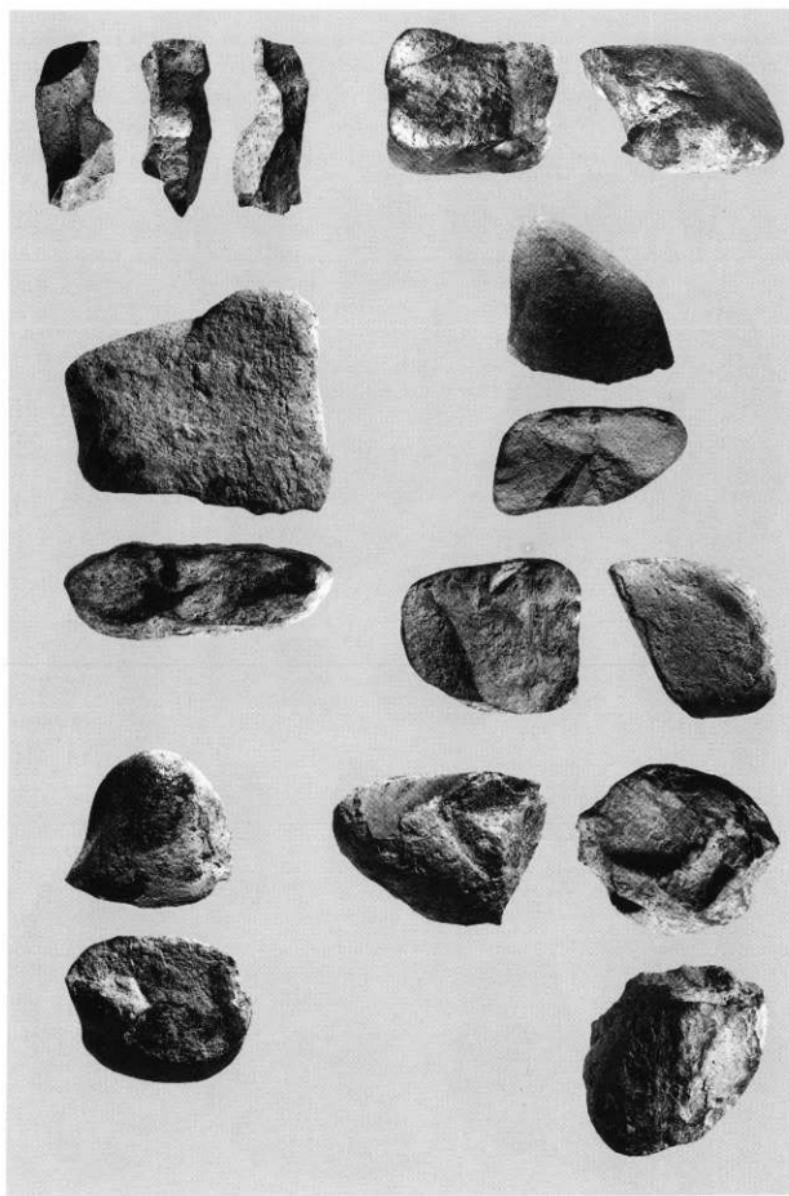
2 縄文土器復元資料



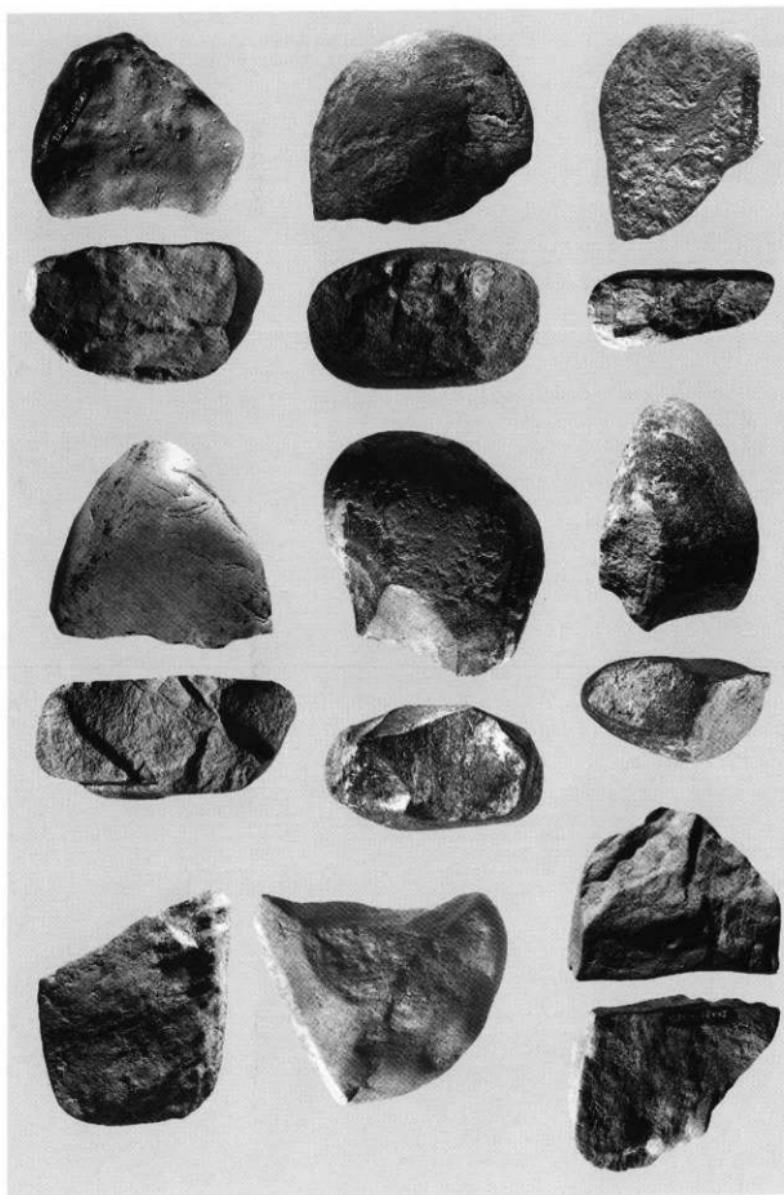
縄文時代草創期の石器



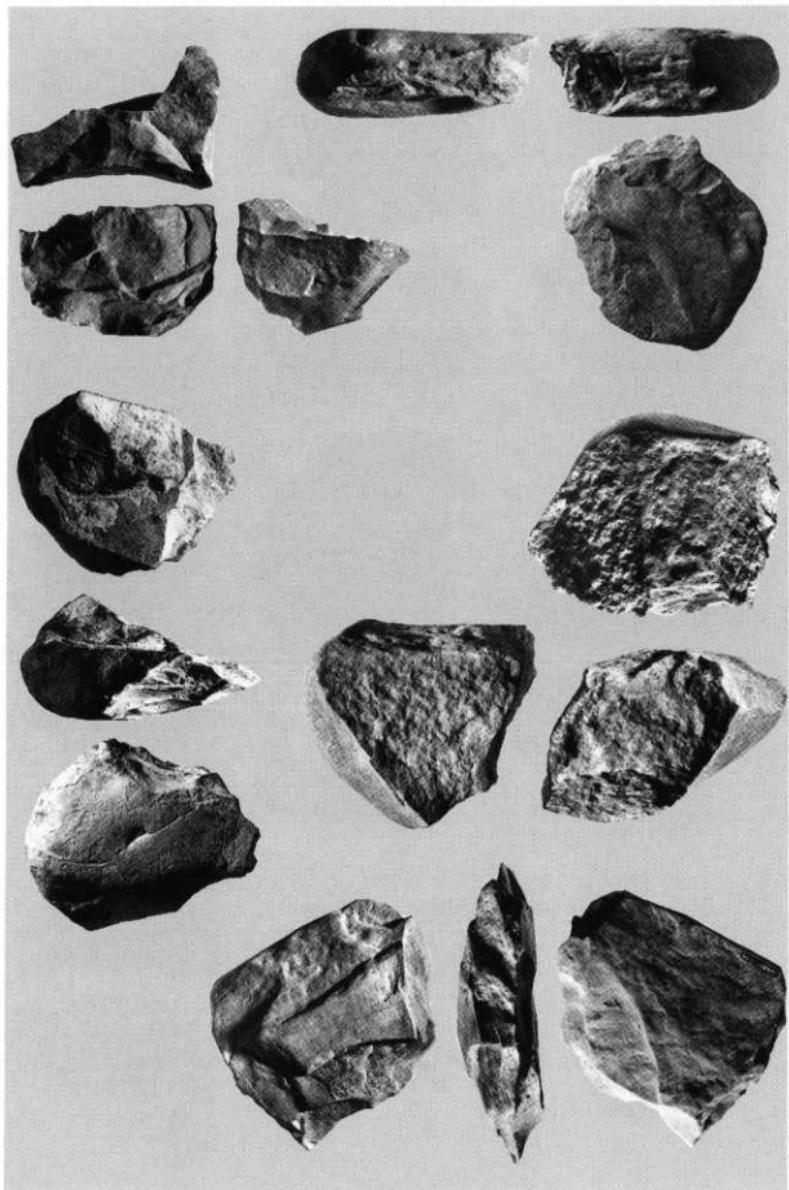
YL層出土石器



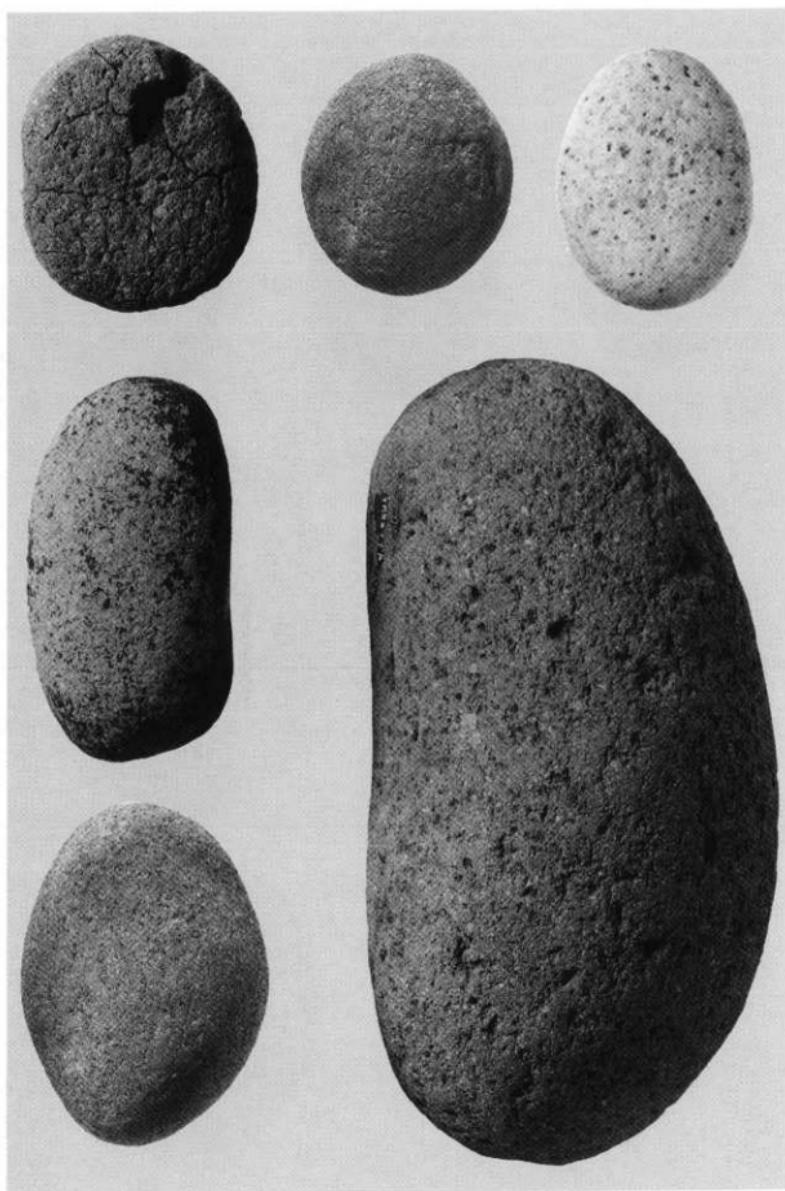
YL層石核1



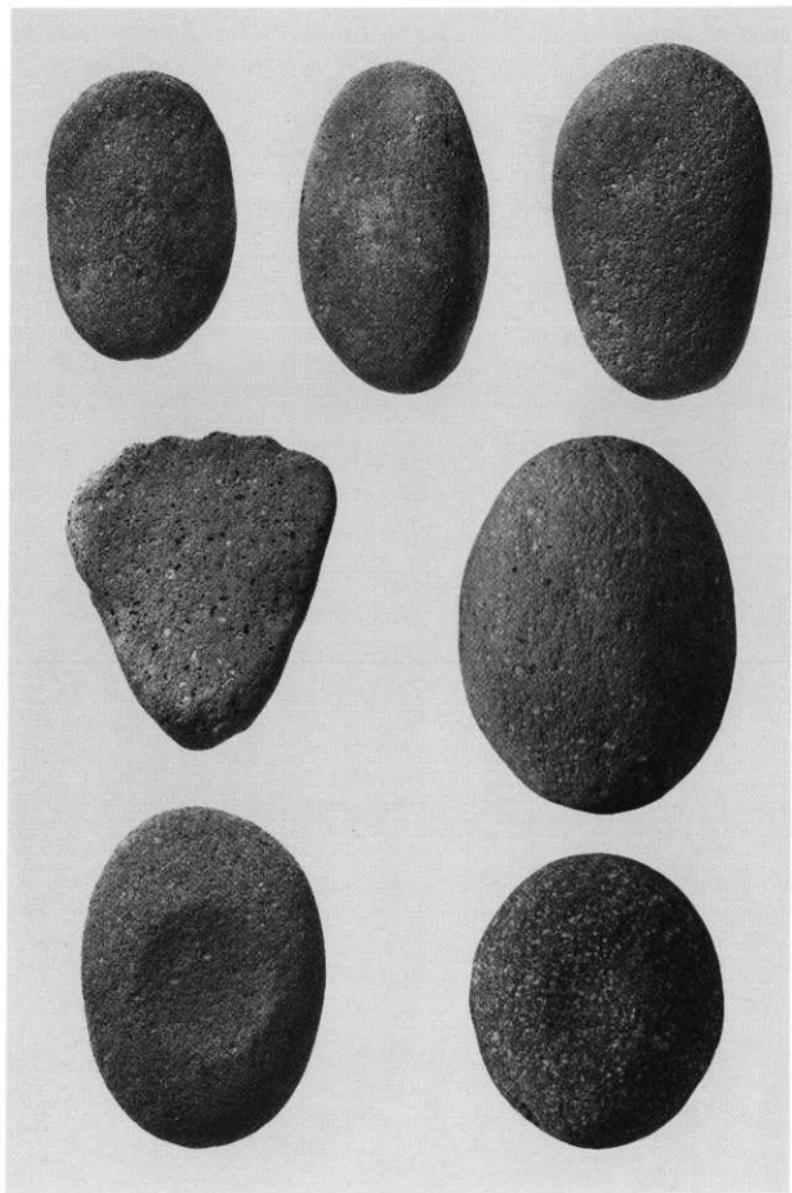
YL磨石核 2



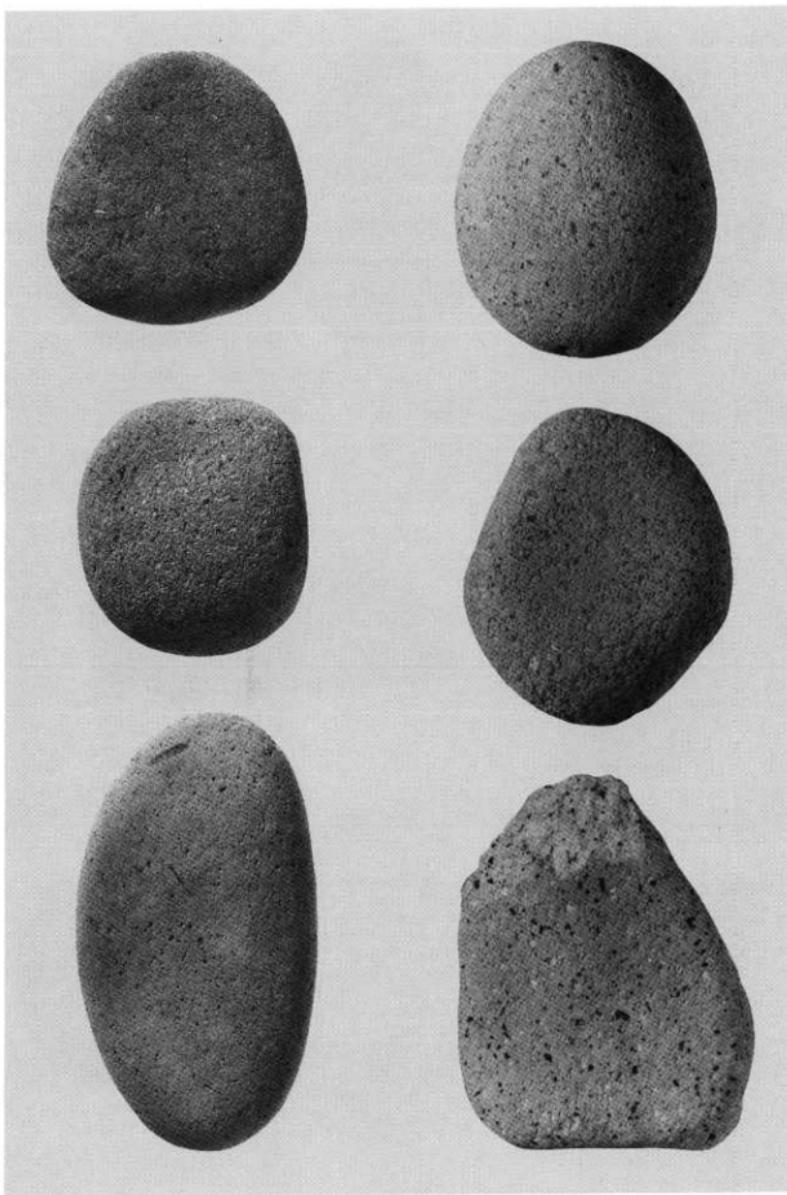
YL層石核 3



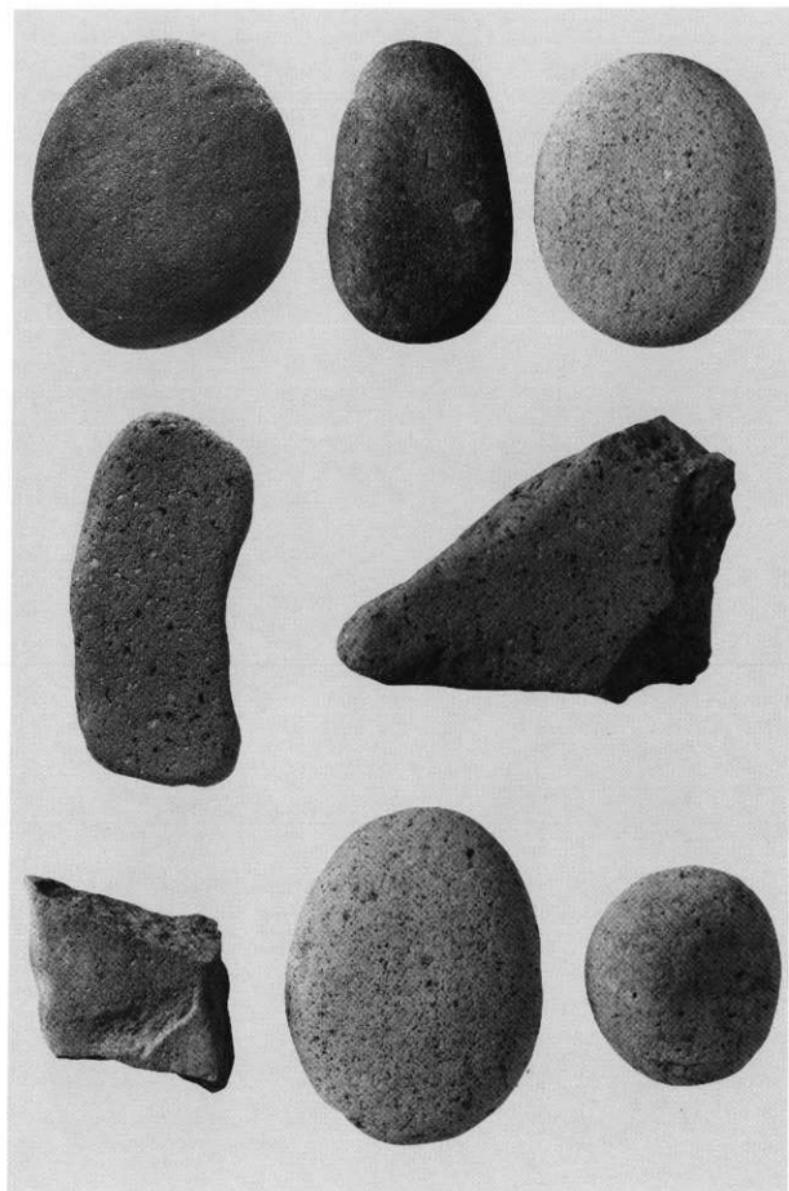
YL層敲石・凹石



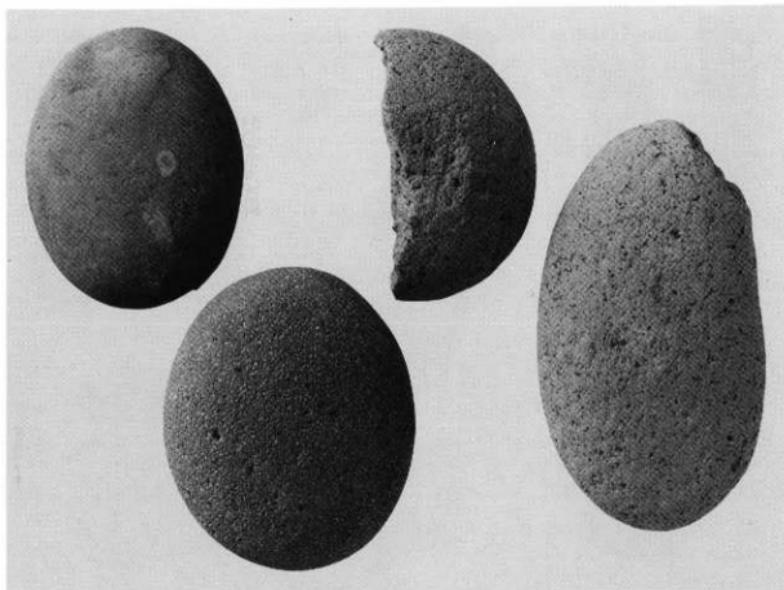
YL層敲石・凹石



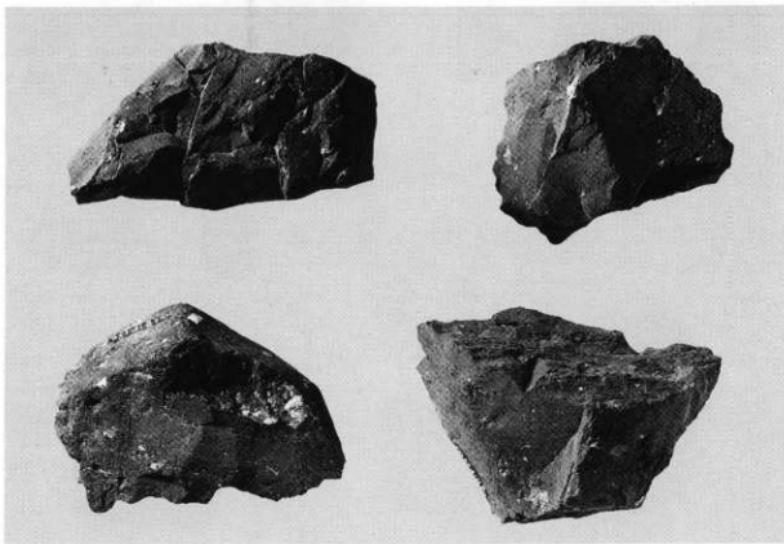
YL層磨石



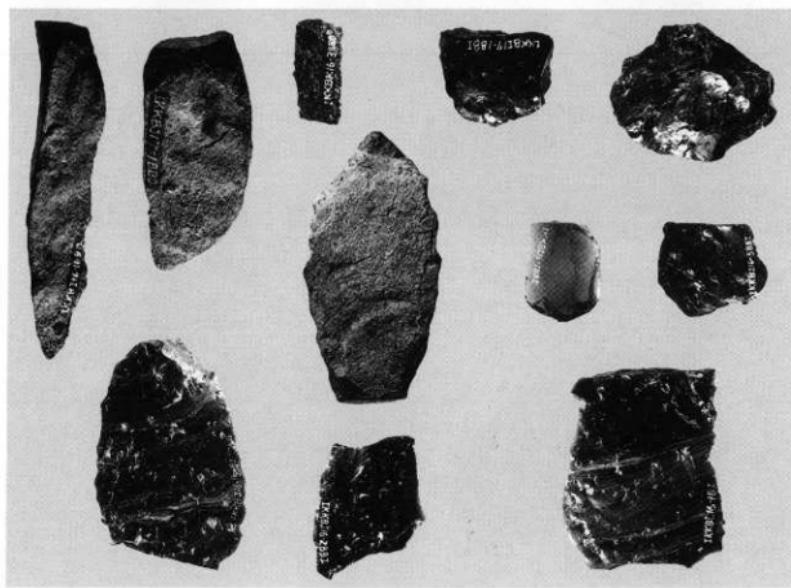
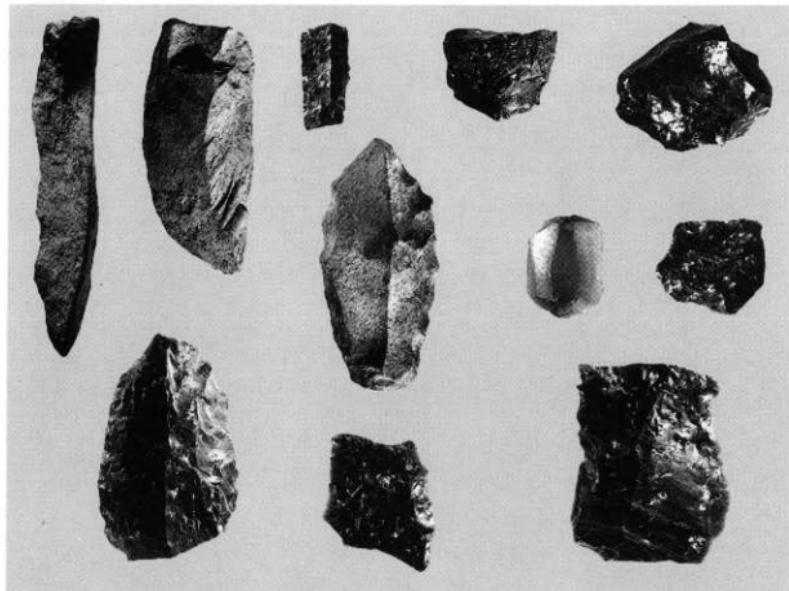
YL層敲石・磨石



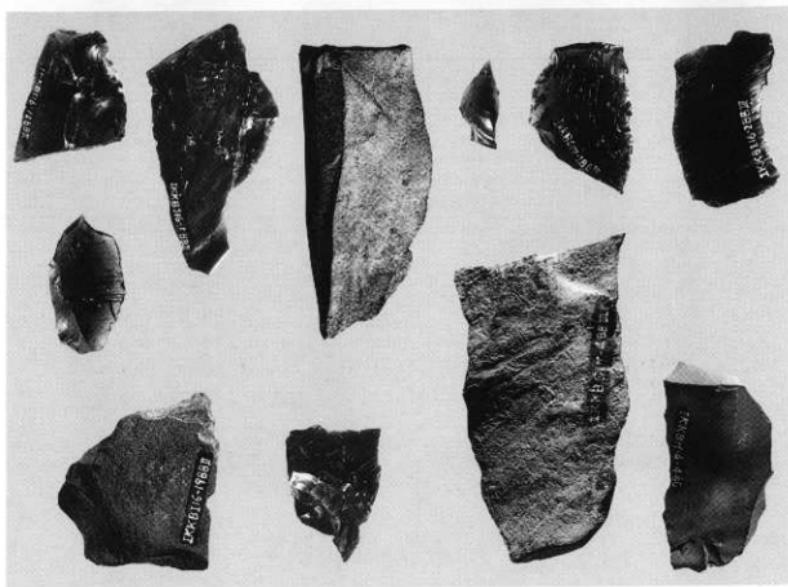
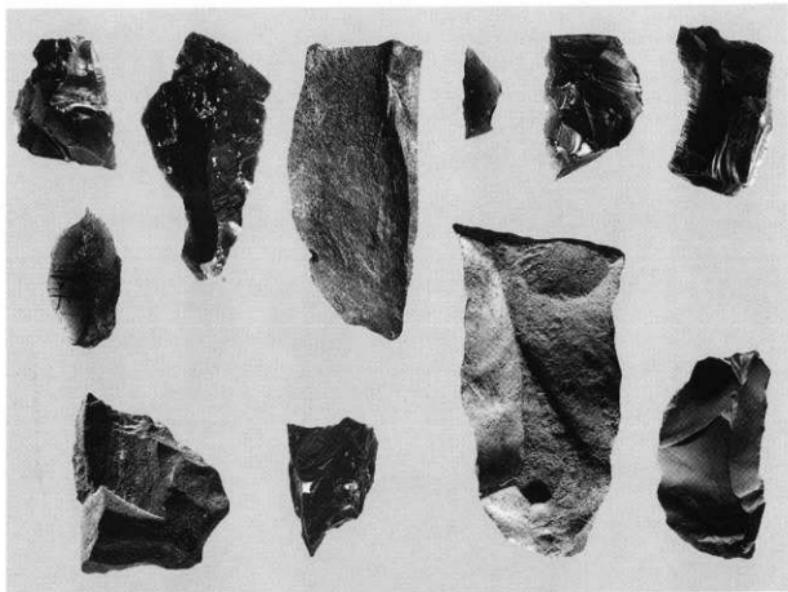
1 YL層敲石・磨石



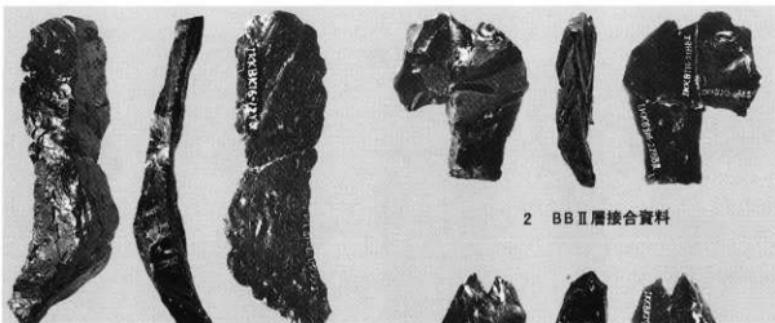
2 YL層黑色緻密安山岩原石



BB0層・BB I層出土石器



BB II層・BB III層出土石器



1 YL層接合資料 1

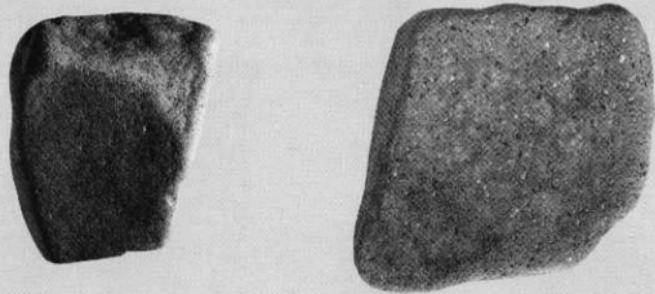
2 BB II層接合資料



3 YL層接合資料 2



4 BB III層石核



5 BB II層台石

**発掘調査参加者**

桜井 富夫	島村 栄一	下山 賢	鈴木 秋夫	鈴木 武	鈴木富士夫
高原 恒男	高梨 孝	武士 晴信	土屋 俊一	土屋 正	土屋 義春
富田 昌之	西島 茂	広瀬 孝	森嶋富士夫	山口 尚	渡辺 秋夫
渡辺 勝藤	秋元 慧子	阿部 晴美	小川とじ江	小野 ナツ	後藤 俊江
柴田美佐子	福島とき子				

**整理参加者**

菅野みと子 鈴木 里江 鈴木 輝美 高田みゆき 高橋 裕子 森嶋富士夫

・石器の実測・トレースは、小野千賀子・鈴木里江・鈴木輝美・高橋裕子が行った。

・石器の石材別・個体別分類は、森嶋富士夫が行った。

# 報 告 書 抄 錄

ふりがな	か も の ほら B い せき						
書名	加 茂 ノ 洞 B 遺 跡						
副書名	平成 6 年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告						
シリーズ番号	第 71 集						
編著者名	横山秀昭						
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査研究所						
所在地	〒 422 静岡県清水市江尻台町 18-5 TEL 0543-67-1171						
発行年月日	西暦 1996 年 3 月 31 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯/東経	調査期間	調査面積	調査原因
か も の ほら B 加 茂 ノ 洞 B	あしもしきわ B 三島市沢地 字河洞	22206	156	35° 08' 53" / 138° 55' 49"	1994年4月 1995年3月	7.233m <sup>2</sup>	道路建設に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
加 茂 ノ 洞 B	散布地	旧石器時代 ↓ 縄文時代	石器集中地点 櫛群 土坑	尖頭器、ナイフ形石 器、振器、削器、楔 形石器、石刃、石 核、剥片 有舌尖頭器、土器、 石鏃、磨石、敲石、 石皿	後期旧石器時代初めの 土坑17基		

静岡県埋蔵文化財調査研究所  
調査報告第71集

**加茂ノ洞B遺跡**

平成8年3月31日

編集発行 財団法人  
静岡県埋蔵文化財調査研究所

印刷所 みどり美術印刷株式会社  
沼津市沼北町2丁目16番19号  
TEL (0559) 21-1839㈹